

5 6 7 8 9 1 2 3 4 5 6 7 8 9 1 2 3 4 5 6 7 8 9 1 2 3 4 5 6

M4-96-2

現年

係

大

高野寺名義一凡。○○。内中

一。○○。内。腹。旦。豊。日。子。會。分。り

一。○○。内。父。北。林。實。務。部。支。拂。レ。後

省。取。込。氏。日。中。出。ア。ク。ン。ヲ。以。テ。一。多。也。

内。父。北。林。支。拂。レ。ク。ン。ノ。重。シ。一。○○。内。支。拂。レ

度。若。申。出。ア。リ。タ。ル。之。一。以。支。拂。レ。主。拂。中。主。取

多。○○。内。支。拂。テ。北。林。一。一。支。拂。レ。均。所。ヲ。知。ル

日。高。野。一。○○。内。支。拂。金。北。林。一。○○。一。支。拂。レ

持。方。應。ス。ル。ト。一。取。計。レ。北。林。一。支。拂。金。支。拂。レ

群臣

大君の御命より諸將等より  
諸君先般本再反り建威の儀出  
原毎日の懸度より一海内より  
寔に生るゝことあり申上事  
心苦夜毎をいふる九曜とある事  
朕はなりとてた固前より次子  
皇の意の次第とて事候なり  
先りの内治の事候とて御  
大君の事より并に皇の御  
事より御下る玉次金は  
御地より安んずるべく  
同くしてとてまゝ事候  
深く同候なり

海軍

その次分よりとて諸子  
千回より下はりたる  
とて他より城より  
は事候なりとて上り  
御題の事よりとて  
してはこれより  
は編一御古より  
夏の道より御  
八月四日

北村

秋山



東京 芝区 田村所

朝鮮 振務 奉天 小寺 謹言

秋山 昌平 謹言

以 書 投



一  
新

横濱市蓮子橋山二二七六

北林賢治郎

八月五日

5.28	1,000	秋小借	7.8	5,100	秋小立
30	1,000	同送	"	1,000	秋送X
6.8	5,000	林借	"	48,900	秋小立
13	1,500	秋小借 秋小借	12	500	秋小立X
18	5,000	秋小借	16	300	秋小立X
20	500	秋送	"	300	秋送X
"	500	秋小立	"	6,435	秋小立
22	10,000	秋小立	"	3,000	秋小立
26	5,000	秋小立	26	300	秋小立X
28	1,500	秋小立	27	10,000	秋小立
7.3	900	秋小借	29	5,000	秋小立
4	900	秋送	"	300	秋送X

四 五 六 七 八 九 十

一 草 魚 系 有 牙

7.29. 25000 秋山 乙 7.28 3900 秋 山

8.2. 550 秋 山 (X)

完結	未
種	完結

號番日月行施

昭 和	年	月	日	接 受
昭 和	年	月	日	發
番 號	關 係	第	號	送

帳 記	決 裁
印 鈐	合 校
	寫 淨

所長

大長

部長

課長

主任

件 名

朝鮮花山官公吏、特殊團體職員等、  
、柳田、関スル件

朝鮮關係業務整理事務所

所長

塩田正洪

外務省管理部長

宛

總裁連絡事務局長

朝鮮總督府

首題件ニ関シ三月二日附御指置方懇  
致シ置キタル也其ノ後<sup>米</sup>軍政方ニ於テハ柳  
田日本人ニ付三月中ニ一審公判ヲ終了  
スル方解決定シ其ノ大部分ハ別紙ノ通次  
定ヲ見タルハ同慶ノ次アナルガ今尙一部  
未決ニ柳田セラルル者アリ又既決因トシテ收造  
セラルル者セアルヲ以テ之ヲ一日テハ最長ニ即  
軟ニ致シ思キタル如ク民族~~的~~的意識ヲ以テ虐  
遇セラルルガ如キコトナキ様可然<sup>大</sup>尙高配相~~後~~  
其ノ後ノ状況ヲ具シ電ネテ軟ニ申上グ  
追而既決因ハぬ地ニ送還服役セシムコトニ相成リ  
タルヤハ以<sup>大</sup>南シタルニ付中々考テ迄

頭書、敬啓、利所  
 印、親族  
 末、不決

番 名 簿 (木 決 分) 三月十日現

番	氏 名	年令	所 在 地	備 考
一	伊 藤 素 吉	四八	越信局長	カイセン(皮)局(一)最モヒト
二	白 石 寛	四八	西大門前所長	クニシニ在(一)最モヒト
三	本 地 巳	四八	西大門前所長	
四	渡 邊 竜	四八	京坂所長	京坂所長
五	長 崎 裕 三	四八	京坂所長	京坂所長
六	伊 藤 正 實	四八	京坂所長	京坂所長
七	加 藤 榮 次	四八	京坂所長	京坂所長
八	相 良 春 雄	四八	西大門前所長	京坂所長
九	岡 田 元 生	四八	京坂所長	京坂所長
一〇	合 平 義 藏	四八	京坂所長	京坂所長
一一	岡 田 天 吉	四八	京坂所長	京坂所長

一	三 井 隆 昌	四八	京坂所長	二月六日無非停取
二	二 井 隆 昌	四八	京坂所長	二月六日無非停取
三	新 見 三 雄	四八	京坂所長	二月六日無非停取
四	小 川 三 郎	四八	京坂所長	二月六日無非停取
五	小 川 三 郎	四八	京坂所長	二月六日無非停取
六	守 別 昌 二	四八	京坂所長	二月六日無非停取
七	小 野 元 順	四八	京坂所長	二月六日無非停取
八	小 川 次 次	四八	京坂所長	二月六日無非停取
九	日 井 三 郎	四八	京坂所長	二月六日無非停取
一〇	井 上 善 道	四八	京坂所長	二月六日無非停取
一一	井 上 善 道	四八	京坂所長	二月六日無非停取
一二	須 々 木 貞 雄	四八	京坂所長	二月六日無非停取



五五	人見次郎八八	一三五	大町銀判所	二月二十六日印留取同ノ釋放トナル
五八	江上秘輔五八	一二五	大町銀判所	
五九	井田壯五八	一二七	大町銀判所	
六〇	尾崎修四六	八二〇	大町銀判所	
六一	丹治三郎五四	二七	二井田銀判所	
六二	吉田三次郎四五	二七	大町銀判所	
六三	木村(本)五六	二二一	大町銀判所	
六四	中村正五		大町銀判所	
六五	佐藤正親		大町銀判所	
六六	佐藤正親		大町銀判所	
六七	佐藤正親		大町銀判所	
六八	佐藤正親		大町銀判所	
六九	佐藤正親		大町銀判所	
七〇	佐藤正親		大町銀判所	
七一	佐藤正親		大町銀判所	
七二	佐藤正親		大町銀判所	
七三	佐藤正親		大町銀判所	
七四	佐藤正親		大町銀判所	
七五	佐藤正親		大町銀判所	
七六	佐藤正親		大町銀判所	
七七	佐藤正親		大町銀判所	
七八	佐藤正親		大町銀判所	
七九	佐藤正親		大町銀判所	
八〇	佐藤正親		大町銀判所	
八一	佐藤正親		大町銀判所	
八二	佐藤正親		大町銀判所	
八三	佐藤正親		大町銀判所	
八四	佐藤正親		大町銀判所	
八五	佐藤正親		大町銀判所	
八六	佐藤正親		大町銀判所	
八七	佐藤正親		大町銀判所	
八八	佐藤正親		大町銀判所	
八九	佐藤正親		大町銀判所	
九〇	佐藤正親		大町銀判所	
九一	佐藤正親		大町銀判所	
九二	佐藤正親		大町銀判所	
九三	佐藤正親		大町銀判所	
九四	佐藤正親		大町銀判所	
九五	佐藤正親		大町銀判所	
九六	佐藤正親		大町銀判所	
九七	佐藤正親		大町銀判所	
九八	佐藤正親		大町銀判所	
九九	佐藤正親		大町銀判所	
一〇〇	佐藤正親		大町銀判所	



監 考 名 簿 ( 次 分 ) 三 月 十 日 境

番 號	氏 名	年 令	入 所 年 月 日	部	職	備 考
一	升 子 直 二 郎	一九				
二	吉 岡 俊 司	四八			山 口 山 文 治 長	
三	石 村 隆 司	四八				
四	原 山 一 郎	一九				
五	青 木 三 五	五八				
六	福 田 仁 三	二八				
七	阿 部 昌 吉	四四				
八	高 尾 新 太 郎	六二				
九	岡 開 山 三 三	三三				
一〇	福 川 秀 男	二二				
一一	一 凡 三	三三				
一二	江 藤 牛 木 吉 三	五五				

一	東 平	二四				
二	下 山 木 吉 三	四七				
三	福 田 久 雄	二二				
四	吉 山 紅 三	四七				
五	安 山 廣 四	六八				
六	比 本 氏 廣 四	六八				
七	太 田 達 哉 四八	六八				
八	藤 藤 進 郎 二八	二八				
九	小 泉 博 郎 二二	二二				
一〇	有 木 省 三 五	五五				
一一	石 山 岩 男 四二	四二				
一二	川 崎 吉 三	五二				
一三	福 原 幸 天 二二	二二				
一四	森 一 六	六六				

二七	大	田	郎	吉	己
二八	渡	邊	進	一	己
二九	山	川	正	方	己
三〇	山	崎	一	己	己
三一	百	崎	太	己	己
三二	今	村	石	己	己
三三	近	村	夫	己	己
三四	竹	内	崎	己	己
三五	北	八	次	己	己
三六	加	崎	己	己	己
三七	加	崎	己	己	己
三八	崎	己	己	己	己
三九	崎	己	己	己	己
四〇	川	上	己	己	己

四一	本	己	己	己	己
四二	佐	崎	己	己	己
四三	源	崎	己	己	己
四四	子	佐	川	正	己
四五	相	源	己	己	己
四六	平	山	崎	己	己
四七	立	石	信	己	己
四八	大	和	山	己	己
四九	江	崎	己	己	己
五〇	江	崎	己	己	己
五一	片	山	崎	己	己
五二	山	崎	己	己	己
五三	山	崎	己	己	己
五四	江	崎	己	己	己
五五	大	崎	己	己	己

山立石文進人



五月廿七附に倭りお承 極にいきなり  
感銘なり

至哉 君子なるも至に偉し 極に偉し  
~~至哉~~ 君子なるも至に偉し 極に偉し  
下北力制 朝鮮の平定は至に偉し  
にあり 日本は至に偉し 朝鮮の平定は至に偉し  
と信じて 日本は至に偉し 朝鮮の平定は至に偉し  
手紙に 日本は至に偉し 朝鮮の平定は至に偉し  
日本は至に偉し 朝鮮の平定は至に偉し

日本は至に偉し 朝鮮の平定は至に偉し  
日本は至に偉し 朝鮮の平定は至に偉し  
日本は至に偉し 朝鮮の平定は至に偉し

五月廿八日 晴 風和 雨

八時 雨止 晴

九時 晴

十時 晴

十一時 晴

十二時 晴

十三時 晴

前田君

東京仕事に中途に二福系に参りました。在外同胞援護会  
の方の物資は終に停まりました。今、東京の庄司氏等が物川小  
舟と云ふ所分方法を変更しなすはむかり早急に京城に輸送  
致すことが困難と参りました。

京城の人々の顔に想ひますと何と云ひ難い事、気が持たず  
ます。増田さんの方から力も至急に確定され、は直ぐ  
に運送とさじ、働く人々の将来に幾分の活気と与へ得る事と  
存じます。

東京にこの苦況は東京に改すに余りありと云ふ様だ  
と願ひは申上難い、このままが本日も早や半に致す  
由りになり、人を厚顔と願ひます。

私は

吉本、仙崎、唐津、佐世保、大分、鹿児島、舞鶴等の出張

所廻りて到一埠頭、收容所、現場監督より予定  
所より、机の上、案上、現状、差違、如何様なるものか  
着分に免滞、参り、及、と存下す  
御多忙に推察申す。何卒、身、大事に

五月十日

博多聖福寺

鈴 木 清

穂積 称

待 延

穗

積

步

郎

殿



十月十日

校二班

博會

給

五

分

財團  
法人  
在外同胞援護會救療部

醫學博士

森田四郎

郎

其方用、封鎖の必要未だ  
 アリ  
 アリタン

アリタシ

昭和二十一年七月

五月七日施行 

会長

理事

穂積氏出張関係件

(電報)

左記

福岡市西門町七丁目穂積西浩

朝鮮引揚同胞生活会より相談

高反夏造宛

穂積氏要務、都合より貴地出張予定、

見込より知れり

福田市伊保所聖徳寺

運慶班泉塔 亥日

北川作治宛

運延一見山日時不立

至急電報

一四二一 シバ

ウナ ニ六 ハカタ 五三キニ コー、ニ〇 ヒ六

シバ フタムラマチウーノ一三

チイセンヒキアゲ ト ウホウセフカイ

シカタマサヒロ

ウナ

ホム ミサワイツタツヤハイツ ミシカタキタガフ

セ六、六 ニ一六〇



フネメシーヒエケハナシスンダキタ

五言古詩

ウナ一九 フクオカ 一六四 二三・三〇  
シバ シタムラテウーノーシテウセンカンケイセワカイ

六六四  
シハ

船公  
時  
分  
者信送  
者家照  
借受

21.5

號四第傳

報

電 179

號番通通信送

信 送

時

分

者信送

者校照

信 受

ウア

フルイチヘレンラクスン  
キタ

シバ

クタムラデウノ  
チヨウセンカンケイセワカイ

ウア

セフクオカ  
一六三  
コニ  
三〇

六六ニ  
シバ



純對印子王

院 信 遞

號四第信



送通信過番號

信 送

ウ  
ナ

カンパ  
ンテ  
ハイス  
ンダ  
キタ

天  
天

70


ウ

六六七

4

六  
フ  
ク  
オ  
カ  
一  
六  
二  
コ  
三  
、  
三  
〇

シバ  
グ  
タム  
ラ  
チ  
ヨウ  
ー  
ノ  
ー  
三  
シ  
チ  
ヨウ  
セン  
カン  
ケイ  
セ  
ワ  
カイ



至急電報

時乾

時

送倡者

者信送

者校照

一者

信

信受

44

2

王字即引

院 信 遞

第四傳

博多、朝鮮引揚同胞が活版所博多相漢が高尾現事、  
連絡の同地が第回ニテ急急金山が活版所連絡、コト

外務省の通シ、司方部ニシテ貴会経費増款を要望セルガ  
最近、脱出者数ヲ基礎トシ、一部変更シタルニ付了知アリタリ  
而右ニ付テ来週初、司方部「カビール」大尉渡解が局セリ  
ル等ニ付而右ニテ上貴方ヨリ之舉政行ニ付テ連絡要望セ  
ラレタリ

大金山古沢令経費(月額)

一、給食費

七五〇。〇〇。円

一日平均一。〇〇。人 各五食(船内并当二食ヲ含ム) 一食五円

二、援護金

五〇。〇〇。円

一月五。〇〇。人ノ困窮者 一人一。〇。円

三、医療費

一五。〇〇。円

一日一。〇〇。人 一人五。〇。円

四、葬式費

三。〇〇。円

一月五件 一件六。〇〇。円

五、燃料費

(イ) 木炭 月二。〇。俵 一俵四。〇。円

(ロ) 石炭 一月五屯 一屯四。〇。円

一 草 魚 糸 査 片

六、人件費	一一七、〇〇〇 円
(一) 俸給 一二五名 一名 一、〇〇〇 円	
(二) 旅費 二、〇〇〇 円	
七、事務費	二〇、九〇〇 円
(一) 事務所、収容所、共同食堂借料	七、〇〇〇 円
(二) 消耗品費	三、〇〇〇 円
(三) 通信費	二、〇〇〇 円
(二) 清掃費	六、〇〇〇 円
(六) 電燈及水道料	九、〇〇〇 円
(一) 事務所、収容所、修繕費	二、〇〇〇 円
合計	九六五、九〇〇 円

京城日本人看護會經費(月額)

一、給食費

一〇五、〇〇〇 円

一人一日五円一日七〇〇名到着

二、援護金

一、〇五〇、〇〇〇 円

一人当五〇 円

三、医療費

二一〇、〇〇〇 円

一人当一〇 円

四、運搬費

龍山駅迄四料 自動車一〇七、〇〇 円 迄一八〇

馬車一〇五、〇〇 円 迄九〇〇

五、人件費

職員六〇名 一人月額一、〇〇〇 円

月 洋 恩 守

六、事務費

二一、八五〇円

(一) 事務所借料及消耗品費

二〇、〇〇〇円

(四) 雑費

一、八五〇円

七、出張所費

三〇、〇〇〇円

用城、延安、青丹、漢政府、東豆川五ヶ所

各 五、〇〇〇円

合計

一、五三三、八五〇円

東京日本在留會経費（月額）

一、給食費

105,000円

別余及雑費 一人一日

107,000円

二、被護金

105,000円

一人 55円

三、医療費

210,000円

一人 100円

四、運搬費

57,000円

龍山運送回料

白部 1台 700円

船 1台 100円

馬車

1台 200円

延 900円

五、人件費

50,000円

職員 6名

一人 月額 10,000円

六、事務費

二、八五〇。一七

(一) 事務所備料及消耗品費

二〇、〇〇〇。一七

(四) 雜費

一、八五〇。一七

七、出張所費

三〇、〇〇〇。一七

南、延、青、丹、陽、政、社、東、豆、川、五、ヶ、所、各、六、〇、〇、〇、一、七

合 計

一、五、一、二、八、五、〇、一、七

一、五、一、二、八、五、〇、一、七

三、八、五、〇、一、七



小倉山古法金結實（月額）

一、飲食費

七五〇、〇〇〇円

一日平均 一〇〇〇人

各五食（昭和廿二年食）

一金五円

二、援護金

五〇、〇〇〇円

一月五、〇〇〇人、困窮者一人十円

三、医療費

一五、〇〇〇円

一日一〇〇人 一人五円

四、葬式費

三〇、〇〇〇円

一月五件 一件六〇〇円

五、燃料費

一〇、〇〇〇円

（木炭） 月二〇〇束

一俵四〇円

(四) 石炭 一斗五匁 一匁四〇〇

六 人件費

一一七、〇〇〇 月

(一) 傭 給 一一五匁 一名 一、〇〇〇 月

(四) 旅費 二、〇〇〇 月

七 事務費

二〇、九〇〇 月

(一) 事務費、収支、古口金型、備料 七、〇〇〇 月

(四) 燃料費 三、〇〇〇 月

(四) 通信費 二、〇〇〇 月

(二) 清掃費 六、〇〇〇 月

(六) 毛燈、水道費 九、〇〇〇 月

(八) 事務費、収支、古口金型、備料 二、〇〇〇 月

合計

九六五、九〇〇 月

外務省より通じマ司令部ニ在リ全額封鎖解除方留置人  
ルガ米國初同司令部カヒール大尉改新ニ在リ  
是ニ付右中ニ在リ上貴族ニ在リ是等貴族封鎖解  
除方至急軍政府ニ留置アリトシ

京城日本人生活保護費

一 給食費 一人一日五圓 一日五〇〇圓 一〇五〇〇圓

二 被服費 一人五圓 一〇五〇〇圓

三 医療費 一人一日一〇圓 一〇五〇〇圓

四 運搬費 五〇〇〇圓

内訳 衣小服追加料 目初車 一〇五〇圓 追加 一八〇圓  
馬車 一〇五〇圓 追加 一〇〇圓

山 人 件 費	職 員 各 名 一 人 月 額 合 計	五 〇 〇 〇 〇 円
山 車 務 費		二 一 八 五 〇 円
	山 設 山 車 務 片 隔 料 日 消 耗 品 費	三 〇 〇 〇 〇 円
	山 鞋 費	一 八 五 〇 円
山 出 張 費		三 〇 〇 〇 〇 円
	開 成 延 成 者 月 消 耗 品 費 並 山 車 片 各	六 〇 〇 〇 〇 円
	合 計	一 五 〇 〇 〇 〇 円
	山 山 車 務 合 計 費 (月 額)	
山 給 食 費		八 五 〇 〇 〇 円
	一 日 平 均 一 〇 〇 〇 人 各 五 食 (船 中 食 料 二 食 料 三 食 料)	
	一 食 料 五 円	

一、接護金	一月共 500 人，因窮荒 1 人 10 日	50,000 日
二、豆糠費	一日 100 人 1 人 5 日	15,000 日
三、薪炭費	一月 5 件 1 件 200 日	3,000 日
四、燃料費		10,000 日
五、木炭	月 200 炭 1 炭 400 日	
六、石灰	月 20 心 1 心 400 日	
七、人件費		18,000 日
八、奉給	25 名 1 名 1,000 日	
九、旅費		2,000 日
十、事務費		20,000 日
十一、事務費	事務費 収支 共同 事務費 附科	20,000 日
十二、消耗品費		10,000 日

通信費

111

清靜

100

(市) 電燈及水道料

九  
〇  
〇  
四

新勝以收其功

100

合計

九  
十  
五  
九  
口  
口  
四

二 古市水収地セウリトリトノ發アルガ其ノヒ失疑

二  
能  
个  
心

京、粵、日、英、美、法、德、俄、奧、意、日、來佛、平、港、在、外、同、胞

獲<sup>ニリキニ</sup> 受<sup>ニ</sup> 文<sup>ニ</sup> 治<sup>ニ</sup> 子<sup>ニ</sup> 多<sup>ニ</sup> 少<sup>ニ</sup> 上<sup>ニ</sup> 使<sup>ニ</sup> 費<sup>ニ</sup> 二 台<sup>ニ</sup> 稅<sup>ニ</sup> 稅<sup>ニ</sup> 進<sup>ニ</sup> 一 木<sup>ニ</sup> 物<sup>ニ</sup> 價<sup>ニ</sup> 為<sup>ニ</sup>

各人別各月別＝通報＝リタシ商回入内配＝配テス

今日也 學士二人 對支 聯 歎 何 七 回 報 乞 了

四三〇

外官記列長

先達不<sup>レ</sup><sub>レ</sub>長<sup>レ</sup>の

在外同胞後護局

松田理<sup>いん</sup>事<sup>り</sup>長

穂積<sup>いん</sup>氏

泉<sup>いん</sup>の京城<sup>り</sup>に在<sup>る</sup>リ

北<sup>北</sup>鮮<sup>北</sup>及<sup>南</sup>鮮<sup>南</sup>ヨリ脱出者日平均<sup>日平均</sup>×〇〇名<sup>名</sup>矣

破京<sup>破京</sup>城<sup>城</sup>ヨリ毎日引揚<sup>引揚</sup>列車<sup>列車</sup>出<sup>出</sup>テアル

避難者<sup>避難者</sup>ノ状況<sup>状況</sup>ハ慘<sup>惨</sup>タルニアリカ<sup>カ</sup>ノ病<sup>病</sup>氣<sup>氣</sup>ニ侵<sup>侵</sup>

サレ金<sup>金</sup>々<sup>々</sup>汚物<sup>汚物</sup>ヌナリ而<sup>而</sup>テ誇<sup>誇</sup>リヌ恥<sup>恥</sup>ヌ忘<sup>忘</sup>レヒ

タスラ祖<sup>祖</sup>國<sup>國</sup>ハ道<sup>道</sup>ヲ踏<sup>踏</sup>イ断腸<sup>断腸</sup>ノ憶<sup>憶</sup>ニス

一月<sup>一月</sup>羊<sup>羊</sup>患<sup>患</sup>登<sup>登</sup>手

一般ニハ天賦痘ノ寄生多ク、奇疹ヲブス下  
坂ノ現象ニアリ、新義ヲニテハ「ヘスト」云  
生マルタリ、如シ

成興 = 流行性腦脊髓膜炎發生也

其、  
東城、  
金、  
力、  
物、  
費、  
經、  
濟、  
的



＝極度＝困窮ス

米穀＝テハ、ヶ月持テコタヘルコト困難ニテ  
結食セザレバ餓死ス。大豆、豌豆、麦ノミ  
ノ粗食ニテサシトス万シ難シ

又、穀米者及衆ハ、十八日帰國予定ナルニ米  
穀＝可ヲカノ措置ヲ講セラレシコトヲ途  
＝切望ス

特ニ時ノ問題ナリ御健闘ヲ祈ル

完結  
種

號番日月行施

所長

理事部長

課長

主任

次長

件名 書話会 融資関係 2件

電報

秋山昌平

別有市北城南  
三下自山脚望平方

私本嘉太郎宛

同市下老所 三 米屋別館内

大和百歲

朝鮮總督府

字木子施子

加力リ  
事  
銅  
總  
督  
府

極力  
努力  
中  
目  
十  
見  
通  
シ  
付  
カ  
ス  
事

情  
由  
了  
承  
請  
フ

乳  
白  
は  
結  
中  
リ

報

電 0077

號番通通信送

077

信 送

時

分

者信送

者校照

信 受

ヨヘンナマイコトワラレノシカツニカカルソクトウマツモトカタロ

ツツ

アキヤマシヤウタイ

チヤウセンヒキアキドウチヤウセフカイ

チヤウセンカンキザンムセイリシヨ

シハクタムラマチニ

三〇ハツニニニ〇コニ・〇

四八八五五五五

シハ



セ六、〇

納刷印子王

院 信 遞

號四第信

日誌 第一

四月十七日

一、家族留宅決定<sup>11</sup> (喜報交付)

一、五十五名 三月分渡 300 250 200

二十名 二月分渡

江口、松田、伊藤、大村各理事及理事長 承認

越田参事、池田副参事、森田博士 處理

二、食糧<sup>12</sup>

研究<sup>13</sup> 越田参事、可能性アリ

三、菜<sup>14</sup> 品<sup>15</sup>

八<sup>16</sup> 送<sup>17</sup> 付<sup>18</sup> 用<sup>19</sup> 一<sup>20</sup> 部<sup>21</sup> 寄<sup>22</sup> 城<sup>23</sup> 用<sup>24</sup> 三<sup>25</sup> 〇〇〇 本<sup>26</sup> (三〇〇人分)

越田、森田、池田、一<sup>27</sup> 相<sup>28</sup> 談<sup>29</sup>、若干<sup>30</sup> 待<sup>31</sup> 等<sup>32</sup>。

四ノ六

現ニ名譽者活會ニ殘留スニ職費ノ由地在任家族  
ニ對シ在外同胞援護會ヨリ人々ヨリ至ス  
田ヲ生活費トシテ支給スルコトニ了解ノ得タル  
ニ付其ノ職務ニ依リ甲乙丙ノ三種ニ五分ニ現  
給家族救済金先及受取人氏名ヲ至急郵  
解リ揚同胞者活會ニ連絡アリタシ

穂積前会長十四日無事歸京本トテ郵解リ福同胞  
者活會理事會ニ必成状況ヲ報告アリタシ

南條氏

佐々木氏等古市会長ニ現在進ノ東京ニ行スニ連絡

二月廿五日

希望事項ハ一々實現セシ居ニテ今般主ハ實現方ニ  
日新月長ト努力

田舎ノ件ニ関シテハ塩田氏ト相談ト上昨午五ノリ  
閑居方面ニ運即チ開始セリ(穂積)

其代貯りノリ屬高ニ於シ現物又估ヲ悉ク改訂  
ナル方ニ決リテ始末ヲ明シツルヤハ報  
タシ

尚希望事項アリトハ通報ス

最近西北廻り世事収束スルモノタニキニテ三陸可  
就ニモノハ極力南下セラシメキ方西北廻ノ主要な事流  
地ニ御傳ヘソセフ

(十三予進ヲ此通テノルト)

五平地トハ元山、志保、世南、  
平度、能登、羽咋等

平度、能登、羽咋



其年八月。豐饒。生。子。感。天。其。極。其。極。  
其。年。八月。二。月。中。日。未。得。其。多。其。本。  
其。年。八月。二。月。中。日。未。得。其。多。其。本。  
其。年。八月。二。月。中。日。未。得。其。多。其。本。

運はる長靴

手帳をいすに水

一、初穂積る水いすに水、金金旅、事件二度、候年  
あり、同フ愛テ、居り、夕一、金、ケ、外、佐、南  
界、日、を、神、居、へ、云、是、三、倍、り、初、期、五、年、一、以、フ、要、多  
に、同、時、一、ヤ、ル、の、穂、積、る、水、は、候、事、為、り、可、候、フ  
要、ソ、リ、也、三、起、許、界、へ、一、金、上、同、じ、田、大、門、利  
候、に、一、入、ッ、タ、瓜、割、ハ、二、十、メ、ロ、一、立、立、人、ノ、一、  
ハ、万、石、フ、如、一、一、ワ、一、

二、故、也、初、宿、長、少、田、而、大、官、の、人、一、二、テ、お、り、可、候、事、  
共、三、位、置、一、帰、り、テ、一、お、り、ス、

三、初、野、由、一、飛、一、に、長、穂、事、情、ハ、豊、年、一、三、倍、一、  
相、互、更、に、一、水、源、一、二、テ、リ、候、一、三、倍、一、

右?

ニ能ク其方を行故カ、  
能クイリ且例年ノ不作、  
波詠齋ニ詠フ(酒詠)昨今世  
中、  
勘通リ流カハ近ニ其ノ地位ニアル者元日  
ニ田テ少クトモ亦其ノ收穫少ニ見返リ物資ト  
ノ交換力低ニ成ル見セシト思ハル  
ヤ田長ニ本人方田ニ要求シ、  
方面ニ接衝シタル其ノ結果ハ上車ノ運セリ  
麦ノ作柄ハ不入ト暖氣ノ為位長ニシテ不作  
ナリ

四、  
レハ如野人ヲ要ニ持ツモノ同ジク反ニ持ツモノ  
特ニ計可サレシニ前次外ハ三月ニ分返ルル處ニ  
不<sub>レ</sub>思<sub>ハ</sub>ル

為子所瓜，既自若，亦不難。 (三十一日)

完結	未完結
種	

號番日月行施

所長

部長

課長

主任

次長

件  
名

電報

大坂市北王塚是所一大坂ビル上六号室  
朝鮮引揚同胞生活会長

無量林若雄就職承諾十日決赴任，予焉

胡  
詳  
憲  
賢  
存

四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

④

朝鮮國制

犯罪確定に至る迄ハ猶無罪ノ者トシテ取扱ハ  
ベキモノタルヤ当然ナリ

由リテ先づ第一ハ速ニ取調ヲ行ヒ

ナキ者ハ速ニ之ヲ釈放セラレタキコト、第二ハ

抑留中ノ者ニ對シテ迅速ニ改善シ人道主

義ニ依リ其セキ

面ニ改善シ公平ナル取扱ヲセラルルヤウ  
措置スルノ要アルベシ

(二) 朝鮮ニ於ケル状況

北朝鮮ニ於テハ殆ト全面的ニ地方行政  
廢止官署ヲ抑留シ一平壤其ノ他南北

財全上  
満家毛成  
諸

澤

司

東京 王子區  
榮町二ノ一五七

朝鮮ニ於ケル官公吏、特殊團體  
職員等ノ抑留ニ關スル件

終戰以來朝鮮ニ於ケル官公吏、特殊團體等ニ於テハ進駐スル聯合軍ニ對シ事務引續ヲ行フベク準備シ居リタル處南朝鮮ニ於テハ略々引續ヲ了シタルガ軍政廳、檢察當局ヨリ其ノ後抑留セラルル者多ク北朝鮮ニ於テハ地方廳幹部、警察官等ハ事情ノ如何ヲ問ハス抑留セラルル者僅メテ多數ニシテ此等ノ者ノ中其ノ後釋放セラレタル者アルモ猶抑留中ノ者アリ茲ニ其ノ狀況ヲ具シ述ニ釋放セララルルヤウ御指圖相成ヤウ願ヒタシ

一、南鮮ニ於ケル狀況

南朝鮮ニ於テハ概本順調ニ引續ヲ了シタルモ其ノ後朝鮮總督府局長、京畿道軍政幹部、特殊團體幹部等檢察當局ヨリ取調ヲ受ケ爾次釋放セラレタル者アルモ五箇月以上ヲ経過スルモ猶抑留セラルル者アリ今抑留セラレタル事由ヲ調査スルニ概本左ノ如シ

(一)終戰後ノ行政處分又ハ支出ヲ全面的ニ不當トシ之ヲ償還又ハ償還ノ犯罪嫌疑アリトスルモノ  
スルモノ

(二)終戰後ノ特殊ノ支出ヲ不當トシ之ヲ償還又ハ償還ノ犯罪嫌疑アリトスルモノ  
(三)文書焼却ヲ違法トスルモノ

(四)個人的犯罪嫌疑アリトスルモノ

此等事由ハ表面的ノモノニシテ中ニハ朝鮮人ノ策謀ニ依ルモノアルガ第一ノ事由ニ付テハ終戰後ト雖モ進駐軍ニ對スル引續完了ニ至ル迄ハ當然總督府ニ於テ行政ノ責任ヲ負フベク具ノ債務ニ關スルモノノ支拂ヲ爲スハ當然ナリト思料セラル

第二ニ付テハ北鮮在任者等ニ對スル給料賞與等ノ支拂、工事代金ノ支拂、退職金支拂等ヲ不當トスルモノ、日本人官吏ノ歸國旅費ヲ内地ニ於テ支拂フ爲之ヲ内地ニ現送セルヲ不當トスルモノ等ナルガ之ガ當否ハ見解ノ相違ニ基クモノナランモ少クモ關係官公吏ニ於テ償還セントシタルモノニ非サルコト明ナリ

第三ニ付テハ或ハ一部ノ文書亡失シタルモノアランモ得ニ之ヲ犯罪ト曰スベキ程度ノモノハ皆無ナリ

第四ニ付テモ誤聞、中傷、密告等ニ依ルモノ多ク北鮮在任職員ノ給與ヲ減當シ居タルニ過ギサルモノモアリ必スシモ犯罪ヲ構成セサルモノ多シ

然ルニ此等嫌疑ノ爲抑留セラレタル者ハ結局場合ノ如何ニ拘ラス相當額ヲ弁償シテ釋放セラレタル者多シ



朝鮮シテ境ニ至ルモ利記ノ如ク釋放ヲ見ルニ至ラサル者相繼アリ此等朝鮮留者ハ極メテ  
悲觀ナル生活ヲ送りツツアリ(有守ノ真意)迄、茲人品ノ憤慨、朝鮮人木澤ノ憤  
怒等ニ依ルモノノ如シ一收買モ少違妙セサルモノノ如ク此等ハ朝鮮人警察官ヲ釋放ス  
ベキコト明確ナル者ヲモ故實ニ設置シアル場合アリ州ハ取ハ裁判決定前死スルニ至  
ルノ虞ナントセム、誰フニ犯罪確定シフノ執行ヲ受クル者スラ極具ノ人海ヲ泳セラ  
ルヤ犯罪ノ嫌疑アルニ遇キサル者ニ於テハ具ノ犯罪確定ニ至ル迄ハ無罪ノ者トシテ  
取扱ヘルベキモノタルヲ當然ナリ。

由リテ先ツ第一ニハ速ニ收買ヲ行ヒ非ナキ者ハ速ニ之ヲ釋放セフレタキコト、第二ハ州  
留中ノ者ニ對シ人道主義ニ本キナル處置ヲ圖ニ以テシ公牛ナル取扱ヲセラルヤウ  
措置スルノ要アルベシ

#### 一 北朝鮮ニ於ケル状況

北朝鮮ニ於テハ殆ト全面的に地方總督府警察官等ヲ派遣シ牛取具匪徒北洋ノ  
他ニ收買セウレ中ニハ古等ニ迄取セフレタル者アリ此等ハ如何ナル理由ニ本クイ解  
スルニ古ム所ニシテ具ノ處置ニテリテハ匪ノ北洋は昔ノ状況ニハ想像ニ堪カフス

#### 二 朝鮮ニ釋放セラルルヤウ措置ノ要アルベシ

事所以上ノ如ク朝鮮留者ノ大部分ハ非ナキ者ト謂フベク少クモ具ノ裁判ヲ速ニ進歩セシ  
メ且朝鮮中ノ處置ニ付以テ非ナキ者ハ速ニ之ヲ釋放セラルルヤウ至極端措置相成度  
置ス

朝鮮總督府鐵道局東京事務所

(様式第六號)		朝鮮總督府鐵道局東京事務所	
電	報	譯	文
著信	年	月	日午前 後時分
著信人	塩田	所長	殿
發信人	小田	安馬	
三月二十日	博多着	夕	郷里ニ立寄リ可成早ク
歸	止		

# 電 報

送受信通電

六六シバ	ナ 匹ニハカタ ー〇ニセ九、一〇	バ クタムヲチヨウノミ	チヨウセンカンケイガ ンムセイリシ ムシヨ	シタセイコ	ウナ	三ツキニ九ヒハカタツイタ」キヨウリニタチヨリナルヘ クハヤ	カエル」オダ ヤスマ
信 送	時 分	者信送	者校照	信 受	「三、三〇	出	



昭和十八年三月六日  
外務省  
陸軍省  
海軍省  
文部省  
農林省  
商工省  
逓信省  
内務省  
朝鮮内務省  
朝鮮警察廳  
朝鮮教育廳  
朝鮮農林省  
朝鮮商工省  
朝鮮逓信省  
朝鮮内務省

朝鮮ニ於ケル官公吏・特殊団体職員

オ、柳田ニ関スル件

終戦以來朝鮮ニ於ケル官公吏・特殊団体職員  
ニ於テハ進駐スル聯合軍ニ付シ事務引継ヲ  
行フベク準備シ居リタル処南朝鮮ニ於テ  
ハ略々引継ヲ了シタルガ軍政庁・横察當  
局ヨリ其ノ後柳田セラルル者多ク北朝鮮  
ニ於テハ地方官幹部・警察官等ハ事情  
ノ如何ヲ問ハズ柳田セラルル者極メテ多数  
ニシテ此等ノ者ノ中其ノ後釈放セラレタル  
者アルモ猶柳田中ノ者アリ茲ニ其ノ状況  
ヲ具シ速ニ釈放セラルルヤウ御措置相成

ヤシ類ヒタシ

ハ南朝鮮ニ於テハ状況

南朝鮮ニ於テハ概ネ順調ニ引越ヲ了シ

タルモ其ノ後朝鮮總督府司課長、京

畿道軍政幹部、特殊団体幹部等

檢察當局ヨリ取調ヲ受ケ漸次釈放セ

ラレタル者アルモ且箇月以上ヲ経過スルモ

猶拘留セラレル者アリ今抑留セラレタル

事由ヲ調査スルニ概ネ左ノ如シ

ハ終戦後、行政処分又ハ支出ヲ全面的ニ不

当トシテ之ヲ横収又ハ横職、犯罪嫌疑ア

リトスルモノ

(2) 終戦後、特殊ノ支出ヲナサントシテ之ヲ横欲  
又ハ演職ノ犯罪嫌疑アリトスルモノ

(3) 文書焼却ヲ違法トスルモノ

(4) 本書個人の犯罪嫌疑アリトスルモノ

此等事由ハ表面的ノモノニシテ中ニ朝鮮人、  
策謀ニ依ルモノアルガ第一、事由ニ付テハ終  
戦後ト云々進駐軍ニ対スル引継完了ニ至  
ル迄ハ当然總督府ニ於テ行政ノ責任ヲ負  
フベリ其ノ債務ニ属スルモノノ支拂ヲ百ス  
スハ当然ナリト思料セラル

第二ニ付テハ北鮮在住者ヲ対スル給料賞  
與等ノ支拂、工事代金ノ支拂、退職金支拂

ヲヲトモトスルモノ。日本人官吏ノ歸國旅費ヲ内地ニ於テ支拂フ旨之ヲ内地ニ現送セルヲ不爲トスルモノヲイルガ之ガ當否ハ見解ノ相違ニ基キテイランモノナリ。關係官公吏ニ於テ横欲セントシタルモノニ非ザルコト明ナリ

第三ニハテハ或ハ一部ノ文書ヲ失シタルモノアラシメ特ニ之ヲ犯罪ト目スベキ程度ノモノハ皆無ナリ

第四ニハテハ誤開中傷、密告ヲ依ルモノ多ク北鮮在住職員ノ給予ヲ保管シ居クルニ過ギザルモノニアリタスシテ犯罪ヲ構成セザルモノ多シ

然ルニ此等嫌疑一方抑由セラレタル者ハ結局理  
由ハ如何ニ拘ラズ相当額ヲ弁償シテ釈放セ  
ラレタル者多シ

而シテ現在ニ至ルニ別記、如ク釈放ヲ見ルニ至  
ラサル者相当アリ此等被抑由者ハ極メテ悲  
慘ナル獄生活ヲ送リツツアリ(看守ノ意識的  
虐遇、差入品、横取、朝鮮人未決囚ノ横暴  
等ニ依ルモノ)如シ取調ニ亦進捗セザルモノ、  
如ク是ニテハ朝鮮人検察官ガ釈放スニキコ  
ト明確ナル者ヲモ故意ニ放置シアル場合アリ  
斯デハ或ハ裁判決定前獄死スルニ至ルノ虞  
ヤントモス



惟フニ犯罪確定シテ刑ヲ執行ヲ受クル者スラ猶  
其ノ人權ヲ保護セラル況ヤ犯罪ノ嫌疑ア  
ルニ遇ギザル者ニ於テハ其ノ犯罪確定ニ至ル  
迄ハ猶無罪ノ者トシテ取扱ハルニキモノタルヤザル  
然ナリ

由リテ先ツ第一ニ速ニ取調ヲ行ヒ罪ナキ者ハ  
速ニ之ヲ釈放セラレタギコト、第二ニハ柳田中  
ノ者ニ對シ人道主義ニ基キ苛酷ナル処遇  
ヲ並ニ改善シ公平ナル取扱ヲセラルルヤヲ措  
置スルノ要アルニシ

ハ北朝鮮ニ於テハ此ノ状況

北朝鮮ニ於テハ殆ト全面的ニ地方片幹部

警察官ヲ仰留シ平壤其地西北鮮、刑  
務所其地ニ收容セラレ中ニ「近きヲ」  
送致セラレタル者アリ此ヲ「如何ナル理由」  
基リヤ解スルニ「若ハ所ニシテ其地ニ過」  
至リテハ他ノ北鮮在在者、状況ニ「禧」想  
像ニ難カラス速ニ釈放セララルヤウ措置、  
要アルニ

事情以上、如何被仰留者、大部分ハ「罪ナキ者」  
ト謂フベリナリ其、裁判ヲ速ニ進捗セシメ  
且仰留中、処遇ニ日改善シ「罪ナキ者」速ニ  
之ヲ釈放セララルヤウ至急御措置相成度  
仰依頼ス

朝鮮總督府農商司

被仰田者

朝鮮總督府農商司

白石光治郎

農產課長

厚地法人

農產課技師

今村新

會計課長

上野武雄

會計課理事官

上山敏雄

糧政課長

吉崎三太郎

通信局長

甲藤泰吉

通信局會計課長

沢々貞雄

計算課長

宮本木松

服務係長

西島祥大

貯金課長

小川要次

二月 羊 惠 登 子

京城地方通信局長

新見 泰三

交通局長

中隈 勝

司 經理課長

秋葉 秀弥

朝鮮總督府警務司衛生課長

阿部 泉

全羅南道農事試驗所技師

嵐 嘉一

京城保護觀察所長

長崎 祐三

京城刑務所長

渡辺 豊

西大門刑務所長

相良 春雄

大田刑務所長

北島 寅之助

西大門刑務所作業課長

青柳 義雄

司 庶務課長

白石 寛

大邱覆審法院檢察長

上井 節藏

大邱地方法院檢察正

江上綠輔

西大門刑務所看守長

峰辰辰己

同

教悔師

百濟慶勝

朝鮮礦業振興株式會社社長

人見次郎

同

會計課長

小西己教

朝鮮金融組合聯合會會長

富永文一

西大門金融組合理事

小野半四郎

朝鮮交易株式會社社長

橫款亨雄

朝鮮證券取引所理事長

野田新吾

清臨貝

京城 古市会長 参

逋信局長 宛

一、前穂積会長、豫テヨリ金奎祚事件ニ関シ檢  
事局、取調ヲ受ケ居リタル処、金奎祚ハ外患豫備  
罪（日本刑法八七條）ニ依リ刑期五年ノ判決ヲ受ケタル  
ト同時ニ十九日穂積会長、檢事局ヨリ召喚ヲ受ケタ  
直ニ起新罪名、金ト目ジク西大門刑務所ニ入ツタ  
公判ハ二十七日ノ事ナリ 差入糸護ハ一カ金ヲ期ニツツ  
アリ

二、渡辺副会長 小田通譯官 兩人ハ二十七日出發ス事ニ

故郷に立歸リテ上京ス

弟之郎  
経済部長  
木村武

三、朝鮮内之於る食糧事情、豊年にも拘らず相当悪化  
ノ状態ニアリ、特ニ京城、如キ都市ニ於テ甚ニ行政力  
ノ崩壊ニ依リ集貨不可能ニナリ且例年、不作、増  
ヲ受ケ農民ノ極度ノ乱費ニ依リ（酒、飴）昨今農  
民ノ手持モ乏カラサルモノ、如シ責任ノ地位ニアル者モ米ノ  
對日輸送ヲ説カハ直ニ其ノ地位ヲ失墜スル状態ニ  
シテ少クとも本年ノ收穫迄ハ見返ハ物資トノ交換方  
法ニ依ルモ見込ナシト思ハル  
山田氏、米人方面ニ要ボシタル中佐、古朝鮮人方面ニ  
接衝シタルモ其ノ結果ハ上述ノ通り  
麦ノ作柄ハ手入不足ト暖氣ノお佐長ニテ不作ナリ

四、在佐日人ノ被シ三月八日引揚命令出ヅ其ノ依シハ  
在鮮人ヲ妻ニ持ツモノ同ジク父<sup>(母)</sup>ニ持ツモノ持<sup>テ</sup>許<sup>ス</sup>のサレタ  
ル者以外ハ三月二十八日退去ヲ命ゼラル  
当在沃会ノ残留者六十名程度(三十日)



ミミミ 大蔵省理財局経済課岡村氏ヨリ

聴取

ハ三月十日以降外他ヨリ引揚者カ旧田志子内以  
ヲ持テ帰リタル場合ハ内地ニ持テ帰リタリト式ニ  
申出ブルコトナリシマイ忘レタト云フコトニシテ其  
ハ吉金銀機関ニ申出ブルハ便宜交換ノ得ニ違  
カ開カレテ居ル

ハ三月十日以降外他ヨリ引揚者カ旧田志子内以  
ヲ持テ帰リタル場合ハ内地ニ持テ帰リタリト式ニ  
申出ブルコトナリシマイ忘レタト云フコトニシテ其  
ハ吉金銀機関ニ申出ブルハ便宜交換ノ得ニ違  
カ開カレテ居ル

昭和二年四月十日ヨリ引揚ヤタル者ニ対シ

テハ取次者ト同様ニ取扱ヒ与ルニ奉リヤ  
ハ資金ガ引出セルヤシ大蔵次官通牒ハ日本

振面取付手続

朝鮮總督府

服片總裁ニ寄セラレテ居ニ 初ニテ右列左引出シ

ニハ左ノ書款ヲ必要トスルコトヲユトデアリ

ハ引揚証明書

(2) 引揚前六ヶ月在任ニタリコトノ証明書

(3) 此地ニ於テ家具什器等ノ生活必需品ヲ

所有セザルコトノ所長ノ証明書

(4) 目前生活必需品購入計畫書(品目、数量

金額等ヲ記載シタルモノ)



情

三月十日 禮拜一

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

[illegible]

五、市人等之部

大正

經緯圖

(1) 7

1944

17  
2  
11  
12  
13  
14  
15  
16  
17  
18  
19  
20  
21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29  
30  
31  
32  
33  
34  
35  
36  
37  
38  
39  
40  
41  
42  
43  
44  
45  
46  
47  
48  
49  
50  
51  
52  
53  
54  
55  
56  
57  
58  
59  
60  
61  
62  
63  
64  
65  
66  
67  
68  
69  
70  
71  
72  
73  
74  
75  
76  
77  
78  
79  
80  
81  
82  
83  
84  
85  
86  
87  
88  
89  
90  
91  
92  
93  
94  
95  
96  
97  
98  
99  
100  
101  
102  
103  
104  
105  
106  
107  
108  
109  
110  
111  
112  
113  
114  
115  
116  
117  
118  
119  
120  
121  
122  
123  
124  
125  
126  
127  
128  
129  
130  
131  
132  
133  
134  
135  
136  
137  
138  
139  
140  
141  
142  
143  
144  
145  
146  
147  
148  
149  
150  
151  
152  
153  
154  
155  
156  
157  
158  
159  
160  
161  
162  
163  
164  
165  
166  
167  
168  
169  
170  
171  
172  
173  
174  
175  
176  
177  
178  
179  
180  
181  
182  
183  
184  
185  
186  
187  
188  
189  
190  
191  
192  
193  
194  
195  
196  
197  
198  
199  
200  
201  
202  
203  
204  
205  
206  
207  
208  
209  
210  
211  
212  
213  
214  
215  
216  
217  
218  
219  
220  
221  
222  
223  
224  
225  
226  
227  
228  
229  
230  
231  
232  
233  
234  
235  
236  
237  
238  
239  
240  
241  
242  
243  
244  
245  
246  
247  
248  
249  
250  
251  
252  
253  
254  
255  
256  
257  
258  
259  
260  
261  
262  
263  
264  
265  
266  
267  
268  
269  
270  
271  
272  
273  
274  
275  
276  
277  
278  
279  
280  
281  
282  
283  
284  
285  
286  
287  
288  
289  
290  
291  
292  
293  
294  
295  
296  
297  
298  
299  
300  
301  
302  
303  
304  
305  
306  
307  
308  
309  
310  
311  
312  
313  
314  
315  
316  
317  
318  
319  
320  
321  
322  
323  
324  
325  
326  
327  
328  
329  
330  
331  
332  
333  
334  
335  
336  
337  
338  
339  
340  
341  
342  
343  
344  
345  
346  
347  
348  
349  
350  
351  
352  
353  
354  
355  
356  
357  
358  
359  
360  
361  
362  
363  
364  
365  
366  
367  
368  
369  
370  
371  
372  
373  
374  
375  
376  
377  
378  
379  
380  
381  
382  
383  
384  
385  
386  
387  
388  
389  
390  
391  
392  
393  
394  
395  
396  
397  
398  
399  
400  
401  
402  
403  
404  
405  
406  
407  
408  
409  
410  
411  
412  
413  
414  
415  
416  
417  
418  
419  
420  
421  
422  
423  
424  
425  
426  
427  
428  
429  
430  
431  
432  
433  
434  
435  
436  
437  
438  
439  
440  
441  
442  
443  
444  
445  
446  
447  
448  
449  
450  
451  
452  
453  
454  
455  
456  
457  
458  
459  
460  
461  
462  
463  
464  
465  
466  
467  
468  
469  
470  
471  
472  
473  
474  
475  
476  
477  
478  
479  
480  
481  
482  
483  
484  
485  
486  
487  
488  
489  
490  
491  
492  
493  
494  
495  
496  
497  
498  
499  
500  
501  
502  
503  
504  
505  
506  
507  
508  
509  
510  
511  
512  
513  
514  
515  
516  
517  
518  
519  
520  
521  
522  
523  
524  
525  
526  
527  
528  
529  
530  
531  
532  
533  
534  
535  
536  
537  
538  
539  
540  
541  
542  
543  
544  
545  
546  
547  
548  
549  
550  
551  
552  
553  
554  
555  
556  
557  
558  
559  
560  
561  
562  
563  
564  
565  
566  
567  
568  
569  
570  
571  
572  
573  
574  
575  
576  
577  
578  
579  
580  
581  
582  
583  
584  
585  
586  
587  
588  
589  
590  
591  
592  
593  
594  
595  
596  
597  
598  
599  
600  
601  
602  
603  
604  
605  
606  
607  
608  
609  
610  
611  
612  
613  
614  
615  
616  
617  
618  
619  
620  
621  
622  
623  
624  
625  
626  
627  
628  
629  
630  
631  
632  
633  
634  
635  
636  
637  
638  
639  
640  
641  
642  
643  
644  
645  
646  
647  
648  
649  
650  
651  
652  
653  
654  
655  
656  
657  
658  
659  
660  
661  
662  
663  
664  
665  
666  
667  
668  
669  
670  
671  
672  
673  
674  
675  
676  
677  
678  
679  
680  
681  
682  
683  
684  
685  
686  
687  
688  
689  
690  
691  
692  
693  
694  
695  
696  
697  
698  
699  
700  
701  
702  
703  
704  
705  
706  
707  
708  
709  
710  
711  
712  
713  
714  
715  
716  
717  
718  
719  
720  
721  
722  
723  
724  
725  
726  
727  
728  
729  
730  
731  
732  
733  
734  
735  
736  
737  
738  
739  
740  
741  
742  
743  
744  
745  
746  
747  
748  
749  
750  
751  
752  
753  
754  
755  
756  
757  
758  
759  
760  
761  
762  
763  
764  
765  
766  
767  
768  
769  
770  
771  
772  
773  
774  
775  
776  
777  
778  
779  
780  
781  
782  
783  
784  
785  
786  
787  
788  
789  
790  
791  
792  
793  
794  
795  
796  
797  
798  
799  
800  
801  
802  
803  
804  
805  
806  
807  
808  
809  
810  
811  
812  
813  
814  
815  
816  
817  
818  
819  
820  
821  
822  
823  
824  
825  
826  
827  
828  
829  
830  
831  
832  
833  
834  
835  
836  
837  
838  
839  
840  
841  
842  
843  
844  
845  
8

[illegible]

21  
 22  
 23  
 24  
 25  
 26  
 27  
 28  
 29  
 30  
 31  
 32  
 33  
 34  
 35  
 36  
 37  
 38  
 39  
 40  
 41  
 42  
 43  
 44  
 45  
 46  
 47  
 48  
 49  
 50  
 51  
 52  
 53  
 54  
 55  
 56  
 57  
 58  
 59  
 60  
 61  
 62  
 63  
 64  
 65  
 66  
 67  
 68  
 69  
 70  
 71  
 72  
 73  
 74  
 75  
 76  
 77  
 78  
 79  
 80  
 81  
 82  
 83  
 84  
 85  
 86  
 87  
 88  
 89  
 90  
 91  
 92  
 93  
 94  
 95  
 96  
 97  
 98  
 99  
 100  
 101  
 102  
 103  
 104  
 105  
 106  
 107  
 108  
 109  
 110  
 111  
 112  
 113  
 114  
 115  
 116  
 117  
 118  
 119  
 120  
 121  
 122  
 123  
 124  
 125  
 126  
 127  
 128  
 129  
 130  
 131  
 132  
 133  
 134  
 135  
 136  
 137  
 138  
 139  
 140  
 141  
 142  
 143  
 144  
 145  
 146  
 147  
 148  
 149  
 150  
 151  
 152  
 153  
 154  
 155  
 156  
 157  
 158  
 159  
 160  
 161  
 162  
 163  
 164  
 165  
 166  
 167  
 168  
 169  
 170  
 171  
 172  
 173  
 174  
 175  
 176  
 177  
 178  
 179  
 180  
 181  
 182  
 183  
 184  
 185  
 186  
 187  
 188  
 189  
 190  
 191  
 192  
 193  
 194  
 195  
 196  
 197  
 198  
 199  
 200  
 201  
 202  
 203  
 204  
 205  
 206  
 207  
 208  
 209  
 210  
 211  
 212  
 213  
 214  
 215  
 216  
 217  
 218  
 219  
 220  
 221  
 222  
 223  
 224  
 225  
 226  
 227  
 228  
 229  
 230  
 231  
 232  
 233  
 234  
 235  
 236  
 237  
 238  
 239  
 240  
 241  
 242  
 243  
 244  
 245  
 246  
 247  
 248  
 249  
 250  
 251  
 252  
 253  
 254  
 255  
 256  
 257  
 258  
 259  
 260  
 261  
 262  
 263  
 264  
 265  
 266  
 267  
 268  
 269  
 270  
 271  
 272  
 273  
 274  
 275  
 276  
 277  
 278  
 279  
 280  
 281  
 282  
 283  
 284  
 285  
 286  
 287  
 288  
 289  
 290  
 291  
 292  
 293  
 294  
 295  
 296  
 297  
 298  
 299  
 300  
 301  
 302  
 303  
 304  
 305  
 306  
 307  
 308  
 309  
 310  
 311  
 312  
 313  
 314  
 315  
 316  
 317  
 318  
 319  
 320  
 321  
 322  
 323  
 324  
 325  
 326  
 327  
 328  
 329  
 330  
 331  
 332  
 333  
 334  
 335  
 336  
 337  
 338  
 339  
 340  
 341  
 342  
 343  
 344  
 345  
 346  
 347  
 348  
 349  
 350  
 351  
 352  
 353  
 354  
 355  
 356  
 357  
 358  
 359  
 360  
 361  
 362  
 363  
 364  
 365  
 366  
 367  
 368  
 369  
 370  
 371  
 372  
 373  
 374  
 375  
 376  
 377  
 378  
 379  
 380  
 381  
 382  
 383  
 384  
 385  
 386  
 387  
 388  
 389  
 390  
 391  
 392  
 393  
 394  
 395  
 396  
 397  
 398  
 399  
 400  
 401  
 402  
 403  
 404  
 405  
 406  
 407  
 408  
 409  
 410  
 411  
 412  
 413  
 414  
 415  
 416  
 417  
 418  
 419  
 420  
 421  
 422  
 423  
 424  
 425  
 426  
 427  
 428  
 429  
 430  
 431  
 432  
 433  
 434  
 435  
 436  
 437  
 438  
 439  
 440  
 441  
 442  
 443  
 444  
 445  
 446  
 447  
 448  
 449  
 450  
 451  
 452  
 453  
 454  
 455  
 456  
 457  
 458  
 459  
 460  
 461  
 462  
 463  
 464  
 465  
 466  
 467  
 468  
 469  
 470  
 471  
 472  
 473  
 474  
 475  
 476  
 477  
 478  
 479  
 480  
 481  
 482  
 483  
 484  
 485  
 486  
 487  
 488  
 489  
 490  
 491  
 492  
 493  
 494  
 495  
 496  
 497  
 498  
 499  
 500  
 501  
 502  
 503  
 504  
 505  
 506  
 507  
 508  
 509  
 510  
 511  
 512  
 513  
 514  
 515  
 516  
 517  
 518  
 519  
 520  
 521  
 522  
 523  
 524  
 525  
 526  
 527  
 528  
 529  
 530  
 531  
 532  
 533  
 534  
 535  
 536  
 537  
 538  
 539  
 540  
 541  
 54



二、三、一〇年

一、本月初メヨリ海、ウヨリ、税出者毎日百三十名平均

・東城收税人員ニモ。名超過来十日引陽到車ヲホス予定

・昨日(九日)ヨリ開城ニ集結セル避難者ヲ釜山

ニ南ト直通スルコトナレリ

・当古話会ニ軍政庁、要ボモアリ收着所及事務所ヲ更ニ新次縮少セントス。開城、延吉地帯、出張員超過(戦?)員超過(増?)加ノ予定

四、古話会東結資金ヨリ三月分経費トシテ十万円、引渡ヲ受ク。

戦災者ニ対スル一人ニイ田ノ救済金ニ際上其ノ代リ輸送途中ニ花ヲ食ハ、食事ヲ受ケルコトナレリ

尚古話云資金ノ管理ニ弟、坂市戦災課ニ移管セリ

廿一日、引揚ゲニテ山本、多々兩君軍政片ノ命令ニ依リ帰國セラルルニ白石氏其ノ他、柳田者ノ状況報告、即迄

六、渡辺副局長、宮田副局長無事終了ニ副局長、辞任近ク帰國、即迄

高

外務省北方課

G H 及 ト、連絡 (二二三)

昭和二一、二、二五  
引揚関係各省連絡室

一、北鮮ヨリ引揚

「ハウエル」大佐ヨリ北鮮、引揚ニ懸

開始セラルコト確定ニシテ S C A T J P

（日本商船管理  
中央事務局）

トモ連絡シタル船、方、大丈夫トノコトナリ、送出港、昨日御

託セル通、釜山及元山トナル（レト述ヘタリ）

猶同大佐、京城ヨリ自動車ニテ三十八度線ニ至リ

視察セル由ニシテ其ノ時日本人カ三名北鮮ヨリ脱

出シ来ルニ遇ヒタルカ蘇聯側ニ別段脱出ヲ妨害

シ居ル模様ナシ、之等日本人、比較的元気ニ見

受ケラレタリト述ヘ居タリ

二、釜山倉庫、引揚民荷物

二月 羊 忽 登 子

「ハ」大佐釜山ヲ視察セル際埠頭ノ倉庫二棟ニ  
邦人引揚民ノ荷物充滿シ居ルヲ見タル其ノ中  
Identify 心得サルモノハ米軍ニ於テ救済ニ使用シ  
居ル先ノ明瞭ナルモノハ日本ニ送還スルト適  
当ト思フニ付朝鮮米軍ニ「サビスト」ス（シト述  
（朝鮮米軍宛電報ヲ記案ニ居ル模様）  
當方ヨリ事件ニ関スル申請ハ曾テ拒否セラル  
カ改メテ申請スル要アリヤラ同ニタルニ其ノ要ナル  
（シト答）ナリ  
猶掠奪ハ少シアリタル模様ナルモ大部ハ安全ニシ  
テ良ク包装シアリ、殊ニ一ツノ倉庫ハ完全ニシテ  
米軍カ整備備シ居ル趣ナリ



三、日本人世託令ノ活動

「ハ」大佐、各地ニ於テ日本人世託令ノ活動ヲ視  
察セル由ナリカ同令（京城・釜山ノ外三十八度線  
ニモ出張所ヲ有ス）ニ極メテ有效ニ活動シ居ルヲ  
認メ大イニ賞讃シ居リタリ。殊ニ釜山ノ收容所ニ  
施設完備シ病人ニ付テモ特別ノ世託ヲナシ居ル由

（註）「ハ」大佐、GHQノ引揚関係責任者ナリ。

卷之三

二  
前  
倒  
像  
殘  
留  
之  
士  
特  
別  
注  
意  
初  
入  
類

三 方 志 會 下 邦 改 換 記 二

唐之使節

源  
7  
大  
と  
お  
う  
に  
落  
下  
す  
し

為去年會經呈請上諭辦理

今後院量引出せ成サスルニ其、類タレヤハ類ニニシノ  
救助アリタシ

六博子ノミナリニ投擲シ當ニ其、類ニニシノ  
救助アリタシ

字

三月十一日附刊分

朝鮮ニ於ケル官公吏、特殊団体職員等ノ拘留ニ関スル件

終戦以来朝鮮ニ於ケル官公吏、特殊団体等ニ於テハ進駐スル聯合軍ニ対シ事務引継ヲ行フベク準備シ居リタル如ク朝鮮ニ於テハ略々引継ヲ了シタルが軍政廳、檢察当局ヨリ其ノ給留留セラルル者多ク北朝鮮ニ於テハ地方廳幹部、警察官等ハ事情ノ如何ヲ向ハズ抑留セララル者極メテ多数ニシテ此等ノ者ノ中共ノ後釋放セラレタル者アルモ猶抑留中ノ者アリ其ノ狀況ヲ具シ速ニ釋放セララルヤウ御指置相成ヤウ願ヒタシ

一、南朝鮮ニ於ケル狀況

南朝鮮ニ於テハ概ネ順調ニ引継ヲ了シタルモ其ノ後朝鮮總督府局長、京畿道軍政幹部特殊団体幹部等檢察当局ヨリ取調ヲ受ケ漸次釋放セラレタル者アルモ五箇月以上ヲ経過スルモ猶抑留セララル者アリ今抑留セラレタル事由ヲ調査スルニ概ネ左ノ如シ

- (一) 終戦後ノ行政処分又ハ支出ヲ全面的ニ不当トシ之ヲ横領又ハ潰職ノ犯罪嫌疑アリトスルモノ
  - (二) 終戦後ノ特殊ノ支出ヲ不当トシ之ヲ横領又ハ潰職ノ犯罪嫌疑アリトスルモノ
  - (三) 文書廢却ヲ違法トスルモノ
  - (四) 個人的犯罪嫌疑アリトスルモノ
- 此等事由ハ表面的ノモノニシテ中ニハ朝鮮人ノ策謀ニ依ルモノアルが第一ノ事由ニ付テハ終戦後ト雖モ進駐軍ニ対スル引継完了ニ至ル迄ハ当然總督府ニ於テ行政ノ責任ヲ負フベク其ノ債務ニ属スルモノノ支払ヲ為スハ当然ナリト思料セラル
- 第二ニ付テハ北朝鮮在住者等ニ対スル給料賞與等ノ支払、工事代金ノ支払、退職金支払等ヲ

不当トスルモノ、日本人官吏ノ帰國旅費ヲ内地ニ於テ支払フ為之ヲ内地ニ現送セルヲ不当トスルモノ等ナルが之が当否ハ見解ノ相違ニ基クモノナランモ少クモ關係官公吏ニ於テ横領セントシタルモノニ非ザルコト明ナリ

第三ニ付テハ或ハ一部ノ文書亡失シタルモノアランモ特ニ其ノ犯罪ト目スベキ程度ノモノハ皆無ナリ

第四ニ付テモ誤用、中傷、密告等ニ依ルモノ多ク北朝鮮在住職員ノ給與ヲ保管シ居タルニ過ギザルモノモアリ必ズシモ犯罪ヲ構成セザルモノ多シ

然ルニ此等嫌疑ノ為抑留セラレタル者ハ結局理否ノ如何ニ拘ラス相当額ヲ解償シテ釋放セラレタル者多シ

而シテ現在ニ至ルモ別記ノ如ク釋放ヲ見ルニ至ラサル者相当アリ此等被抑留者ハ極メテ悲惨ナル獄生活ヲ送リツツアリ一着守ノ意識的虐遇ニ差入品ノ横領、朝鮮人未釋囚ノ横暴等ニ依ルモノノ如シ取調モ亦進捗セザルモノノ如ク甚シキハ朝鮮人檢察官が釋放スベキコト明確ナル者ヲモ故意ニ放置シアル場合アリ斯クテハ或ハ裁判決定前獄死スルニ至ルノ虞ナシトセス、惟フニ犯罪確定シテ刑ノ執行ヲ受クル者スラ猶共ノ人權ヲ保護セラルル況ヤ犯罪ノ嫌疑アルニ過ギザル者ニ於テハ其ノ犯罪確定ニ至ル迄ハ猶無罪ノ者トシテ取扱ハルベキモノタルヤ当然ナリ

由リテ先ヅ第一ニハ速ニ取調ヲ行ヒ罪ナキ者ハ速ニ之ヲ釋放セラレタキコト、第二ハ抑留中ノ者ニ対シ人道主義ニ基キ苛酷ナル処遇ヲ直ニ改善シ公平ナル取扱ヲセララルヤウ措置スルノ要アルベシ

二、北鮮ニ於ケル状況

北鮮ニ於テハ殆ド全面的ニ地方廳幹部警察官等ヲ抑留シ平壤其他北鮮ノ刑務所其他ニ收容セラレ中ニハ延吉等ニ送致セラレタル者アリ此等ハ如何ナル理由ニ基クヤ解スルニ苦ム所ニシテ其ノ処遇ニ至リテハ他ノ北鮮在任者ノ状況ニ稽ヘ想象ニ難カラズ速ニ釋放セラルルヤウ措置ノ要アルベシ

事情以上ノ如ク被抑留者ノ大部分ハ罪ナキ者ト謂フベク少クモ其ノ裁判ヲ速クニ進捗セシメ且抑留中ノ処遇ニ付改善シ罪ナキ者ハ速ニ之ヲ釋放セラルルヤウ至急御措置相成度御依頼ス。

在監者名簿 (未決分)

三月末日現在

番號	氏名	年令	入所年月日	判決	前職	備考
一伊藤	藤吉	四七	一〇、一八	釋	放通信局長	
二白石	覺	四五	一一、二六		西大門刑務所庶務課長	
三峯尾	辰巳	三三	一二、二六		西大門刑務所用度主任	
四渡辺	豊	五六	一一、二〇		京城刑務所長	
五長崎	裕	三四	一一、一九	刑年六月	京城保護觀察所長	三月二十六日懲役八月
六伊藤	正	三八	一一、二六	決		
七加藤	次	三四	一一、二〇		京城刑務所用度主任	三月六日無罪釋放
八相良	春雄	四六	一一、二六		西大門刑務所長	三月二十六日懲役一年執行猶予二年
九岡部	元生	三四	一一、二〇		京城刑務所經理主任	三月六日無罪釋放
一〇谷本	義國	四一	一〇、一六		京城道經濟警部	三月二十六日懲役一年執行猶予二年
一一阿部	敏夫	五〇	一一、二〇		京城刑務所議政府農場長	三月六日無罪釋放
一二三井	滿治	四七	一一、二〇		作業課長	
一三三浦	逢	四一	一一、二〇		庶務課長	
一四親見	恭三	三七	一〇、一八	釋	放京城地方通信局長	
一五萩野	敏雄	五五	一一、二〇		京城刑務所作業技手	三月六日無罪釋放
一六小西	三郎	四一	一一、二六		西大門刑務所作業部雇員	三月六日無罪釋放
一七諸岡	龜吉	五〇	一一、二〇		京城刑務所戒護課長	三月二十六日懲役六月執行猶予二年
一八猪狩	利茂	四五	一〇、一六		木下儿經營主	

番號	氏名	年令	入所年月日	判決	前職	備考
一九小野寺	完爾	四五	一〇、一六		京城道經濟課警部	三月二十六日懲役二年
二〇小川	豊次	四八	一〇、一八		通信局貯金保險課長	
二一青柳	義雄	四八	一一、二六		京城刑務所援護課長	三月六日無罪釋放
二二井上	善造	三三	一一、二〇		西大門刑務所作業課長	三月二十六日懲役一年執行猶予二年
二三西島	詳六	五〇	一一、二〇	釋	放通信局總務課服務課長	三月六日無罪釋放
二四須々木	貞雄	四三	一〇、一八		會計課長	
二五浅野	正夫	二一	一一、一六		兵隊	
二六黒岩	一衛	二〇			交通局長經理課長	三月二十九日懲役一年
二七秋葉	秀勝	四七			經理課	
二八宮本	末松	五二	一〇、一八	釋	放通信局總務課手算課長	
二九藤本	次郎	六二	一一、一九	刑二年	李王職會計課長	
三〇厚地	法人	四一	一一、二二		農商局農産課長	三月三十日懲役八月
三一白石	光次郎	四九			農商局長	一年
三二山本	寅雄	五六			東工業品株式會社	
三三今村	新四	四三		釋	産業協會事務警部	
三四工藤	藤四	四〇			放農商局技師	六月
三五島	一好	三五	一一、一九	釋	放城東署警部	



三八中	一郎	四二一三〇	間組	三月二十六日懲役二年執行猶予五年
三九岩	永隆	四二一三〇	放京畿道刑事課警部	
四〇小	野半	四二一三〇	西大門金組理事	
四一索	田壽	四二一三〇	無職	
四二中	村崎	四二一三〇		
四三山	田和	四二一三〇	放檢事俱樂部番人	重片事件ニテ抑留
四四伊	藤利	四二一三〇	京城地方法院檢事	三月二十二日懲役一年
四五高	橋正	四二一三〇		
四六富	永文	四二一三〇	朝鮮金組聯合會長	三月二十六日懲役一年
四七坂	野秋	四二一三〇	放	
四八伊	東和	四二一三〇	本府會計課長	三月二十五日懲役一年六月
四九上	野武	四二一三〇	理事官	
五〇上	山敏	四二一三〇	朝鮮宮城工業會社長	三月三十日懲役八月 猶予二年
五一木	幡直	四二一三〇	醫務局工生課長	
五二阿	部泉	四二一三〇	朝鮮取引所長	三月二十七日、求刑八月
五三野	田新	四二一三〇	朝鮮鐵業振興會社理事	
五四志	達定	四二一三〇	(會計)大藏省	
五五人	見次	四二一三〇	社長	

五六杉	原貢	三九	一、二七釋	放大邱裁判所	
五七江	上緣	三八	一、二五刑八月	放大邱覆審法院檢事長	
五八五	井節	三八	一、二七釋	放	
五九內	尾國	四六	九三〇	大邱裁判所關係	
六〇丹	治三	四四	二、七	三井物產京城支店長	二月二十六日抑留取消ニ釋放トナル
六一吉	滿三	四五	〃	農商局植政課長	
六二木	村清	五六	一、二二	請負業者	亞片事件、刑三年、罰金三萬圓
六三甲	藤正	五六	一、二二	放西大門刑務所水原農場長	軍政裁判罰金納メタルニ二年追加
六四佐	藤正	五六	一、二二	朝鮮交易重役	
六五横	瀨守	五六	一、二二	社長	
六六丸	山乙	五六	一、二二		三月二十六日罰金二〇〇〇円
六七洪	田年	五六	一、二二		三月三十日懲役六月執行猶予三年
六八三	井榮	五六	一、二二		三月二十七日懲役二年
六九穂	積真	五六	一、二二		三月二十七日懲役二年



在監者名簿 (既決分)

三月十日現在

番號	氏名	年令	入所年月日	判決	前職	備考
一	井手直二郎	三九				
二	吉瀬俊助	四六				
三	石村隆司	五六				
四	青木一郎	三九				
五	福田仁	二六				
六	阿部鶴吉	四〇				
七	高尾新太郎	六二				
八	向井恒三	三二				
九	福川秀男	三〇				
一〇	江藤平次	五二				
一一	東平傳	二四				
一二	山下朱吉	四七				
一三	津田久雄	二七				
一四	吉田壯	四七				

帝國銀行釜山支店長

番號	氏名	年令	入所年月日	判決	前職	備考
一七	安田実	四六				
一八	北本藏	四八				
一九	太田登城	三八				
二〇	藤縄達郎	三八				
二一	小原得郎	三〇				
二二	有木省三	五〇				
二三	石田岩男	四〇				
二四	西川端吉吉	五二				
二五	福原幸夫	二二				
二六	森原一夫	六六				
二七	大畠治郎	七〇				
二八	渡辺進一	四六				
二九	山川正男	三〇				
三〇	山崎栄一	三九				
三一	有馬静太郎	二九				
三二	今村善石	四六				
三三	近藤基	二九				

三	四	野	村	美	雄	八
三	五	竹	内	均	三	一
三	六	北	八	次	郎	四
三	七	加	藤	聖	考	三
三	八	福	富	幸	男	二
三	九	奔	藤	俊	春	二
四	〇	川	上	義	傳	二
四	一	藤	本	昭	昭	三
四	二	佐	野	尾	嘉	昭
四	三	金	原	勇	雄	二
四	四	宇	佐	川	正	夫
四	五	相	原	清	一	二
四	六	平	山	信	始	四
四	七	立	石	信	吉	三
四	八	大	和	田	望	雄
四	九	江	頭	志	郎	四
五	〇	穴	見	一	郎	四
五	一	片	山	國	太	郎

釜山立石支配人

五	二	裕	泉	光	次	二
五	三	山	下	繁	雄	二
五	四	江	頭	駒	喜	四
五	五	大	島	久	米	三
五	六	立	石	宗	未	四
五	七	佐	藤	萬	兵	四
五	八	岡	崎	鶴	繁	三
五	九	小	林	幹	三	四
六	〇	森	崎	秀	雄	三
六	一	菊	地	十	二	八
六	二	桑	野	重	雄	二
六	三	日	高	增	崇	二
六	四	有	光	信	男	二

既決

計六十四名

孔善書店店員

保釋金壹千圓  
 金三十五圓  
 替三月十一日出所  
 肺病ニ于健康狀態特ニ悪シ

4.29.5

7/100

100

20

100

100

100

100

100

100

100

100

100

100

100

100

100

100

100

100




卷之四

陽部故夫

3

百六



?

卷之九

4

—

100

2

342

10

100

100

1

2-1897

17

100

[illegible][illegible]

1

1



新田電煙炭株式会社東京出張所

麹町丸の内丸ビル六階六一五号室

電話 丸の内 (23) 五〇三二

4月以下	20件	18,520 <sup>円</sup>
4月——5月迄	106件	1,054,755
5月——6月迄	14件	376,000
6月以上	16件	1,073,275
合計	156件	2,473,044
		5,350



一、目録：依然シタル各一別各月別米拂率略調査米量ニ至ル  
送附相成度

二、金小五郎會ノ新部拘足セラレタリト反聞ス其ノ由、若シ事實  
「スレハ其ノ範圍ヲ回報アリタリ」

三、引揚傳聞中ノ者、引揚希望先（吉縣）ニ依ルニ  
成シタルモノ、如キ名作、或可能ナラハ送付ヲ希望ス

スル一件書類

四、穂積元正長、個人的經理收支ニ関（兼）帰國ニ際シ米和廣渡  
長ニ引継キ此遺書數ニ青貝書記保管セシメノ送附アリタリ

其  
三〇

一、五月十六日附穗積宛書信并誦返書二通  
及迷附、乃是

「こころ」送附、

二、市部望、件近々／部、ア、具體化、増ル  
乃至、ナリ

三、田入、運送、期日、有、沙知、長、秋、と、ナリ

本業通諭行相如可也 昭和十年五月廿六

拜啓

貴殿愈御健勝、殿奉賀候

陳者阿部達一、於貴殿、借用也貴殿名儀

郵便貯金帳尻金參萬七千參百月也、通濟、同、

當方、於朝鮮總督府關係職務整理事務及京城

日本人世談會關係職務整理事務、ト、別途阿部

達一差人證書記載、拘、方割拂、以、可及の事

完済可致候間、石貴意、得候也

昭和貳拾壹年五月參拾壹日

朝鮮外務同胞世談會

理事 穗積 友六郎

廣元閣訂殿

明洋總督府

寫

證

貴殿名儀郵便貯金通帳(京成貯金管理所金一四三六二  
號帳尻金參萬七千參百圓也)之借用仕候處有「昭  
和貳拾壹年六月末日迄」金壹千參百圓也之殘額、  
以後昭和貳拾五年拾貳月末日迄、日本内地郵便貯金  
所定利子ヲ相添へ相違無ク御返濟可申上候也  
昭和貳拾壹年五月參拾壹日

阿部達一印

廣元閑訂殿

三島

要取証

一、増田文子貯蓄帳出金五萬四千四百円也  
一、芥川薫貯蓄帳出金九千四百円也  
一、友人 庄則貯蓄帳出金五千五百円也  
右三冊送還被下乃至要取証也

昭和三十一年四月廿七日

佐藤信

阿部達一 殿

Sato

増多 京城

外務省ヲ通ジマ司令部ニ在ノ金額封鎖  
解除方要望セルが来週初日令部カヒ  
ル大尉海軍打合アル筈ニ付 可 右即令  
ノ上井口精貴会ヨリモ所要資金封鎖  
解除方至急軍政庁ニ要望アリカ

古市氏宛

古釜山世話会ニ送付アリ

三 古 市 会 長 四 月 十 日 収 過 セ ラ ン ト ノ 嚙 了 其 ノ 長 然  
回 報 せ ン

三 多 難 日 本 人 在 留 系 職 員 ニ 對 シ テ 衆 議 ニ 能 ン ト 本 支 拂 係 諸  
ヲ 在 野 同 胞 接 獲 后 コ ン 文 治 方 々 涉 シ タ キ ニ 是 其 ノ  
資 料 ト シ テ 現 在 迄 一 本 抄 済 滿 々 人 別 々 月 別 ニ 回 報  
テ リ タ レ 尚 四 月 以 降 衆 議 院 由 地 ニ 能 テ 文 治 方 々 要 一 ス ル  
各 人 別 々 支 拂 額 等 々 回 報 せ ン

京城

100人

京城日本人生活会経費(月額)	
一 給食費	九九、〇〇〇円
引食及燃料七人二日四円、一五〇名宛到着十日四 引費出金	
二 接護金	二二五、〇〇〇円
三 医療費	四、五〇〇〇円
四 運搬費	一九、二〇〇円
新山駅迄四軒、自動車一台七〇〇円、延六台 馬車一台五〇〇円、延三台	
五 人件費	六〇、〇〇〇円
取費六〇名、一人一、〇〇〇円	



大車運費

二一、八〇〇円

(1) 多小以信利品消耗品費

二〇、〇〇〇円

(2) 雜費

一、八五〇円

七 出港運費

三〇、〇〇〇円

開城、延吉、青丹、漢城、新、車豆、川、五、川  
各六、〇〇〇円

合計

五〇〇、〇〇〇円

（手印）

十多

福同市西内所七

九州相法山

朝野引拂同胞世法会

電東

三七二九

金山世法会经费（月款）

一、伙食费	三七五、〇〇〇月
1000人 一日平均五〇〇人、各人五食（指用伙食费二食）	
二、清道金	三〇、〇〇〇月
1000人 一月三、〇〇〇人、因籍者一人十円	
三、医疗费	五、〇〇〇月
1000人 一日六〇人、五円	
四、肥料式费	三、〇〇〇月
1000人 一月五件	六〇〇月
五、燃料费	一〇、〇〇〇月
（六）木山费	一、〇〇〇月
（七）月二〇〇倍	一、〇〇〇月

外務省

泰山

六	人件費	(1) 石炭 一月五屯 一屯四〇〇円	二一七、〇〇〇円
		(2) 俸給	二五〇、〇〇〇円
		(3) 旅費	二、〇〇〇円
七	その他	(1) 倉庫、収容所、芝目倉庫借料	七、〇〇〇円
		(2) 消耗品費	三、〇〇〇円
		(3) 通信費	二、〇〇〇円
		(4) 清掃費	六、〇〇〇円
		(5) 燃料費	九、〇〇〇円
		(6) 倉庫修繕費	二、〇〇〇円
合計			五、六四、九〇〇円

外務省

五  
分  
二  
八  
七  
拾  
四  
一  
〇  
九  
六

△

圖

7  
K  
PA  
JRP  
AK  
11  
3

外  
務  
省

2  
5  
月  
三  
日

中民氏子左銘

一、最近暫時中止云々北野 3

暖  
春  
今  
四  
の  
漸  
増  
し  
つ  
う  
り

二、平壤、一版、音、1941、二、三、日、前、日、

日平  
拾三  
百名  
乃已  
乃名  
アリ  
ナ  
ハ  
ハ  
ハ  
ハ

三、事域ニ在ル連體平聲音ハ爲書ニ從

前、地位ニアルモノ、如キモノ、其分、在

不可見心

卷之四

陸田子

予勿

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

×. 1. 収受  
×. 1. 3. 午後一時 新成神方君ヨリ、報告

三、右八時 參、神后君ヨリ、報告

北野ヨリノミバ度衆越境ニ日野人ヲ向ハ  
ス禁止スルリ軍ヨリ木軍ニ通告アリ

近來元凶、平壤方面より脱出者。日  
西、元凶ヲ降キ皆無シ、收態。方ニ米軍  
ヨリ、義城古活層職員ヲ平滅ス。又ヨリ、  
指令アリ。多城、窟山ヲ平滅シ、近ク  
帰國、ノヲ並ナリ  
尙、開城、議政府、漢文津ヲ、現地、  
進來、ノ促ナリ

〃現在元山在苗邦人ヨ。名。成。岨。羅。南。  
同在苗者約老万名ト推定セラル

〃平壤前迄、如何脱出者ナリ現在セ万人  
、邦人在苗、見込

四、現在平島人間ニコレラ邊近ニソッアリ  
(特ニ富山地区)北七者ニヨ。名。現在、  
患者ヨ。名

邦人、引揚片、木富山地区、ニ行ハルル  
模様

元山

44440.00

戸島定治 (証券松田) 71才

秋田県南秋田郡船山町成田秋田方

妻杉村 (子、芝一カハレ)

備出金1800円交換 朝鮮石油

有斐所/T11 岸本ビル内

朝鮮石油

山



一、金一万円

草 魚 網 査 序

元山. 10,000.<sup>00</sup> 橋本文六 山口縣佐波郡和国村中谷 清水田

( 元山. 5,000元 昭和十一年三月廿五日 昭和十一年三月廿五日 )

松田氏上京上、建路元。

400元 並世(信)

1,500元 信 集。

成金(並世氏1分)

(6.3.再發行) 1,000元 寺岡久徳

福皇親相馬郡高平村下北宮  
青蓮 芳太夫

(小 葉 約)

日金 九ノ内 九ビルニ附。

敬啟者

表示金額

借入款

支拂款

1.000 未滿

朝鮮總督府

[illegible]

事トシ、ト、均衡ヲ保ツタメ、六〇〇田以下ノ各、二、〇〇〇田

一、引上、支店、總店、一、関、二、最、三、五、四、上、ハ

件 7 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

山  
0.  
9  
月  
以  
上  
二  
0  
0  
0  
內  
進  
一  
第  
三  
月  
止  
一  
割  
之  
分  
ハ  
環  
境

[illegible]

我生三子一男四女二男  
遊一子六女二男

凡以上各口用木桶盛，各口用三寸厚木板封，下口用二寸厚木板封，下口用二寸厚木板封。

15  
 16  
 17  
 18  
 19  
 20  
 21  
 22  
 23  
 24  
 25  
 26  
 27  
 28  
 29  
 30  
 31  
 32  
 33  
 34  
 35  
 36  
 37  
 38  
 39  
 40  
 41  
 42  
 43  
 44  
 45  
 46  
 47  
 48  
 49  
 50  
 51  
 52  
 53  
 54  
 55  
 56  
 57  
 58  
 59  
 60  
 61  
 62  
 63  
 64  
 65  
 66  
 67  
 68  
 69  
 70  
 71  
 72  
 73  
 74  
 75  
 76  
 77  
 78  
 79  
 80  
 81  
 82  
 83  
 84  
 85  
 86  
 87  
 88  
 89  
 90  
 91  
 92  
 93  
 94  
 95  
 96  
 97  
 98  
 99  
 100  
 101  
 102  
 103  
 104  
 105  
 106  
 107  
 108  
 109  
 110  
 111  
 112  
 113  
 114  
 115  
 116  
 117  
 118  
 119  
 120  
 121  
 122  
 123  
 124  
 125  
 126  
 127  
 128  
 129  
 130  
 131  
 132  
 133  
 134  
 135  
 136  
 137  
 138  
 139  
 140  
 141  
 142  
 143  
 144  
 145  
 146  
 147  
 148  
 149  
 150  
 151  
 152  
 153  
 154  
 155  
 156  
 157  
 158  
 159  
 160  
 161  
 162  
 163  
 164  
 165  
 166  
 167  
 168  
 169  
 170  
 171  
 172  
 173  
 174  
 175  
 176  
 177  
 178  
 179  
 180  
 181  
 182  
 183  
 184  
 185  
 186  
 187  
 188  
 189  
 190  
 191  
 192  
 193  
 194  
 195  
 196  
 197  
 198  
 199  
 200  
 201  
 202  
 203  
 204  
 205  
 206  
 207  
 208  
 209  
 210  
 211  
 212  
 213  
 214  
 215  
 216  
 217  
 218  
 219  
 220  
 221  
 222  
 223  
 224  
 225  
 226  
 227  
 228  
 229  
 230  
 231  
 232  
 233  
 234  
 235  
 236  
 237  
 238  
 239  
 240  
 241  
 242  
 243  
 244  
 245  
 246  
 247  
 248  
 249  
 250  
 251  
 252  
 253  
 254  
 255  
 256  
 257  
 258  
 259  
 260  
 261  
 262  
 263  
 264  
 265  
 266  
 267  
 268  
 269  
 270  
 271  
 272  
 273  
 274  
 275  
 276  
 277  
 278  
 279  
 280  
 281  
 282  
 283  
 284  
 285  
 286  
 287  
 288  
 289  
 290  
 291  
 292  
 293  
 294  
 295  
 296  
 297  
 298  
 299  
 300  
 301  
 302  
 303  
 304  
 305  
 306  
 307  
 308  
 309  
 310  
 311  
 312  
 313  
 314  
 315  
 316  
 317  
 318  
 319  
 320  
 321  
 322  
 323  
 324  
 325  
 326  
 327  
 328  
 329  
 330  
 331  
 332  
 333  
 334  
 335  
 336  
 337  
 338  
 339  
 340  
 341  
 342  
 343  
 344  
 345  
 346  
 347  
 348  
 349  
 350  
 351  
 352  
 353  
 354  
 355  
 356  
 357  
 358  
 359  
 360  
 361  
 362  
 363  
 364  
 365  
 366  
 367  
 368  
 369  
 370  
 371  
 372  
 373  
 374  
 375  
 376  
 377  
 378  
 379  
 380  
 381  
 382  
 383  
 384  
 385  
 386  
 387  
 388  
 389  
 390  
 391  
 392  
 393  
 394  
 395  
 396  
 397  
 398  
 399  
 400  
 401  
 402  
 403  
 404  
 405  
 406  
 407  
 408  
 409  
 410  
 411  
 412  
 413  
 414  
 415  
 416  
 417  
 418  
 419  
 420  
 421  
 422  
 423  
 424  
 425  
 426  
 427  
 428  
 429  
 430  
 431  
 432  
 433  
 434  
 435  
 436  
 437  
 438  
 439  
 440  
 441  
 442  
 443  
 444  
 445  
 446  
 447  
 448  
 449  
 450  
 451  
 452  
 453  
 454  
 455  
 456  
 457  
 458  
 459  
 460  
 461  
 462  
 463  
 464  
 465  
 466  
 467  
 468  
 469  
 470  
 471  
 472  
 473  
 474  
 475  
 476  
 477  
 478  
 479  
 480  
 481  
 482  
 483  
 484  
 485  
 486  
 487  
 488  
 489  
 490  
 491  
 492  
 493  
 494  
 495  
 496  
 497  
 498  
 499  
 500  
 501  
 502  
 503  
 504  
 505  
 506  
 507  
 508  
 509  
 510  
 511  
 512  
 513  
 514  
 515  
 516  
 517  
 518  
 519  
 520  
 521  
 522  
 523  
 524  
 525  
 526  
 527  
 528  
 529  
 530  
 531  
 532  
 533  
 534  
 535  
 536

10  
11  
12  
13  
14  
15  
16  
17  
18  
19  
20  
21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29  
30

和以

小藥店

一切下  
4  
12  
2  
1

(小藥納)

尚平侯中特殊別、若ト思ハルニ則チ一祝、夢云賀、蘇不可也  
轉本知恩、米沃進瑞丹相續、始承子大郎也、昔二君、今一

27. 13000 寄附金 10000 寄附金 10000 寄附金 10000

特設金 10000

生活費等、援助金 10000 円

援助金 10000 円、寄附金 10000 円、生活費等 10000 円

援助金 10000 円、寄附金 10000 円、生活費等 10000 円

援助金 10000 円

記

一、寄附金 10000 円、寄附金 10000 円、生活費等 10000 円

10000 円

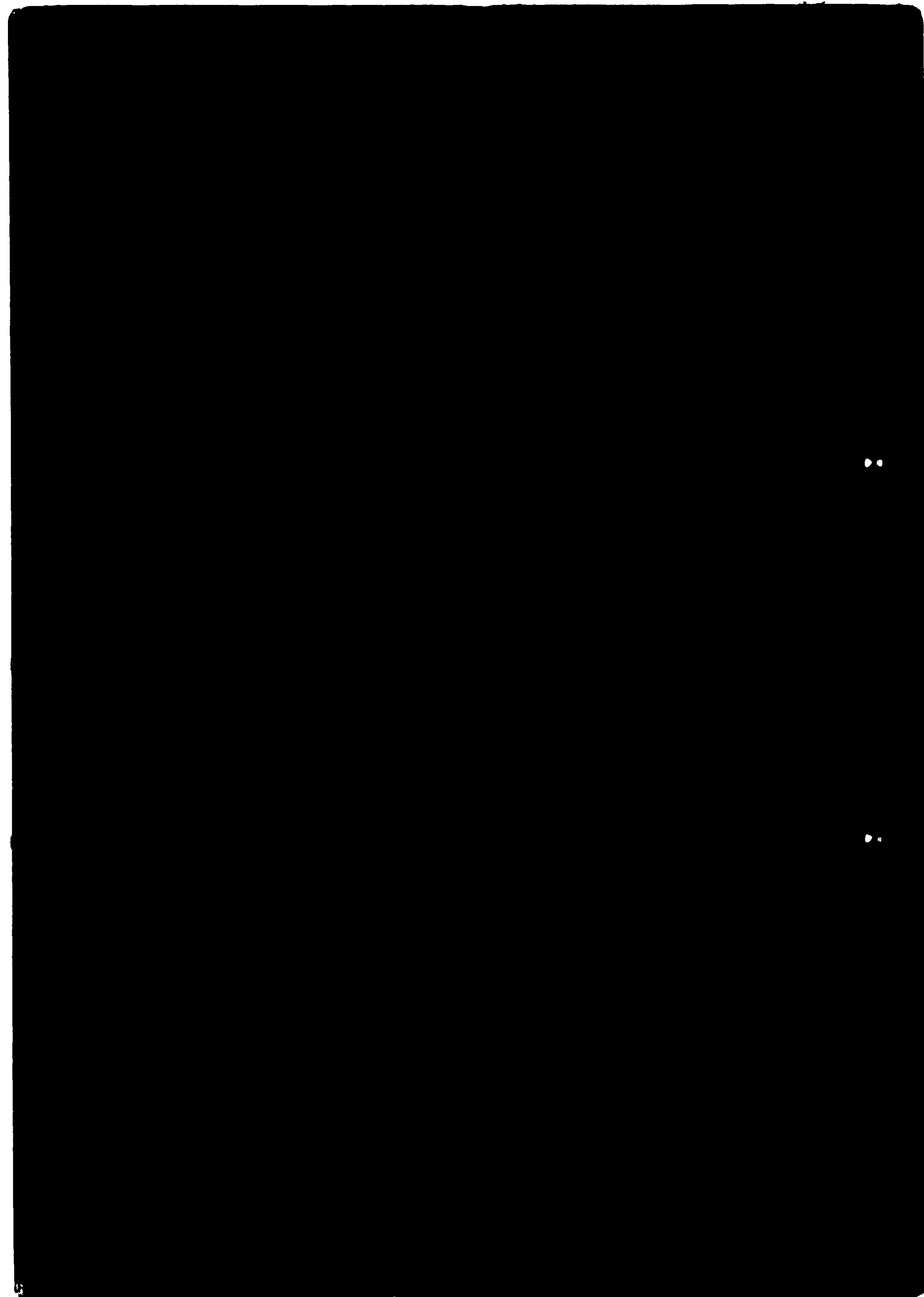
金

(2) 10000 円、寄附金 10000 円、生活費等 10000 円

10000 円、寄附金 10000 円、生活費等 10000 円

10000 円

朝鮮總督府



茨山鉦山関子記録

三菱鉦業  
福永村三八氏

M4-97

5 6 7 8 9 230 1 2 3 4 5 6 7 8 9 240 1 2 3 4 5 6 7 8 9 250 1 2 3 4 5 6

終戦後の茂山鉦山

茂山 鉦山 副長 三則田 善春氏報告

昭和二十年九月十三日

一 事変勃発前後の一般情勢

北鮮地方に於ては七月下旬頃より敵機来襲は主として海岸線地区に隔日の如く行われ、偵察機は八月十日頃に至り来襲止み、ソ聯軍の動靜に就き下思議に思われたる処、八月十三日突然ソ聯軍の一部が清津に上陸し、とりとて翌十四日より各地に避難民を誘き茂山に入り込み、未だに多数の露兵を捕獲するに至りし。

山許線東は平中を通り繼續す。八月十四日立正道鉦工課長来山、警察三官林署鉦山、各自機部、東の事態緊迫の情勢を説明せし氏一体となり義勇隊を組織動員し、運南より富海洞峠を越し、新站より延社に出る、道路に連絡する軍用道路を一七軒程度一週間に内に築造すべしとの令あり、鉦山職員、鉦員(約二十名は各自露兵に準備をなし十五日午後一時半頃臨時列車にて新站迄行き之より徒歩にて延社道路に入り山中に泊り翌十六日早朝現場向に出發す。途中清津方面より避難民は延社に向き徒歩する。と多量に受け入れたるが老幼男女老若のまゝにて疲れたる足取り、実に気の毒。

外務省

極み敗戦の様相は斯うなりと思われ、又茂山警察署員は家族はトランプ三台にて之等徒歩避難民を追越し、延社に向き避難する等と目撃し事態は寸刻を争ひ逼迫せる情勢に不測、我等より道路工事に行くは不合理なるが如く思われ、現場に向き強行す。此、我等多数バ、ルバシシヤベル等と携行するに気が付きたる避難者中には、何事かあると向う者あり、我軍隊にて軍用道路築造に行くに答う小づ相違、我軍隊と向う者あり、敵はすぐ茂山に上りますよ、と云う者あり、珍貨、茂山庫は十六日正午自爆し、避難す。茂山は爆撃された、等の種々あり、てまて前より、現場、十一所頃到着し、先着者は各自食事の用意をとり居りたりと之等、各種情報と綜合するに愈々情勢急迫し、此、道路築造の余裕なく解散する外なきに立至りたるを以て、義勇隊は自由な避難又は帰宅し、と差支ない命令なり。吾々隊員、帰山途中、茂山邑民の大部分は避難して殆んど居らぬと聞き、各駅には避難民押寄せ居り線路側道路に徒歩避難中の者陸續し居りたり、ソ聯軍は富寧迄進入し居り茂山進入し間近なり、と情報あり、鉦山從隊員も避難準備を必要とするに至り、駅に状況に即して緊急なる連絡を執り居りたりと會寧部隊の南下輸送に充てるため、其軍なき。



状態なり。バ十七日、十四時頃貨車六輛都合付く事となりたるを以て當日十五時半迄に茂山駅前広場に従業員及家族集合し、十六時過ぎ乗車、十七時頃発車す（鉾山長を中心に応召家族を初め約四百九十名乗車）。配給所、在庫の糧食一切を搬出する為めにトラック及バスを徴用の為めに何れも茂山憲兵分隊にて差押之たり。山十八日二十四時頃白岩着、各自驛構内に設営す。途中白岩より手前の島内駅にて京城出張より帰途の資料課大重書記と列車摺合にて出會したる處、停戦協定締結せられたりとの報を聞き、独身課長の入野、丸山、山本三氏は茂山に引返せり。當時小許残留者は伊勢事務と約四十名の自衛隊（主として鉾山分會員を以て組織す）及吉田課長、梅崎勤芳課長、次席、家庭の事情にて残る者も一二あり。道廳防衛本部は十八日茂山に移設されたるを以て白岩より十九日鉄道電話にて残留課長を呼出、停戦協定は確実と思われざるを以て一行茂山に引返すに付き防衛本部に連絡を依頼せる處、防衛本部にて停戦協定を以てたりとして茂山に引返す事を承知せず、然れども茂山帰着迄には協定の事實と防衛本部にて判明し居る事と判断し二十日十五時頃発列車にて茂山に向け出發し、同夜輸送用より電話にて茂山に連絡したる處、停戦の事は判明したるも小許附近の治安關係を考慮するに、茂山入山は一考を要すとして承知せず、止むなく白岩に引返すことに方針を変更し、二十一日十六時頃白岩に着く當時最も問題なりしは、聯軍上陸直後の輸城変電所自爆に伴う、ラジオ受信機の停止、送電不能に依る情報の入手難、水道断水等なり。停戦協定成立後の鉾山操業或は従業員家族の住宅食料等種々考慮し、小許に引返す方針を未だ精算出来兼ね居りたるに、不敵資金の調達及連絡の必要ありしを以て二十二日前田副長、原口事務長を京城に向け出發せしむ。（以下略）

## 外 務 省

一、飯塚磁業所工作課(元茂山、鉾山内燃機課)

技师 村田市郎 (三十才)

二、戦災者 本人

昭和20年12月4日一應着仕せし右側肺門淋巴腺炎の爲、  
24日より本年5月26日迄引續き病氣缺勤届出

三、家財

- 1. 茂山、鉾山城川寮に家財等すべて其の儘の状態にて残置す。
- 2. 成南新興邑に於て掠奪され着の儘となる。
- 3. 平南成川邑にて身体検査を受く

四、昭和20年8月23日 白頭山に向け憲兵隊トラックにて茂山邑脱出

25日 恵山鎮邑着(休後新北青に向う)

26日 成南豊山郡老陽村着附近住民より(ソ)軍動靜を聞き直  
ちに成南黄水院里に逆戻りす、こゝより赴戦高原突破を企つ、

27日 成南新興邑着朝鮮保安隊にトラック及身廻品掠奪さる、(脱  
出より今日迄晝一夜を向わず(トラック)走行せしむ、

外務省

汽車により咸興府着、府内日本人收容所に一泊す。  
朝鮮人に変装し、汽車により高原迄出る、文川より中突破、  
平壤に向う計畫を立て徒歩出發

29日 成南文川郡頭流山(海拔一三二四米)中にて假睡後出發

30日 平南陽徳邑着線路沿いに平壤に向う新成川駅五軒手前の  
線路上で一泊す、急に夜盲症に罹り夜間の歩行困難となる。

9月1日 新成川駅發汽車にて平壤に向う車中朝鮮人の妨害甚し、平壤  
鉄道官舎に逃げ込み一泊す

2日 平壤三菱製鋼に出張所に出頭す。

駅構内のソ軍用貨車に於て京城行を企図す。

3日 金郊着直ちに南城に向う  
南城發貨車に便乗京城に向う

六、其の他の参考事項

昭和20年7月1日午後四時茂山駅發にて茂山、鉾山、  
京谷、鉾山、長以下内地人一行

全員下聖鉄山に向て避難をなす。

8月17日 午前9時頃小生鉦山長に呼び出され鉦山長室に出頭す。この時京谷鉦山長より内地人全員(出征家族多数で婦女子多く)を引卒致し避難するは容易なるに困難有り。鮮人鉦員日々事務所へ殺到し貸金預金の拂戻し配給品の支給を迫りて来て居り。會社としては清俸の銀行其の他の銀行が戦災を受け現金拂出不納のため鉦員に支拂う。現金なく如何としべなき状態なり斯く最悪の時鉦山長以下内地人へ全員避難する事。下平鉦員によりて列車に乘車出来得なき最悪の状態が生ずるべし解るなき状態のため種々苦心配され色々の事情懇談されて小生に命令されたり。

一、小生に茂山に踏み止まり京谷鉦山長以下内地人全員が無事汽車に乘車出来避難出来得る迄茂山に踏み止まり下平鉦員と、おさえて無事避難すす称命令されたり。

二、鉦山長以下避難後は會社の處置を一任されたり。軍部より會社設備の破壊命令が来た時は憲兵隊と連絡を取り部隊の兵隊と協力して破壊する称に命令されたり。

三、鉦山長一行避難後は小生の身辺の危険あるため直ちに憲兵隊へ行き保護をさる事。鉦山長より憲兵隊長に保護を依頼して有り警察署とも連絡して有り又憲兵隊長より小生に、或る仕事を依頼されたため直ちに茂山憲兵隊長

## 外 務 省

に面接し仕事の仕事を引受ける事以上の事を京谷鉦山長より8月17日午前9時に頃鉦山長室で種々懇談を命令されたり。

鉦山長以下一行の避難につては避難する迄絶對秘密にする事、出奔時間が確定せば直ちに小生に通知する事を言われたり。

8月17日午後2時市田會計課長より避難の出奔時間が確定せる。為直ちに鉦山長社宅迄出頭する事を連絡されたり社宅に行けば市田會計課長丸山選鉦課長入野電氣課長幣原勤芳課長、石川内燃機課長等鉦山長玄關に居られ鉦山長と立話をし居られ小生出頭し皆称とお別れの挨拶をなす。握手を致し無事避難出来た。称依頼されたり。此の時鉦山長より金五千円を渡されたり。出奔間に押寄せてくる不平鉦員に金子を配りたためる事。鉦山長幣原勤芳課長、其の他の課長が捺引して持つ。来る鉦員には優先的に渡す事。出奔間に列車に押寄せる鉦員には會社の留守を小生に一任して有るから小生の處に相談に行く称に云い渡すこと。なり斯称仕事を致し列車がホームと出奔する迄頑張る事を依頼されたり。列車出奔時刻は午後4時奔なり。其の場で各課長が各社宅に秘密に連絡に行かれたり。

小生は鉦山長宅を辞し直ちに茂山憲兵隊へ連絡に行き憲兵隊長に面接す。

一、茂山鉦山長一行避難後は身辺危険の爲今後憲兵隊に寝食する事

二、被服と憲兵服装になり武装して身辺を護る事。

三、茂山憲兵隊も戦況不利の爲後方に退却するかも知れず期日は不用なり。此の時トラックを運転して憲兵隊員を後方に輸送して来る事。憲兵隊が退却する事はよくの事で各部隊が全部後方に下り最後に憲兵隊が動く。この時は非常に治安悪く敵軍が邑内に突入して動く。乃危険を伴つ朝鮮人運転手では危うく自信なき爲小生にトラックを運転致し退却する事を依頼されたり。

但此の事は絶体秘密の事とし住民に此が漏れれば大変なる結果になると注意する。以上の事を憲兵隊長より云渡され直ちに憲兵服装を着用致し武装して鉦山長一行を見送りに行く。8月17日午後3時30分頃茂山駅避難列車に鉦山長一行無事乗車す。大して鉦員も押寄せず安全無事なり。幣原勤労課長等捺引の鉦員や其の他の鉦員が金額支拂請求に来りため適當に渡す列車出発間際に鉦山長以下皆称にお別れに列車の廻りを歩きお別れの挨拶を致す。鉦山長は機関車すぐ後方に居られり。お別れの挨拶に廻り歩き

## 外 務 省

この時小生の友人、知人は不審を抱き何故小生に避難せぬかと尋ねる。此の時始めて鉦山の留守と處置や小生の任務の事を話したりす。小生は鉦山設備爆破を如何すると言う。論議が列車上で起き爆破せしむる事は卑法で恥ぢる事になり。中村技師、木村技師其他血気盛な連中が列車より飛び下り避難せず後に残り。会社の留守を守り處置して出発するとの話になり。奥村や子供連れの避難者も、彼等は下車したり20名近く下車せり。此の時茂山警察署の警務主任が列車の近くに來て大声で以て鉦山を空にして後の留守處置を如何するかと云う。居りたり斯様な状態の中列車は動き出し午後四時無事鉦山長以下内地人一行は避難されたり。

無事全員避難し列車出発せるが小生茂山鉦山事務所より引返す。ここに避難列車より下婢に中村技師以下集りて居る。木村在郷軍人、鉦山分會長伊勢事務も居り。伊勢事務は今病気がたゞ三ヶ月程缺勤して城川寮で寝て居るが、全員避難前も病床に居るが小生も當日病床を見舞い。病気が有り又責任も有り避難しなつと語り。この病気の伊勢事務も分會長の服を着て全員避難後事務所に来るが協議



しう、吾ら水たり機械の中村技師と副會長として病氣の介會長を補佐しう、吾ら  
水に協議の結果、茂山鉾山在郷軍人としう、鉾山の留守業務を致し、部隊式に編  
制せし、伊勢部隊となり、本部を城川寮に置く業務は軍部の野戦部隊の  
宿舍の幹、其の他の協力作業、避難民救災、鉾山の留守業務を致し、鉾山設  
備の爆破作業に警戒等の作業の目的を以て編せり。

小生は京各鉾山長より、鉾山設備の爆破、其の他の留守業務を二任さ、小生は斯く  
在郷軍人への部隊を編制し、留守業務を擔當せる為手を引けり。

茂山憲兵隊より依頼され、前記の業務をなす。

憲兵隊にて避難民の救災、避難用トラックの整備を、8月17日より23日迄了す。

8月23日午後3時頃、茂山邑よりトラックにて白頭山に向ひ、脱出せり。8月22日午  
前10時、無條件降伏の命令を始めて、南を直ちに城川寮伊勢部隊に報じ、  
至急、鉾山設備、爆破し、避難する、称賛めし、バ、話ハ纏ふす。23日午後3時  
小生、茂山出奔、迄、爆破せる、称子なり。

備考

脱出、引揚動靜は、大体書きし、8月1日等、判然したる記憶ハ、なす、者、大体の、處

外務省

を記せり。

以上

清津製煉所職員避難概況に係る件

通商事務局長 石田三朝

一、清津避難概況

清津製煉所従業員家族等は、連兵の上陸砲撃開始と共に、我山方面の国境地方に分散避難せるが、終戦後南下することとなり、木田事務等一行（清津製煉所三四名、商事会社全部約七〇名、青島鉱山全部約七〇名）は八月廿日吉州着。廿三日列車にて出發せんとせるも、ソ軍の爲に引下され、徒歩にて城津着。更に殆んど徒歩にて九月九日咸興に到着す。次で清津製煉所員及び商事務員と共に九月十三日咸興、十四日鉄原まで南下せるが、ソ軍の爲に三八度線を突破し得ず、十七日再び咸興に引戻され、青島従業員は城津より列車で直ちに鉄原に行き、亦も同様咸興に引き戻され、今回復出まで咸興に滞在す。

外務省

終戦後に於ける茂山鉦山職員及家族の避難概略

八月十二日

ソ聯参戦に伴い、咸北方面戦場と化し、結果清津府民多数茂山鉦山へ避難し來りたる処、食糧事情其他の困係も亦十六日頃迄は漸次退山せり。

八月十七日

然るに茂山情況益々急迫、ソ聯軍來襲の不安濃厚となりし爲、全日夜、鉦山長は職員、鉦員主として内地人但し鮮人鉦員の多くは數日前方敵機襲撃と共に随時分散離れせり及び其の家族約四九〇名を引離し、白茂線(茂山-白岩間)に於て十八日夜白岩駅に到着全地に於て大詭譎の事實を承知したる趣あり、(此方面はソ聯攻撃に才變電施設を自爆破破壊したる爲にラゲオ放送聴取不可能となり其他通信も全く杜絶の狀態に陥りたり)然るに大詭譎は虚傳なりとの風評流布せられたるを以て茂山に引返すべく、又南下して黃海道載寧郡所在三莖下聖鉦山に向うべきや、に付情況調査連絡の爲に職員二名を京城に派遣することとなり、而るに八月二十日白岩を出発し二十五日京城に到着したる処、其の後三八度線以北の地域に入るを許さず、且鐵道通信も、全然杜絶、治安亦極め不良の狀態となり、京城より白岩に歸ることすら至難に陥り、京城に滞在の已むなきに至りたる由なり。

外務省

八月末日、白岩に集結待機中の處、治安方も寧ろ風紀も、狀態面白からず、中には二三以美を蒙り、私者さへあるやう情勢に立到りたるに付、白岩を移動すること決定、(健脚者は徒歩、南夕駅(吉州駅の駅手前)迄下り、

回老少病弱者を伴う家族は汽車便を得る迄、白岩に待機中の処、折々、九月二日汽車は南夕駅到着するを得、此処に健脚組と合同し一同徒歩、蘆洞駅へ向ひ四五里の道を山越えし、全員一応蘆洞に集結せり、仄聞するに吉州は食糧不足なるのみならず、治安頗る不良にして、保安隊並にソ聯兵による掠奪暴行頻中の趣なるに付、態々坂路迂回越えし難を逃れたる由なり。

九月四日日本隊(右以外の者)は徒歩、城津に向け移動を開始せり、之より先健脚組一五〇名は端川邑向け移動を続行し、十二日全邑内小学校避難者收容所(三菱端川鉦山従業員其他一五〇名避難者中)へ到着、同無事なる日端川鉦山より京城へ通知ありたり。

一本阪は城津より南行の汽車待ち中より九月十五日迄は城津滞在を要す。由  
一、甚盧河川滞在中の老幼病弱者は九月八日幸にも汽車便乗の機会を得一路三ノ  
度へ行き、連川駅へ十日到着。十一、十二兩日乗車し、儘滞在色々と手を盡した  
るも京城向通過能はず十三日残念ながら再び元山へ引返したる趣あり。

外 務 省



日鉄鉦業株式会社  
三井鉦山  
三菱鉦業  
日本鉦業  
日室鉦業用炭  
住友鉦業  
明治鉦業  
朝鮮無煙炭  
茂山鉄鉦用炭  
小松鉦業  
中外鉦業

株式会社

北鮮鉦山従業員並に家族内地引揚に因する御願

北鮮 三八度線以北の朝鮮に所在する頭書各会社の鉦山に於ける日本  
人従業員及其家族は別表一の通り職員及事務者を合し従業員五二五二名  
其の家族一八八九名合計二七〇八七名に達し候

外務省

日本鉦業株式会社

当社は北鮮に重要なる鉦山十四ヶ所を有しありて該地勤務内地人数  
は家族を合すとせば約五、五〇〇名に達しあり。然るに終戦後本日に  
至るも内地帰還者は二三〇名に過ぎず、京城迄脱出し得たる者も約一〇〇名  
と推定せらるに止まり、他の大部分は北鮮に残留せしものと判断せらる。

一、箕州鉦山の状況 採鉦係員 永島芳光談

所在地 黄海道谷山郡伊寧面利行里

終戦後三日に鮮人による保安隊組織せし選鉦係鮮人雇員某の隊長と作  
りたる為内地従業員共との家族に対し危害を加えること無かりしも、道庁より南  
川に集合するよう指令ありたる為第一班四三名は九月二日南川に集合せり。南川  
には鮮人約四五〇名ありて国民学校に收容せられたるも、ソ聯兵による掠奪並に婦  
女子に対する暴行を犯せらるること甚だしきと以て全員京城に逃避することを決  
意し九月六日午前五時南川出發南道を晝夜徒歩より南下せり。途中手拵り利  
金並に衣類や食糧と交換して餓を凌ぎ十八日正午京城に到着せり。第一班以  
後の行動に關しは明確を欠くも所長以下一五〇名鉦山附近の鮮人部落に收容

せしめあるものなり。

二、横濱鉾山の状況

渡務係員

家市正衛談

所在地

成鏡南道端川郡北斗目面

八月二十日端川の憲兵分駐所及警備隊が郡内の内地人は全部端川の福成国民学校に避難せよとの指令ありたるため全員二八五名は二十三日より本校に避難を開始せり。離山の際に会社は資金皆無なるため各自の家具什器衣服箒を山許に於て売却し旅費に充てたるも鮮人に於て掠奪同様の憂き目を見たるもの若干ありたり。端川に於ては鮮人保護隊が案内により書状で内地人の強制労働並に掠奪夜は婦女等に対する暴行を行はたり。生命を保護することあるも、動産不動産は保安隊の管理下にあり、通行内地人は保安隊本部におと必ず身体検査を行ひ餘分を認むる金品は取上げらるる状態なり。その取扱は各所に若干異なるも甚だしきは一人当り五〇圓に制限せるものあり。かかる状態なるを以て全員の脱出を決意せしむるも、所持金の関係上一部の約二八名のみ二隻の船に分乗、暗夜を利用し脱出せり。

西宮所長以下四八名の乗船せし一隻は北緯三八度線の南約二里の注文津に到着し、それより東海岸に沿ひ甘浦に出で、更に他の小船にて玄海灘を渡り、下関に帰着せり。他の一隻は北緯三八度線以北の杆城に到着し、長らくを以て、茲後陸路に於て行方不明者三名を途中に於て出せしも大部分は京城に到着するを得たり。

外務省

三、金華鉾山の状況

測量係津窪員

高橋由次郎談

所在地 沃原道 金化郡昌道面

鮮人保護隊に於て八月十七日鉾山を捜収せられたる上引揚げを致し、此を以て全員十八日京城に避難せり。家族財道具其の他は鮮人に掠奪せられたるを以て、軍隊一ヶ中隊が現地に先行約八割を奪回したるも、鉄道にて京城向輸送したるため、遂に到着せず、途中で奪掠せられたるものと思はる。

以上の外情報告を入手し得たるもの左の如し

遼寧鉾山

黃海道遼寧郡大村面柳京里

全員京城に向け出発せし、第二面引揚者三名のみ到着せり。

気津鉾山

黃海道気津郡金鏡津邑

所長他一名并に脱出十月九日京城に到着せり。

情報を全然入手し得るものなり

鎮南浦製煉所

平安南道鎮南浦府大願里

雲山 鉉山

平安北道雲山郡北鎮邑

大楡洞 鉉山

昌城郡東倉面

成興 鉉山

平安南道成川郡崇仁面

樂山 鉉山

黃海道長洲郡樂道面

御宮 鉉山

平安北道龜城郡館西面

慈母城 鉉山

平安南道平原面東岩面

金溝 鉉山

全羅北道金堤郡金溝面

外務省

朝鮮無煙炭株式会社

通信連絡杜絶の事事情判明し難きも関係先方の情報を綜合するに左の如く推察罷在候

一、平壤鉉業所、貞柏王作工場、炭鉉（干し所）平壤大鉉山は三八度線以北所在の所、ソ軍に接收せらる。

二、右場所所在日本人従業員は其儘現地に在仕

三、三八度線以南は京城府に本社あり従業員同無事に生活しあるものなり  
四、一、二記載各場所所在従業員は其儘現地に在仕補給、其の他の措置は京城本社より夫々方途を講じあるものと考へらる。

五、従業員引揚準備等に関しては詳細不明なるも九月中社員が私傷によれば奔走中の模様なりしも便船等の都合にて今日に至るも實現せざるものと推察せらる。



在鮮邦人状況(会社関係)

小林鉦業株式会社

一、小林百年鉦業所

黃海道各山郡伊寧面巨利所里

終戦と同時に引き継事務を整理し、小林所長外四名を裁し、邦人職員及家族等はトロッコ数台に便乗し、朝鮮に向け引揚が途中、無警告進駐せるソ聯軍に遭遇し、所持品は勿論衣類の可成り取られ、携帯食糧も全部押収され、身には鮮服の薄物の着せられ、食するに米も乏しく、徒歩にてソ聯軍との遭遇を避くるため、人なき山中を一大ギロギロ二のきもの迂回行進は言語に絶す。ものあり途中難行軍のためより以上の苦難に堪えず、我手に我子を殺害する。是置を執り、至りたる者五名、行方不明三名を呈し、未だ不明なり。残存職員等、固くは其の後の情報より察知するに日本鉦業、箕州鉦山に收容され居るもの如し。

二、小林興津鉦業所 咸鏡南道咸州郡下岐川面所在

三、小林咸興出張所 咸鏡南道咸興府昭和通り所在

四、小林陽徳鉦業所 平安南道陽徳郡陽徳面

右三ヶ所に固くは全く連絡なく、不安な小林百年鉦業所の例より推察するに憂慮す。事能くは想像に餘りあり。

外務省

价川鉦業所

日鉄鉦業株式会社

所在地 平安南道价川郡价川面

終戦時より九月十三日に至る間の概況

八月十五日終戦の報放送せらるゝと同時に朝鮮人の態度、変じ頗る冷淡なり。一部は反抗的態度を執る者出するに至れり。偶々従軍情類、軍重し日本人に親しく接近する者あるが、彼日親目家とて白眼視せられ、中には迫害を受けたる者もありたり。斯くして鉦業所に於ては一般に平常通り出勤するも極く一部の者を除き、大多数は何等為すことなく、單に勤務時間の経過を待つのみにして、紛はの如きにありては事務室内の掃除をも怠るや、至りたる状態なり。

終戦発表当日は比較的平靜なりしも翌十六日は价川邑に亘り「朝鮮独立萬歳」の歡声を挙ぐつゝ示威運動を為す等喧騒諸所に見られ、時に殺気をも感ぜられたるが、オトク此の状況は朝鮮全土に亘り同様なりと相傳へらる。

当鉦業所に於ては豫て平壤刑務所より約八〇名の受刑者の派遣を受け、一個所に收容し採鉦其他の作業に従事せしめ居り、八月十六日既に稍不食穩の徴候認められ、たゞは以て作業を休止し宿舎に休

止し宿舎に休養せしめ居りたるところ外部の者は大声で呼號を盛んに煽動し  
たるを以て全員一斉に蜂起し係員は必死に鎮靜に努めたるも收容所、倉庫、外  
柵其他手当り次第に破壊し倉庫内より貯藏しありし米其他の食料品、被服地  
下足袋、毛布其他の衣料品等を手にく奪し雪崩を打ちて逃亡する状況は騷擾を  
極めたるものにして暫時は成行如何と不安の念を懷きたるも別に一人の流血をも見  
ることなく特殺のことばかりしは不幸中の幸なりき、同日夕刻の調査に依れば收容  
受刑者の半数四百餘名逃亡したること判明、残餘の全員は翌十七日平壤刑  
務所に送還せられたり。

当鉱業所に於ても八月十六日逸早く朝鮮人従業  
員を以て治安隊組織せられ、治安隊と連絡を執りつゝ治安の維持に當りたるを  
以て比較的平靜なる數日を過すことを得たるも程なく聯軍將校三、下士官八の价川  
進駐に依りて反つて平靜は破らるに至りたり。即ちソ聯軍の進駐間も亦其の  
保護の下に朝鮮人をして赤衛隊組織せられ、武装せしめ相前後して前記治安隊  
の一部も武装するに至り(治安隊の武装は九月一日解除せられたり)价川の空氣は漸次  
險悪を如くしたり。

价川在住日本人は終戦後直ちに日本人世話會を組  
織し事態の急変に際し日本人才不を得たる者の生ぜざる様相を戒め各

## 外 務 省

方面との連絡を密にし、ソ聯軍並に朝鮮人側との摩擦の發生するが如きこ  
となき様相を呈することせり。而して日本人所有する銃器、劍、數等の

武器の如きも勿論人會の手により自発的に蒐集提出せざるに拘らず赤衛隊はソ聯  
軍の名を藉りて武器検査と稱して再三日本人の離家宅を搜索し目ぼしき物品  
は勝手に持ち去るが如き掌に出で、ソ聯兵亦赤衛隊或は治安隊を名に立て日本人家宅に至  
り拳銃を擬し筆筒、机等を検査し腕時計、萬年筆、紙幣乃至洋服、靴、鞆等を  
持ち寄り甚だしくは街頭に出たり。日本人のポケットに手を入り紙幣を抜き取らんとするの暴挙

に出ずる者生じ日本人は極度に恐怖を感ずる状態となりたり。 当价川鉱業

所の倉庫には食糧、衣料、機械器具其他事業用品等數百萬円に達する物品が  
庫せられ、ソ聯軍の進駐と同時に倉庫の鍵はソ聯側の差押せらるゝところとなり、(ソ聯  
軍の進駐と前後して共產黨支部設置せられ、ソ聯兵赤衛隊及共產黨の何れかの行爲が  
りや其の分界は外部より判別し得ざりしものなり)右在庫内は何処へともなく盛んに搬出せ  
られたり。

ソ聯軍進駐後日ならずと其の指令により日本人は男子十三才以上六  
才以下、女子十才以上十六才以下(但し病者及女子にして三十以下の幼児を有する者は  
除外せられたり)は數日間大工、清掃等の勤務に役事せしめられたり。 尚价川

在任日本人に在郷軍人たりし者は全員停務として平壤に送られたり。ソ聯軍の進駐後程なく北緯三八度線以北の金融機關は閉鎖せられ一方通信交通杜絶せざるを以て終戦に伴う事業整理其の必要なる資金調達の途無き数千人の朝鮮従業員に対する資金退職手当等の支拂を爲すこと能はずなりと生計は餘裕なき従業員は其の日の生活にすら窮するに至り毎日数百人の従業員は鉅業所事務所に押寄せ喧口その窮状を訴へ資金及退職手当等の支拂を迫る有様なるも鉅業所当局としては前述の如き資金なき実状なるを以て如何とも施す術なく全く困憊の極に達し居る状態にして此の儘にして推移せんか不詳事を甚しき程に憂ひあり憂慮し居るものなり。 仍て之が解決の爲に价川鉅業所日本人職員は危険を冒して北緯三八度線<sup>線</sup>を突破し京城に至り米軍政当局より窮状を具し前記救正理資金三七〇、〇〇〇円の三八度線以北に持出すことを許容せられ乍ら自陳情せるも承認を得るに至らず目下の処萬策盡きたる状態なり。 因に价川鉅業所には現在約四〇〇〇名の朝鮮人従業員(家族約一〇〇〇名)及び約一〇〇名の日本人職員(家族約二〇〇名)在り

## 外 務 省

### 北 鮮 鉅 業 所

#### 一、前 置

八月九日大本営発表の通りソ聯軍の満国境へ不法越境も並に羅津雄基阿吾地等の満鮮国境の要所を占拠し來り戦争状態に入りたり 吾等北鮮に勤務する従業員一同も地理的より考察し或は戦禍の及ぶ虞なきやを切に憂慮し居り。 八月十日頃ソ聯機の飛來を見たり引續き十二日頃には穩城、慶源等の戦災避難民続々南下し來り当所も避難民の救援に加勢せり 尚十三日頃には清津への聯軍上陸せる情報入り來るあり十三日夜は所長に付し中島駐在所主席より緊急出頭方電話あり所長急ぎ出頭せしむる所長帰所後夜中職員會議を開催鉅業所としての方針を決定せられり (中島駐在所の指示としてソ聯軍と萬一の場合当威鏡北道一帶は戦場となる虞あるを以て当地住民(特に日本人)は或地矣迄退避せられしとの事なり)

十四日午前中に従業員に付し食糧並に配給品を拂出すること  
従業員家族は十四日中に某地某處を避難すること



3. 在郷軍人は残留し、事務所を最前まで見届けること。

4 其他

等所長より指示あり 十四日午前配給品を分配す従業員家族の婦女子は正午頃トラックより某地へ向て避難す 職員一同は午前一時頃竹長室へ参集竹長の訓示を受け乾杯し暫時の退避をお互志なき様祈り合ひ合宿する内地人職員一同最後の夜を過す 一晩出経過

十五日 斯くて明くは十五日荷物を雲貴洞へ疎開すべく小生辻書記神農書記補国本書記補其他半島人傭人四五名と午前八時頃トラックに合乗に向いし其の時既に会寧の飛行隊、工兵隊、高射砲隊、憲兵隊及び諸官庁は紅煙に包まれ自爆し居り 其の時小生辻書記相討り再び中島へ歸すト云ふ事不可能を察知しこのまゝ脱出せんことを決せり 雲貴洞迄行く筈のトラックも五柳洞に動かなくなり已むなく五柳洞の民家に泊す。午後ソ聯機十数機古茂山上空を飛龍來すをに見たり 尚本件は後日知りしなるも 所長岡井庶務課

外 務 省

長、安武書記は三木組のトラックより午前一時頃事務所出發威鏡線を南下せし由、佐藤技師、佐藤技手は正午頃徒歩にて威鏡線を南下せし由、

十六日 早朝起床牛車を雇ひ荷物を積み前記四人の同僚は雲貴洞迄到着

十七日 雲貴洞を早朝出發峻嶒なる山道を突破夕刻茂山線西豊山駅到着

十八日 早朝起床、延社を目標とて徒歩前進中なりしが峠の頂上にて四人の巡査捕を受け居りソ聯と停戦協定出来たるに依り元の職場へ再び早く復歸する様傳へ居り 其の真偽に付ては多少疑問を抱きたるも大勢に従ひ本日の出発地西豊山駅迄引き返すルハ途中に於て民家に休憩中の所長、課長、佐藤技師、安武書記に逢遇す 其の場に於て本日迄の小生及辻書記の行程に就き竹長へ報告をなし別れに宿舎へ歸る。

十九日 昨日の停戦協定云々の件もあり目撃証、その真偽を確かむるにめん

とせしも地元駐在巡查等もその件に就ては未だ聞知せずデマな  
るニと略確実となれり一同落胆し輕拳列返したるを後悔せり。

二十日 早朝出発再度延社に向て進行す 夕刻朴川洞に到着本日の  
行程約十里、一身其に多少の疲労を覚えたり。

二十一日 朴川洞国民學校に於て靜養をなす、北鮮の避難民続々南下する  
あり。

二十二日 情報混沌として不明なるも、武装解除されたる 日本軍兵隊市茂山よ  
り続々南下来る、その中、小矢の知人(会寧警察署勤務の巡查部長)  
あり詳細語らるるも日本敗戦の事實を以て速かに南下する様語たり  
本日も朴川小學校に滞在せり。

二十三日 午前六時朴川洞発延社迄七里の道を突破午後八時頃延社着  
延社郵便局に宿泊すべく準備中、処警察署より通知し日本人集  
合の報あり警察署前へ集合す、署長の報告によれば本日に延社の日本  
人は楡坪洞迄避難すべしと云ふことなり依て一日分の食料糧を米  
二合の配給を受け署長を先頭に午後九時頃延社を出発す 月明を

### 外 務 省

利し鐵道線路を歩行翌朝午前九時頃楡坪駅に着く

二十四日 午前中は假睡し午後楡坪より白岩行の列車乗車するある田なるにつ  
待機し居り、夕刻発車夜中延社着 車中に泊す。

二十五日 午前延社着午後九時頃白岩に着く、白岩着と同時に憲兵隊員よ  
り明二十日ソ聯軍進駐し来る旨通知あり兎然類を捜出する様指  
示さる。

二十六日 ソ聯軍進駐は一日延期されたと告知あり 川生等は先着  
の清津製鉄所避難民と交流し行動を共にすべく白岩国民學校に  
宿泊す 本日五日分の食糧配給を受く

二十七日 ソ聯軍進駐し来るに依り国民學校を引揚し鐵道官舎の物置小  
屋へ移轉、ソ聯軍の進駐を待つ、午後三時頃進駐し来る 日本軍  
約三百名、武装解除を受け夕刻何處かへ連行するを見たり、本  
日も白岩に滞在せり

二十八日 清津製鉄所田中総務課長、木原動力課長、田井土木課長等白  
岩に集給する約一萬名の日本人避難民を代表してソ聯軍へ列車運行



方交渉するも要領を得ず自若に滞在待機の已むなき次第なり

二十九日 清津製鉄所幹部英道片鉦工課長等再度交渉するも相変らず  
要領を得ず列車運行の見込なき由につき單身者及健脚者は歩行吉  
州へ進発する様指示あり 十日分の食糧配給を受け午後二時頃  
吉州へ向つて白岩を出発夕刻陽谷に着き泊す

三十日 午前八時陽谷出發炎暑を冒し終日歩行夕刻載便へ着く

三十一日 早朝起床歩行せしも足痛甚しき爲意の如く進まず南谷に宿泊す  
白岩出發以來鮮人保安隊員の所持品検査に逢うこと十数回衣類等相当没  
収する。

九月一日 早朝南谷を出発吉州入をせんとせしも吉州の保安状況險悪なる由につき蘆  
洞へ直行院坪に一泊す

二日 早朝行動を起し強行せしも途中保安隊の悪辣なる検閲に再び逢ひ時雨  
を費し進まず利文所持品殆ど全部を沒收し五腹やつかたなきも如何ともす  
る能はず連日の歩行の疲れと足痛と并奇まれ切齒しつつ新城津へ辿り着く。

三日 午前九時新城津を發ち途中進行中の二三百名の団体に合流正午城津本町国  
民学校へ着く晝食後状況を聞き込むも保安状況益々險悪にと国民学校  
に滞在の避難民約五十名あるも代表者となり列車運行の折衝、食糧配給の  
交渉等する者なくデマは飛び、鮮人保安隊の略奪並に婦女子の運行甚  
だしく不安なるまゝに一泊す。

## 外 務 省

四日 乗車南下の見込は絶無なる上壯年男子 婦女子等、鮮兵に運行せざる者  
多数あり府内日本人の国民学校への集結も日々激増し身辺の危険を感ずる  
ものあり 依て意を決し、鮮軍、武器輸送列車の貨車の屋上へ鮮人に  
紛れ込み乗車正午頃端川向け出發す(此書記は待機するものにつき  
こゝで別す) 途中、鮮軍の知る処となり龍谷谷下車せむ せむより  
歩行夕刻端川へ辿り着き国民学校に一泊

五日 端川の情勢を聞き込むも城津以上に終てが悪く長滞在は不可なるも心身  
共に疲れ、これ以上歩行は困難なるにつき内地人鉄道合宿で滞在す

六日、鮮軍用列車に紛れ込み、ものゝ駆附近を徘徊機會を伺うもその  
機を得ず愈々威嚇迄二の料歩行を決意し、夜に就く

七日 午前五時端川出發強行進行す龍崗に到着し、とき、開船便のある由を



十四日 午前六時半東京五川駅発京城行の列車に 潜入 午前八時  
京城駅へ着く 以下略

備考 北鮮鋳業所所在地

咸鏡北道会寧郡碧城面大徳洞

外務省

在鮮事業所概況 三井鋳山株式会社

一 關係事業所

美林製作所 平壤府美林町六三七

三井輕金屬株式會社楊市場 平安北道龍川郡北甲面元峰洞

三成鋳業株式會社 三成鋳業所 平安北道龜城郡鎭西面造岳洞

成川鋳業所 平安南道成川郡西佳面長林里

義州鋳山 平北 義州郡占寧朔面雪洞

蘇氏鋳山 平北 寧遠郡龍山面珠場洞

龍浦製鍊所 平北 龍川郡北甲面

新延鋳業所 平北 朔州郡九西面延三洞

二 在日日本人數 別紙の通り

三 現地状況

当社關係事業所は大部分三月八度以北のソ聯に領下にある為通情全く杜絶し状況一切不明なり。南部への脱出者による断片的的情報を綜合すれば食糧被服資金等の缺乏に於此の儘延各すは飢餓と寒氣の爲大半は死を免



れざるべく既に乳幼児老人の死亡續出するの慘状を呈し居る由なり

今日迄判明せる実状を示せば左の通りなり

### (1) 美林製作所

(1) 食糧に就ては米半日分配給あり然るも副食物等は全然配給なく日本  
本人には物を売るな交換するなと米の非公の命令も出で、その爲甘藷の菓子等  
を食し辛うじて飢えを凌ぐ居る実状なり而して既に配給品も食盡したるも  
の想像され今後の生活は真に憂慮に耐えず

(2) ソ聯軍は平壤進駐後、日本兵の軍服を剥奪し私人の財産を片端も掠奪  
し職員従業員の家財道具等殆んど一物も余さざる状態なり 尚婦女子と  
見れば日本人朝鮮人を問わず暴行を加へあり

(3) 九月八日同所職員水野新藏 ソ聯巡回各村に被害を被るべく入れたる  
儘に待せし所ソ聯兵より拳銃を握り居るものと誤認されたるものか矢庭  
に拳銃を胸部を狙撃され一時前後に死す

(4) 同所経理課長海川光太郎資金調達爲京城来り九月七日二萬四千掛参平壤  
へ向け出発する途に軍兵朝鮮兵隊に拘束されたるもの如く其後消息も断り

## 外 務 省

### (2) 三井輕金屬 揚子工場

(1) 工場在住日本人、十余社宅に軟禁せられ私有財産は自身廻面及一世帯現金  
一五〇円を持つコトを許されるのみ、他一切を没収せられ居る実状なり一世  
帯一五〇円では僅かに半ヶ月の生活費に過ぎず

(2) 京城土木より請負工事費として八五万円要求し来りたるも未だ始の契約額

一七万六千円とは余りに相違あり、爲種々交渉の結果不敢取第回分

四五万円に先方譲歩せしむに付、それ以下に申入れたる所暴力に訴ふる

危険見えず爲止むべく前記前記四五万円支拂を承諾し差引九月二十

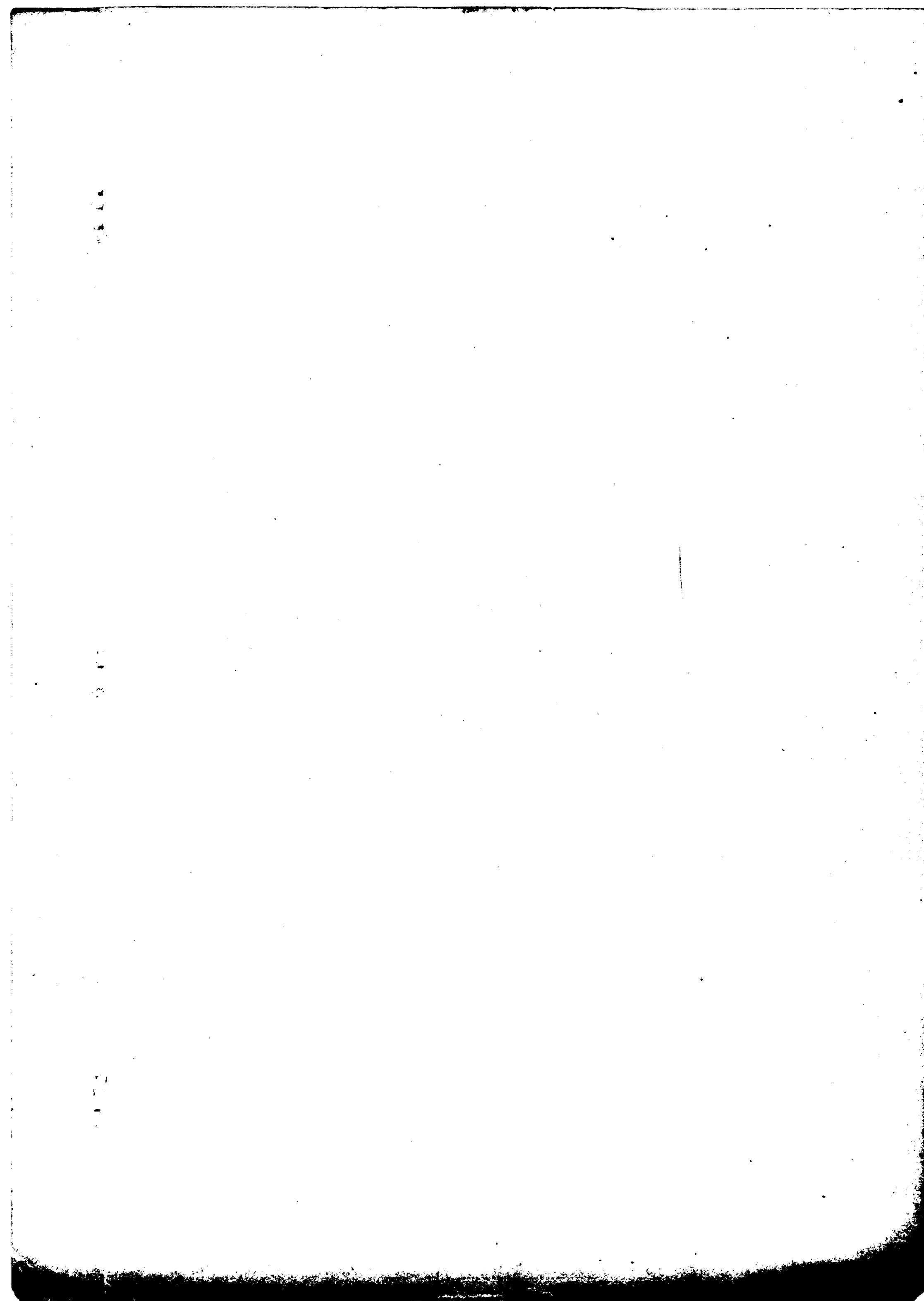
九日一七万六千円支拂い残額は十月三日に支拂うを余儀なくせられり

一方朝鮮人工員の工賃退職金として莫大なる金額の積蓄せありたるも内

地より送金杜絶、銀行の貸出停止、地域外への送金禁止等により資

金調達難に極度の窮地に陥りつゝあり

以上



M4-98

24

8



4



10

100

東京都芝区田村町  
朝鮮引揚同胞古話會  
石田大六様

昭和七年

封

大分市南王子谷長水  
朝末野甚平

一月三日



すず

日本そば

たぐあん

六つ

一本

わん

パン

パン

五分

五分

3

1

2

1.20

Station	Time	Lat	Long	Alt	Temp	Wind	Clouds	Pressure	Humidity	Visibility	Remarks
1	01:00	10.1	102.4	1031	22.7	4.4	100	1024	92	9.2	1000
2	01:15	10.2	102.4	1031	22.7	4.4	100	1024	92	9.2	1000
3	01:30	10.3	102.4	1031	22.7	4.4	100	1024	92	9.2	1000
4	01:45	10.4	102.4	1031	22.7	4.4	100	1024	92	9.2	1000
5	02:00	10.5	102.4	1031	22.7	4.4	100	1024	92	9.2	1000
6	02:15	10.6	102.4	1031	22.7	4.4	100	1024	92	9.2	1000
7	02:30	10.7	102.4	1031	22.7	4.4	100	1024	92	9.2	1000
8	02:45	10.8	102.4	1031	22.7	4.4	100	1024	92	9.2	1000
9	03:00	10.9	102.4	1031	22.7	4.4	100	1024	92	9.2	1000
10	03:15	11.0	102.4	1031	22.7	4.4	100	1024	92	9.2	1000
11	03:30	11.1	102.4	1031	22.7	4.4	100	1024	92	9.2	1000
12	03:45	11.2	102.4	1031	22.7	4.4	100	1024	92	9.2	1000
13	04:00	11.3	102.4	1031	22.7	4.4	100	1024	92	9.2	1000
14	04:15	11.4	102.4	1031	22.7	4.4	100	1024	92	9.2	1000
15	04:30	11.5	102.4	1031	22.7	4.4	100	1024	92	9.2	1000
16	04:45	11.6	102.4	1031	22.7	4.4	100	1024	92	9.2	1000
17	05:00	11.7	102.4	1031	22.7	4.4	100	1024	92	9.2	1000
18	05:15	11.8	102.4	1031	22.7	4.4	100	1024	92	9.2	1000
19	05:30	11.9	102.4	1031	22.7	4.4	100	1024	92	9.2	1000
20	05:45	12.0	102.4	1031	22.7	4.4	100	1024	92	9.2	1000
21	06:00	12.1	102.4	1031	22.7	4.4	100	1024	92	9.2	1000
22	06:15	12.2	102.4	1031	22.7	4.4	100	1024	92	9.2	1000
23	06:30	12.3	102.4	1031	22.7	4.4	100	1024	92	9.2	1000
24	06:45	12.4	102.4	1031	22.7	4.4	100	1024	92	9.2	1000
25	07:00	12.5	102.4	1031	22.7	4.4	100	1024	92	9.2	1000
26	07:15	12.6	102.4	1031	22.7	4.4	100	1024	92	9.2	1000
27	07:30	12.7	102.4	1031	22.7	4.4	100	1024	92	9.2	1000
28	07:45	12.8	102.4	1031	22.7	4.4	100	1024	92	9.2	1000
29	08:00	12.9	102.4	1031	22.7	4.4	100	1024	92	9.2	1000
30	08:15	13.0	102.4	1031	22.7	4.4	100	1024	92	9.2	1000
31	08:30	13.1	102.4	1031	22.7	4.4	100	1024	92	9.2	1000
32	08:45	13.2	102.4	1031	22.7	4.4	100	1024	92	9.2	1000
33	09:00	13.3	102.4	1031	22.7	4.4	100	1024	92	9.2	1000

20

(1990年2月20日)

算符及反

咸與曰本人委實公  
此與神職生希要員公

44  
 45  
 46  
 47

女  
 子  
 子  
 子

科目	金額	科目	金額
輸送費	4,026.403 20	借入金	4,525.500 00
保健費	775.287 31	寄附金	975.300 00
救済費	1,763.977 25	繰出金	234.152 00
事務費	500.971 80	事業収入	921.978 04
雑損失	244.377 53	「ノ軍」買取品収入	443.943 00
残高引継ぎ	98.875 95	政府人民委員會 ヨリ買取品収入	88.990 00
		輸送収益	360.030 00
		京城、世居会ヨリ救済金	160.000 00
計	7,709.893 04	計	7,709.893 04

表人口本町

咸豐日本入安撫會  
北洋戰後善後事宜

月別	咸興在住者	轉入者	計	備考
20/8	11.876	23.749	34.625	
9	11.722	27.409	39.131	
10	11.711	23.277	34.988	
11	11.642	23.211	33.853	
12	11.503	20.280	31.783	
21/1	10.602	19.790	30.392	
2	10.401	19.286	29.687	
3	10.366	17.459	27.825	
4	6.471	13.070	19.541	
5	5.44	1.518	2.062	
6	5.04	1.598	2.102	

朝鮮戰災救済費支出明細表

北朝鮮戰災救済委員會  
咸興日本人労働會

支出別	支出内訳					計
	日本人会経費	救済費	集結引揚費	工作費	被接収等金員	其、他
前期	237,049.69	2,533,324.56	44,013,108.15	390,203.11	105,000,000.00	444,399,553.99
						990,289,310.44

備考 科目内容下記之通り

1. 日本人会経費	給料手当	161,605.50	3. 集結引揚費	輸送費	3,214,123.00
	消耗品費	99,104.19		誘導費	125,434.00
	計	237,049.69		滞留費	26,000.00
2. 救済費	保健費	245,239.31		相済者派遣費	4,934,995.90
	救済費	146,327.25		孤兒院送費	59,354.00
	計	2,533,264.56		遺者看護送費	74,130.00
				旅費	15,079.00
				計	40,130,289.15

4. 工作費	輸送工作費	122,260.00	16. 其、他		
	一般工作費	223,609.33	国債定期預金處分	410,934.33	
	交際費	24,563.78	往來物品不良處分	33,443.20	
	計	390,433.11	計	444,337,523	
5. 被接収等金員	連収預金	144,000.00	国債定期預金ハ、寄附金中通帳ハ、貸入分		
	"	5,000,000			
	計	10,500,000.00			

在鮮日本人借入金内訳					摘要
地区別	借入金額	借入回数	借上人員		
咸興	4,525,500.00	00	41	41	

各縣支部ニ於テ支部會員ヨリ救済基金ヲ吸收シ本部ハ支部單位ハバテ借入ラレタリ

1/2

朝鮮=於ケル救済費支出明細表

北朝鮮戦災救済委員会  
咸興日本人委員会

支 出						計	
地区別	日本人会経費	救済費	集結引揚費	工作費	被災接收等金員		其、他
咸興	237,919.69	2,539,264.56	4,013,098.15	370,433.11	10,500.00	444,377.53	7,709,893.04

備考 科目内容下記之通り

1. 日本人会経費	給料手当	164,645.50	3. 集結引揚費	輸送費	3,214,128.00
	消耗品費	77,114.19		誘導費	125,434.00
	計	237,919.69		滞留費	26,000.00
2. 救済費	保健費	775,287.31		極貧者旅費	4,98,975.95
	救済費	4763,977.25		孤児護送費	59,354.20
	計	2,539,264.56		患者護送費	74,130.00
				派	15,079.00
				計	4,013,098.15

4. 工作費	輸送工作費	122,260.00	(6) 其、他	
	一般工作費	223,609.33	国債定期預金処分	410,934.33
	交際費	24,563.78	仕入物品ノ不良処分	33,443.20
	計	370,433.11	計	444,337.53
(5) 被災接收等金員	接收工賃金	100,000.00	国債定期預金ハ、寄附金中通帳係ニ受入分	
	"	5,000.00		
	計	105,000.00		
在鮮日本人借入金内訳				
地区別	借入金額	借入口数	借上人員	摘要
咸興	4,525,500.00	41	41	

各募集支部ニ於テ支部委員ヨリ救済基金ヲ吸收シ本部ハ支部単位トシテ借入レタルヲ

第 五 卷

500,000 22/1 提出 22:00 (

木子 2550/000 2/11 提出 1/2 提出 1/2 提出 1/2

乙未年 4500,000 2/11 1/2 10173 720 1000

Work 390.00 1/2 doz 4.75

1050000 1/2 2000

11100 445000 1/2 750000

$\frac{1}{2}$  x 4600,000 = 2300,000  
 $\frac{1}{2}$  of 4520,000 = 2260,000



○ 系 殿 冬 辰 會

○ 種 自 捕

種 龍 宮 之 邸

長 市 道

○ 水 庭 分

○ 三 山

松 本 五 邸

○ 室 川

○ 威 号

長 須

○ 主 分

○ 威 化

○ 庭 分

○ 豐 原

○ 龍 宮

○ 年 積

○ 順 分



14,996  
10,448.35  
1,401.45

朝鮮銀行外幣兌換券借入金調

地 区 別	借入金額	口 数	人 数	持 有 場 所
京城 (南、北、東、西)	1,200,000 日 5,000,000	<del>4,150</del> 3,182.20	<del>3,300</del> 5,700	
咸 興	4,600,000	500	470	
興 南	3,100,000	450	415	
咸 北	1,200,000	185	120	
平 北	<del>2,300,000</del> 2,400,000	<del>1,500</del> 2,190.21	<del>1,350</del> 1,400	<del>1,400,000</del> 2,400,000
平 南	2,100,000 3,400,000	2,100 4,343.0	1,950 3,200	1,400,000 2,100,000
元 山	1,200,000 3,100,000	2,900 280	2,550 700	
合 計	94,990	67,069	55,220	

朝鮮統計局日本人統計人口表

地 区 別	在 留 民	移 入 者	子 子	韓 民 兵	遺 遺 者	出 出 者
京城(南部)	600,000	350,000	950,000	300,000	949,000	100
仁川	150,000	60,000	45,000	50,000	44,000	50
同-海軍	25,000	30,000	55,000	45,000	54,850	150
忠清南	40,000	20,000	60,000	30,000	59,000	300
咸北	50,000	10,000	40,000	30,000	29,000	200
全北	70,000	100,000	180,000	110,000	179,000	100
平 南	100,000	70,000	170,000	100,000	179,000	500
計	990,000	600,000	1,440,000	840,000	1,338,850	1,500





借入金内訳別

種別	金額	口数	人数	摘要
利息 (南信3分)	5,000,000	120	570	
貸出	4,600,000	<del>500</del> 6	<del>480</del>	
貸付	3,100,000	370	415	
貸付	1,000,000	185	120	
貸付	27,500,000	20,914	14,281	✓
貸付	37,000,000	43,280	38,500	✓
貸出	3,100,000	380	700	
計	8,500,000	<del>20,914</del> 120	552,260	
		67,069		

1200

明 詳 意 登 付

2000000000  
4500000000  
2000000000  
2650000000  
1900000000  
5500000000  
4300000000  
1200000000  
4250000000  
1300000000  
1100000000  
128

1300

4500, 3000

2.

2

朝鮮關係事務管理事務所

朝鮮關係連絡委員会

關係者不在場合

在日同事情務官

20000

(514) 511





系城平自地

朝鮮に於ける救済費支出明細表

地区名	日本人会費	救済費	貸付引揚費	工作費	被褥代金	計
海州	500,000 <sup>円</sup>	30,000 <sup>円</sup>	8,000 <sup>円</sup>	50,000	2,500,000 <sup>円</sup>	3,088,000 <sup>円</sup>
沙里院	450,000	15,000	15,000	50,000	1,500,000	1,980,000
兼二浦	500,000	8,000	25,000	—	200,000	2,533,000
型,他	550,000	25,000	—	—	1,500,000	2,075,000
計	2,000,000	78,000	48,000	100,000	7,500,000	9,676,000

在鮮日本人借上金内訳

地区別	借上金額	借上口数	借上人名	摘要
釜山道	222,000 <sup>円</sup>	20,000	20,000	日本人会費 救済費 貸付引揚費 工作費 等 充當

伊田氏

三重縣松阪市

西町

竹井

廉

東京都港区田村町一三

朝鮮園係事務総理事務所

穂積真六郎様



ノ

三重縣安濃郡

片田村大字久保

十月四日

野田新吾

押渡者より他に新日本建設の爲に力を  
 尽すに誠意に盡す所相小生は不慮の出来に  
 に付多大の心配を被りし誠には恐ろしい事七月末  
 日執り行はれし出仕より清香園に在りては幹部  
 諸侯方の厚情に流し十四日は在りては幹部  
 諸侯記念日に市内行事賑はし有様を後に  
 見ても是れは十日は山利美直に要祈儀を保に  
 利美直の要すこゝ流りの為に控へたるおれく道に  
 四十余も船内を儀せられしものなるもの文の  
 諸字多かりし為に持もにこ余計な心配を被し  
 又皆様方にもお一方は船内を被りし誠には恐ろしい  
 事十月一日元来はに御用儀に及りし御用儀に  
 及りしものなる御用儀に及りし御用儀に及りし御用儀に

為小生の弁護士着白金を菊岡を強盗山の重政氏  
 か主要の男北なるもの致し、其か近店市に付、右市所  
 長に以て、能く其を、然に、も、損金不足に付、其に、  
 更なる、事、好、柳、存、在、り、と、そ、衣、襟、の、は、あ、計、を、取、ひ、に  
 何、本、直、接、的、に、あ、計、の、詮、究、を、し、た、も、海、安、後、援、助、  
 此、を、受、け、山、に、氏、の、主、意、を、お、さ、れ、し、る、菊、岡、也、は、小、生  
 の、学、友、竹、井、公、典、(元、大、教、授)か、山、に、氏、に、依、属、せ、し  
 由、に、し、同、氏、に、通、る、不、承、の、は、月、給、に、何、れ、小、生、の、可、成  
 ま、き、概、算、に、お、いて、一、度、出、向、の、為、に、  
 九、十、五、日、に、渡、り、し、め、る、日、給、に、  
 十月、三日、  
 菊、岡、公、典、

追西山に民書の葉書同封候きの為念

條

王明





郵便便がき

三重縣安濃郡

片田村大字久保

野田新吾様

奥の保

東京都渋谷区永住町一四

東也寺由藤田又雄方

山口重政

山口重政



[illegible]

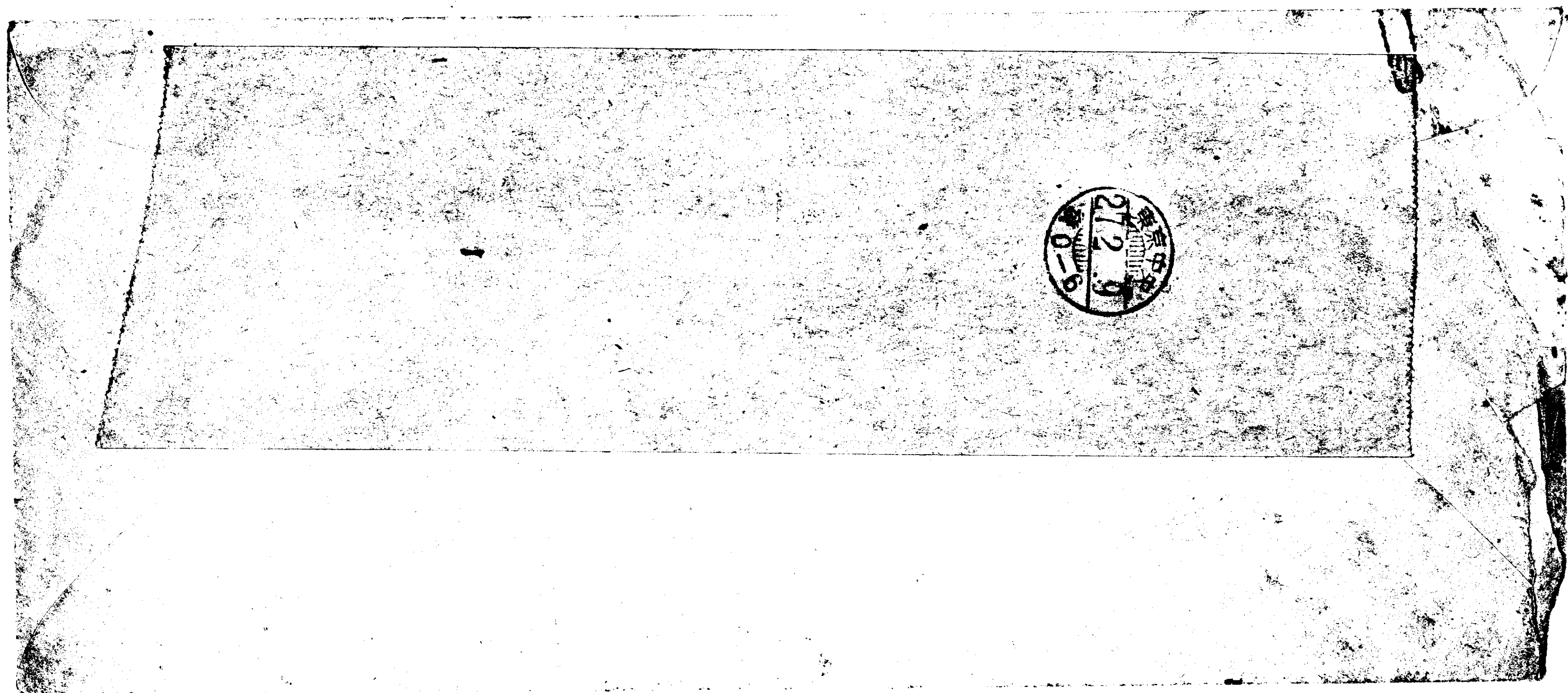
DEPARTMENT OF THE ARMY  
GENERAL HEADQUARTERS  
FAR EAST COMMAND  
APO 500 c/o PM  
SAN FRANCISCO, CALIF.  
OFFICIAL BUSINESS

PENALTY FOR PRIVATE USE TO AVOID  
PAYMENT OF POSTAGE, \$300  
(PMGC)



Mr. Takeo Tanaka  
Chairman, Dewa Kyokai, No.6  
Mitsubishi Naka #12  
Marunouchi, Chiyoda-ku  
Tokyo, Japan

郵便局便



東陽冬法厚  
塩田 五海大庄 作



乞の部  
但 茶下 茶下 茶下

朝鮮京畿道高陽郡漢芝面上往十里七二一(京城東大門外清溪臺)

朝鮮佛書刊行會

古市生

昭和  
年  
月  
日

**GENERAL HEADQUARTERS  
SUPREME COMMANDER FOR THE ALLIED POWERS**

APO 500

7 February 1952

Mr. Takeo Tanaka  
Chairman, Dowo Kyokai, No. 6  
Mitsubishi Naka #12  
Marunouchi, Chiyoda-ku  
Tokyo, Japan

Dear Sir:

General Ridgway has asked me to reply to your letter concerning your list of Japanese believed to be detained in North Korea.

We share your concern for the unfortunate people forcibly detained under Communist rule and hope for their return to their proper domiciles. However, in the current armistice negotiations, the United Nations Command is considering only those individuals whose capture or detention is a direct result of the Korean conflict.

If you have not already done so, it is suggested that you communicate your list of persons to the Japanese Government in order that it may be checked against their records.

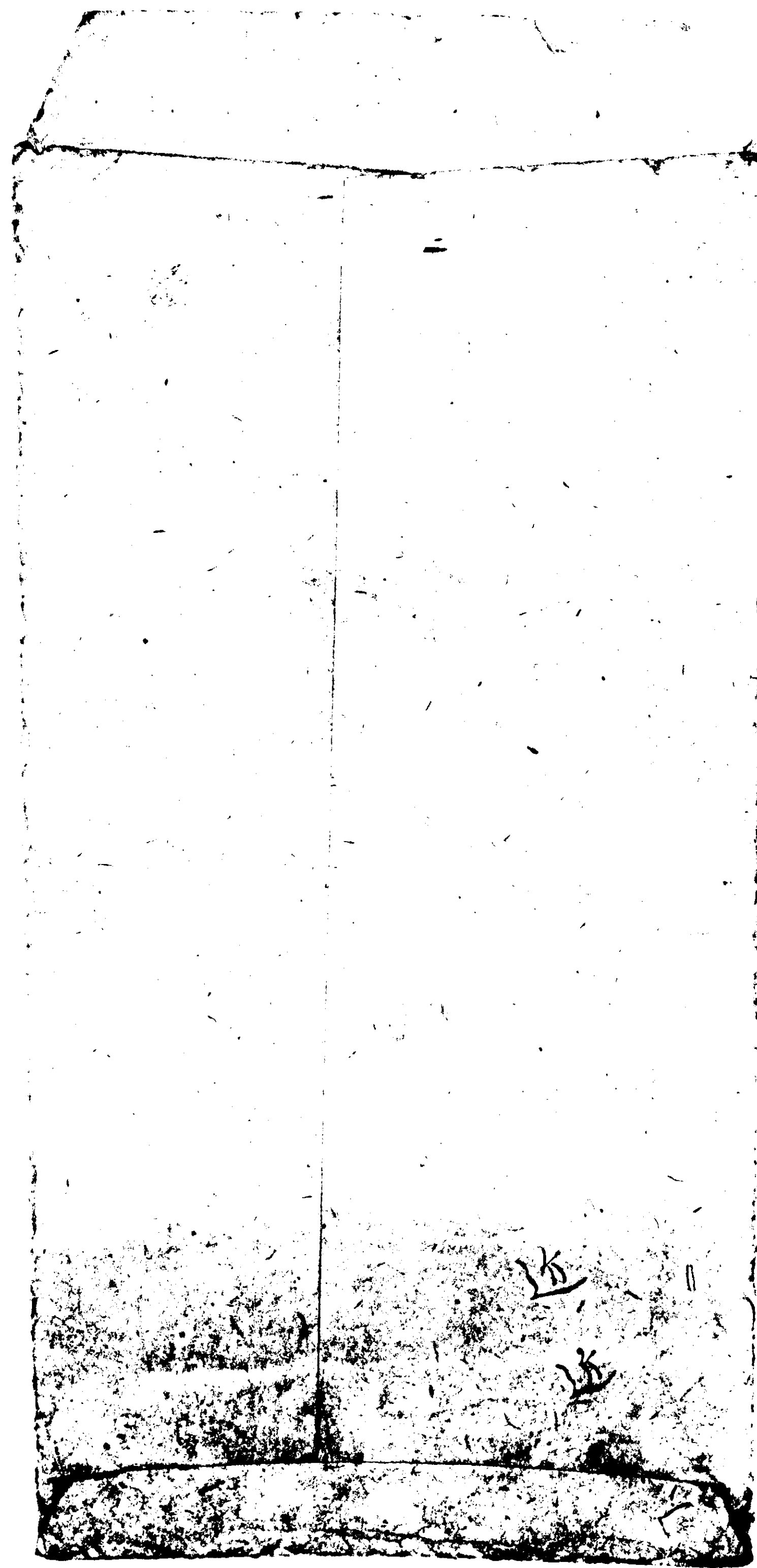
General Ridgway is deeply appreciative of the kind sentiments expressed in your letter.

Sincerely,

*C.C. B. Warden*  
C. C. B. WARDEN  
Colonel, AGC  
Adjutant General

托送書目翰書類入







書證替爲小

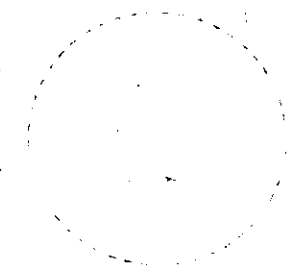
印	名	所	人	發
調	氏	行	取	



記	號	番	號
日本銀行			
印附日渡拂			



二年保存



取出日附印



注意

一 差出人

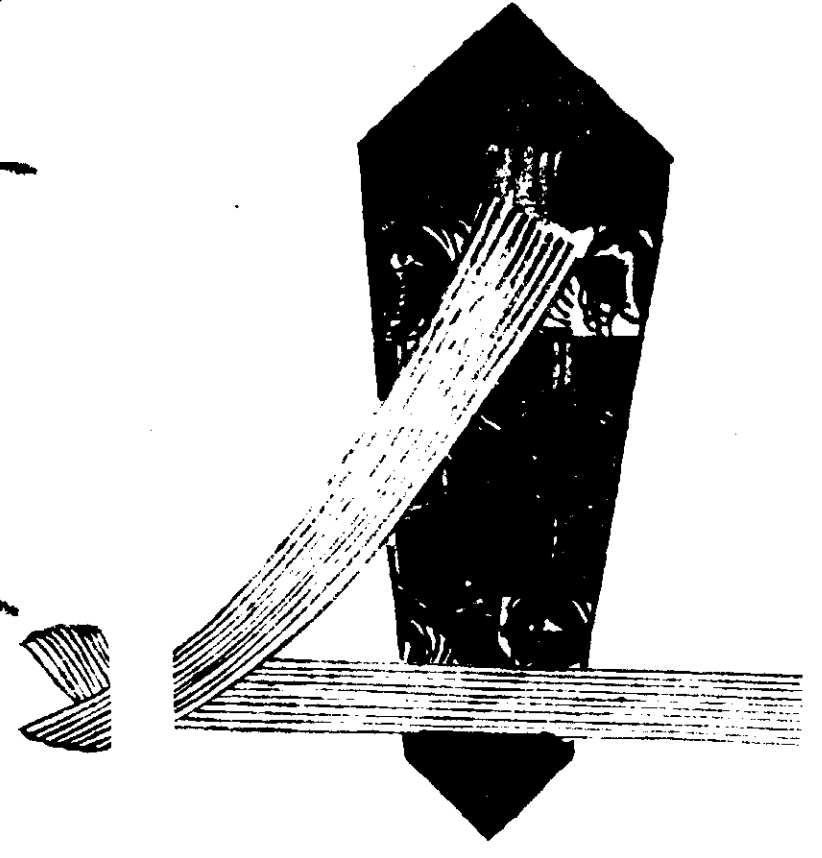
本證書を受取つたときは金高等に誤りがないかよく  
確かめ、以後日付、金額、記号、番號、振  
出月、年、日、お控へ置き下さい。

二 受取人

本證書により爲替金を受取るには本證書の相當額  
宿所氏名を記載し印章を押捺して郵便局にお差出下  
さい。  
本證書の有效期間は発行の日より六十日です。但し  
沖縄、大東島及南洋群島の郵便局と取組んだとき  
だけは百二十日です。

右の期間を過ぎて三ヶ月以内の儘にして置くこと爲替  
金は國庫のものとなり、戻りません。  
四 其の他詳細は郵便局でお問合下さい。

掛場木貞殿



朝鮮引揚同胞世話會  
會長穗積真六郎

いづれ七・五・三・二  
其の四・六・一・四  
其の五・三・二・一  
其の六・一・四・七  
其の七・二・五・八  
其の八・三・六・九  
其の九・四・七・〇  
其の一〇・五・八・一  
其の一〇・五・八・一  
其の一〇・五・八・一

親

金

社

6

朱东译

田中保古

本師

透井浮新

何毒以

李曰古者

---

1990

讀



昭和 年 月 日

印 柳 田 寛

昭和二十二年一月十五日

會長 氏 名

別紙要る記

山 井 記

解 明 芝罘御清勝の段奉度加見候

陳 著 客年中は在外財産調査事務 其の他

弊會會務に關し (傍條の字句は 渡辺要る記 松本要る記)

市警部忙中にも拘らず 格別御市配援助を賜

り厚く御禮申上候 茲には甚だ失禮乍ら威

謝の微意も表しる 別封入たる書券 貳百円

(渡辺要る記 松本要る記 貳百円) 市に在り申上候 同何

年市笑納被下度候 尚事年々不相交信の

御儀振高配と銘する 市報申上候

是所右中禮也如地中產候

敬  
旦  
々

昭和 年 月 日

昭和二十一年十二月十二日

余長山

別紙表入札（十二月十二日）

余長山

有る者や性候、  
陳名より、  
調査の因、  
龍、  
之意、  
本、  
才、

余長山



会長  
理事

昭和三年十二月七日 起事

十二月八日施行  
山本

通知事

會長 氏 名

別紙 塔氏宛

特許 益、市清勝の段、奉慶加具候

陳者在朝鮮日本教個人財産の調査に因し御高

見物取致度候に付、市清勝中、恐縮に左

記に依り市清勝申上度得共、云々候

追、簡單に并、市清勝致し、是に候間、市清勝に

表

一期日 十二月十二日(木曜) 午後十時

二場所 麴町区丸の内仲十番、四番 旧友俱樂部

500

石塚 隆氏 2000 十勝 三氏

500

渡辺 昌氏 200 辻 桂三氏

200

原 俊一氏 500 松本 謙氏

200

伊藤 忠太郎氏 2000 田中 保太郎氏

200

松本 正勝氏 大野 謙一氏

200

和氣 孫吉氏 200 櫻井 俊雄氏

200

笠井 幸氏 200 伊藤 田治氏

200

鈴木 武雄氏 2000 沖田 定太郎氏

500

山口 重四郎氏

○出✓石塚 峻氏 (茨城縣結城郡大花町村生明生)

✓渡辺 忍氏 (茨城縣那珂市吉柳幸一、五七三)

○出~~出~~伊藤重次郎氏 (世田谷区松原町三ノ八四一)

✓掛橋直勝氏 (杉並区久我山三丁目一二三、日本橋区區予月一、

○知角 孫吉氏 (高工省構内電上二番 國民経済高工連終室)

✓笠井 章氏 (高工省構内電上二番 國民経済高工連終室)

✓鈴木 武雄氏 (杉並区下高井戸四ノ九四七)

○山田 重政氏 (

○出藤本修三氏 (

○出辻 桂五氏 (

○松本 誠氏 (千葉市新田町古)

○田中 保太郎氏 (

○出大野 瑞一氏 (杉並区西高井戸二ノ四九、新藤葛治方)

○出大野 瑞輔氏 (杉並区本提町四丁目三 出芝 館口山 出芝 豊原 株

○出今秋

一 朝鮮ニ本社ヲ有シ内地ニ預金ヲ有スルモノ

會社名	在内地預金額	全上口数	一月三要タル経費概算

二 内地ニ本社ヲ有シ朝鮮ニ事業ノ全部又ハ大部分ヲ有スルモノ

支店  
支店  
支店  
支店  
支店

農家

石塚 嶋氏、渡辺 昌氏、石塚 俊一氏

林業

伊藤重次郎氏、掛場直勝氏(石田孝典)

水産業

和久 孫吉氏、高工青樹氏、山口民雄氏、高工連治氏

鉱業

中林 栄男氏、山井 幸氏

工業

鈴木武雄氏、村上隆造氏、山本 敏

商業

鈴木武雄氏、山口重政氏

金融(銀行)

山口重政氏、甘原幸修氏、辻 桂五氏、杉本 琢氏

官公署(町)

田中保太郎氏、大野 琢一氏、津浦 重次郎氏

有価証券

山口重政氏、辻 桂五氏、甘原幸修氏、津浦 重次郎氏

一般

之他

家名

家名

→東招収

[illegible]

朝鮮二國有土地金銀瓦石毛

万石村 二〇〇〇石村 二〇〇〇石

在外財産調査会委員牛島達信氏

五〇〇円 渡邊 忍氏 (東京都武蔵野市吉祥寺一五七三)

五〇〇円 松本 誠氏 (千葉県新田町古)

二〇〇円 伊森明治氏 (門司市大里町藤松 工藤昌子氏)

二〇〇円

二〇〇円 笠井 立早氏 (東京都江川区上大崎三ノ三出石方)

小倉啓子氏

三〇〇円	三〇〇円	三〇〇円	三〇〇円	三〇〇円	三〇〇円	三〇〇円	三〇〇円	三〇〇円	三〇〇円
いつる	いつる	いつる	いつる	いつる	いつる	いつる	いつる	いつる	いつる
七〇五	七〇五	七〇五	七〇五	七〇五	七〇五	七〇五	七〇五	七〇五	七〇五
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年

昭和三十一年一月十五日  
魏所内幸町二丁目

# 平化地

長江會館 3,100,000. (55,555,241) - I<sup>2</sup> 新到, 計, 200, 月

100, 118, 317, 650, - 12, 2, 5, 1

長江會館 9,150,000 (55,555,241) - I<sup>2</sup> 3, 2, 3, 3, - 100, 200, 2

長江會館 9,610,000 (55,555,241) - I<sup>2</sup> 4, 1, 10, 1, 0, 2

長江會館 1,010,000 (55,555,241) - I<sup>2</sup> 5, 1, 10, 1, 0, 2

長江會館 2,436,000 (55,555,241) - I<sup>2</sup>

長江會館 169,000 (I<sup>2</sup>)

長江會館 18,000,000 1, 1, 2, 3, 1, 2 (I) ~~16,500~~ <sup>2000</sup>

1, 1, 1, 400, -

~~18,000~~ ~~16,500~~ ~~2,100~~ ~~1,600~~

~~2,100~~ ~~1,600~~



I

會  
了

新義州日本人世話會  
金調書

新義州日本人世話會借入金調書

借入部

金 額

一七八〇七、二四九、〇三

記 事

會運到金、事務費金、五郎及  
歸還諸費、先當、分借入

支出部

金 額

一七二、〇五三、四八

一五八九、三二七、〇〇

一三九、〇〇〇、〇〇

一六九、〇三、〇〇

記 事

生活費、醫藥費、先當、為貸付

朝鮮人民委員會其他、家計

流通禁止、日本、政府

一三三、〇八九、一〇

二五七、五三四、七九

三六三、四八八、三五

五〇九、八五一、八〇五

四〇一、五七六、〇〇

二四六、三、一七一、八二

三四四、五三三、八五

三一七、六〇三、〇〇

二四三、七八〇、一九

計一七八〇七、二四九、〇三

朝鮮人民委員會政府、使役、事務  
及朝鮮人民委員會、事務費、  
雜費、他校津費

船 賃

鐵道運賃

雜 費

車務費

歸還諸費、及諸事、各分地、  
現在、朝鮮、費、一、連、給、金、也、  
借入金、等、他

113

# 朝鮮 = 在 40 救濟費支出 明細表

新長安日報 9.1.10

支出内譯								
日中入會費	救濟費	集國引揚費	工化費	當社預金	接待費	勞務賃金	信託金	合計
344,539.85	1,133- 1,952,785.19.35	7,963,265.19.87	3,127,603.19.11	2,41,654.19.88	<del>6,753,419.89</del>	1,133,891.10	2,436,780.19.19	17,807,249.19.3

救濟費 在 1210 人 要校 留 及 著 分 日 北 解 的 離 氏 救 濟 = 充 當  
 引揚費 引揚 國 = 18 (30 24 4 名) 及 陸 路 引揚 費 = 充 當  
 工化費 脫 出 工 化 = 充 當  
 勞務賃金 蘇 聯 及 系 解 政 府 的 強 要 勞 務 者 = 支 持 外 匯 金

50  
 25  
 480  
 730

250  
 4800

30  
 600  
 20

50  
 20  
 1500

7,000,000  
 2,000,000

50  
 150,000  
 750,000  
 250,000  
 500,000

2,000,000  
 12,500,000

250  
 75

1500,000  
 24

在 鮮 日 本 人 借 入 金 内 訳

新 系 分 12 年 人 合

+12

借 上 金 額	人 口 数	人 員	摘 要
17,807,249.19.03	8,704	4,281 人	全 人 口 数 借 入 金 内 在 者 数

在 日 本 人 借 入 金 ( 留 産 抵 当 借 入 金 ) 新 系 分 12 年 人 合  
輸 送 諸 事 其 他 金 子 用 - 要 求 資 金 12 年 迄 日 本 政 府 支 拂 支 拂  
件 件 以 下 募 集 金

11 月 27 日 採

76 日 2,091,000

# 朝鮮 = 在 4. 救濟費支出 明細表

新 義 州 日 本 人 會

支 出 内 譯								
日 本 人 會 館 費	救 濟 費	集 團 引 揚 費	工 化 費	當 地 租 金	接 待 費 及 雜 費	勞 務 賃 金	信 託 金	合 計
344,533.86	1,952,785.14.35	7,963,265.19.87	2,127,603.19.00	241,655.19.88	607,534.14.79	1,133,189.19.10	2,436,780.19.19	17,807,249.93

救濟費 在 1210 年 人 會 館 費 及 接 待 費 比 例 多， 雜 費 救 濟 = 充 當  
 引揚費 集 團 = 1 回 (即 4 人) 及 陸 路 引 揚 費 = 充 當  
 工化費 脫 出 工 化 = 充 當  
 勞務賃金 蘇 州 及 奉 天 府 政 府 司 強 要， 勞 務 者 = 支 持 外 賃 金



26/10 4000 概

(一) 船賃		山嶺美——延安	一一〇〇月
(二) 自動車賃		右所	八五〇月
計			二二〇四日
(三) 二月二十六日ヨリ七月二十四日迄一四九日間、宿泊料、日當等生活費、實施、及煙草代一日		六〇月	八、九四〇月
(四) 特使密使費用		山嶺美——京城入李氏	三五〇〇月
山嶺美——宣川(李氏)		三〇〇月	
山嶺美——北嶺(李氏)		一〇〇〇月	
山嶺美——新義州(李氏)		一〇〇〇月	
山嶺美——定州(馬場氏)		三〇〇月	
山嶺美——宣川(馬場氏)		二〇〇〇月	
計			七、一〇〇月
(五) 要路工作費		建國獻金 右所	五、〇〇〇月
贈答交際費			三、五〇〇月
計			八、五〇〇月
合計			二六、七四四日
右ニ對シ概算金中實際使用額			二、七〇〇月
借用金ニヨリ支弁額			二四、〇四四日
右ニ對シ御座候也			

28/7

月岡氏

水色情分三三七

要

平安北道出張旅費計算書(元四六・七・二六)

特務出張者 月岡捨男

一 概算受領金 二五〇〇〇圓

内、同行者文平氏ノ所持金ニシテ小職黃海道  
南川保安署ニ被留置中連絡ヲ失ヒテ失  
シタル額

一四、〇〇〇圓

同行者松山氏(途中帰城セシム)諸掛

二、三〇〇圓

三月九日新幕ニ於テ日本人某氏ニ對シ小切手五千  
圓ヲ提供シテ現金三千圓ヲ受領シタル差額

二、〇〇〇圓

月岡氏客署ニ於テ被沒收額

四、〇〇〇圓

計

二二、三〇〇圓

差引實際使用額

二、七〇〇圓

二 旅費及諸掛費

(1) 汽車賃

京城——開城 往復 三〇圓

沙里院——嶺美 六〇圓

嶺美——定州——宣川——新義州

往復 二回 一六四圓

小計 二五四圓



No. ....

(東亞同文會原稿用紙)

12  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
13  
14  
15  
16  
17  
18  
19  
20  
21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29  
30  
31  
32  
33  
34  
35  
36  
37  
38  
39  
40  
41  
42  
43  
44  
45  
46  
47  
48  
49  
50  
51  
52  
53  
54  
55  
56  
57  
58  
59  
60  
61  
62  
63  
64  
65  
66  
67  
68  
69  
70  
71  
72  
73  
74  
75  
76  
77  
78  
79  
80  
81  
82  
83  
84  
85  
86  
87  
88  
89  
90  
91  
92  
93  
94  
95  
96  
97  
98  
99  
100

(10 × 20)

蘇解園係發務經理

事務部

穗

長

元嘉祥咸以五州  
錢留日本入五錢

子勝已銘  
五子以人肉  
抄錄知多山

更生事業

雅 雅  
生 生  
掌 掌

發刊の辭

本會が成立してからすでに半世紀に近づくの時が経過し、歴年の困難な条件のために活動の意欲が衰へてしまつた。この時、我々も能くも限りの努力を以て奮然と本會の使命遂行に邁進した。わが國の政體は憲法による立憲政治である。その精神は、國民の権利義務の平等にある。この原則を堅持するがために、政府の更迭、議院の改選、議員の任期の満了等、一切の政治的行動は、國民の意思に基づいて行われなければならない。この原則を堅持するがために、政府の更迭、議院の改選、議員の任期の満了等、一切の政治的行動は、國民の意思に基づいて行われなければならない。この原則を堅持するがために、政府の更迭、議院の改選、議員の任期の満了等、一切の政治的行動は、國民の意思に基づいて行われなければならない。

會長 松嶋鹿夫

新春を迎ふるにあたりて

引揚者團體全國連合會委員長 穂積 眞 六 郎

終戦後既に三度目の冬が来ましたが共に、國民の一人としてセシシ身にしみて感じますのは八十餘萬の氣の毒な同胞が祖國の土を踏むことが出来ないで千島、樺太、シベリア、ソ聯、滿洲、北鮮の寒國に四年目の春を迎えて空しく想を故郷にはせて居るゝことでありませう。來春こそは國民の一致した祈りの力によつて一日も早くこの問題を解決しなくては新日本建設の基石は決して正しく据えられる日は来ないでしよう。八千萬國民の一パーセント位少し遅れても止むを得ないさ云ふ様な御都合主義な事が若し國民の一部にあつたならば、其の基礎の上に建てられた新日本はピサの斜塔よりも曲つたものであり、それよりもろく壊れ落ちるでありませう。更生の第一歩は同胞歸還の完了に始まるさ云ふことを新春を迎ふるに當つて改めて決意する次第であります。さて既に引揚げて來た者、戦災に苦しみ多數の人々は何ぞ申しても聯合國の好意と國家及社會の諸施設によつて更生への希望を捨てないで生活して居ます。この點は戦争犠牲者としては餘程心すべき點で堂々と自分の立場を主張して行く中にも常に世の恩を感じて、感謝する丈の良心がなくては眞の更生への途は開けないであります。然しこれが爲には國家としても戦争犠牲者に對する取扱の基本方針を充分公正に何人も背ける様に確立して行く必要があります。只今の處では開議で「引揚者は之を優先的な援護の對照させず、一般生活困窮者の中に含めて援護するのを建前とする」ことになつて居る由であります。然し引揚者が無資産者になつた原因、並に引揚者が外地に残して來た資産の歸決など考えて見ますと引揚者を一般困窮者の中に含めるさ云ふ原則に云ひ知れぬ矛盾を感じます。その上戦争犠牲者は單に國家に對して援護を求める立場にある者ではなく、正當な權利を主張する立場をも有するさ云ふ點を全然無視して居る處に重大な缺陷があります。この様な原則は何度開議で決定せられても根底の缺陷は依然として消滅しません。假つて戦争犠牲者の負擔の公正さ云ふ主張に多くの論議を興えるのみであります。來春こそ政府はこの原則を深く再検討して公正な出發點に立ちどつてもらいたいと思ひます。

推進中央會の仕事としては、もさ／＼この團體が戦争犠牲者の事業更生を目途として居ますので、犠牲者中更生の能力ある者を

對照とすることは勿論であります。只戦争犠牲者は一般に今は無産者であつても終戦迄は一定の職業に長く従事して居た爲に相當の良心と智識と能力を有して居る一方、生活が安定して居た丈に打撃に對する經驗に乏しく、更生に際しては億劫であり、又は反對に深重な缺乏中々更生に手間のかかる傾向のあることを餘程よく理解してかかる必要があると思ひます。例えば生業資金を借りたにしても其の計畫が實際的でなかつた爲に事業は失敗して得たものは失敗による尊き經驗のみさ云ふ場合もありませう。又もう一いさ云ふ所て資金難に陥つて居る場合もありませう。推進中央會はこれ等犠牲者のよき指導者となつて出來得る丈多くの者が更生者として立上れる様温かく世話することがその任務であります。只最優良な者のみを取上げて數百萬の者を生活援護の手に托れて置くのであるならば普通の冷たい銀行以外にこの會の様な機關の必要はない筈であります。舊年中推進中央會は設立の當初であつた爲に、主として政府と戦争犠牲者との間に立つて更生推進へのあつせんの仕事を中心として行つて來ましたが、この比較的消極的に見える仕事も私の目からは可成重要な必要性があつたと思はれます。まだ／＼政府は犠牲者の立場を充分了解出來ず、犠牲者は政府の苦心を理解出來ず、其の爲に更生の足踏している點は數多くあります。會としては今年も充分よき仲介者となつて相互の理解の推進にも努力して行くべきであります。そして今年にその會の基礎を擴充して直接に更生推進への途に踏める機努力すべきことを念願して居ります。

「推進」發刊に寄せて

海外事業戦後對策中央協議會

會長 荒 川 昌 二

想へば海外事業戦後對策中央協議會が終戦後間もなく大藏省及外務省當局の推進に依つて昭和二十年十一月三十日に當時の横濱正金銀行東京支店樓上に産聲を擧げてから、もう二年有餘になりました。これは全く純然たる民間團體であつて、海外事業經營者が在外財産所有者さで形成せられた海外經濟關係地域及特別の事業者團體を以て組織せられ、其の目的も主として在外事業



並に財産の凍結、海外と本邦との經濟關係遮断、在外會社の内地事務所の閉鎖並に業務停止等終戦に伴ふ在外事業者の當面した色々の困難な事態に對應する爲、民間關係者が一本の線となつて活動する爲でありました。

設立以來取り上げた問題は先づ海外資産の損失補償の件で之については補償委員會を設けて臨時研究を重ね、關係當局と連繫をとり、陳情書を關係當局に提出し、一面英譯書はマ司令部にも提出したのでありますが、他面各政黨海外關係有力者新聞社方面とも懇談會を開催して之が了解に努めたのであります。

又、現在關係官廳自らやつて居らるゝ「在外財産調査會」の發足する迄在外財産の總額を調査する爲に各部會から調査資料を提出して貰つて、此の調査に全面的の協力したのであります。然し乍ら此の年來、海外事業戦後對策中央協議會が最も力を注いだのは海外事業者又は引揚者の内地に於ける事業更生のことで、茲に更生事業委員會を設けて昨、昭和二十一年秋頃から具體案を樹て一日も早く官民一致協力して實現せらるゝ機勢なのであります。即ち其案云ふのは終戦後最も氣の毒な境遇に置かれた海外引揚者の唯一の財産とも云ふべき何より貴重な經驗を生かして單なる救済より一步を進めて仕事を與へ、そして事業上の更生を計り、一面日本經濟再建に直ちに役立つ機仕向ける爲、其の適當な事業の密着指導や金融上の便宜供與等を目的として日本科學技術聯盟と提携して「産業技術協力會」を設立しようとしたのであります。

此の「産業技術協力會」設立案は朝野各方面有力者から發起人賛成人を得て關係當局に此の春から建言して居つた處、政府の方でも其の趣旨に賛成せられ、通般更生事業推進中央會が設立の運びとなり、一層擴充強力な團體として發足したことは何より喜ばしいことであります。

海外事業戦後對策中央協議會としても縁の下の力持ちとなつて、此の一年有餘に亘つて海外引揚者の事業更生の爲、企畫立案したことが茲に實を結んだことは満足之に過ぐるものはありません。唯此の上は更生事業推進中央會が其の目的に向て、既に遅れた時を稼いで活潑な實行力を發揮せられ有終の美を濟さんことを祈るのみであります。

此の「推進」發刊に當り一言もつて祝詞に代へました。

## 説論

### 引揚者事業の將來

大 瀧 克 巳

海外引揚者の事業活動は、昨年九月庶民金融を通じて生業資金貸付が開始せられて以來さみに活潑化し、その旺盛な企業意欲は既に今年十二月迄に總額十六億六千六百萬圓を消化し盡し、それらの事業體が遂次健全な發展をたどりつゝあることは、更にこれを基礎として復興金融庫、又は一般金融機關から融資を受けるに至つたものが相當數に上る事實、並にその回收成績の良好な點からみても推測せられるところである。

然し乍ら、我々はこれを以て簡単に引揚者事業の將來に樂觀してはならない。むしろ問題は今後にあると云つて良いのであつて引揚者事業の將來は單に引揚者事業自體の問題としてではなくに一般中小企業の一環として世界經濟及び日本經濟全體との相關的有機的關係の下に正しく批判され、又決定されなければならない。このためには資料の確實なる割當、地方公共團體等による保護制度等或る程度の保護政策をさるべきだと思はれるが、内面的には國際的技術水準を保持し、世界市場の競走に耐え得るために企業の合理化を圖ると共に經濟的な組織性を導入して質的改善を圖るにあることを忘れてはならない。

この意味に於て吾々は今後充分引揚者事業の内容を分析し検討を加へねばならぬのである。曾て經濟問題乃至社會問題として深刻な問題を提起した中小企業再び現代に於て目前の安易を追ふ結果、更に深刻な形に於て再燃せしめる様なことがあつてはならぬが、既に國內の經濟情勢は次第に危期的様相を露呈し、最近に於ては國內企業全般として新物價體系の算定基準である。生産額と資材費、人件費等の喰ひ違ひ其の他の經濟狀勢及電力事情の惡化等によつて、その殆どが採算割れとなつてきてゐる。

加ふるに回收の不圓滑さ出荷不振による資金の固定化等による資金不足、更に又回收された資金は物價の上昇分だけ次第に減少して行くインフレ過程の現象等によつて中小企業の資金難は極端に深刻化しつゝある。云ふまでもなく一般的に信用の薄い。しかも地盤のない引揚者事業の場合はその資金難は直ちに生産を低下させ、製品の原價高を將來に經營を危殆に陥らしめる。従つてこ

の現状を乗り切るためには必然的に經營の合理化を計らねばならないが、更に引揚者事業の協同化が要望せられる。既に生産合作社等に於ては縣連合會を組織したものと聞くが、これが單なる連絡機關に終る事なくその任務を原料資材の共同購入、製品の共同販賣等の業務より引いては技術の交流設備の共同利用、糧糶内容の相互檢討等に迄機能を増大する要がある。一方各事業體の内容及事情は必ずしも同一ではなく、資金の需要度も異り又、需要の時期も全く同一ではない。従つて相互にある程度資金の繁閑があれば全體として彼此融通し得る餘地を生ずる筈であり、この事自體相當の困難はあるが地盤もなく、信用度も低い引揚者事業が既存の中小企業其他の事業體に對抗し得る道は合理化と、その徹底した組織化以外にないと言つても過言ではあるまい。

(十二頁より續く)

3、態度が率直でなく、いろ／＼な關係機關や銀行を歩きまわつて出鱈目なことをチリハグに云つてまわり結局、計畫が物にならなくなる。簡単に云へば大陸や南方で出先官憲の隙をぬらつて工作する謀略辭さてもいふものを國內にまで持ちこんでいる。

もさより今後皆様方にはこんな例はないと存じますが、私達

の若干の舊い經驗から一言申しあげた次第であります。  
 でわ皆様——かつて皆様方が外國で、又外地でご活躍になつた意氣と夢を捨てないように、皆様のご健闘をおいのりいたします。

・終りに筆者の父は北鮮からの又、筆者は中支那からの引揚者であることを附記して筆をおきます。（筆者は農林事務官）

引揚げの方々の企業金融のために

農林省の立場から

モ  
リ  
ヒ  
デ  
ヤ

外地或は外國から引揚げた人達で企業經營の経験もあり、或は優れた技術を持ち、しかも人格も立派な方でありながら國內の事情にうき、折角の才能を充分に伸ばすことが出来ないといふ人達に最近しばしばお目にかかるのです。そして残念なことには、この人達が國內で企業でもおこすためには官廳、銀行其他の機械筋に何等かの「タタリ」が無ければ、とても問題にならないと云ふようなことを考へていられることです。

そこで私は引揚者の方々が比較的にきりつきやすい農林水産業をはじめには、ごうしたら良いか云ふ問題について、殊に現在一番苦しくなっている金融の面について簡単に話いたしました。

もさより引揚げた人達ですから特別な例外をのぞいて國內に資本的バックを全然もたない方が多いさおもいます。それで銀行から融資をもさめるさとしても資金繰りが非常にきゆうくつに

なつてゐる現在の市中の銀行にたよることは著しく困難、或は不可能に近いと申し上げた方が、良いかも知れません。だからこの方々がたよるのは復興金融庫（俗に云ふ復金）が多くならざおもいます。

復金の性格機構さういふものの解説は別の方におゆすりして、私は現在復金が農林水産業についていかなるものを融資の對象にしているかさいふ問題を次に簡単にまとめてみます。

(A) 一般的にいつて

(A) 一般的にいつて

大太平洋戦争前から漁業に従事していて、戦争中戦災を受けて外は徴用によって漁船を営しなくなった人達、又引揚げた方々や外国或は外地で漁業を經營していた人達が優先的に融資の対象となる。現在漁船の建造は確定の計畫をほぼ完了しているので、今後は定置漁網給出用水産物の養殖加工などに重點が

うつるを見送してある。

## 2、食糧食品工業

まず製粉について關東地區の一應戦前に近 能力が完成されているが、關西地區は若干の能力を増強しなければならぬ。又、輸入食糧は年間平均して送ってくるが限らないので、これを製粉するために海港に近い場所には、また相當の設備を増加しなければならない。さらに大都市の近郊に、その食糧を貯蔵する衛生工場が必要である。これらのものについて復金の融資を考慮している。

次に製粉と関連が深い「イースト」工業は、現在澱粉食の効率的な振取が問題になっているので、相當増強しなければならぬ。復金はその優秀工場に對し、重點的に融資をしている。

罐詰工業は農水産物の輸出の中で戦前から相當の率（昭和十三年度は一五〇〇千兩を輸出した）を占めていたが、昭和二十三年度に約九〇〇千兩（一兩四八ギンド）の輸出が計畫されている。したがって現在の設備で不十分であるが、今後の重點の新設よりも既存の工場であつて戦災を蒙り、或は老朽化したものの復舊改修にむかひたい。従つて新設の工場は現在のところ復金の融資對象にならない。

それから今後の農村の畜産化、酪農化が重要な問題としてとりあげられなければならないが、現在では狭義の畜産（例へ

ば牛豚、めん羊、山羊、にわさりのような家畜を賣ふ場合）は復金の融資對象とはならない。然し乳幼児用の煉乳は著しく不足しているもので、その設備の補修復舊は復金によつてまゐらねばならぬ。ただし「バター」「チーズ」の製造は消極的に取扱われている。食品工業の特殊なものとして米糟油の搾油精製があるが、これは立地的にみて原料としての米糟が充分に獲得できる地域では積極的に推進されるべき企業であり、比較的小規模のものとして適切である。又「コブラ」その他の油脂原料が輸入されれば、其他の油脂工業も増強されなければならない。

又、食品工業に例へば「ビタミン油」「マロングラウセ」（菓の砂糖漬）といった特別なものが輸出品として取上げられているが、まだ「デストプラン」の域を脱しない。

## 3、山林業と製材業

山林の開発はつゞいては從來復金で、きわめて消極的といふよりむしろ否定的に取扱がわれていた。しかし深山の開発について一般金融にたよることは、今後きわめて困難なので、地域的に特殊性がある。山林の開発、例へば大都市に接近した場所に原始林があつて、しかも開發されていぬような場合、それから坑木、枕木、電柱といったような當面の産業復興に絶対に必要な木材のばつさいは今後復金に依存する度合が強くなることもわれる。これを關連する製材業は全國的にみ

て設備は過剩になっているが、山林の開発は不可分な山元の製材所は、今後も建設されなければならない。又、家具、床板、ベニヤの乾燥設備も現在の設備で不足である。

## 4、製絲業

農林省で計畫した製絲設備の復元計畫にみまめられているものだけが復金の對象となる。生絲の對米輸出については餘り良い見通しをもたれないので、農林省としては高周池による低溫殺虫低濕かんそう、真空低濕煮繭といふ一連の低溫操作をもつて革命的な品質改良をはかり「アメリカ」の人造纖維にまゐらない製品を輸出する計畫を立てている。

## 5、其他の農林業

その他農林業には實に深山の種類があるが、復金の對象として比較的取あげやすいものゝ「炭酸カルシウム肥料」「農薬」「獸醫藥」「獸醫器具」こいふようなものがあげられる。しばしば問題になるのは開拓に對する金融であるが、國或は公共團體から企業體が開拓を請負ふ場合、前渡金をもらうことが困難で、又たこへ前渡金が出る場合でも、それが仕事を始めてから一ヶ月半もおくれて支出されることしばしばあり、その間の「繰上資金」を復金に申込まれることがあるが、これは財政支出の復金への肩がわりであり、又これをとりあげるに極めて巨大な金額になる故に原則として復金の取上げない。

## (B) 特殊的について

(A)の場合には比較的大規模な企業金融についてもうしあげたのであるが、復興金融に特別に中小事業部といふ特殊な存在がある。その融資方針は大體(A)を基準としているが、それわ必ずしも厳密に守られているのではなく、かなりの含みが持たれている。

中小事業部は資本金一〇〇千圓以下、一口の融資額三〇〇千圓以下の企業を對象としている。そしてこれ以上の企業を對象とする場合とちがつた特殊の資金枠を持つてゐる。だから引揚者の人達で比較的小規模な事業を計畫される場合に門戸が開放されている。特に輸出産業であつて戦前にも相當輸出実績があり、今後も有望な販路をもつ商品を製造する企業にしばしば小規模なものも多く、これらわ中小事業部の融資對象となるものもおもわれる。

又、農村に蓄積された資本と労働力を利用し、工場が農村にある所謂「農村工業」について中小部が特別な融資枠を持つてゐる。

比較的小きつきやすい中小農林業として澱粉、ブドウ糖、水飴の製造があげられるが、これらは設備も大體需要の最大極度までなつており、復金の對象としては特殊なものを除いては好ましくないものである。

(C) 特に零細な引揚者の方々に



もばや皆様もご承知さともうが、今度復金の中小事業部に特別な資金枠（一〇〇百万圓）が二十三年度の四月迄の分として設定されている。これについて、極めて零細な企業であるが故に（A）に申しあげたような融資方針は厳密に守られないものさおもわれる。

ての引掛者の方々が仕事をする場合、てつさり早く相談する場所は何處かともします。こ、商工省わ地方商工局を、更に各縣にその出先を持つので、此處をおたすねになればいろいろの點が明らかになるさおもいますが、農林省は地方に統一的な出先機關を持たないので、皆様に非常にこ迷惑をかけていることさおもいます。然し今度更生事業推進中央會も地方に出先機關を持つようになるさおもいますので、此處をおたすねになれば大體の事情は明らかになるさおもいます。又、前に申しあげた(A)(B)級の融資をご希望の方は復金の地方支所(興銀或は勸銀が地方の代理店となつてゐる)をおたすねになり、又(C)級の方々は商工中金が地方で復金の代理賃をいたしますので、此處にお問合せになれば良いさおもいます。

又いろいろで不明の點わ農林省總務局農林金融課にお問合せなれがいます。後藤課長の下に森、小澤、栗崎、生島四課員

が事務を擔當しています。それから引揚者の方で内地の事情にうまい方で兎角、私達のところへ顔を出しにくいというようにお考への方もあつて、各方面に「顔」がきく偉い人達の紹介状をお持ちになつたり、又わざ／＼お土産迄持参される方を見受けられますが、次第に民主化されつゝある現在の官廳に對して、こおいうことは非常に迷惑であり、又場合によつては皆様ににも有害であります。だから直接氣輕にお出でになるなり、又地方の方々へ書信をもつてお問合はせになれば、直ちにご返事申し上げ、又ご相談になるつもりでいます。又もし私達の態度なり言葉使ひに公僕として不適當なところがあれば、ご遠慮なくご批判願いたいと思ひじます。

最後に私が今迄お目にかかつた引揚者の方々に、しば／＼次のような好ましくない傾向があつたことを申しあげて、皆様の「ご参考」です。それは――

1、一定の計畫が出来上るまでは、お互によく協力し合つて立派だにおもつた人達が一度仕事が軌道に乗るを、忽ち内部抗争が始まり分裂する。

2、計畫が非常に膨大であり、戦前の何分の一かに壓縮された現在の日本の經濟で不適當とおもわれる場合がある。引揚者の方々がなお大きな夢と理想をもつていられるのを、たのもしいとおもいますが、計畫費あくまで板についたち密なものであつて欲しい。

(八頁(續))

## 海外引揚者事業の金融について

近藤勝

日本における中小企業の歴史は、金融梗塞の歴史である。そして現在もまたその延長に外ならない。海外引揚者事業の歩むべき途もこの中小企業のいばらの途以外にはない。

現在の放出新圖はその殆どが特殊の階層に偏在し、銀行預金として還流せず、銀行の手許は極度に枯渇してゐるため、企業體の薄弱な中小企業は金融の對象たり得ず、その必然の結果として、中小企業は金融梗塞に悩むのである。しかも日本が産業設備の極めて大きな部分と、海外資産の全部とを失ない、縮小された國上に八千萬の人口を養つて行かなければならないことを考えるとき、結局今後日本の産業はその成立を維持して行くためには、世界的競争場裡に耐え得られるような中小企業の育成が、日本再建のための重要な方策として取り上げられる。終戦後の今日かくて、われわれが直面する中小企業の問題は、その經濟力の強化を基礎として、日本の輸出貿易の積極化、經濟再建の促進、經濟秩序の回復に寄與するような、振興方策であるといふことができる。輸出貿易の振興と生活必需品の生産、配給の正常化という二つの使命を果すためには、中小企業はこゝ

の金融の梗塞に抗し、これを克服して行かなければならない。そのために政府の中小企業政策は強力に推進され、中小企業内部の技術、經營の合理化向上の努力が要請されるのである。中小企業内部の技術、經營の合理化は、對内的には融資の對象たり得るような企業となるため、企業の採算性を確立する方途として、對外的には國際的水平における競争場裡に完全に自立自存できる企業の強靱性を涵養する方途として絶對の要件である。

海外引揚者の事業が融資の對象となり得るためには、まづ第一に中小企業として振興の對象として取り上げられる必要がある。それは海外引揚者なるが故に取り上げられるではなくして、中小企業政策の線に沿ひ、日本經濟再建の一環として取り上げられなければならない。換言すれば、海外引揚者に対する金融は單なる恩惠的乃至は救済的なものであつてはならないと金融は單なる恩惠的乃至は救済的なものであつてはならないといふことである。すなわち、われわれは中小企業の金融の隘路となつてゐる企業の非採算性、技術的低劣性、經營の不合理性に對しては重大なる關心をもつて臨まなければならぬのである。

會務概況

發足前後

昭和廿二年四月廿六日「在外企業關係者及び一般引揚者の更生並びに在外企業の國內保有財産等の管理の爲必要な機構の整備に關する件」が閣議決定となり、民間機構を整備すると共に内閣に先づ「更生事業對策委員會」が別項の設置要綱に基いて設置された。

これより先、引揚者の經濟關係諸問題は、何れも解決困難となつて居たので、一部に引揚者の再起更生を企業參加の積極面に於て解決すべきとする氣運が漸次動いて居た譯で、前述の閣議決定によつて引揚者團體全國會、海外事業戰後對策中央協議會等が中心となり、各方面と連絡をとりつゝ、五月三十日本會の創立總會を、次で六月廿八日主務大臣の設立許可を得て民間機構としての本會が發

足したのである。

切て本會の目的は要約すれば、1 更生企業計畫の實現への各種斡旋指導。2 更生對策の調査研究による政府施策への協力。3 政府の委託による在外企業の國內財産の管理保全の三項に盡きる。そこで會務機構として事務局を別に總務、指導、管理の三委員會を設けた所以である。總務委員會に窓口機關として相談所を設け、一般企業相談に應ずるの外金融、賠償撤去、公共事業等の各専門部會を、又指導委員會に産業企業專門部會を設け、夫々各界の權威を會同して運籌の實効を期して居る。管理關係實務には現在海外事業戰後對策中央協議會が當つて居るので管理委員會は之と連絡をとりつゝ、運籌されて居る。尙中央に更に各産業部門別に専門部會を擴充する一方、地方組織の整備についても一應の構想が練られて居るのだが、何しろ開店早々のことであり、豫算其他何かと支障もあつたので

分意を満たし得なかつた。

部會活動

一、金融專門部會

本會の更生事業に關する斡旋の大部分は金融問題であり、内容は重要であり、且機微を要するので特に理事中權威専門家より構成し、本會創立以來數回に亘つて慎重に對策審議を行つて居る。其の成果として現在の如く本會の融資斡旋が軌道に乗つて來たのである。尙本部會を中心として大藏省銀行局、日本銀行、復興金融金庫等の責任當局との懇談會を催し本會資金斡旋方針の統一手續の圓滑化等を圖つて居る。

二、賠償撤去專門部會

賠償撤去作業に引揚事業體等の活用を圖ることに關して、本件が早急に實施される關係上、取急ぎ九月上旬本專門部會充を設置し、本會としての意見を作成し

經濟安定本部の更生事業對策協議會に提出した。此處で審議を経た結果、豫算官廳たる終戦連絡中央事務局賠償部より十月二十三日關係機關宛に次の通り「引揚事業體を賠償撤去作業に参加せしむる件」の通牒を發し、引揚技術者勞動者の技術經驗勞務の活用を圖る事となつた。

三、公共事業專門部會

政府の行ふ公共事業は、引揚者等の技術經驗を活用する事を最も必要とする。之に關して本會の意見を當局に具申する爲本專門部會を設置し、既に三回の會合を行つて居る。尙當局には經濟安定本部公共事業課長、戰災復興院計畫課長を招待し、擔當業務に付詳細な報告を受けた。現在部會として引揚技術者の實情調査を行ひつゝある。

四、産業企業專門部會

本專門部會は産業界の現状及び將來を考へ引揚者企業、更生企業一般問題を審議する他、特定問題について其の専門部

會の設けられる迄、其の部會に代り個別的産業に關する諸問題並に具體的企業計畫に關する問題を審議する爲に設置せられ、其の第一回會合を九月十日に開催した。部員は本會役員の外、商工省、農林省の關係官、一般金融機關の役職員を網羅して居る。本部會には更に各部門別小委員會を設置し其の活潑なる運籌を圖る豫定である。

相談と斡旋

本會の相談窓口も當初人手不足や諸準備の不充分等遺憾の點が少なく、殊に融資斡旋の場合に於ける臨時資金調整法その他の認可關係、或は金融機關への申込手續、書式の統一等細部に亘る連絡協議等に豫想外の日を費消したが、幸に關係官廳及金融機關その他關係者の厚意と協力を得て、最近漸く軌道に乗り、逐次活況を呈して居る次第で、今後の活躍を期待して戴き度い。因に二二年度中

の相談と斡旋の概況次の通り。

業種別受付數	
礦業	一〇
工業	八九
農水産	二五
交通業	二
雜業	五
營業權取得	五
企業相談	一
資材斡旋	二
其他	二〇
合計	一五九
處理別件數	
窓口受付	一五九
書類提出	三八
融資申込	三五
對策協議會提出	二四
對策協議會決定	一九
(融資一六 其他三)	
管理委員會	

「更生事業推進中央會は、海外事業戦後對策中央協議會の機能を活用し外國に本店を有する會社（在外會社）を簡稱する。閉鎖機關に指定されたもの、大蔵大臣の許可を受けて轉換再開したものを除く）の本邦内財産等の管理事務を取扱ふものとする云々……」云ふ大蔵省よりの事務取扱要領の内達に基づいて、管理委員會は十月上旬第一回の會合を行つた。

初め前記の取扱要領は、その第二項以下で、次の通り取扱ふべき事務範圍、對象となす會社名（概ね八百社）其の他事務細目、調査項目、報告方式等について詳細に指示して居る。では事務範圍は一體どのやうなものか。

- 1、財産の維持及び保全。
- 2、財産狀態に關する報告。
- 3、債權資料の整理保存。
- 4、在外會社の狀態調査。

以上の四項目を含む前記指示に基づいて本會は本委員會の運営について更に次の

四項目を一應決定して、逐次具體的措置を進めて居る。即ち、

- 一、大蔵省より諸般の命令指示達を受け、これを中央協議會へ連絡する。
- 二、右に基き中央協議會より必要な調査報告をよめ、大蔵省へ答申する。
- 三、保全處理に關し意見を具申する。
- 四、管理事業體の整理轉換を企畫實施する。

右の内一、二項に關しては、更に細い委託業務運營要綱を定めて運營の圓滑を期せねばならぬが、要するに本委員會は業務大綱を決定し、實務の一切は凡て海外事業戦後對策中央協議會が受託實施する建前である。必要によつては兩者の連絡協議會を設置する。

以上管理委員會の性質の概要だけを述べたが、本委員會の實際の動きについては總務、指導兩委員會の活動狀況と共に次號以下にお期待を乞ふ。

（十五頁より續く）

更生事業關係の資金につきましてもその社會的重要性に鑑みまして更生事業推進中央會所定の手續を經、對策協議會に於て可決されたものに對しましては、特に出来る限りの御助力を致し度く用意して居りますから斯る場合は御遠慮なく當部を御利用して頂き度い存じます。

### 更生事業對策協議會設置要綱

一、更生事業對策協議會は經濟安定本部に置く。

- （一）本協議會の委員は經濟安定本部、戰災復興院、外務、大蔵、商工、農林、運輸、通信、厚生各省の關係部局長とする。
- 三、本協議會に幹事を置き本員を輔佐せしめる。
- 四、本協議會は在外企業の更生轉換、引揚者の事業助成並に在外企業の整理に關する關係官廳の連絡を圖ることを目ざす。
- 五、委員及幹事は左を豫定する。
- 委員 幹事
- （一）内閣  
經濟安定本部第一、四部長  
經濟安定本部第一、四副部長  
戰災復興院計畫局長 同部員  
計畫課長
- （二）外務省  
管理局長  
經濟在外邦人課長及課員  
（三）大蔵省  
特殊財務部長  
理財局長  
管理課長及課員  
外資經濟課長  
（銀行局）復興金融課長  
（商工省）  
總務局長  
産業復興局長  
總務課長及課員  
企業課長  
（機械局）機政課長  
（賠償實施局）作業課長  
（鐵道局）鐵政課長  
（化學局）化政課長  
（鑛山局）鑛政課長  
（貿易局）企畫課長
- （五）農林省  
總務局長  
開拓局長  
（六）委員會及幹事會の運營に付ては別に定める
- 財團法人 更生事業推進中央會寄附行爲
- 第一章 名稱及び事務所
- 第一條 本會は財團法人更生事業推進中央會と稱する。
- 第二條 本會は本部を東京都港區に置く。
- 理事會の議決を経て必要の地に支部を置くことができ
- 第二章 目的及び事業
- 第三條 本會は引揚者等が國內企業として更生轉換するために産業經濟の各分野にわたつて當面する各種の障害を除去して均等なる機會を與え、且つその企業に關する知識、經驗、組織、技術等を活用し、もつて積極的に産業の復興に參加せしめ、わが國民經濟の再建に寄與するを目的とする。
- 第四條 本會は前條の目的を達成するため左の事業を行

一、在外企業の國內轉換整  
理の輪流指導  
二、引揚者等の企業に對し  
公共ならびに民間企業の  
門戸開放に關する連絡幹  
旋  
三、引揚者等の企業相談な  
らびに企業計畫の審査及  
びこれに對する資金、資  
材等の斡旋  
四、前號の企業に關する調  
査研究立案並らびに經營  
及び技術の指導  
五、在外企業の國內保有財  
產等の保全管理  
六、その他本會の目的を達  
するに必要な事業  
第三章 資產及會計  
第五條 本會の資產は設立者  
の寄附した別紙目録の財  
產、補助金、寄附金會費及  
びその他の收入より成る  
第六條 本會の經費は資產を  
もつてこれを支辨する  
第七條 本會の會計年度は毎  
年四月一日に始まり翌年三  
月三十一日に終る  
第四章 役員及び顧問  
第八條 本會に左の役員を置  
く  
會長 一名  
副會長 三名  
理事 若干名  
監事 若干名  
（内若干名を常務理事とす  
る）  
（内一名を常任とするこ  
とができる）  
評議員 若干名  
第九條 會長及び副會長は理  
事中よりこれを互選する  
會長は本會の業務を統轄し  
本會を代表する  
副會長は會長を補佐し會長  
事故あるときは豫め定めた  
順位によつてその職務を代  
理する。なお會長の指名に  
よつて會務を分掌すること  
ができる  
第十條 理事及び監事は評議  
員中よりこれを互選する  
理事は理事會を組織し、且  
つ會長の指名によつて會務  
を分掌する  
常務理事は會長が理事會に  
諮り理事中よりこれを委嘱  
する。常務理事は常務を掌  
る  
監事は本會の業務及び會計  
を監督する  
第十一條 評議員は會員及び  
學識經驗ある者の中より理  
事會の推薦により會長がこ  
れを委嘱する  
第十二條 會長、副會長、理  
事及び評議員の任期は三年  
とし、監事の任期は二年と  
する。但し重任を妨げない  
補缺役員の任期は前任者の  
殘期間とする。役員の任期  
満了の場合にはその後任者  
の就任するまで前任者が其  
の職務を行ふ  
第十三條 本會に顧問を置く  
ことができる  
顧問は理事會の推薦により  
會長がこれを委嘱する  
顧問は本會の事業の運營に  
關し意見を述べ、且つ會長  
の諮問に應ずる  
第五章 評議員會  
及び理事會  
第十四條 評議員會は會長が  
招集する  
評議員會は毎年一回開く。  
なお必要ある場合は臨時に  
招集することができる

第十五條 評議員會に附議す  
る事項は左の通りである  
一、理事、監事の選出  
二、本寄附行爲の變更  
三、本會の解散  
四、豫算及び決算の承認  
五、その他必要な事項  
第十六條 理事會は會長が必  
要と認めるとき隨時これを  
招集する  
第十七條 理事會に附議する  
事項は左の通りである  
一、評議員會に附議する事  
項  
二、本寄附行爲に規定され  
た事項  
三、その他會務の執行に關  
する重要事項  
第十八條 評議員會及び理事  
會の議長には會長となる。  
會長に事故があるときはそ  
の代理者が議長の職務を代  
理する  
第十九條 評議員會及び理事  
會は評議員又は理事の過半  
數が出席しなければ開くこ  
とができない  
評議員會及び理事會の議長  
は出席者の過半数で決め  
る。可否が同數のときは議  
長が決める  
第六章 會員  
第二十條 本會に會員を置く  
ことができる  
會員に關する規定は別にこ  
れを定める  
第七章 運營  
第二十一條 本會の會務を處  
理する爲に事務局、總務委  
員會、指導委員會及び管理  
委員會を置く  
事務局及び各委員會の長に  
は副會長又は各常務理事を  
充てる  
第二十二條 本會に職員を置  
きその事務を處理させる  
職員は會長がこれを任免す  
る  
第二十三條 必要に應じ本會  
に専門部會を置くことがで  
きる  
部會の委員は役員及び學  
識、經驗ある者の中より會  
長がこれを委嘱する  
第八章 補助  
第二十四條 本會解散の場合  
に残餘財産があるときは理  
事會の議決を経て類似の目  
的を有する事業に寄附する  
第二十五條 本寄附行爲の施  
行に關し、必要な規定は理  
事會の議決を経て會長がこ  
れを定める  
附則  
第二十六條 本寄附行爲は設  
立認可の日から有効である  
本會理事  
評議員名簿  
職名  
會長 松嶋 氏  
副會長 白石 氏  
常務理事 濱田 氏  
阿部 氏  
大瀧 氏  
鎌田 氏  
菊澤 氏  
菅波 氏  
鈴木 氏  
武雄 氏

常務理事

理事

興村良知 田村一男 富田吉一 根道義弘 華山義雄 平田貞雄 古宮清松 龍宮清松 堀内直壽 水田昌壽 森田照昌 山際正道 山中德二 入江誠一 岩田喜雄 宇田繁藏 大久保傳藏 大川一太郎 押川俊治 藤田義治 橋見美辰 島崎辰美

評議員

須田二三 須山操 田村彦藏 月岡拾男 伴野清治 星野覺三 森川誠三 柳田誠三 山田義見 橫田通之 青木楠男 青山秀三 赤木朝治 秋田忠義 阿部義宗 石井龍猪 石川一太郎 石橋東洋 稻垣登雄 井上啓次郎 井上春成 岩田公六郎

内海清溫 海野三朗 海野正造 梅野實三 梅林卯三 江守善六 大越親六 大竹平八 岡崎茂樹 岡野友春 沖島謙三 小野英輔 笠井園藏 岸井道三 北代誠一 久保田敬一 久保田豐 窪寺勲 栗木幹一 小平權一 兒玉信次郎 駒形作次

小柳賢一 小柳富太郎 近藤道夫 齊藤之助 坂口主税 坂口芳久 佐賀直光 佐々木直 佐竹晴記 佐藤重器 佐野利器 佐伯平 柴田彦平 清水健二 清水七郎 清水康雄 白田岩夫 白根善一 白根武左衛門 進藤武左衛門 菅野吉誠

杉山滋郎 鈴木格三郎 鈴木茂三郎 須藤全治 千田正一 高橋定一 高橋與一 竹田儀一 田代三郎 堀山誠吉 種ヶ島善吉 田原春次 玉置正治 津下信義 寺崎治作 東島善六 東條正平 戸永彰一 永井彰一 永野重雄 成宮嘉造

西山勉 野村鈞 馬場象夫 馬場敬春 馬場董元 比企元三 人見雄三 平井貞三 平井手三 平野辰三 堀田甚二 藤深威雄 船岡正家 堀岡織家 前田伊織 松本英郎 松本瀧藏 松本雄吉 向井儀作 村越司 安井源吾 安川弟五郎 山口喜久一郎

山口重次 山口政二 山田貞雄 山田克己 山住太郎 渡邊慶之進 昭和二年度 會議會合 五、三〇 本會創立總會 七、一二 第一回理事會 七、一四 第一回常務理事會 以降每月二十三日定例理事會 七、二三 對策協議會幹事會 以降每月二回以上計十二回 一〇、一〇 管理委員會 以降隨時 計七回 指導委員會 隨時開會 專門部會

○民生運商株式會社 吉井俊夫 場所 東京都港谷區上通二丁目七番地 電話赤坂(48)三〇九五番 ○橫濱市鮮魚介小賣商組合 笠原丈三郎 場所 橫濱市中央市場內 ○富士起業株式會社 藤井四郎 場所 千代田區丸ノ内三丁目六三番地二號館二〇六 電話丸ノ内二五〇一三三 ○日本細田調查所 細田榮一 千代田區神田鍛冶町一ノ二 今川橋際大洋ビル二階

昭和二十三年一月十三日印刷  
昭和二十三年一月十四日發行

定價 五 圓

編 輯  
發 行 人

山 中 德 二

印 刷 所

東京都新宿區百人町二ノ二五九  
共 存 社 印 刷 所

發 行 所

東京都港區芝田村町一ノ二日産館内  
財團 更生事業推進中央會

海外事業戰後對策中央協議會

東京都千代田區富士見町一ノ一〇  
(共済ビル)  
電話 九段(33)四〇・九二番



## U

總論 各論

(5) 入道、清長

2021

(四) 社会状况，及转

经济快起，变化  
财产，冻结。

個人生活。現代一家庭總數，立憲國產教（1905）。

[illegible]

供出物资(品种别)数量、累积价格)1003

税金、公摊金（税金、福利、盈余、折旧状况）

不償、所會費。(金額、翻付狀況)

種別調查(40%)耳介構成(40%)  
產後配給狀況、其他生活必需品・配給狀況 70% 4

物価統計と計算統計 (1968, 1966-422)

張氏

執行的計畫

稼働者状況 (全人口に対する比率) 2009

方格售出狀況(技術一般、月別售出數) 2009

現金及現物支給状況（一人当り） 2009.10.

事故(死亡、負傷)、状況

(二) 生活會, 活動狀況

敬啟者

設臧員、移物狀、說、胸臧者、

事業概況

收入歲出狀況 借入金 高師金狀況 (1/31)

(五) 避艱者因係

通鑑輯覽 卷八 穆宗 死之使制 1181 4-31

收容状况 集体收容 家庭收容状况 2035 206~5

林部有林況收入狀況 (70-5, 706-4, 82)

夜餐 其他物品支給 = 係以計上  
夜餐 其他物品支給 = 係以計上

現在 5 條 = 100 枚

文清若水

校香 辭大 考 校 香

在任者以  
金精為一  
以故清心

1000

清名者謂之

日本、清生、大庭、  
12071

傳染病發生，死之狀況

病院、運米状況、之が中心に、東地 (257)

入院患者 11 例 便行 (係淋病、1 例)

井里及諸軍物隨十餘方  
孤收冬衣、莊田、收齊人

學核南設計圖 校收存入庫 11.03.13

其他諸團件之現狀況

社會主義同盟其他諸團體之活動狀況

社會主義問題

現代研究

经济研究

死に皆 査 (1945.9.14 ~ 1946.4.20) 死に 査 (1945.10.7 ~ 1946.4.20)

在	理
13	175
204	713
33	444
6	10

五  
四  
三  
二  
一

姓名	性别	年龄	职业	住址
王XX	男	30	教师	XX路XX号
李XX	女	25	护士	XX街XX号
张XX	男	35	工人	XX村XX组
赵XX	女	28	医生	XX镇XX村
孙XX	男	40	农民	XX乡XX村
周XX	女	32	干部	XX市XX区
吴XX	男	22	学生	XX县XX镇
郑XX	女	20	职员	XX路XX号
王XX	男	38	工人	XX街XX号
李XX	女	26	教师	XX村XX组
张XX	男	33	医生	XX镇XX村
赵XX	女	29	农民	XX乡XX村
孙XX	男	42	干部	XX市XX区
周XX	女	31	工人	XX路XX号
吴XX	男	23	学生	XX县XX镇
郑XX	女	21	职员	XX街XX号

社會減少犯罪書 (1946年 重刊)

品名	数量	单位	金额	备注
1. 面粉	55	20.00		
2. 大米	35	40.00		
3. 菜油	15	00		
4. 猪肉	14	34.00		
5. 鸡蛋	14	34.00		
6. 鸭蛋	30	00		
7. 鸭蛋	30	00		
8. 鸭蛋	30	00		
9. 鸭蛋	30	00		
10. 鸭蛋	30	00		
11. 鸭蛋	30	00		
12. 鸭蛋	30	00		
13. 鸭蛋	30	00		
14. 鸭蛋	30	00		
15. 鸭蛋	30	00		
16. 鸭蛋	30	00		
17. 鸭蛋	30	00		
18. 鸭蛋	30	00		
19. 鸭蛋	30	00		
20. 鸭蛋	30	00		
21. 鸭蛋	30	00		
22. 鸭蛋	30	00		
23. 鸭蛋	30	00		
24. 鸭蛋	30	00		
25. 鸭蛋	30	00		
26. 鸭蛋	30	00		
27. 鸭蛋	30	00		
28. 鸭蛋	30	00		
29. 鸭蛋	30	00		
30. 鸭蛋	30	00		
31. 鸭蛋	30	00		
32. 鸭蛋	30	00		
33. 鸭蛋	30	00		
34. 鸭蛋	30	00		
35. 鸭蛋	30	00		
36. 鸭蛋	30	00		
37. 鸭蛋	30	00		
38. 鸭蛋	30	00		
39. 鸭蛋	30	00		
40. 鸭蛋	30	00		
41. 鸭蛋	30	00		
42. 鸭蛋	30	00		
43. 鸭蛋	30	00		
44. 鸭蛋	30	00		
45. 鸭蛋	30	00		
46. 鸭蛋	30	00		
47. 鸭蛋	30	00		
48. 鸭蛋	30	00		
49. 鸭蛋	30	00		
50. 鸭蛋	30	00		
51. 鸭蛋	30	00		
52. 鸭蛋	30	00		
53. 鸭蛋	30	00		
54. 鸭蛋	30	00		
55. 鸭蛋	30	00		
56. 鸭蛋	30	00		
57. 鸭蛋	30	00		
58. 鸭蛋	30	00		
59. 鸭蛋	30	00		
60. 鸭蛋	30	00		
61. 鸭蛋	30	00		
62. 鸭蛋	30	00		
63. 鸭蛋	30	00		
64. 鸭蛋	30	00		
65. 鸭蛋	30	00		
66. 鸭蛋	30	00		
67. 鸭蛋	30	00		
68. 鸭蛋	30	00		
69. 鸭蛋	30	00		
70. 鸭蛋	30	00		
71. 鸭蛋	30	00		
72. 鸭蛋	30	00		
73. 鸭蛋	30	00		
74. 鸭蛋	30	00		
75. 鸭蛋	30	00		
76. 鸭蛋	30	00		
77. 鸭蛋	30	00		
78. 鸭蛋	30	00		
79. 鸭蛋	30	00		
80. 鸭蛋	30	00		
81. 鸭蛋	30	00		
82. 鸭蛋	30	00		
83. 鸭蛋	30	00		
84. 鸭蛋	30	00		
85. 鸭蛋	30	00		
86. 鸭蛋	30	00		
87. 鸭蛋	30	00		
88. 鸭蛋	30	00		
89. 鸭蛋	30	00		
90. 鸭蛋	30	00		
91. 鸭蛋	30	00		
92. 鸭蛋	30	00		

歲入歲出決算書

[illegible]



氏名		年令	性別	系籍	現住所	死因
24	山崎 新藏	47	男	山口	山口三ノ一	肺病
22	山崎 美子	46	女	山口	山口三ノ一	肺病
21	山崎 三郎	45	男	山口	山口三ノ一	肺病
20	山崎 三郎	44	男	山口	山口三ノ一	肺病
19	山崎 三郎	43	男	山口	山口三ノ一	肺病
18	山崎 三郎	42	男	山口	山口三ノ一	肺病
17	山崎 三郎	41	男	山口	山口三ノ一	肺病
16	山崎 三郎	40	男	山口	山口三ノ一	肺病
15	山崎 三郎	39	男	山口	山口三ノ一	肺病
14	山崎 三郎	38	男	山口	山口三ノ一	肺病
13	山崎 三郎	37	男	山口	山口三ノ一	肺病
12	山崎 三郎	36	男	山口	山口三ノ一	肺病
11	山崎 三郎	35	男	山口	山口三ノ一	肺病
10	山崎 三郎	34	男	山口	山口三ノ一	肺病
9	山崎 三郎	33	男	山口	山口三ノ一	肺病
8	山崎 三郎	32	男	山口	山口三ノ一	肺病
7	山崎 三郎	31	男	山口	山口三ノ一	肺病
6	山崎 三郎	30	男	山口	山口三ノ一	肺病
5	山崎 三郎	29	男	山口	山口三ノ一	肺病
4	山崎 三郎	28	男	山口	山口三ノ一	肺病
3	山崎 三郎	27	男	山口	山口三ノ一	肺病
2	山崎 三郎	26	男	山口	山口三ノ一	肺病
1	山崎 三郎	25	男	山口	山口三ノ一	肺病
29	山崎 三郎	24	男	山口	山口三ノ一	肺病
28	山崎 三郎	23	男	山口	山口三ノ一	肺病
27	山崎 三郎	22	男	山口	山口三ノ一	肺病
26	山崎 三郎	21	男	山口	山口三ノ一	肺病
25	山崎 三郎	20	男	山口	山口三ノ一	肺病
24	山崎 三郎	19	男	山口	山口三ノ一	肺病
23	山崎 三郎	18	男	山口	山口三ノ一	肺病
22	山崎 三郎	17	男	山口	山口三ノ一	肺病
21	山崎 三郎	16	男	山口	山口三ノ一	肺病
20	山崎 三郎	15	男	山口	山口三ノ一	肺病
19	山崎 三郎	14	男	山口	山口三ノ一	肺病
18	山崎 三郎	13	男	山口	山口三ノ一	肺病
17	山崎 三郎	12	男	山口	山口三ノ一	肺病
16	山崎 三郎	11	男	山口	山口三ノ一	肺病
15	山崎 三郎	10	男	山口	山口三ノ一	肺病
14	山崎 三郎	9	男	山口	山口三ノ一	肺病
13	山崎 三郎	8	男	山口	山口三ノ一	肺病
12	山崎 三郎	7	男	山口	山口三ノ一	肺病
11	山崎 三郎	6	男	山口	山口三ノ一	肺病
10	山崎 三郎	5	男	山口	山口三ノ一	肺病
9	山崎 三郎	4	男	山口	山口三ノ一	肺病
8	山崎 三郎	3	男	山口	山口三ノ一	肺病
7	山崎 三郎	2	男	山口	山口三ノ一	肺病
6	山崎 三郎	1	男	山口	山口三ノ一	肺病
5	山崎 三郎	0	男	山口	山口三ノ一	肺病
4	山崎 三郎	0	男	山口	山口三ノ一	肺病
3	山崎 三郎	0	男	山口	山口三ノ一	肺病
2	山崎 三郎	0	男	山口	山口三ノ一	肺病
1	山崎 三郎	0	男	山口	山口三ノ一	肺病

[illegible]

[illegible]

[illegible]



月	日	姓名	年令	性別	原籍	現住所	死因
1	1	子子	4	男	山	春日山	急死
1	2	子子	4	男	山	春日山	急死
1	3	子子	4	男	山	春日山	急死
1	4	子子	4	男	山	春日山	急死
1	5	子子	4	男	山	春日山	急死
1	6	子子	4	男	山	春日山	急死
1	7	子子	4	男	山	春日山	急死
1	8	子子	4	男	山	春日山	急死
1	9	子子	4	男	山	春日山	急死
1	10	子子	4	男	山	春日山	急死
1	11	子子	4	男	山	春日山	急死
1	12	子子	4	男	山	春日山	急死
1	13	子子	4	男	山	春日山	急死
1	14	子子	4	男	山	春日山	急死
1	15	子子	4	男	山	春日山	急死
1	16	子子	4	男	山	春日山	急死
1	17	子子	4	男	山	春日山	急死
1	18	子子	4	男	山	春日山	急死
1	19	子子	4	男	山	春日山	急死
1	20	子子	4	男	山	春日山	急死
1	21	子子	4	男	山	春日山	急死
1	22	子子	4	男	山	春日山	急死
1	23	子子	4	男	山	春日山	急死
1	24	子子	4	男	山	春日山	急死
1	25	子子	4	男	山	春日山	急死
1	26	子子	4	男	山	春日山	急死
1	27	子子	4	男	山	春日山	急死
1	28	子子	4	男	山	春日山	急死
1	29	子子	4	男	山	春日山	急死
1	30	子子	4	男	山	春日山	急死
1	31	子子	4	男	山	春日山	急死
1	32	子子	4	男	山	春日山	急死
1	33	子子	4	男	山	春日山	急死
1	34	子子	4	男	山	春日山	急死
1	35	子子	4	男	山	春日山	急死
1	36	子子	4	男	山	春日山	急死
1	37	子子	4	男	山	春日山	急死
1	38	子子	4	男	山	春日山	急死
1	39	子子	4	男	山	春日山	急死
1	40	子子	4	男	山	春日山	急死
1	41	子子	4	男	山	春日山	急死
1	42	子子	4	男	山	春日山	急死
1	43	子子	4	男	山	春日山	急死
1	44	子子	4	男	山	春日山	急死
1	45	子子	4	男	山	春日山	急死
1	46	子子	4	男	山	春日山	急死
1	47	子子	4	男	山	春日山	急死
1	48	子子	4	男	山	春日山	急死
1	49	子子	4	男	山	春日山	急死
1	50	子子	4	男	山	春日山	急死
1	51	子子	4	男	山	春日山	急死
1	52	子子	4	男	山	春日山	急死
1	53	子子	4	男	山	春日山	急死
1	54	子子	4	男	山	春日山	急死
1	55	子子	4	男	山	春日山	急死
1	56	子子	4	男	山	春日山	急死
1	57	子子	4	男	山	春日山	急死
1	58	子子	4	男	山	春日山	急死
1	59	子子	4	男	山	春日山	急死
1	60	子子	4	男	山	春日山	急死

死 亡 日 記 簿 (避難者)

日	氏名	年令	性別	原籍	現住所	死因
21	山崎 三郎	35	男	新潟県	新潟県 新潟市	肺炎
22	田中 一郎	42	男	東京都	東京都 豊田町	心臓病
23	佐藤 五郎	28	男	大阪府	大阪府 大阪市	交通事故
24	鈴木 次郎	31	男	神奈川県	神奈川県 横浜市中区	胃癌
25	高橋 八郎	45	男	福岡県	福岡県 福岡市	糖尿病
26	中村 九郎	38	男	愛知県	愛知県 名古屋市	脳卒中
27	山本 十郎	50	男	北海道	北海道 札幌市	肺癌
28	佐々木 十一郎	40	男	千葉県	千葉県 千葉市	腎臓病
29	渡辺 十二郎	33	男	埼玉県	埼玉県 さいたま市	肝炎
30	森田 十三郎	25	男	茨城県	茨城県 水戸市	白血病
31	山崎 十四郎	37	男	新潟県	新潟県 新潟市	肺炎
1	田中 十五郎	41	男	東京都	東京都 豊田町	心臓病
2	佐藤 十六郎	29	男	大阪府	大阪府 大阪市	交通事故
3	鈴木 十七郎	32	男	神奈川県	神奈川県 横浜市中区	胃癌
4	高橋 十八郎	46	男	福岡県	福岡県 福岡市	糖尿病
5	中村 十九郎	39	男	愛知県	愛知県 名古屋市	脳卒中
6	山本 二十郎	51	男	北海道	北海道 札幌市	肺癌
7	佐々木 二十一郎	43	男	千葉県	千葉県 千葉市	腎臓病
8	渡辺 二十二郎	34	男	埼玉県	埼玉県 さいたま市	肝炎
9	森田 二十三郎	26	男	茨城県	茨城県 水戸市	白血病
10	山崎 二十四郎	38	男	新潟県	新潟県 新潟市	肺炎
11	田中 二十五郎	42	男	東京都	東京都 豊田町	心臓病
12	佐藤 二十六郎	30	男	大阪府	大阪府 大阪市	交通事故
13	鈴木 二十七郎	33	男	神奈川県	神奈川県 横浜市中区	胃癌
14	高橋 二十八郎	47	男	福岡県	福岡県 福岡市	糖尿病
15	中村 二十九郎	40	男	愛知県	愛知県 名古屋市	脳卒中
16	山本 三十郎	52	男	北海道	北海道 札幌市	肺癌
17	佐々木 三十一郎	44	男	千葉県	千葉県 千葉市	腎臓病
18	渡辺 三十二郎	35	男	埼玉県	埼玉県 さいたま市	肝炎
19	森田 三十三郎	27	男	茨城県	茨城県 水戸市	白血病
20	山崎 三十四郎	39	男	新潟県	新潟県 新潟市	肺炎
21	田中 三十五郎	43	男	東京都	東京都 豊田町	心臓病
22	佐藤 三十六郎	31	男	大阪府	大阪府 大阪市	交通事故
23	鈴木 三十七郎	34	男	神奈川県	神奈川県 横浜市中区	胃癌
24	高橋 三十八郎	48	男	福岡県	福岡県 福岡市	糖尿病
25	中村 三十九郎	41	男	愛知県	愛知県 名古屋市	脳卒中
26	山本 四十郎	53	男	北海道	北海道 札幌市	肺癌
27	佐々木 四十一郎	45	男	千葉県	千葉県 千葉市	腎臓病
28	渡辺 四十二郎	36	男	埼玉県	埼玉県 さいたま市	肝炎
29	森田 四十三郎	28	男	茨城県	茨城県 水戸市	白血病
30	山崎 四十四郎	40	男	新潟県	新潟県 新潟市	肺炎
31	田中 四十五郎	44	男	東京都	東京都 豊田町	心臓病
1	佐藤 四十六郎	32	男	大阪府	大阪府 大阪市	交通事故
2	鈴木 四十七郎	35	男	神奈川県	神奈川県 横浜市中区	胃癌
3	高橋 四十八郎	49	男	福岡県	福岡県 福岡市	糖尿病
4	中村 四十九郎	42	男	愛知県	愛知県 名古屋市	脳卒中
5	山本 五十郎	54	男	北海道	北海道 札幌市	肺癌
6	佐々木 五十一郎	46	男	千葉県	千葉県 千葉市	腎臓病
7	渡辺 五十二郎	37	男	埼玉県	埼玉県 さいたま市	肝炎
8	森田 五十三郎	29	男	茨城県	茨城県 水戸市	白血病
9	山崎 五十四郎	41	男	新潟県	新潟県 新潟市	肺炎
10	田中 五十五郎	45	男	東京都	東京都 豊田町	心臓病
11	佐藤 五十六郎	33	男	大阪府	大阪府 大阪市	交通事故
12	鈴木 五十七郎	36	男	神奈川県	神奈川県 横浜市中区	胃癌
13	高橋 五十八郎	50	男	福岡県	福岡県 福岡市	糖尿病
14	中村 五十九郎	43	男	愛知県	愛知県 名古屋市	脳卒中
15	山本 六十郎	55	男	北海道	北海道 札幌市	肺癌
16	佐々木 六十一郎	47	男	千葉県	千葉県 千葉市	腎臓病
17	渡辺 六十二郎	38	男	埼玉県	埼玉県 さいたま市	肝炎
18	森田 六十三郎	30	男	茨城県	茨城県 水戸市	白血病
19	山崎 六十四郎	42	男	新潟県	新潟県 新潟市	肺炎
20	田中 六十五郎	46	男	東京都	東京都 豊田町	心臓病
21	佐藤 六十六郎	34	男	大阪府	大阪府 大阪市	交通事故
22	鈴木 六十七郎	37	男	神奈川県	神奈川県 横浜市中区	胃癌
23	高橋 六十八郎	51	男	福岡県	福岡県 福岡市	糖尿病
24	中村 六十九郎	44	男	愛知県	愛知県 名古屋市	脳卒中
25	山本 七十郎	56	男	北海道	北海道 札幌市	肺癌
26	佐々木 七十一郎	48	男	千葉県	千葉県 千葉市	腎臓病
27	渡辺 七十二郎	39	男	埼玉県	埼玉県 さいたま市	肝炎
28	森田 七十三郎	31	男	茨城県	茨城県 水戸市	白血病
29	山崎 七十四郎	43	男	新潟県	新潟県 新潟市	肺炎
30	田中 七十五郎	47	男	東京都	東京都 豊田町	心臓病
31	佐藤 七十六郎	35	男	大阪府	大阪府 大阪市	交通事故
1	鈴木 七十七郎	38	男	神奈川県	神奈川県 横浜市中区	胃癌
2	高橋 七十八郎	52	男	福岡県	福岡県 福岡市	糖尿病
3	中村 七十九郎	45	男	愛知県	愛知県 名古屋市	脳卒中
4	山本 八十郎	57	男	北海道	北海道 札幌市	肺癌
5	佐々木 八十一郎	49	男	千葉県	千葉県 千葉市	腎臓病
6	渡辺 八十二郎	40	男	埼玉県	埼玉県 さいたま市	肝炎
7	森田 八十三郎	32	男	茨城県	茨城県 水戸市	白血病
8	山崎 八十四郎	44	男	新潟県	新潟県 新潟市	肺炎
9	田中 八十五郎	48	男	東京都	東京都 豊田町	心臓病
10	佐藤 八十六郎	36	男	大阪府	大阪府 大阪市	交通事故
11	鈴木 八十七郎	39	男	神奈川県	神奈川県 横浜市中区	胃癌
12	高橋 八十八郎	53	男	福岡県	福岡県 福岡市	糖尿病
13	中村 八十九郎	46	男	愛知県	愛知県 名古屋市	脳卒中
14	山本 九十郎	58	男	北海道	北海道 札幌市	肺癌
15	佐々木 九十一郎	50	男	千葉県	千葉県 千葉市	腎臓病
16	渡辺 九十二郎	41	男	埼玉県	埼玉県 さいたま市	肝炎
17	森田 九十三郎	33	男	茨城県	茨城県 水戸市	白血病
18	山崎 九十四郎	45	男	新潟県	新潟県 新潟市	肺炎
19	田中 九十五郎	49	男	東京都	東京都 豊田町	心臓病
20	佐藤 九十六郎	37	男	大阪府	大阪府 大阪市	交通事故
21	鈴木 九十七郎	40	男	神奈川県	神奈川県 横浜市中区	胃癌
22	高橋 九十八郎	54	男	福岡県	福岡県 福岡市	糖尿病
23	中村 九十九郎	47	男	愛知県	愛知県 名古屋市	脳卒中
24	山本 一百郎	59	男	北海道	北海道 札幌市	肺癌
25	佐々木 一百零一	51	男	千葉県	千葉県 千葉市	腎臓病
26	渡辺 一百零二	42	男	埼玉県	埼玉県 さいたま市	肝炎
27	森田 一百零三	34	男	茨城県	茨城県 水戸市	白血病
28	山崎 一百零四	46	男	新潟県	新潟県 新潟市	肺炎
29	田中 一百零五	50	男	東京都	東京都 豊田町	心臓病
30	佐藤 一百零六	38	男	大阪府	大阪府 大阪市	交通事故
31	鈴木 一百零七	41	男	神奈川県	神奈川県 横浜市中区	胃癌
1	高橋 一百零八	55	男	福岡県	福岡県 福岡市	糖尿病
2	中村 一百零九	48	男	愛知県	愛知県 名古屋市	脳卒中
3	山本 一百一十	60	男	北海道	北海道 札幌市	肺癌
4	佐々木 一百一十一	52	男	千葉県	千葉県 千葉市	腎臓病
5	渡辺 一百一十二	43	男	埼玉県	埼玉県 さいたま市	肝炎
6	森田 一百一十三	35	男	茨城県	茨城県 水戸市	白血病
7	山崎 一百一十四	47	男	新潟県	新潟県 新潟市	肺炎
8	田中 一百一十五	51	男	東京都	東京都 豊田町	心臓病
9	佐藤 一百一十六	39	男	大阪府	大阪府 大阪市	交通事故
10	鈴木 一百一十七	42	男	神奈川県	神奈川県 横浜市中区	胃癌
11	高橋 一百一十八	56	男	福岡県	福岡県 福岡市	糖尿病
12	中村 一百一十九	49	男	愛知県	愛知県 名古屋市	脳卒中
13	山本 一百二十	61	男	北海道	北海道 札幌市	肺癌
14	佐々木 一百二十一	53	男	千葉県	千葉県 千葉市	腎臓病
15	渡辺 一百二十二	44	男	埼玉県	埼玉県 さいたま市	肝炎
16	森田 一百二十三	36	男	茨城県	茨城県 水戸市	白血病
17	山崎 一百二十四	48	男	新潟県	新潟県 新潟市	肺炎
18	田中 一百二十五	52	男	東京都	東京都 豊田町	心臓病
19	佐藤 一百二十六	40	男	大阪府	大阪府 大阪市	交通事故
20	鈴木 一百二十七	43	男	神奈川県	神奈川県 横浜市中区	胃癌
21	高橋 一百二十八	57	男	福岡県	福岡県 福岡市	糖尿病
22	中村 一百二十九	50	男	愛知県	愛知県 名古屋市	脳卒中
23	山本 一百三十	62	男	北海道	北海道 札幌市	肺癌
24	佐々木 一百三十一	54	男	千葉県	千葉県 千葉市	腎臓病
25	渡辺 一百三十二	45	男	埼玉県	埼玉県 さいたま市	肝炎
26	森田 一百三十三	37	男	茨城県	茨城県 水戸市	白血病
27	山崎 一百三十四	49	男	新潟県	新潟県 新潟市	肺炎
28	田中 一百三十五	53	男	東京都	東京都 豊田町	心臓病
29	佐藤 一百三十六	41	男	大阪府	大阪府 大阪市	交通事故
30	鈴木 一百三十七	44	男	神奈川県	神奈川県 横浜市中区	胃癌
31	高橋 一百三十八	58	男	福岡県	福岡県 福岡市	糖尿病
1	中村 一百三十九	51	男	愛知県	愛知県 名古屋市	脳卒中
2	山本 一百四十	63	男	北海道	北海道 札幌市	肺癌
3	佐々木 一百四十一	55	男	千葉県	千葉県 千葉市	腎臓病
4	渡辺 一百四十二	46	男	埼玉県	埼玉県 さいたま市	肝炎
5	森田 一百四十三	38	男	茨城県	茨城県 水戸市	白血病
6	山崎 一百四十四	50	男	新潟県	新潟県 新潟市	肺炎
7	田中 一百四十五	54	男	東京都	東京都 豊田町	心臓病
8	佐藤 一百四十六	42	男	大阪府	大阪府 大阪市	交通事故
9	鈴木 一百四十七	45	男	神奈川県	神奈川県 横浜市中区	胃癌
10	高橋 一百四十八	59	男	福岡県	福岡県 福岡市	糖尿病
11	中村 一百四十九	52	男	愛知県	愛知県 名古屋市	脳卒中
12	山本 一百五十	64	男	北海道	北海道 札幌市	肺癌
13	佐々木 一百五十一	56	男	千葉県	千葉県 千葉市	腎臓病
14	渡辺 一百五十二	47	男	埼玉県	埼玉県 さいたま市	肝炎
15	森田 一百五十三	39	男	茨城県	茨城県 水戸市	白血病
16	山崎 一百五十四	51	男	新潟県	新潟県 新潟市	肺炎
17	田中 一百五十五	55	男	東京都	東京都 豊田町	心臓病
18	佐藤 一百五十六	43	男	大阪府	大阪府 大阪市	交通事故
19	鈴木 一百五十七	46	男	神奈川県	神奈川県 横浜市中区	胃癌
20	高橋 一百五十八	60	男	福岡県	福岡県 福岡市	糖尿病
21	中村 一百五十九	53	男	愛知県	愛知県 名古屋市	脳卒中
22	山本 一百六十	65	男	北海道	北海道 札幌市	肺癌
23	佐々木 一百六十一	57	男	千葉県	千葉県 千葉市	腎臓病
24	渡辺 一百六十二	48	男	埼玉県	埼玉県 さいたま市	肝炎
25	森田 一百六十三	40	男	茨城県	茨城県 水戸市	白血病
26	山崎 一百六十四	52	男	新潟県	新潟県 新潟市	肺炎
27	田中 一百六十五	56	男	東京都	東京都 豊田町	心臓病
28	佐藤 一百六十六	44	男	大阪府	大阪府 大阪市	交通事故
29	鈴木 一百六十七	47	男	神奈川県	神奈川県 横浜市中区	胃癌
30	高橋 一百六十八	61	男	福岡県	福岡県 福岡市	糖尿病
31	中村 一百六十九	54	男	愛知県	愛知県 名古屋市	脳卒中
1	山本 一百七十	66	男	北海道	北海道 札幌市	肺癌
2	佐々木 一百七十一	58	男	千葉県	千葉県 千葉市	腎臓病
3	渡辺 一百七十二	49	男	埼玉県	埼玉県 さいたま市	肝炎
4	森田 一百七十三	41	男	茨城県	茨城県 水戸市	白血病
5	山崎 一百七十四	53	男	新潟県	新潟県 新潟市	肺炎
6	田中 一百七十五	57	男	東京都	東京都 豊田町	心臓病
7	佐藤 一百七十六	45	男	大阪府	大阪府 大阪市	交通事故
8	鈴木 一百七十七	48	男	神奈川県	神奈川県 横浜市中区	胃癌
9	高橋 一百七十八	62	男	福岡県	福岡県 福岡市	糖尿病
10	中村 一百七十九	55	男	愛知県	愛知県 名古屋市	脳卒中
11	山本 一百八十	67	男	北海道	北海道 札幌市	肺癌
12	佐々木 一百八十一	59	男	千葉県	千葉県 千葉市	腎臓病
13	渡辺 一百八十二	50	男	埼玉県	埼玉県 さいたま市	肝炎
14	森田 一百八十三	42	男	茨城県	茨城県 水戸市	白血病
15	山崎 一百八十四	54	男	新潟県	新潟県 新潟市	肺炎
16	田中 一百八十五	58	男	東京都	東京都 豊田町	心臓病
17	佐藤 一百八十六	46	男	大阪府	大阪府 大阪市	交通事故
18	鈴木 一百八十七	49	男	神奈川県	神奈川県 横浜市中区	胃癌
19	高橋 一百八十八	63	男	福岡県	福岡県 福岡市	糖尿病
20	中村 一百八十九	56	男	愛知県	愛知県 名古屋市	脳卒中
21	山本 一百九十	68	男	北海道	北海道 札幌市	肺癌
22	佐々木 一百九十一	60	男	千葉県	千葉県 千葉市	腎臓病
23	渡辺 一百九十二	51	男	埼玉県	埼玉県 さいたま市	肝炎
24	森田 一百九十三	43	男	茨城県	茨城県 水戸市	白血病
25	山崎 一百九十四	55	男	新潟県	新潟県 新潟市	肺炎
26	田中 一百九十五	59	男	東京都	東京都 豊田町	心臓病
27	佐藤 一百九十六	47	男	大阪府	大阪府 大阪市	交通事故
28	鈴木 一百九十七	50	男	神奈川県	神奈川県 横浜市中区	胃癌
29	高橋 一百九十八	64	男	福岡県	福岡県 福岡市	糖尿病
30	中村 一百九十九	57	男	愛知県	愛知県 名古屋市	脳卒中
31	山本 二百	69	男	北海道	北海道 札幌市	肺癌

[illegible]

[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



12	1	31	29	28 27	11
尾田興次	尾田興次	尾田興次	尾田興次	尾田興次	尾田興次
五	五	五	五	五	五
男	男	男	男	男	男
石川	石川	石川	石川	石川	石川
仲所	仲所	仲所	仲所	仲所	仲所
肺	肺	肺	肺	肺	肺

27	26	24	24	24	24
尾田興次	尾田興次	尾田興次	尾田興次	尾田興次	尾田興次
五	五	五	五	五	五
男	男	男	男	男	男
石川	石川	石川	石川	石川	石川
仲所	仲所	仲所	仲所	仲所	仲所
肺	肺	肺	肺	肺	肺

17

因... 17

... 17

... 17

... 17

...

...

...

...

...















29	日比野完二	男	神奈川	明治三十四	榮養不良
30	後藤隆子	女	大分	明治三十四	肺膜炎
31	橋田妙子	女	愛媛	明治三十四	榮養不良
32	田中つじ	男	神奈川	明治三十四	榮養不良
33	柳田信恵	女	山形	明治三十四	榮養不良
34	五十嵐久子	女	山形	明治三十四	榮養不良
35	上野篤子	女	山形	明治三十四	榮養不良
36	加藤穂香	女	山形	明治三十四	榮養不良
37	柳井忠男	男	山形	明治三十四	榮養不良
38	宇原武志	男	山形	明治三十四	榮養不良
39	木村邦恵	女	山形	明治三十四	榮養不良
40	冬藤一夫	男	山形	明治三十四	榮養不良
41	小畑菊治	男	山形	明治三十四	榮養不良
42	村上タミエ	女	山形	明治三十四	榮養不良
43	中島典枝	女	山形	明治三十四	榮養不良
44	丸山哲男	男	山形	明治三十四	榮養不良
45	柳三恵紀枝	女	山形	明治三十四	榮養不良
46	森下五郎	男	山形	明治三十四	榮養不良
47	中島(タミエ)	女	山形	明治三十四	榮養不良
48	篠田隆	男	山形	明治三十四	榮養不良
49	佐藤トメ	女	山形	明治三十四	榮養不良
50	和山シズ	女	山形	明治三十四	榮養不良
51	田中征志	男	山形	明治三十四	榮養不良
52	山口公子	女	山形	明治三十四	榮養不良
53	中村淳子	女	山形	明治三十四	榮養不良
54	尾崎芳枝	女	山形	明治三十四	榮養不良
55	秋田三子	女	山形	明治三十四	榮養不良
56	石崎芳枝	女	山形	明治三十四	榮養不良
57	宇地政	女	山形	明治三十四	榮養不良
58	山本弘隆	女	山形	明治三十四	榮養不良
59	内海八重子	女	山形	明治三十四	榮養不良
60	津村良子	女	山形	明治三十四	榮養不良
61	西野ハル	女	山形	明治三十四	榮養不良
62	倉本三子	女	山形	明治三十四	榮養不良
63	中西三子	女	山形	明治三十四	榮養不良
64	山本弘隆	女	山形	明治三十四	榮養不良
65	内海八重子	女	山形	明治三十四	榮養不良
66	津村良子	女	山形	明治三十四	榮養不良
67	西野ハル	女	山形	明治三十四	榮養不良
68	倉本三子	女	山形	明治三十四	榮養不良
69	中西三子	女	山形	明治三十四	榮養不良
70	山本弘隆	女	山形	明治三十四	榮養不良
71	内海八重子	女	山形	明治三十四	榮養不良
72	津村良子	女	山形	明治三十四	榮養不良
73	西野ハル	女	山形	明治三十四	榮養不良
74	倉本三子	女	山形	明治三十四	榮養不良
75	中西三子	女	山形	明治三十四	榮養不良
76	山本弘隆	女	山形	明治三十四	榮養不良
77	内海八重子	女	山形	明治三十四	榮養不良
78	津村良子	女	山形	明治三十四	榮養不良
79	西野ハル	女	山形	明治三十四	榮養不良
80	倉本三子	女	山形	明治三十四	榮養不良
81	中西三子	女	山形	明治三十四	榮養不良
82	山本弘隆	女	山形	明治三十四	榮養不良
83	内海八重子	女	山形	明治三十四	榮養不良
84	津村良子	女	山形	明治三十四	榮養不良
85	西野ハル	女	山形	明治三十四	榮養不良
86	倉本三子	女	山形	明治三十四	榮養不良
87	中西三子	女	山形	明治三十四	榮養不良
88	山本弘隆	女	山形	明治三十四	榮養不良
89	内海八重子	女	山形	明治三十四	榮養不良
90	津村良子	女	山形	明治三十四	榮養不良
91	西野ハル	女	山形	明治三十四	榮養不良
92	倉本三子	女	山形	明治三十四	榮養不良
93	中西三子	女	山形	明治三十四	榮養不良
94	山本弘隆	女	山形	明治三十四	榮養不良
95	内海八重子	女	山形	明治三十四	榮養不良
96	津村良子	女	山形	明治三十四	榮養不良
97	西野ハル	女	山形	明治三十四	榮養不良
98	倉本三子	女	山形	明治三十四	榮養不良
99	中西三子	女	山形	明治三十四	榮養不良





(3)

無償供出物品統計						一九四三年四月二十六日現在	
品名	数量	品名	数量	品名	数量	品名	数量
一蒲團	二一三枚	ネクターイ	二四七本	洗面器	六六具		
座蒲團	一九八枚	テーブル掛	三枚	トランク	二二三ヶ		
蒲團用	八枚	蚊帳	一二枚	折靴	二五四ヶ		
毛布	五九枚	ダンシー	一七枚	ゴム長靴	一五三足		
衣類	五七二枚	カーテン	八枚	靴草履類	一七四足		
足袋類	一〇三三具	茶碗井類	二六六具	電気ストーブ	六四ヶ		
レヤコ類	三七七枚	コブ類	六〇具	アイロン	二三九ヶ		
背衣服	二七〇着	四類	九九具	コンロ	一三三ヶ		
オーバー	二四〇着	スポン類	二五八三具	スタンド	五〇ヶ		
合羽	一九〇枚	鍋釜類	二一八具	バリカン	三三ヶ		
帽子類	二三九具	バケツ	六一具	湯タンポ	六三ヶ		
品名	数量	品名	数量	品名	数量		
運動具	五二三具	双眼鏡	二八具	蓄音器	一三台		
金庫	二四二本	長刀筆箱類	七八具	金庫類	二八ヶ		
壘	五九枚	自転車	五四台				
四斗櫃	六五ヶ	リヤ刀	四台				
火鉢	六〇ヶ	風三釜	六ヶ				
本棚	六五ヶ	スチーブ	五三二ヶ				
机	一六九ヶ	膝掛け	一七台				
椅子	一七八ヶ	タイプ	四台				
タンス	五本	ミレニ	九台				
應接セツ	七組	ピアノ	四台				
時計類	四二具	オルガン	五台				
写真機	七二具	荷車	五台	物入れ			



(4) 帳 簿

現金支給	1945.9~1946.3							
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
振替出	723	1,558	<del>386</del> 1,678	3,808	395	1,031	51	9,218
金	10,700.40	24,921.00	26,153.40	78,016.97	9,502.70	46,384.00	3,800.00	200,358.49

一人当り 545219733

種別支給

種別	支給	種別	支給	種別	支給	種別	支給
食料	10000.40	衣料	2492100	住居	2615340	交通	78016.97
医療	3808	教育	3808	文化	395	娯楽	1031
その他	51	合計	9218				

現金支給 1945.9~1946.3

一人当り 545219733

種別支給

食料 10000.40

衣料 2492100

住居 2615340

交通 78016.97

医療 3808

教育 3808

文化 395

娯楽 1031

その他 51

合計 9218

(5) 衛生管理記録

項目	1945.9	1946.3
食料	10000.40	2492100
衣料	2492100	2615340
住居	2615340	78016.97
交通	78016.97	8502.70
医療	8502.70	4638400
教育	4638400	380000
文化	380000	20035849
娯楽	20035849	
その他		

衛生管理記録

食料 10000.40

衣料 2492100

住居 2615340

交通 78016.97

医療 8502.70

教育 4638400

文化 380000

娯楽 20035849

その他

現金支給 1945.9~1946.3

一人当り 545219733

種別支給

食料 10000.40

衣料 2492100

住居 2615340

交通 78016.97

医療 3808

教育 3808

文化 395

娯楽 1031

その他 51

合計 9218

住居関係記録

9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

10000.40 2492100 2615340 78016.97 8502.70 4638400 380000

20035849

衛生管理記録

食料 10000.40

衣料 2492100

住居 2615340

交通 78016.97

医療 8502.70

教育 4638400

文化 380000

娯楽 20035849

その他

現金支給 1945.9~1946.3

一人当り 545219733

種別支給

食料 10000.40

衣料 2492100

住居 2615340

交通 78016.97

医療 3808

教育 3808

文化 395

娯楽 1031

その他 51

合計 9218

項目	1945.9	1946.3
食料	10000.40	2492100
衣料	2492100	2615340
住居	2615340	78016.97
交通	78016.97	8502.70
医療	8502.70	4638400
教育	4638400	380000
文化	380000	20035849
娯楽	20035849	
その他		

現金支給 1945.9~1946.3

一人当り 545219733

種別支給

食料 10000.40

衣料 2492100

住居 2615340

交通 78016.97

医療 3808

教育 3808

文化 395

娯楽 1031

その他 51

合計 9218



(6) 遊藝會生活状況報

遊藝會生活状況報 1946.2.31附

項目	1/10以上	1/10以下	計
男	2,314	682	2,996
女	2,458	521	2,979
計	5,272	1,303	6,575

項目	1/10以上	1/10以下	計
男	1,689	1,144	2,833
女	2,301	612	2,913
計	4,006	1,756	5,762

152

遊藝會生活状況報

1/10以上 1/10以下 計

項目	1/10以上	1/10以下	計
男	1,689	1,144	2,833
女	2,301	612	2,913
計	4,006	1,756	5,762

154

遊藝會生活状況報

項目	1/10以上	1/10以下	計
男	1,689	1,144	2,833
女	2,301	612	2,913
計	4,006	1,756	5,762

153

遊藝會生活状況報

1946.2.2

項目	1/10以上	1/10以下	計
男	1,689	1,144	2,833
女	2,301	612	2,913
計	4,006	1,756	5,762

155

遊藝會生活状況報

1/10以上 1/10以下 計

項目	1/10以上	1/10以下	計
男	1,689	1,144	2,833
女	2,301	612	2,913
計	4,006	1,756	5,762

Y  
1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
13  
14  
15  
16  
17  
18  
19  
20  
21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29  
30  
31  
32  
33  
34  
35  
36  
37  
38  
39  
40  
41  
42  
43  
44  
45  
46  
47  
48  
49  
50  
51  
52  
53  
54  
55  
56  
57  
58  
59  
60  
61  
62  
63  
64  
65  
66  
67  
68  
69  
70  
71  
72  
73  
74  
75  
76  
77  
78  
79  
80  
81  
82  
83  
84  
85  
86  
87  
88  
89  
90  
91  
92  
93  
94  
95  
96  
97  
98  
99  
100  
101  
102  
103  
104  
105  
106  
107  
108  
109  
110  
111  
112  
113  
114  
115  
116  
117  
118  
119  
120  
121  
122  
123  
124  
125  
126  
127  
128  
129  
130  
131  
132  
133  
134  
135  
136  
137  
138  
139  
140  
141  
142  
143  
144  
145  
146  
147  
148  
149  
150  
151  
152  
153  
154  
155  
156  
157  
158  
159  
160  
161  
162  
163  
164  
165  
166  
167  
168  
169  
170  
171  
172  
173  
174  
175  
176  
177  
178  
179  
180  
181  
182  
183  
184  
185  
186  
187  
188  
189  
190  
191  
192  
193  
194  
195  
196  
197  
198  
199  
200  
201  
202  
203  
204  
205  
206  
207  
208  
209  
210  
211  
212  
213  
214  
215  
216  
217  
218  
219  
220  
221  
222  
223  
224  
225  
226  
227  
228  
229  
230  
231  
232  
233  
234  
235  
236  
237  
238  
239  
240  
241  
242  
243  
244  
245  
246  
247  
248  
249  
250  
251  
252  
253  
254  
255  
256  
257  
258  
259  
260  
261  
262  
263  
264  
265  
266  
267  
268  
269  
270  
271  
272  
273  
274  
275  
276  
277  
278  
279  
280  
281  
282  
283  
284  
285  
286  
287  
288  
289  
290  
291  
292  
293  
294  
295  
296  
297  
298  
299  
300  
301  
302  
303  
304  
305  
306  
307  
308  
309  
310  
311  
312  
313  
314  
315  
316  
317  
318  
319  
320  
321  
322  
323  
324  
325  
326  
327  
328  
329  
330  
331  
332  
333  
334  
335  
336  
337  
338  
339  
340  
341  
342  
343  
344  
345  
346  
347  
348  
349  
350  
351  
352  
353  
354  
355  
356  
357  
358  
359  
360  
361  
362  
363  
364  
365  
366  
367  
368  
369  
370  
371  
372  
373  
374  
375  
376  
377  
378  
379  
380  
381  
382  
383  
384  
385  
386  
387  
388  
389  
390  
391  
392  
393  
394  
395  
396  
397  
398  
399  
400  
401  
402  
403  
404  
405  
406  
407  
408  
409  
410  
411  
412  
413  
414  
415  
416  
417  
418  
419  
420  
421  
422  
423  
424  
425  
426  
427  
428  
429  
430  
431  
432  
433  
434  
435  
436  
437  
438  
439  
440  
441  
442  
443  
444  
445  
446  
447  
448  
449  
450  
451  
452  
453  
454  
455  
456  
457  
458  
459  
460  
461  
462  
463  
464  
465  
466  
467  
468  
469  
470  
471  
472  
473  
474  
475  
476  
477  
478  
479  
480  
481  
482  
483  
484  
485  
486  
487  
488  
489  
490  
491  
492  
493  
494  
495  
496  
497  
498  
499  
500  
501  
502  
503  
504  
505  
506  
507  
508  
509  
510  
511  
512  
513  
514  
515  
516  
517  
518  
519  
520  
521  
522  
523  
524  
525  
526  
527  
528  
529  
530  
531  
532  
533  
534  
535  
536  
537  
538  
539  
540  
541  
542  
543  
544  
545  
546  
547  
548  
549  
550  
551  
552  
553  
554  
555  
556  
557  
558  
559  
560  
561  
562  
563  
564  
565  
566  
567  
568  
569  
570  
571  
572  
573  
574  
575  
576  
577  
578  
579  
580  
581  
582  
583  
584  
585  
586  
587  
588  
589  
590  
591  
592  
593  
594  
595  
596  
597  
598  
599  
600  
601  
602  
603  
604  
605  
606  
607  
608  
609  
610  
611  
612  
613  
614  
615  
616  
617  
618  
619  
620  
621  
622  
623  
624  
625  
626  
627  
628  
629  
630  
631  
632  
633  
634  
635  
636  
637  
638  
639  
640  
641  
642  
643  
644  
645  
646  
647  
648  
649  
650  
651  
652  
653  
654  
655  
656  
657  
658  
659  
660  
661  
662  
663  
664  
665  
666  
667  
668  
669  
670  
671  
672  
673  
674  
675  
676  
677  
678  
679  
680  
681  
682  
683  
684  
685  
686  
687  
688  
689  
690  
691  
692  
693  
694  
695  
696  
697  
698  
699  
700  
701  
702  
703  
704  
705  
706  
707  
708  
709  
710  
711  
712  
713  
714  
715  
716  
717  
718  
719  
720  
721  
722  
723  
724  
725  
726  
727  
728  
729  
730  
731  
732  
733  
734  
735  
736  
737  
738  
739  
740  
741  
742  
743  
744  
745  
746  
747  
748  
749  
750  
751  
752  
753  
754  
755  
756  
757  
758  
759  
760  
761  
762  
763  
764  
765  
766  
767  
768  
769  
770  
771  
772  
773  
774  
775  
776  
777  
778  
779  
780  
781  
782  
783  
784  
785  
786  
787  
788  
789  
790  
791  
792  
793  
794  
795  
796  
797  
798  
799  
800  
801  
802  
803  
804  
805  
806  
807  
808  
809  
810  
811  
812  
813  
814  
815  
816  
817  
818  
819  
820  
821  
822  
823  
824  
825  
826  
827  
828  
829  
830  
831  
832  
833  
834  
835  
836  
837  
838  
839  
840

[illegible]

100

Year	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041	2042	2043	2044	2045	2046	2047	2048	2049	2050	2051	2052	2053	2054	2055	2056	2057	2058	2059	2060	2061	2062	2063	2064	2065	2066	2067	2068	2069	2070	2071	2072	2073	2074	2075	2076	2077	2078	2079	2080	2081	2082	2083	2084	2085	2086	2087	2088	2089	2090	2091	2092	2093	2094	2095	2096	2097	2098	2099
1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041	2042	2043	2044	2045	2046	2047	2048	2049	2050	2051	2052	2053	2054	2055	2056	2057	2058	2059	2060	2061	2062	2063	2064	2065	2066	2067	2068	2069	2070	2071	2072	2073	2074	2075	2076	2077	2078	2079	2080	2081	2082	2083	2084	2085	2086	2087	2088	2089	2090	2091	2092	2093	2094	2095	2096	2097	2098	2099	

[illegible][illegible]

卷一百一十五

[illegible]

分類	品名	単位	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
農産品	米	kg	1000	1200	1500	1800	2000	2200	2500	2800	3000	3200	3500	3800	35000	2916.67
	小麦	kg	500	600	700	800	900	1000	1100	1200	1300	1400	1500	1600	12500	1041.67
	大豆	kg	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	850	7000	583.33
	玉米	kg	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	6000	500.00
	高粱	kg	100	120	140	160	180	200	220	240	260	280	300	320	2500	208.33
	谷子	kg	80	90	100	110	120	130	140	150	160	170	180	190	1500	125.00
	芝麻	kg	50	60	70	80	90	100	110	120	130	140	150	160	1200	100.00
	花生	kg	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	750	62.50
	油菜	kg	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	600	50.00
	棉花	kg	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	500	41.67
工業品	布匹	m	1000	1200	1500	1800	2000	2200	2500	2800	3000	3200	3500	3800	35000	2916.67
	紙張	kg	500	600	700	800	900	1000	1100	1200	1300	1400	1500	1600	12500	1041.67
	木材	m³	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	850	7000	583.33
	煤炭	kg	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	6000	500.00
	石油	kg	100	120	140	160	180	200	220	240	260	280	300	320	2500	208.33
	電力	kWh	80	90	100	110	120	130	140	150	160	170	180	190	1500	125.00
	水泥	kg	50	60	70	80	90	100	110	120	130	140	150	160	1200	100.00
	鋼鐵	kg	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	750	62.50
	玻璃	kg	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	600	50.00
	陶瓷	kg	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	500	41.67
其他	雜項	kg	1000	1200	1500	1800	2000	2200	2500	2800	3000	3200	3500	3800	35000	2916.67
	運費	kg	500	600	700	800	900	1000	1100	1200	1300	1400	1500	1600	12500	1041.67
	保險	kg	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	850	7000	583.33
	維修	kg	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	6000	500.00
	燃料	kg	100	120	140	160	180	200	220	240	260	280	300	320	2500	208.33
	電力	kg	80	90	100	110	120	130	140	150	160	170	180	190	1500	125.00





本籍地

前住所

天  
下

續極年令

瘡

一、

[illegible]



(14) 在詔令機構

一九四五、九、一〇

委員 松本五郎 佐藤広吉 小林武治  
事務部 (物資) 石田省三 (會計) 笠井勇馬 植田八郎  
(勞務) 吉永直治 (避難民救済) 高橋教馬 松本正輔  
(統計) 岩田澤藏 佐野久雄  
(衛生) 笠原樹義 吉岡準一郎  
連絡部 町連絡員 十月一日現在ト今  
元山日本人在詔令機構  
委員 松本五郎 佐藤広吉 小林武治  
事務部 (総務) 石田省三 谷本倫  
(物資・家屋・庶務) 佐藤健一 河田正  
(配給・會計) 笠原勇馬 富田竹雄 植田八郎 佐野久雄  
(勞務) 吉永直治 林田秀勝 加藤健郎 補助 藤田茂哉  
(避難民救済) 高橋教馬 松本正輔 小島正男  
(統計・戸籍) 岩田澤藏 安井正己 川村昇 西川憲忠  
(衛生) 笠原樹義  
(医務室) 医師 吉岡準一郎 佐藤定雄 看護婦 阿部俊子  
(傳令) 上原範雄 外給 江二名

連絡部  
町連絡員  
仲町 田中庄七 梁町 林稔雄 泉町 林田治郎  
新田町 八重垣雄 本町 柴田慶治 新豊町 小林嘉市  
新田町 村田耕造 延喜町 中西清助 幸素町 下村寅多郎  
新田町 植田三吉 延喜町 旭町 太田省一 幸素町 山口恵三  
新田町 宮崎春義 朝石町 増田八夫 京町 川崎孝三  
大田町 新井細八 明治町 岡崎啓 綴町 大橋山太郎  
春日町 廣瀬茂平 車庫工場 古屋武

在詔令機構

一九四五、一〇、三〇

本部  
委員 松本五郎 佐藤広吉 小林武治  
事務部 (総務) 物資・家屋・庶務 石田省三 谷本倫 佐藤健一 河田正 中上保  
頭川連一 佐藤京一 石田喬一 澤留正片  
(勞務) 吉永直治 林田秀勝 加藤健郎 高橋教馬  
(避難民救済) 笠原樹義 松本正輔 小島正男  
(戸籍・統計) 岩田澤藏 安井正己 川村昇 西川憲忠  
浅佐元 青堂稔 菊野清文 馬場健次郎  
(学務) 小林儀三郎 米田清 桑武雄 和田矢馬  
(衛生) 笠原樹義  
(医務室) 医師 吉岡準一郎 久成正生 佐藤定雄  
看護婦 阿部俊子 笠原日出子  
産業室 協力  
町連絡員 一〇、一現在ト今

在詔令関係者中犠牲死亡者調査

氏名	死亡年月日	病名	所居	摘要
下村寅三郎	一九四六、三、二〇	肺炎	幸素町連絡員	
栗林清造	一九四五、三、三	左	病院前師	
清水久七	、	左	労務	
牛島トモエ	、三、二五	左	病院看護婦	
笠原樹義	一九四六、一、三	左	厚生課	
平野富子	、一、一八	左	病院看護婦	
樺山三郎	、一、一六	左	経済課	
高橋教馬	、一、二二	左	労務課	



元山日赤人告誡會編成表

一九四五、一、一現在

人事係主任 岸井正巳  
企劃係主任 岸井正巳  
庶務係主任 河田正  
三務係主任 老重隆  
受室係主任 河川健一  
中上保

總理係主任 岸山三郎  
企劃係主任 岸山三郎  
庶務係主任 岸山三郎  
三務係主任 岸山三郎  
受室係主任 岸山三郎  
中上保

企劃係主任 高橋敦馬  
技解係主任 橋本正三  
一收係主任 小島正男  
計課係主任 吉永直治  
企劃係主任 富田修雄

企劃係主任 西川重三  
企劃係主任 川村昇  
企劃係主任 大平花一

委員部

庶務係主任 岸井正巳  
企劃係主任 岸井正巳  
庶務係主任 岸井正巳  
企劃係主任 岸井正巳  
庶務係主任 岸井正巳  
企劃係主任 岸井正巳

企劃係主任 岸井正巳  
庶務係主任 岸井正巳  
企劃係主任 岸井正巳  
庶務係主任 岸井正巳  
企劃係主任 岸井正巳  
庶務係主任 岸井正巳

企劃係主任 岸井正巳  
庶務係主任 岸井正巳  
企劃係主任 岸井正巳  
庶務係主任 岸井正巳  
企劃係主任 岸井正巳  
庶務係主任 岸井正巳

企劃係主任 岸井正巳  
庶務係主任 岸井正巳  
企劃係主任 岸井正巳  
庶務係主任 岸井正巳  
企劃係主任 岸井正巳  
庶務係主任 岸井正巳

元山日赤人告誡會編成表





少解引揚同明

接護會第

元 孫 輝 咸 止 五 十  
殘 卷 日 本 人 五 十 餘

素 標 已 錄 五 十 五  
五 十 五 十 五  
北 輝 卷 五 十 五 十 五

昭和十二年一月廿三日

事業報告書

元朝鮮威鏡水道三州邑

三州在留日本人會

會長 向井 毅 代理

副會長 朴 三男

朝鮮成鏡北道吉州邑

吉州在留日本人會  
會長 白井毅代理  
副會長 孔三男

吉州在留日本人會  
會長 白井毅代理  
副會長 孔三男

一、收入部

費目

金額

備考

元北朝鮮成鏡北道吉州工場

一〇九八〇〇〇円

從業員賃金

一六〇〇〇〇〇円

其他他地に残留

日本人より借入金

元吉州工場

六〇〇〇〇円

水費金

引場用輸送費

二〇〇〇〇〇円

工場新築力

技術員帰国費

四六〇〇〇〇円

雑收入

一〇〇〇〇〇〇円

合計

一三三〇〇〇〇円

支出部

水費金

七三五〇〇〇〇円

交際費

一三〇〇〇〇〇円

旅費

三三〇〇〇〇円

雑費

二〇〇〇〇〇円

送還技術者

二一〇〇〇〇〇円

生活資金

引場輸送費

一三五〇〇〇〇〇円

工場新築費

三三〇〇〇〇〇円

合計

一三四〇〇〇〇〇円

以上

目次

一 序言

二 軍進駐前後之狀況

三 日本人之生活狀況

四 財貨金狀況

五 食糧事情

六 勞役狀況

七 衛生事情

八 一般民心

九 救濟事業

十 軍並朝鮮人之動向

十一 引揚狀況

十二 結論

六 序言

終戦以来一年二月二日在朝鮮咸北支州ニ殘留セル日本人ハソ聯軍占領下ニ於ケル困窮生活ニ耐ヘ  
敷次ニツタル脱出ニ成功昭和廿一年十月十八日博多  
上陸ノ部隊ヲ以テ引揚ヲ完了セリ  
以下引揚迄ノ概要並ニ日本人會ノ果シタル微  
力ナル業績ヲ項々分チテ掲記ス

二、ソ軍進駐前後ノ状況

一、進駐前

支州ニ於テハ終戦以前ヨリ日本軍隊来リ且戰闘  
不利ヨリ避難民通過シタルハ混雜ヲ極ム  
且人心ハ極度ノ不安ノ内ニ停戦ヲムカフ

當時ノ日本人ノ数約二千名ニシテ内七〇〇名ハ  
北鮮制衣隊支州工場従業員並ニ其家族ナリ  
支州邑内ニ居住セル一般日本人ハ当局ノ避難命  
令ニヨリ官民共ニ停戦以前既ニ咸興以南  
ニ移動セルモ支州工場ノ日本人ハ爆撃ヲ被リテ  
當時ハ一部敬言備ノ者ヲ殘シ大半ハ東山線  
方面(支州ヨリ約五里ノ地)ニ一時待避シタリ外  
遂ニ支州ノ地ヲ去ル事ナリ引揚迄殘留セリ  
幸ヒニ爆撃ニヨリ一名ノ犠牲者モナカリシモ社  
宅ノ一部ハ被弾シ且家財類ハ殆ド朝鮮人  
ノ盗難ニアヒタリコレ引揚迄生活困乏ノ原  
因ヲナセリ

八月廿二日(舊四一前記避難地点)進駐中ノ者全  
員支州ニ歸リタリ

二、進駐後

八月廿二日ノ軍進駐ニ来ル

当初ハ通過部隊タタカ残りタルハ家財ノ掠奪



並ニ婦人ヲメカケラクル者多ク後者ニ対シテハ日本人相互ノ敬愛備ニヨリ一名ノ被害者ナカリレハ幸ナリキ

九月初メ工場幹部ニ名ハソ軍ニ拉致サレ今日ニ及カモ消息不明ナリ

コノ頃支州駐屯敬愛備隊来リ及メニ工場北宅ニ日本人ハ集約生活ヲ始ム

一方在朝鮮側意意天津次出来シ北宅ヲ除ク

工場各施設ノ接收行ハル

但シユレ等ソ軍並ニ在朝鮮意意王一志ノ形式ヲ整ヘタル程度ニシテ未ダ無統制ナル点ハ引揚送ニ多クノ支障ヲ来セリ

### 三、日本人ノ生活状況

以下各項ニ分テラ述バントスルモ支州日本人ハ

ノ爆撃ヲ受ケテ並難掠奪ニヨリ財産金化スベキ

財物僅カナリシ事

又食糧事情カ悪キ事

又労働条件カ悪キ事

又支州朝鮮人が思想悪キ為生活上タヘ不安心

ニカラレタル事

其他ノ事情ニヨリ生活程度ニ困乏則セリ

然レモ相互援助ノ精神ニヨリ救済ニ努メタル

結果カ救済犠牲者ノミニナリ引揚シ行タリト

### 四、資金状況

別表收支明細表ハ通り僅ニ残リタルニ限リ

ヲ賣却セシメシテ救済ニスルヲタリ

一方労働賃金、内より一定ノ賦金ヲ設ケ之ヲ  
救済資金ニ繰入ルルノ方恒ヨトレリ

食糧事情

終戦直後ニ於テハ手持食糧ノ少クト雜穀ヲ  
主食トシテ生活シタリタルモ

其ノ後益々高価ナル食糧ヲ購入セザルコト付カルヨリ  
十月ソ聯駐屯軍ニ配給方最出

肩米ニ五俵

十月ニ俵 二〇俵

ソ軍ヨリ無償配給ヲ受ケタル事ニ前後ヲ通ジ  
二回限りナリキ

一方在鮮側 屢ニ交渉ノ結果

十月十六日一般配給開始 一人ヨリ 二合ニシ

内譯ナミ 二割 一升 二十二月

雜穀

六割

大豆

十三月

トウモロコシ

一五月

大豆

三五月

但一般配給、昨一年七月六日迄継続セラルシ  
雜穀ノ配給ハ豆粉が主ナリヲ看ミ、是迄養分低  
低下ヲ来セリ、コノ配給食糧ヲ購入ノ資力ナキ  
者、乃ニ救済資金ヲ放出シ来リシモ、配給ハ十日  
が建前ナリシモ五日五分シカニ受取ル資力ナキ日本  
人會ハ状態ナリキ

七月ニハ停止シ、以後ハ工場勤務ノ技術者以外ハ  
市場ノ高価ナル食糧ヲ購入ノ外ナリ看ミ、生活  
更ニ困窮ヲ続クナリ、ト野菜ノ出廻リ期ニ付  
野菜ヲ以テ主食トシ最低生活ヲナス

六 労役ノ状況

ノ軍進駐以來（昨午十月初）部隊ノ役ニ從事ス  
人員一日延約三十名程度

報酬本人ノ給食ノ外多少ノ持参食料

十月末ヨリ工場側ヨリ出役ヲ申出

一日延人員六七十名

報酬一日米又ハ雜穀ニ令程度

又ハ報酬ニ惡キ役ナルモ日本人全体ノ保全ノ為

承諾セラル

昨午一若三ヨリ四ヨリハ雜役ハ二大工手元

農家手傳等一日食料附十五円乃至

二十圓程度

女子飲食店收入三食附二百円程度

四月ヨリ工場ニ移我機据付ノ事トナリテ

人良糧 家族共ニ無料配給 並ニ一人ヨリ三五〇月

ノ配ニヨリ協力ス二一名出役

昨午駐屯以來ノ軍將校永受ニ詳載等ノ

又婦人出役人約十名内外ナリ

昨午五月一日以後日本人労働条件改善方

各方面ト交渉成立大抵日当二十円以上トセリ

併シレテラモ州ノ労働条件ハ或モ元山方面ヨリ

悪ク又出役開始ノ時期モ遅カリレ事ハ生

活因之助ノ有力ナル原因ヲナセリ

三 衛生状況

上述ノ如ク吾州ノ生活程度悪キ為ニ營養食

不良ニ加フルニマラリヤ患者頻出 昨午二至

リテハ赤痢患者ヲ兼生セリ

一方病院ノ医療器具藥品類不足ニ治療  
思フニ任セズ

マラヤ患者ハ引揚 一月ノ間四百名、内其ニ  
二百五十名ニ達シタリ  
死亡者ハ五十名一後戦後より今年二月月）ニシテ  
老幼幼者特ニ多タカリキ

### ホ一般民心

祖国敗戦ノ悲運ニ遭遇セルモヨク困難ナル  
生活ニ耐ヘ相互扶助ノ精神ヲ發揮シテ一  
心一志ヲクル内地ハ内地ハヨ目標ニシテ  
頑張り来リ大シタ犠牲者モナク（他地区ニ  
比較シ）引揚ゲレハ不幸ナキ、幸ナリキ

### 四救済事業

一通過避難民数約二千名

コノ内吉州ニ渡留セル者ニ於テハ、宿泊所ヲ入  
具ツ食料、食ノキ者ニ於テハ救済ス  
特ニ日本軍人ノ脱走者、滿州州民、同胞ノ者ニ  
於テハ一人當リ一五〇円ヲ与ヘタリ、コノ数約  
廿名、住ナリキ

二食糧ナキ者ノ救済

人員 五百名

三資金ナキ者ノ引揚援助

人員 五百名

四、死亡者ノ処置

人員 五〇名

五、吉州戦死者ノ慰遺、骨ノ内地還送五柱  
英靈ノ手慰遺、骨ノ内地還送五柱

五、ソ軍並ニ在韓人ノ動向  
人ノ軍

上述ナル如ク進駐前後ハ混亂状態然ナリシヲ  
モテ日本入ニ對スル態度ハ不良ナリキ  
係シ日本人ヲ認識シ當方モ又先カトナレル  
ニシテ漸次相互ニ理解シ合フ状態ニナレリ  
尤モ食糧配給トカ正式引揚ノ問題等ノ  
公的交渉ニ於テハ依然トシテ独得ノアイ  
マイナル態度ニ出デ終始固ラレタリ  
或ル一面私的交渉ニ於テハ善良ナル大陸  
的風格見ユ莫クテ仲々悪ムル人種ナリキ

六、朝鮮人

吉州ハナリヨリ惡心悪キ土地極ナルヲ終戦ニ  
伴フ

日本人權力ノ失墜ニヨリテ極度ニ苦シメタリ  
終戦前後ノ盜難事件又リ不良分子ノ反動  
的暴行行為等ナリ一時ハ如何ナル事能ヘニ立  
ルカト思ヒタリ  
併シ一志行政機構ヲ救フ備スルニハ誠心ヤヤシ  
終序ナル状態ニナレリ  
時ニ引揚前ニヨリテハ日本人ノ立場ニ同情シ  
生活方面其他ニ於テ頗ル協力的ニナリタルハ意  
外トスル処ナリト



[illegible]

考へル時ハ識ニ立居易ナリナルモノナリ

第一、國の財政を以て増進せしむる別表  
 第二、國の財政を以て減損せしむる別表  
 第三、國の財政を以て維持せしむる別表  
 第四、國の財政を以て改善せしむる別表  
 第五、國の財政を以て悪化せしむる別表  
 第六、國の財政を以て中立せしむる別表  
 第七、國の財政を以て不明せしむる別表  
 第八、國の財政を以て無関係せしむる別表  
 第九、國の財政を以てその他に分類せしむる別表  
 第十、國の財政を以てその他に分類せしむる別表

1



東京 芝区 田村所一、三  
朝鮮引揚同胞世話会

穂積 眞六郎 先生

福岡市西門町七丁目南  
朝鮮同胞世話會相談所



しほ波多美の歌し甲留る如く思ふ事、  
情をよほ直接洋物本より種々あるを、  
先きより、  
敬り

昭和十一年六月三十日

東京市人女話会 占部 通

徳積真太郎 殿  
塩田山浩 殿

リ下

THE NORTH KOREA UNREPATRIATED JAPANESE  
FAMILIES LIAISON SECTION

c/o Dowa Kyokai, 6 Marunouchi  
12 GOKAN, Chiyoda-ku, Tokyo

Oct. 26, 1950

Members of the Press Club,  
CITY

Dear Sirs,

We are the members of the families of those Japanese, formerly Japanese Government Officials, technicians etc. now detained in North Korea.

We hear of your brilliant work every day through the newspapers and radio, and we are all very grateful to you.

We offer our deepest sympathy and gratitude for their precious sacrifices made in this war by the officers and men of the United Nations Forces.

After the Japanese surrender in 1945, the North Korean Authorities interned Japanese officials who had escaped internment by the Soviet Forces, in the Pyongyang People's Reformatory (Prison). They were all honest Japanese Government officials who had faithfully discharged their duties. However, contrary to the facts, they were labelled with the names of heinous crimes and put in prison. Out of these, 15 persons on the attached list were still interned as a group as of the summer of 1948.

Japanese technicians were forced to remain in North Korea to cooperate in the rehabilitation of industry there and the persons on the attached list, namely 15 persons, were arrested in 1948 at Pyongyang, Hungnam and Wousan by the Soviets and no further news of them has been received.

We believe that these people have been rescued by the United Nations Forces. If you should by any chance obtain some sort of information concerning them and let us know, we shall greatly appreciate your kindness.

Very truly yours,

THE NORTH KOREA UNREPATRIATED JAPANESE  
FAMILIES LIAISON SECTION

---

Sumiko Tsuneguka

Nobuko Kamada  
Nobuko Kamada

# List of those held in North Korea

~~THOSE~~ THOSE IN THE PYONGYAN PEOPLE'S ~~REPUBLIC~~ *Cultivation board*  
(Prison)

NAME	FORMER POSITION
Saichiro Yamazawa	Chief Procurator, Pyongyang Court of Appeals
Kanau Kamada	Judge, Pyongyang Local Court
Motoo Matsubara	Procurator, "
Kyuji Tsuboya	Procurator, "
Yataro Ishikura	Procurator, Yolpyong, Pyongyang-pokudo
Isematsu Hattori	Chief of Mining and Industry Dept., Pyongan-Namdo
Tosuo Takeshi	Chief of Sunchon Police Station
Takeo Kotoh	Policeman, "
Suetoshi Yamamoto	" "
Fukunishi Fukuhara	Former Frontier Policeman
Kenji Hishikawa	Pyongyang Local Communication Bureau
Ryutaro Saito	Huichon Railroad Maintenance Bureau
Misako Hamada	Former Teacher of Primary School in Sinuiju.

## *Technicians* ~~LIST OF THOSE HELD IN NORTH KOREA (TECHNICIAN)~~

NAME	Working Place or Position
Hidetsugu Tsunozuka	Chief of Japanese Section, North Korea Technician's League
Nobushige Sato	Deputy Chief, " "
Tsuruichiro Inagaki	Chief of Planning Sect., "
Toshitane Ando	Chief of Education Sect., "
Tokuzo Koga	Electric Bureau of Pyongyang
Kohsuke Yoshitomi	"
Hideo Takimoto	Nampo Dockyard
Tadashi Kuwajima	Nampo Chemical
Kiyoichi Shirakura	Namyan Salt-farm
Teizo Yokoyama	Kwanghae Iron Foundry
Ryoichi Narita	Hungnam People's Factory
Masamori Okano	"
Shigeru Tamura	"
Akira Fujisaki	"
Kazuo Seki	"

THE NORTH KOREA UNREPATRIATED JAPANESE  
FAMILIES LIAISON SECTION

c/o Dowo Kyokai, 6 Marunouchi  
12 GOMAN, Chiyoda-ku, Tokyo

Oct. 26, 1950

Members of the Press Club,  
CITY

Dear Sirs,

We are the members of the families of those Japanese, formerly Japanese Government Officials, technicians etc. now detained in North Korea.

We hear of your brilliant work every day through the newspapers and radio, and we are all very grateful to you.

We offer our deepest sympathy and gratitude for their precious sacrifices made in this war by the officers and men of the United Nations Forces.

After the Japanese surrender in 1945, the North Korean Authorities interned Japanese officials who had escaped internment by the Soviet Forces, in the Pyongyang People's Reformatory (Prison). They were all honest Japanese Government officials who had faithfully discharged their duties. However, contrary to the facts, they were labelled with the names of heinous crimes and put in prison. Out of these, 15 persons on the attached list were still interned as a group as of the summer of 1948.

Japanese technicians were forced to remain in North Korea to cooperate in the rehabilitation of industry there and the persons on the attached list, namely 15 persons, were arrested in 1948 at Pyongyang, Hungnam and Wonsan by the Soviets and no further news of them has been received.

We believe that these people have been rescued by the United Nations Forces. If you should by any chance obtain some sort of information concerning them and let us know, we shall greatly appreciate your kindness.

Very truly yours,

THE NORTH KOREA UNREPATRIATED JAPANESE  
FAMILIES LIAISON SECTION

Sumiko Tsuneguka

Nobuko Kamada  
Nobuko Kamada



LIST OF THOSE IN THE PYONGYAN PEOPLE'S REFORMATORY

NAME	FORMER POSITION
Saichiro Yamasawa	Chief Procurator, Pyongyang Court of Appeals
Kanau Kamada	Judge, Pyongyang Local Court
Motoo Matsubara	Procurator, "
Kyuji Tsuboya	Procurator, "
Yataro Ishikura	Procurator, Yolpyong, Pyongyang-pokudo
Isematsu Hattori	Chief of Mining and Industry Dept., Pyongan-Namdo
Tosuo Takeshi	Chief of Sunchon Police Station
Takeo Kotoh	Policeman, "
Suetoshi Yamamoto	" "
Fukunishi Fukuhara	Former Frontier Policeman
Kenji Hishikawa	Pyongyang Local Communication Bureau
Ryutaro Saito	Huichon Railroad Maintenance Bureau
Misako Hamada	Former Teacher of Primary School in Simuiju.

LIST OF THOSE INTERNED IN NORTH KOREA (TECHNICIAN)

NAME	Working Place or Position
Hidetsugu Tsunetsuka	Chief of Japanese Section, North Korea Technician's League
Nobushige Sato	Deputy Chief, " "
Tsuruhiro Inagaki	Chief of Planning Sect., "
Toshitane Ando	Chief of Education Sect., "
Tokuzo Koga	Electric Bureau of Pyongyang
Kohsuke Yoshitomi	"
Hideo Takimoto	Nampo Dockyard
Tadashi Kuwajima	Nampo Chemical
Kiyochi Shirakura	Namyan Salt-farm
Teizo Yokoyama	Kwanghae Iron Foundry
Ryoichi Narita	Hungnam People's Factory
Masamori Okano	"
Shigeru Tamura	"
Akira Fujisaki	"
Kasuo Seki	"

M4-99

移  
植  
物  
資

1 2 3 4 5 6 7 8 9 230 1 2 3 4 5 6 7 8 9 240 1 2 3 4 5 6 7 8 9 250 1 2

朝鮮事業者會

援護物資令與二関スル件

引揚者に對する援護物資の配給も當局の格別なる御配慮により行き渡り居  
かとは申しながら五人家族に夜具一組程度にては今日此の頃の寒さにては  
其の生活の有様も誠に想像の外と思はれます朝鮮同胞世話會に於ても風に

切  
取

援護物資與二関スル件

一、大人男

小人男

名女

己

二、困窮の程度



丁酉

三救濟團體名及代表者氏名

たね  
家産事業の 手帳 老幼眼 紅紫眼 紅紫眼  
療育 視覚教育 心身同様にやうな関係にやう  
靴(靴下) 金手袋用 雨ボトム附 スチーフ 婦人服  
金ペンペン 少年童眼 老幼眼 メリヤス ワンピース 着

昭和二十二年二月十三日

十七日 拜達

朝鮮事業者會

殿

朝鮮残当社員の調査に関する件

拝啓 益々御隆昌の段々慶至極に存じます

扱て貴社役員及社員にして抑当或は先方の要望により現在朝鮮に抑当  
してねられる方の歸還促進並に擁護の爲外務省に接衝すり必要上御多  
用中恐縮に存じますが残当社員の残当地 氏名並に家族数折返御回答  
御願申上げます



三菱礦業株式會社

東京都麹町區内ノ二ノ三

昭和廿二年七月拾三日

出

入札四八五号(外)第一

昭和二十二年五月十八日

日本礦業株式會社社長

朝鮮事業委員會御中

三菱礦業株式會社人事課

朝鮮礦業株式會社調査ニ関スル件

去月二月十三日附貴信ヲ照會ニ預ルニ準テ朝鮮鐵  
道株式會社及豫數ハ別紙ノ通リニ付テ承諾事宜  
取計程下度石運送事用ニ付

以上





三菱鑛業株式會社

東京都麹町區内ノ二ノ三

昭和廿貳年七月

入才四八九号(外)第一

昭和二十二年七月十八日

日本鑛業株式會社

朝鮮事業委員會 御中

三菱鑛業株式會社人事部

接讀物資令專ニ付ニ付

去月二十三日附貴信照會ニ據ルル韓社朝鮮ヨリ

引揚取具及其家族救済程度ハ別紙ノ通リ付

テ承諾事宜取計 御下度石取迄事 悉ク

依頼申 上

以上

追記 韓社ヨリ目下ノ度々来照、引揚取具救済団体ハ

組織シ居ラズ令社直接接讀救済ニ當リ居ル事也

念申 奉





品名	会社名	朝鮮各社																															
		朝鮮機械製作所	朝鮮興業株式会社	王子製紙(株)	西野中央鉄道(株)	三井炭林(株)	北鮮製紙化学工業	王子炭林(株)	朝鮮電工(株)	内外特殊金業	朝鮮軽金属(株)	朝鮮煉炭(株)	中外鉱業(株)	日本ミーム管(株)	北鮮合同電力(株)	朝鮮麦酒(株)	山下林業(株)	日鉄鉱業(株)	内外通商(株)	聯合紙器(株)	朝鮮軽金属(株)	日綿(株)	三井炭林(株)	日本炭林(株)	威北炭林(株)	山崎炭林(株)	北青炭(株)	大東炭(株)	生乳炭(株)	海外炭(株)	日産炭(株)	朝鮮炭(株)	
履帯	2			30	2													103	100	20	5	500	1	200	60	5							
ワイシャツ	60			20	3									10				152	50	100	40	10	100	2	200	80	10						
メリヤスシャツ(女)	50			30														216	500	500	20	3	500	2	10	66	10						
労働シャツ	60			50	18									100				243	1000	2000	40	15	2	1000	100	5	1000	85	20				
ステテコ	60			50	1									50				182	60	100	40	5	5	100	3	300	41	20					
作業用																		500	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
巻脚絆					1																												
ベンベルグ	20													20				23	50	100	20	5	100	50	38								
割束着	50																	35	30	50	10	5	83	50	100	48	10						
サロン前掛	2																					10	1000	4	30	27							
学童服	50			10	6														50	100	10	15	100	2	100	60							
女児服	50																					10	100	100	36								
風呂敷	60			100	69																												
ズック靴	60			30	13																												

品名	希望数量	決定数量
寝巻		
ワイシャツ		
メリヤスシャツ(上下)		
労働シャツ		
ステテコ		
作業帽		
巻脚絆		
ベンベルグ		
割烹着		
サロン前掛		
学童服		
女児服		
風呂敷		
ズック靴		
神命丸		
心臓散		
海豹精		
ワシ胃腸薬(大)		
(小)		

引揚社員  
代表者氏名  
援護団体名

切取線

品名	希望数量	決定数量
寝巻		
ワイシャツ		
メリヤスシャツ(上下)		
労働シャツ		
ステテコ		
作業帽		
巻脚絆		
ベンベルグ		
割烹着		
サロン前掛		
学童服		
女児服		
風呂敷		
ズック靴		
神命丸		
心臓散		
海豹精		
ワシ胃腸薬(大)		
(小)		

引揚社員  
代表者氏名  
援護団体名

切取線

品名	希望数量	決定数量
寝巻		
ワイシャツ		
メリヤスシャツ(上下)		
労働シャツ		
ステテコ		
作業帽		
巻脚絆		
ベンベルグ		
割烹着		
サロン前掛		
学童服		
女児服		
風呂敷		
ズック靴		
神命丸		
心臓散		
海豹精		
ワシ胃腸薬(大)		
(小)		

引揚社員  
代表者氏名  
援護団体名

援護料等中二回分取付布五三  
羽目三三事等金り直接連絡

朝鮮神鋼金屬株式會社

東京事務所  
所長代理 市川真次郎

2221

甲古  
18

東京都下谷區上野廣小路一番地  
電話 下谷(83)〇九八〇番

總 數	品 種	會社名	朝鮮機械製作所	北鮮製紙化學工業	北鮮合同電氣(株)	日綿實業(株) 東京支店	三井針山(株) 京都府内所	日本針業(株) 海外部	成北某工品(株) 經理所	茂山針針開華(株)	北青針山(株)	大東針業(株)	生野礦針業(株)	海外事業對策中央	日室針業南廠(株)	16 韓鮮電業(株)	17 韓鮮金礦炭(株)	18 西鮮中央鐵道	日鉄針業(株)	21 外場者更合会 岐阜県	22 朝興種紙業(株)	日本企業肥料(株)	五子化学工業	24 内外特殊針業(株)	王士康(株)	朝鮮果實公司
1000	襪 差		2	2	/	103	100	/	20	5	/	500		1	200	60	5	5	電話 千原以迄	2526	10	300	2	18	15	
200	ワイシャツ		60	3	10	152	50	100	40	10	/	100		2	200	80	10	5		2500	10	300	2	5	18	3
2000	メリヤスシャツ		50	/	/	216	500	500	/	20	3	(250) 500		2	50	16	10	5		2000	10	300			2	10
5000	労働 シャツ		60	23 18	100	243	1000	2000	40	15	2	400 2500	100	5	1000	85	20	10		2300		300	5	10	30	50
300	ステテコ		60	1	50	162	60	100	40	5	5	10 200		3	300	41	20	10		2000	45	300	2	10	22	10
2430	作業 帽		/	/	/	/	500	100	/	/	/	/		/	/	5				350					*	
66	巻 脚 絆		/	1	/	/	/	/	/	/	/	/		2	/	13				350			5		1	
200	バンベルグ		20	/	20	23	50	.	20	5	/	10 100		/	50	38				2000		300		5	1	5
100	割烹着		50	/	/	35	30	50	/	5	3	50		/	100	48	10			1251	10	300		5	20	2
5000	サロン前掛		2	/	/	/	/	/	60	10	/	1000		4	30	27				2000	10				1	
200	児童服		50	5 8	/	/	50	100	10	15	/	100		2	100	60		5		760	100	300	1	5	1	5
400	女児服		50	/	/	32	100	40	20	10	/	100		/	100	36		1		752	100	300		5	5	4
2000	風呂敷		60	6 19	/	350	/	/	/	/	3	1000		3	500	104	20	50		5000	10	300	2	5	18	30
2000	ズック靴		60	12 13	/	/	/	500	/	/	1	500	50	35	500	30	20	5		2526				5	20	20

朝鮮関係業務整理事務所

配給査照表		
品名	数量	
寝巻		
ワイシャツ		
メリヤスシャツ(上)		
労働シャツ		
ステテコ		
作業帽		
巻脚絆		
ベンブルク		
割烹着	現品ナシ	
サロン前掛		
学童服		
女児服		
風呂敷		
ズック靴		

引揚社員援護団体代表者

朝鮮関係業務整理事務所

配給表		
品名	数量	
寝巻		
ワイシャツ		
メリヤスシャツ(上)		
労働シャツ		
ステテコ		
作業帽		
巻脚絆		
ベンブルク		
割烹着	現品ナシ	
サロン前掛		
学童服		
女児服		
風呂敷		
ズック靴		

引揚社員援護団体代表者

朝鮮関係業務整理事務所

配給査照表		
品名	数量	
寝巻		
ワイシャツ		
メリヤスシャツ(上)		
労働シャツ		
ステテコ		
作業帽		
巻脚絆		
ベンブルク		
割烹着	現品ナシ	
サロン前掛		
学童服		
女児服		
風呂敷		
ズック靴		

引揚社員援護団体代表者

朝鮮関係業務整理事務所

配給表		
品名	数量	
寝巻		
ワイシャツ		
メリヤスシャツ(上)		
労働シャツ		
ステテコ		
作業帽		
巻脚絆		
ベンブルク		
割烹着	現品ナシ	
サロン前掛		
学童服		
女児服		
風呂敷		
ズック靴		

引揚社員援護団体代表者

横須賀

浦中學校

海軍省

海軍省

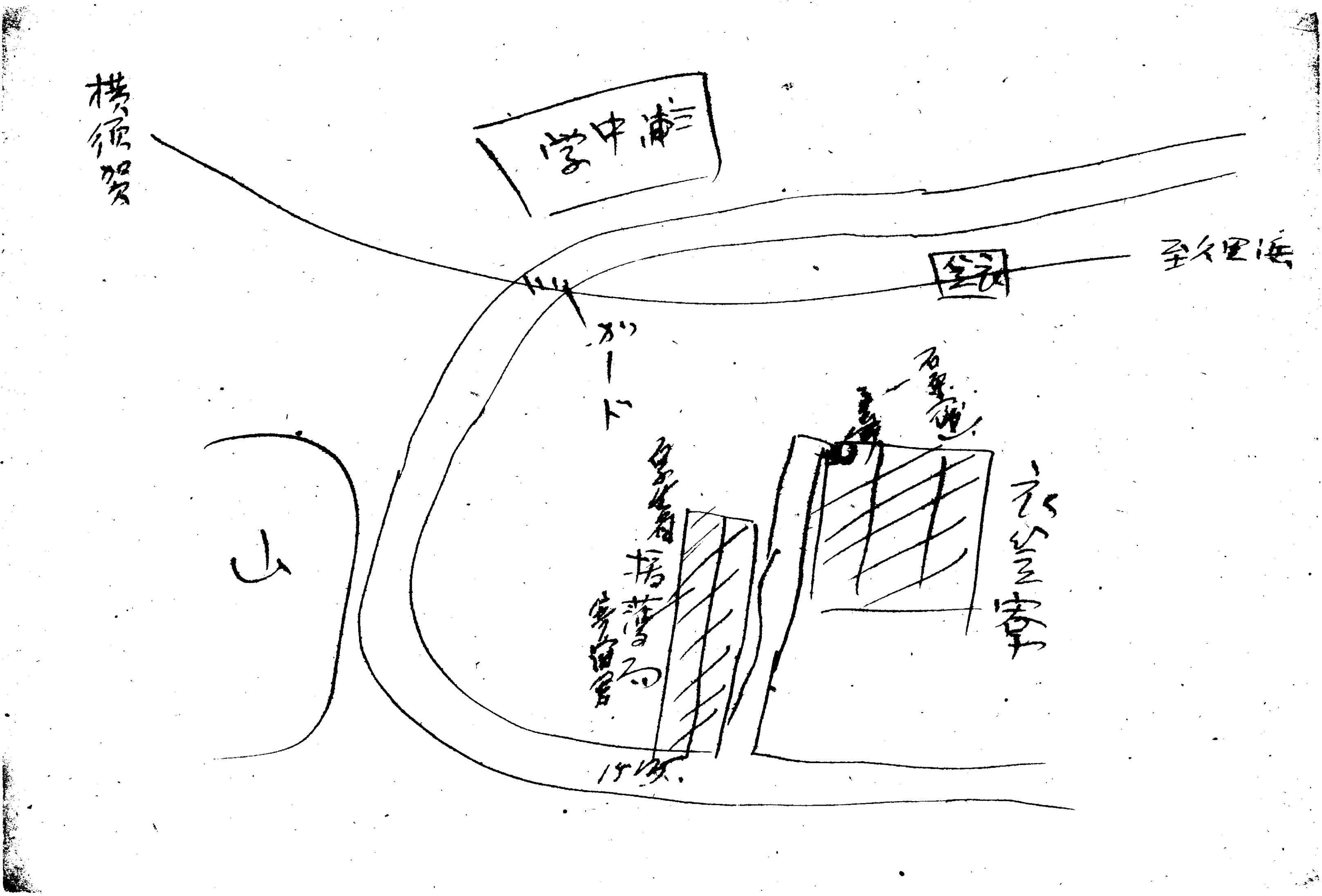
カ  
ー  
ド

石  
屋  
敷

石  
屋  
敷

石  
屋  
敷  
1515

山





[illegible]

品名	単位	数量	単価	金額	備考
朝鮮銅(支)株	株	11	11	121	
富士紡(株)	株	14	19	266	
河村商店	株	3	3	9	
錦紡(株)	株	1182	986	1165572	
鮮産製材(株)	株	11	12	132	
生気堂(株)	株	43	39	1683	
大興鮮産(株)	株	13	12	156	
朝鮮銅工業(株)	株	5	5	25	
朝鮮銅(株)	株	242	154	37268	
研谷紙器(株)	株	1	1	1	
内外商(株)	株	5	5	25	
日新銅業(株)	株	82	93	7626	
山下林業(株)	株	14	15	210	
朝鮮銅(株)	株	39	30	1170	
北輝合同(株)	株	550	340	187000	
計				1200	

TOKIWA PRINTER



[illegible]

7-15 三菱鉱業株式会社	423 鐘淵紡績株式会社	414 朝鮮人(三浦)株	日本生命保険株式会社	株合社 朝野製糖所	東洋鐵工株式会社	又一土地株式会社	江南株式会社	京都物産株式会社
501	2191	2848	31	11	63	3	11	4
382	907	986	22	13	69	4	13	8
323	289	611	23	8	58	4	9	1
302	322	373	19	4	56	5	10	2
1508	3709	4818						
人事部 (周)	本社 倉君 知四郎	"倉 常明五郎	"倉 常明五郎	森多木衛三	新渡田明善吉	岡田真次市		

TOKIWA PRINTERY

日本

○本車新堂

ソノシム

白粉車十両手所  
白粉車二両手所  
白粉車一両手所

○三越

三越

三越

三越

○三井

三井

三井

三井

○三井

三井

三井

三井

○三井

三井

三井

三井

○三井

三井

三井

三井

○三井

三井

三井

三井

○三井

三井

三井

三井

○三井

三井

三井

三井

○三井

三井

三井

三井

○三井

三井

三井

三井

○三井

三井

三井

三井

○三井

三井

三井

三井

○三井

三井

三井

三井

○三井

三井

三井

三井

○三井

三井

三井

三井

○三井

三井

三井

三井

○三井

三井

三井

三井

○三井

三井

三井

三井

○三井

三井

三井

三井

○三井

三井

三井

三井

○三井

三井

三井

三井

○三井

三井

三井

三井

○三井

三井

三井

三井

○三井

三井

三井

三井

○三井

三井

三井

三井

○三井

三井

三井

三井

○三井

三井

三井

三井

○三井

三井

三井

三井



米

米

米

米

米

米

米

米

米

米

米

米

米

米

米

米

米

米

米

米

米

米

米

米

米

米

米

米

米

米

米

斗一七六六六

三三三

合計二〇九九六

敬啟者

啟者

啟者

啟者

15

日本富士山

1500

2100

✓

山

山

11

大東

1100

1100

✓

山

山

10

北

1000

1000

✓

山

山

19

山

1483

1483

✓

山

山

14

山

1400

1400

✓

山

山

13

山

1300

1300

✓

山

山

12

山

1200

1200

✓

山

山

16

山

1600

1600

✓

山

山

20

山

2000

2000

✓

山

山

威北富士山

1800

1800

✓

山

山

朝鮮棒槌製作所

1700

1700

✓

山

山

王子

1600

1600

✓

山

山

北

1500

1500

✓

山

山

日

1400

1400

✓

山

山

TOKIWA PRINTERY



四

品名	数量	単位	金額
寝巻	30	3	115
ワイシャツ	30	10	120
タリヤスリヤフ(上下)	30	10	165
タリヤスリヤフ	50	10	75
スリヤフ	50	10	50
作業帽	10	10	10
靴	10	10	10
ハル	115	10	115
刺子	20	10	20
カ	25	10	25
腰	150	10	150
女	65	10	65
風	10	10	10
スリヤフ	80	10	80
心	10	10	10
心	10	10	10
海	10	10	10
ワ	10	10	10



# 朝鮮事業者會會則

第一條 本會ハ朝鮮事業者會ト稱ス

第二條 本會ハ朝鮮ニ於ケル邦人事業經營者ヲ會員トシテ之ヲ組織ス

第三條 本會ノ事務所ヲ東京都ニ置ク

第四條 本會ハ左記事項ヲ為スル目的トス

- 一 朝鮮ニ於ケル事業經營者及従業員ノ保護並救出
- 二 朝鮮ニ於ケル事業經營者及其ノ従業員ノ財産ノ管理並補償ニ関スル必要ナル措置
- 三 朝鮮ニ関スル諸情報ノ蒐集及會員ヘノ報告
- 四 其他本會ノ目的達成ニ付必要ナル事項

第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置キ會員中ヨリ選挙ス 但シ専務理事ニ付テハ

必要ニ應ジ理事會ノ承認ヲ得ニ會員外ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得

理事 長 一 名

専務理事 一 名

理事 若干名

監事 若干名

理事ハ理事會ヲ組織シ本會ノ目的遂行ニ必要ナル重要事項ヲ審議ス

監事ハ會計ヲ監査ス

理事及監事ノ任期ハ各一年トス

第六條 本會ニ顧問若干名ヲ置キ理事會ノ推薦ニ依リ之ヲ委嘱ス

第七條 本會ニ加入セントスル者ハ別途定ムル所ニ依ル入會金及會費ヲ納

付セシム

第八條 會員ハ理事會ノ承認ニ依ルモノトス

第九條 本會ノ經費ハ入會金及會費ヲ以テ之ニ充ツ

第十條 本會ノ會計年度ハ四月ヨリ翌年三月ニ至ル一ケ年トス

## 入會金及會費

區別	基準	入會金	毎月會費
甲級	拂込資本金及積立金ノ合計五百萬圓以下ノ法人	五〇〇圓	一〇圓
乙級	五百萬圓以上五十萬圓未満ノ法人	一〇〇〇圓	五〇圓
丙級	五十萬圓以上一億圓未満ノ法人	五〇〇〇圓	一〇〇圓
丁級	一億圓以上ノ法人	一〇〇〇〇圓	二〇〇圓

	サ ン 前 後	作 業	同 小	ス テ 靴	X 凡 品 靴	女 児 服	学 校 服	X ベ ン ゲ ル グ	X ス テ テ コ	活 動 シ マ ワ	メ リ ヤ ス ヒ ト	X Y シ ヤ フ	ネ マ キ	
	20	10	45	65	8	50	170	95	40	50	120	90	85	
	35	10		80	10	65	190	115	50	75	165	120	115	
			/	/	5	/			5 <sup>2</sup>	5 <sup>3</sup>	/		13 <sup>1</sup> 34 <sup>2</sup> 41 <sup>3</sup>	
	草 履	板 敷 草 履	座 敷 草 履	便 箋	バ ン 靴	バ ン 靴	イ ー サ ト	封 筒	テ タ シ イ	フ ン ド シ	靴 ス ミ	歯 ブ ラ シ	歯 磨 粉	
	12.0	5.-	15.-	3.50	30	35	4.-	3.50	10	4.50	4.50	5.5	1.20	1.20
451020 OKIWA 1750	2	1	1	5		1	5	5	10	4	4	2	2	

124,600  
62,300

カ  
ー  
ス  
ノ  
ミ

品 名	希望数量	決定数量
寝 巻	100	50
ワイシャツ	50	10
メリヤスシャツ(上下)	500	400
労働シャツ	1,000	500
ス テ デ コ	60	10
作業 帽	500	500
巻 脚 袢	/	/
ベンベルグ	50	10
刺 烹 着	30	5
サ ロ ン 前 掛	/	/
学 童 服	50	20
女 児 服	100	50
風 呂 敷	/	/
ズ ッ ク 靴	/	/
神 命 丸	/	/
心 臓 散	/	/
海 豹 膏	/	/
ワシ胃腸薬(大)	/	/
" (小)	/	/

引揚社員救護団体名  
代表者氏名  
井山祥太郎  
人事部長  
引揚救護係

日本鑛業株式會社

電報受信略號「ニホンバシ」エヌケイケイ  
電話日本橋(24) (自一一九六番、代表)  
東京都日本橋區室町壹丁目七番地

頤都報

芥脰

朝鮮、不常會合、鄭經、  
以申、  
法、  
和、  
單、  
為、

4,665-  
~~4,765-~~  
 2,332.50 2,382-

	品名	希望数量	決定数量	
115- <del>レ</del>	寝巻	10	10	(1150)
120- <del>レ</del>	ワイシャツ	10	2	(240)
165- <del>レ</del>	メリヤスシャツ(上下)	10	10	(1650)
	労働シャツ			
<del>レ</del>	ステテコ	510		
	作業帽			
	巻脚絆			
	バンベルグ			
<del>レ</del>	割烹着	10		
25- <del>(250)</del>	サロン前掛	10	10	
190- <del>(190)</del>	学童服	510	5	
65- <del>(325)</del>	女児服	510	5	
10- <del>(100)</del>	風呂敷	10	10	
	ズック靴			
	神命丸			
	心臓散			
	海豹精			
	ワシ胃腸薬(大)			
	(小)			

引揚社員被服園外名  
 代表者氏名  
 朝鮮特殊鉱業株式会社  
 代表者 張都子 謹

25,800 → 支 部  
 12,900 →

切取線

品 名	希望数量	決定数量
寝 巻	<del>2</del> 2	2
ワイシャツ	60	5
メリヤスシャツ(上下)	50	50
労働シャツ	60	60
ステテコ	60	20
作業帽	/	
巻 脚 祉	/	
ベンベルグ	20	10
刺 煮 着	50	5
サロン前掛	<del>2</del> 2	2
学 童 服	50	15
女 児 服	50	20
風 呂 敷	60	60
ズ ッ ク 靴	60	60
神 命 丸	/	
心 臓 散	/	
海 釣 清	/	
ワシ胃腸薬(大)	/	
" (小)	/	

昭和十一年

引揚社員援護団体名

東京日本橋區江戸橋二丁目三番(加賀ビル)

株式会社  
 機械製作所

309  
 田

42,820

21,410

品名	希望数量	決定数量
寝巻	60	60
ワイシャツ	80	15
メリヤスシャツ(上下)	66	66
労働シャツ	85	85
ステテコ	41	21
作業帽	5	5
巻脚絆	13	13
ベンベルグ	38	20
割烹着	48	10
サロシ前掛	27	27
学童服	60	30
女児服	36	36
風呂敷	104	104
ズツ靴	30	30
神命丸		
心蔵散		
海豹精		
ワシ胃腸薬(大)		
(小)		

取  
締  
線

引揚社員後援団体名  
代表者氏名

朝鮮電業従業員会  
古賀清三助  
会長

領收書

一金六圓也

右援護物資代内金として領收候也

昭和二十二年三月十日

朝鮮関係務整理事務所

王命家紙金南仕子工業殿



( )  
昭和 22 年 3 月 3 日

電報受信時「日本ハシ」  
電話日本橋區室町壹丁目七番地  
東京都日本橋區室町壹丁目七番地  
日本鑛業株式會社

朝鮮、多業會 12/1

海外部 海外課

引揚従業員援護物資分譲申込件  
首題、件別紙通り申込能引何卒  
是取、内取斗、被下等々

毎

# 四章

總督府義務整理要員、合同宿舍ヲ横須賀市池上<sup>所在</sup>海軍造船部工員宿舍ニ決定十二月二十四日頃迄ニ入宿出来得ル様計畫中ナル処食糧準備等、都合アルニ付入舍希望ノ向ハ入宿希望月日、官職、氏名等至急回報アリタシ

## 庶務會計部

一 宿舍 横須賀市池上町海軍造船部工員宿舍

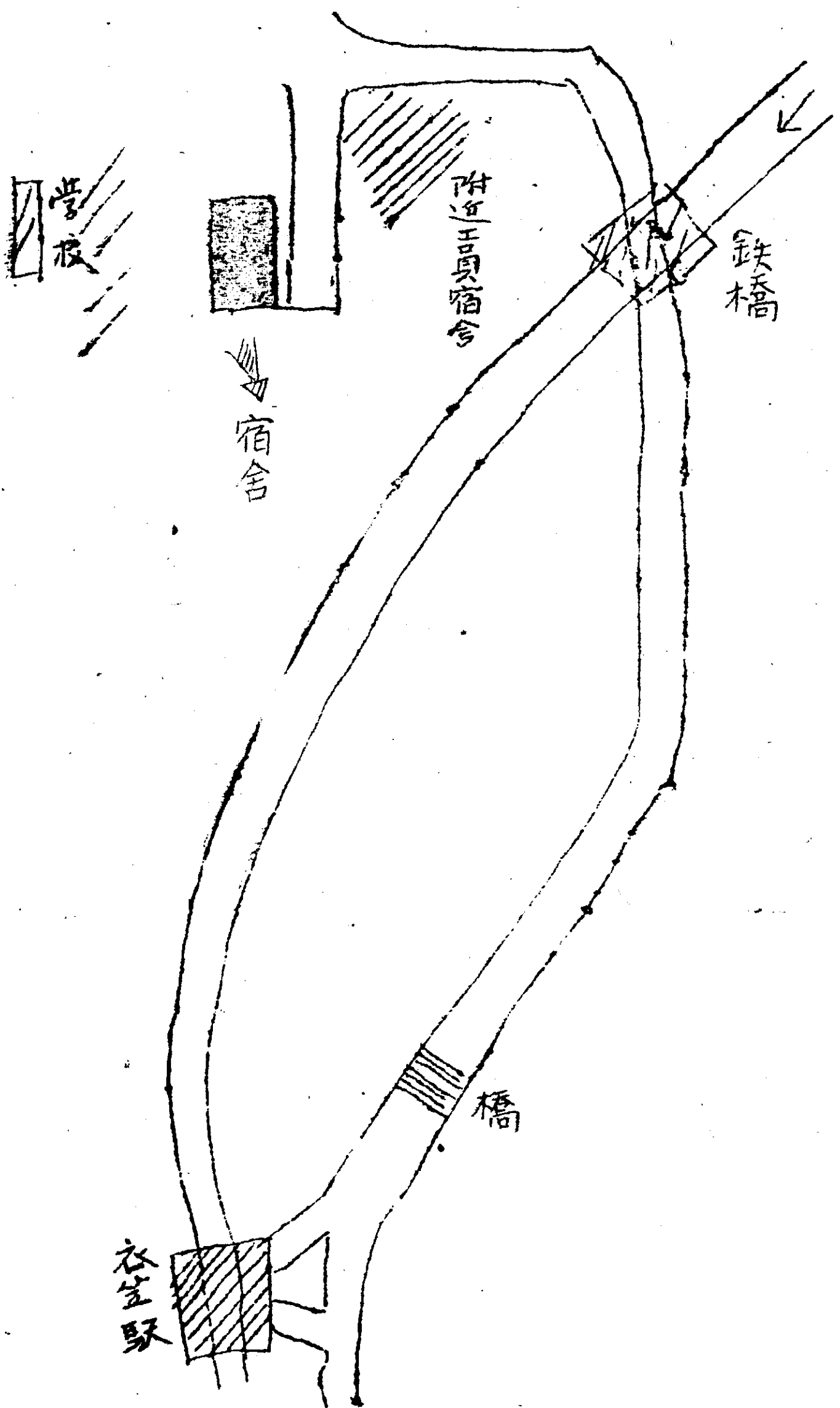
二 交通 横須賀線 衣笠駅下車 徒歩十二分間

省線所要時間一時間一分(新橋—衣笠間)

六ヶ月間通勤パス 約一〇〇〇〇

三 食費其、他諸経費ニ付テハ未ル限り少額経費ニテ計畫中ニシテ入舍希望者ハ食糧ノ配給ヲ受タシ、馬車入証明書ヲ持参スルコト

### 横須賀



# 幹旋事業の審査と指導の要領

財団法人  
更生事業推進中央會

(1)

第一、趣旨 幹旋事業の審査と指導の要領

一、本会に於て融資を幹旋した更生事業が出来ただけ当初の計画に従つて債務を償還する事について、本会は徳義上の責任を負ふものであり、又更生出発したこれらの事業が健全な発達を希う趣旨のもとに本会はこの事業について債務の完済される迄適當な審査と指導を行う。本会に於て融資幹旋以外の事について援助を存した事業体について、必要ある場合同様の趣旨で審査と指導を行う場合もある。

(註) 本専領の二及三は本項の前の場合についての審査及指導の要領であつて、後の場合については個別に定める。

第二、事業審査の要領

一、事業体は毎決算期毎に別表の營業報告を本会に提出する。(一年を決算期とするものに付ては特別の場合の外半年毎とする。)

二、本会は右の他必要ある場合特に別個の報告を求め、或は詳細な説明を求める場合がある。

第三、事業指導の要領

一、事業体は次の場合にはその旨を本会に報告する。

(1) 事業進行中当初の事業計画にくらべ着しい不利な相違を生じ、又は生ずる恐れのある場合。

(2)

一、趣旨の長期の借入金或は利益処分金を以て事業を拡張し、その為に借入金返済計画を変更を生ずる場合。

(3)

二、当初計画の事業種類に重大な変更を加へる場合。

三、二の審査の結果又は前項の報告に依つて本会が必要と認めた場合には助言又は實際的援助をする。前項の助言は企業の責任と自主性を尊重し助長する事を本旨とし、事業体は之に對し自己の責任を以て充分の考慮をなす事とする。

四、實際的援助は経営を困難ならしめてゐる点について之を打開する為の關係方面への幹旋等を行うものである。

(別表)

(1)

- 一、名 稱 ○ ○ 工業株式会社
- 二、所 在 地 ○ ○
- 三、企 業 責 任 者 代 表 取 締 役 ○ ○ ○ ○
- 四、主 たる 業 務 ○ ○ ○ ○ 製 造
- 五、更生事業推進中央会幹旋に係る借入金

内 総 額

既 済 額 (前 期 迄)

未 済 額

借 入 年 月 日

借 入 銀 行 (金 庫) 名

償 却 当 初 計 画

六、年 ○ 期 (自 年 月 日 至 年 月 日) 経 理 状 況

《 2 》

## (3)

[illegible]

註一、借方特定資産はその内容を明示して列挙する。  
註二、貸方別当金はその内容を明示して列挙する。

註一、借方特定資産はその内容を明示して列挙する。  
註二、貸方別当金はその内容を明示して列挙する。

#### (4) 乙. 損益計算書 雛形

(1) 製造勘定					
損失	金額		利益	金額	
仕掛原資 掛品銀造同貯借動保工 越給及縫荷資力險場合 高料骨及償品料費 銀卸品料費 雜計			仕掛製品副製品 現在原價 合計		
(2) 販賣勘定					
製品及副製品 製製品經銷 給借運搬小利合 (販賣)	超原費 材料費 運費 雜費 計益計		製品及副製品 現在高 合計		
(3) 純損益勘定					
總務費 (本社給諸 支払利息稅 納原料入 原製借雜 引割金卸階 損損却損 計利計 (純合)			益販利益 雜売利益 合計		

<p>高價現在高 壳製品製 副製及 製品製 勘製品</p>	<p>販 売</p>	<p>(2) 高價越 練製品 製製品 製製品 製品製 製品製</p>
<p>合 計</p>		<p>給借欄販 運包壳 利壳 計益 計</p>

[illegible]

(5)

七、利益金処分

当期利益金  
前期繰越利益金

計分

法定積立金

別途積立金

配当金

役員賞与金

後期繰越金

圖

八、營業概況

主として左の諸表に就て当初計画と實際とを比較することに重きを置いて營業内容を概説する。

(1) 原料の入手

(2) 動力の入手

(3) 労務状況

(4) 販売及販売価格

電力を主たる動力とする工場に付ては、契約電力、期末取付設備の総容量、各月の受電電力及び其の使用総時間を報告する。

外

貸借対照表と損益計算書の準則（雛形）の説明

本準則（雛形）は、商工省制定の財務諸表準則に則り、中小企業にも容易に適合するやうに、なるべく簡易にしたものであつて、その爲に理論的には体系が崩れ（例へば貸借対照表に於ける借方の部の特定資産、貸方の部の引当金の取扱方、損益計算書に於ける營業損益勘定と純益勘定との併合等）或は科目の精密を欠いた点（例へば貸借対照表に於ける未経過損益の省略等）もあるが、理論に走つて、理解又は取扱に難渋を来すことを避けたいのであるから、之に拘らずもつと精密を重んずることは望ましい所である。

本説明は、之だけでも、多少の予備知識があれば、両表の作製をなし得る程に心懸け、初步的の事柄にも及んでゐるので、繁雜のきうひがあるかも知れない。

併しその内容に於ては要領を述べたに過ぎないから本説明に依つて理解の困難な場合、重に精密な両表を計画される場合には、上記財務諸表準則の說明に依られたい。

両表の精密な作製には、平素の組織的な記帳が根本をなすものであつて、之さえあれば両表の作製は極めて容易なものであるし、又この事は経営の合理化上最も肝要なことである。会社の規模にもよるが、出来るだけ経験ある経理担当者置き、更に経理士の指導を受けられることを希望する。

一、般的説明

(6) 本準則は工業株式会社について示したものであつて、工業以外の業種、株式会社以外の組織についても之に示した体系と詳しさとを基準とされたい。

(7)

工業株式会社であつても本準則は体系と詳しさの基準を示したものであるから、之に従つて各事業の内容に適応するように適宜作製するべきである。

二、本準則に掲げた科目は必ず掲記することを求めるものではなく、その科目に該当する計載のない場合には之を特記して金額の零であることを示す必要はもとよりない。

併し各会社には必ずあるべき事項が零である場合、例へば当期利益金の〇等は特記すべきである。

三、本準則は総合科目の次にその内訳科目を並列してあるが計載は両者（総合科目は内訳科目の合計）に計上する。

甲、貸借対照表（註ヨは総合科目、注ハは内訳科目を示す。）

(1) 借方

四、借方には概括して言へば、期末現在に於ける会社の資産が内容別に列挙計上される。尤も「未拂込資本金」がある場合には、之を借方に計上するが、之は貸方の「資本金」に公稱資本金を計上する関係上、借方と貸方とのバランスの爲めに計上されるものであり、又々損のあつた場合には「当期又損金」「前期繰越又損金」を借方に計上するものもバランスの爲である。

五、「固定資産」とは長期に亘つて事業の運営に供せられる会社の財産である。

六、固定資産は、土地を除いて、毎期に適當な減価を引きまらなければならぬ。（減価償却）減価償却の税法上、損金として計上される範囲及取扱いについては、昭和二十二年大藏省令オ七十七号法人税法施行細則に規定してある。

二、内

(8)

七、固定資産は、之を取得する爲に要した價格（取得原價）を帳簿價格として、之から減価償却額を差引いたものを計上し、減価償却額の当期までの累計を括弧内に附記しておく。

八、固定資産の減価償却の取扱としては、帳簿價格から直接控除せずに、貸方に償却準備金等の科目を設けて整理することと一法であるが、上記大藏省令施行細則に於ては、この方法による場合は損金と認められないから注意を要する。

九、固定資産中「特許権」等の所謂無体資産は、之を取得するのに有償であつた場合には限つて、之を帳簿價格として計上すべきものであり、評價額を計上してはならない。

無体資産には準則に示した「特許権」の外「商標権」「実用新案権」「地上権」「営業権」等があらう。

十、「作業資産」とは製造加工又は販売に直接に供せられる物の資産である。

十一、「原料及び貯蔵品」の原料とは製造加工の主材料であり、貯蔵品とは製造加工又は販売の爲の副次的材料で製造販売の過程に於て消耗されるもの、例へば燃料である石炭、重油、梱包用材料、運搬用燃料等が之に属する。

十二、「仕掛品」とは製造過程途中にある半製品で「製品及副製品」は製造を完了し未だ販売されない手持品である。

十三、「原料及貯蔵品」には之を取得するに要した原價をそのままを計上し、之に評價益を加へることは避け、若し時價（売却價格）の低い場合には時價に依るべきである。

十四、「製品及副製品」は損益計算書販売勘定に計上された製品及副製品現在高をそのまま計上し「仕掛品」は損益計算書、製造勘定に計上された仕掛品現在高をそのまま計上し

(9)

上する。(六十五、五十八参照)

十五、「流動資産」とは作業資産以外のもので短期間に現金化するもの及び現金を指す。

十六、「売掛金」とは製品の売上高の未収入額を指す。

十七、「未収入金」とはどの科目にも入らない各種の収入未済金である。

十八、「受取手形」とは商取引の結果として受入れである手形上の債権額である。

十九、「有価証券」を若し所有する場合に特に計上し時価によつて評價計上する。

二十、「諸預金」には銀行預金、郵便貯金、振替貯金等を含む。

二十一、「貸附金」は営業の關係で取引先に対して貸附けた債権のある場合、例へば前貸金のやうなものに對して設ける科目である。

二十二、「雜勘定」とは前記各種の科目に属しない資産である。尤もその内訳科目とした「特定資産」は独立した綜合科目とした方が体系上適當な場合がある。(次項参照)

二十三、「特定資産」とは營業上の一般資産と區別して特定の目的にだけ使用する爲めに設けた資産がある場合に設定する科目である。

之を設定した場合には、その目的と資産の實體とを具體的に明示する。

例へば納税引当金を別口の預金としてある場合には「納税引当金引当預金」とし、職員退職積立金を一つの信託にしてある場合には「職員退職積立金引当信託」等とする。

尤も數個の目的のある引当金を一括して預金等としてある場合には「諸勘定引当預金」等とする外はあるまい。

此の科目に計上される額が多い場合又は科目の多い場合には、特に一綜合科目として項目別に内訳科目を設けた方がよい。

二、外

二十四、「仮払金」とは未だ歸屬すべき科目の未定な支払金、内払の性質を有する支払金等を計上すべきものであつて、その科目又は金額の確定次第直ちに整理するべきものであり、決算期には整理を急ぎ計上額は未定なだけ少額に止むべきである。

二十五、「雜勘定」の内訳科目として更に「雜勘定」を置いたが之は本原則をなるべく簡單にした爲に或はどの課目にも属しないものもある場合もあるかと考へて念のために置いたものであるから、若し相當の額に上るもの、ある場合には特に科目を起して適當な綜合科目の下に置くべきである。

尚、固定資産に属するものは少額であつても之に入れることなく特に科目を起すべきである。

## (2) 貸 方

二十六、貸方には概括して云へば借方に計上された会社資産の調達されて居る財源を内容別に列挙する。即ち会社資産は他からの負債と自己の資金とに依つて調達されて居るわけであるから、之を分類して計上するのである。

二十七、「長期負債」とは返済期限の長い負債であり、その期限が次年度末以後であるかどうかによつて決める。但し一括して借入れた長期負債で分割償還のものは次年度中償還の分を短期負債に、次年度末以降償還の分を長期負債に分割せずに負債全体の性質から判断して一括して長期負債とする。

二十八、「社債」を負債として持つてゐるものは、本会關係企業体にはまずあるまいと思ふが、若しある場合には額面によつて計上する。

二十九、従つて「長期負債」は本会のあつせんによる借入金だけか、又はそれが主要のもの

(10)



(11)

であらう。若し本会あつてんの分の外に長期買債のある場合には本会あつてんの分について特に一科目を起して他と区別して欲しい。

三十、「短期買債」は企業運営上の一時的の各種の金銭債務を包含する。

三十一、「買掛金」は原料その他物品の買入代金の仕入先に対する未払額である。

三十二、「未払金」は特に示されたものの課目にも属しない支払未清額である。例へば未払工賃、未払利息、未払税金等である。

三十三、「支払手形」は商取引の結果として生じた手形上の債務である。

併し、借入金の性質を持つ手形上の債務（所謂手形貸附を受けた場合）は短期借入金に入れらる。

三十四、「前受金」とは、証文の現金等として受入れてあるものである。

三十五、「短期借入金」とはその返済期限が決算年度中に到来するものである。当座借越の借越部分は之に入る。

三十六、「雑勘定」は長期買債、短期買債の何れの科目にも属しない債権的性質を有するものを包含する。

三十七、「引当金」はその額も少いと考へ雑勘定中の一内訳科目として置いたが、金額又は内容によつては一綜合科目を起してその下に格別に内訳課目を置く方が適當な場合がある。

「引当金」とは将来起り得べき支出又は損失充てる爲に当期の計算中から推定による額を準備しておく金額である。

例へば当期計算の買債に属すべき税金が納期未列の場合に、之を推定して当期計算中か

三

四

ら準備しておくのが納税引当金であり、将来退職する工賃職員の退職金は、当期計算も買掛すべきものであるから之を推定して準備しておくのが退職手当引当金である。

引当金はその目的を明示して各別に列挙することを要する。尚引当金を営業上の一般資金と区別して別口の資産として取扱ふ場合が多く、之は借方の「特定資産」となることは前に述べた通りである。

三十八、「預り金」は現金で返済することとを要する一時的に受入れた金銭のある場合に計上する。

三十九、「借入金」は帰属する科目や金額の未確定なるものを一括して計上する。その金額は決算期前に極力整理して出来るだけ少額に止めるべきものである。

四十、綜合科目「雑勘定」の下に更に内訳科目の「雑勘定」を置いたが何れの科目にも属しない少額のもので特に科目を起す程のこともない場合を予想して念のためにおいたものであつて、無いに越したことはない。

四十一、「借入金償却」は長期買債返済金を当期末計算中から保留計上した場合におく科目であつて、本会関係会社が概ね長期買債を有することから、その返済を明確にする爲に特に一科目を置くことにした。

或は引当金の一科目とする方が良い場合もあらうが、契約上、或は毎期末の経理からその額が推算に依らず確定されるものと考へ引当金とせず一科目とした。

又利益処分の一目とすることも考へられるが当座損失としての支出と見るべきである。

尚借入金の償却は期末の計算に保留計上されるものとは限らないから、此の科目の置かれる場合があり、期間中に返済したものは損益計算書には計上されるが、貸借対照表

(12)

(13)

には計上されない。

(3) 株主勘定 (借方及貸方)

四十二、株主勘定とは直接株主の利益又は負担に属する会社計算である。

四十三、資本金は最も基本的な自己資金として貸方に計上されるが、之には公称資本金額を計上し、そのバランスとして借方に未払資本金額を計上すべきことは上述した。

四十四、借方にはこの外にバランスとして「前期繰越損失金」が計上される。

四十五、貸方には資本金の他に将来の損失その他の目的の為に過去に於て利益金から留保積立てられた「法定積立金」、「別途積立金」等の積立金が計上され、又蓄積せられた自己資金として「前期繰越利益金」が計上される。

四十六、借方の「固定資産」以下「株主勘定」までの各科目の計と借方の「長期買債」以下「株主勘定」までの各科目の合計とを比較し、借方の方が多い場合には当期の利益を意味し、之を「当期利益金」としてバランス上貸方の末尾に計上し、若し貸方の方が多い場合には当期の損失を意味し、之を「当期損失金」としてバランス上借方の末尾に計上し、貸方及借方の両方の「合計」額が一致することになる。

四十七、本準則には一般的に例として繰越利益金があり、当期利益金を生じた場合について示してあるが、逆に繰越損失金があり、当期損失金の生ずる場合又は相互に入替った場合も生ずる。その何れの場合でも「当期利益金」、「当期損失金」は明示すべきものであつて、前期から繰越した利益又は損失と併合してはならない。

四十八、「当期利益金」及「当期損失金」が共に零である場合もあり得る。概ね作務的に言われるものであるが、本会関係会社では将来得る限りの長期買債返済金を計上した場合

には此の結果を生ずることも考へ得る。

乙、損益計算書

四十九、貸借対照表は期末現在に於ける会社の資産並に負債及資金の姿態を示す静態的のものであるが、損益計算書はその期間中を通しての会社の経理の状況と之に依る結果を示す動態的のものである。貸借対照表によつては期末の借方及貸方の差から当期の利益又は損失が割出され、損益計算書によつては期間中の支費と収入の差から結論として当期の利益又は損失が明にされる。見方を變へれば期間中の損益計算によつて上げられた損益の結果が、財産上の損失として期末の貸借対照表の上に現はれるものと考へられ、従つて両者の当期利益金又は損失金は当然合致するわけである。

五十、損益計算書は「製造勘定」、「販売勘定」及「純損益勘定」に分ける。面制のやうであるが理解し易く調製にも便であると考へる。

(1) 製造勘定

五十一、「製造勘定」では、製造工程を一応独立して考へ、此の工程に於て原料を費し之に加工して製品とするに要した全経費を損失に計上し、之を当期中製造工程に於ける原価総額として製品別に振分けて利益に計上する。換言すれば製品は商品として販売されるのであるが、その商品の製造原価を計算することを目的とする。

五十二、損失には製品とする為に要した経費を内容別に計上して合計する。内容としては原料、工賃が主であり、この外に従属的の経費を計上する。

五十三、原材料としては、半製品として前期から当期に持越された「仕掛品繰越高」と当

(15)

期間中に製造加工に供せられた「原料」とがある。  
「仕掛品繰越高」の額は前期末に「仕掛品現在高」として計上された金額を計上し、原料には購入原価の外に運搬費保管料等を加算する。  
尚ほ原料は当期中に会社の購入した金額と合致するものではなく、製造に着手せられた全量の額である。  
五十四、工賃としては当期中に直接製造に従事するものに対して支払はれた賃銀及給料を計上する。

五十五、繰越費約のものは之を「製造経費」としてその内訳を分類して計上する。  
内訳には研究設計等の技術、製造に伴ふ事務、運搬経費等の間接労務的のものに支払はれた「間接給料及賃銀」、工場機械等の「固定資産償却」、石炭重油等の燃料その他副次的に製造の為に消耗された「貯蔵品」、電力等の貯蔵品以外の「動力費」、工場又は敷地等の借料、工場火災保険等の「保険料」等がある。  
以上が大体予想される所であるが、その他「特許権使用料」等相当額に上るもの又は特別のものには特に科目を起して計上しその他の諸雑費は一括して工場雑費とする。  
五十六、利益には損失初に計上された全経費を生産品に振分けて示すものであつて、期末に半製品として次期に繰越される「仕掛品現在高」製造を完了した「製品原価」、製造に随伴して生ずる「副製品原価」に適當に割当てる。  
五十七、最も簡単な場合としては期末に半製品もなく副製品もない場合で損失の合計がそのまゝ製品原価となるが、半製品又は副製品のある場合には之を推算してその價額とし、損失の合計から之等を差引いたものが製品原価となる。

四

四

(16)

五十八、仕掛品(半製品)現在高はその原料に、工程の度合によつて製造費を推算して加算したものとして計上する。  
五十九、副製品は、その生産経費を計算し得る場合には之に依るべきであるが、之が不可能な場合には、副製品の一般卸売時價から適當な販売経費後荷費約経費及利益を差引いた額によつて之を推算して副製品原価とする。  
六十、専ら委託加工のみを業とする場合には損失初の「仕掛品繰越高」、「原料」の科目がなく、利益としては損失初を合計するものゝ「委託加工原価」として計上する。  
製造と委託加工の両者を業とする場合には利益の初に「委託加工原価」の科目を加へて、この部分を推算して計上することになる。  
この場合には右来るだけ精確に委託加工に費やされた賃銀及給料製造経費を推算して計上する。

## (2) 販売勘定

六十一、販売勘定は一応販売を豫定して考へ、製品を商品として販売する為の経理を明らかにし、之に依つて生じた損益を算定することを目的とする。  
六十二、損失としては商品としての製品及副製品の原価と販売の為に要した経費とを計上合計する。  
六十三、商品としての製品及副製品には前期から当期に繰越された「製品及副製品繰越高」と当期に製造された製品原価とを計上し、前者は前期に「製品及副製品現在高」として計上された額を、後者は当期の製造勘定の製品原価及副製品原価の合計をそのまゝ計上する。

(17)

六十四、販売経費は販売に要した経費をその内容によつて内訳として示す。即ち販売に直接従事するものに支払はれた「給料」、店舗事務所等の「借料」、製品を販売する場の「梱包運搬費」等が一般に予想されるが、その外「広告料」、「旅費」、「倉敷料」、「固定資産償却」等で金額の多いものは科目を設けて特に示し、少額重要でないものは販売経費として一括計上する。

六十五、利益税には製品副製品の当期売上実績額「製品及副製品売上高」と、期末に手持として後期に持越される「製品及副製品現在高」とを計上する。

此の現在高は当期の製品原価に依つて計算されるが、若し卸売時価が之よりも低い場合には時価に依る。

六十六、若し専ら加工のみを業とする場合には利益の初は於て「製品及副製品繰越高」、製品及副製品原価を削つて製造勘定の「委託加工原価」を移し「販売経費」を、販取経費に改めて委託加工品の受託に要した事務費を計上し、利益税には「受取加工代」の科目を設けて受取加工代金を計上する。

製造と委託加工とを業とする場合には損失の初に委託加工原価を加へ利益の初に「受取加工代」の科目を加へることとなる。

六十七、原料貯蔵品等を製造加工の為に消費することなく、そのまま販売した場合には損失の初に「原料原価」、「貯蔵品原価」の科目を設けて取得原価を計上し、利益の初に「原料売上高」、「貯蔵品売上高」の科目を設けて各々の売上実績高を計上する。

六十八、損失の各科目の計と利益の各科目の計を各々積算して、利益の部の方が多い場合には利益を意味し、之をバランズ上損失の初の末尾に「販売利益」として計上し、若し

逆に損失の部の方が多い場合には又損失を意味し之をバランズ上利益の初の末尾に「販売又損失」として計上し、損失及利益両初の合計を一致させる。準則雛形では通常の場合として販売利益のあつた場合を示してある。

(3) 純損益勘定

六十九、製造及販売によつて得た利益又は損失が上述両勘定によつて計算されるが、会社はその外に経営全般の経営損失、又は利益があるから、之等を綜合して最後に純損益勘定の計算を行ふことになる。

七十、損失の初には会社の総括的の経費として総務的事務に從事するもの、給料、業務的経費、借入金利息、及び手形の割引料、税金等が計上される。その外は特別のもの又は相当多額のものを以外は雑費として一括計上する。特に計上されるものとしては決算期に於ける実高と、帳簿上のあり高との相違から生じた損失「原料棚卸損」、「製品棚卸損」のある場合は少額でない限り科目を起した方がよい。

又固定資産の機械等が何等かの事情によつて急に著しく価値を減じた場合には通常の減価償却の外に相当の減価償却を為すべきであつて、之によつて生じた「固定資産評価損」、又機械等の固定資産を帳簿価格以下で売却した場合に生じた「固定資産売却損」は特に科目を起した方がよい。

七十一、職員及労働者に対して退職金を支払つた場合又は期末計算中から当期負担分として之を引当金とした場合には之を一科目として本損失に起すことが適當である。

七十二、損失には以上の外本会関係会社特別のものとして「借入金償却」を計上することとした。当期箇中へ期末計算に留保したものを含むに長期負債返済の為に支拂された

(18)

(19)

金額を計上する。(四十一参照)  
本会関係会社が一般に長期買債を有し、その返済が会社経理上主要の部分に占めるので、その状況を明確にする為に一科目としたのである。  
七十三、利益には販売勘定の売上利益をそのまゝ移して計上し、その他の少額の利益へ予金(子等)のあつた場合には雑益として一括計上する。  
但し若しまとまつた相当の利益のあつた場合、例へば固定資産を売却した結果、帳簿価格より高かつた為に生じた利益、固定資産売却益等、等は特に科目を起して計上した方がよい。損失として固定資産評価損について述べたが固定資産評価益を計上してはならない。

七十四、販売勘定が欠損であつた場合には損失の初頭に「販売損失」を計上する。

準則難形では一般の場合として販売利益の場合を掲げてある。

七十五、損失及び利益各科目の金額を精算し、その計を比較して利益の方が多い場合には当期に於ける純利益を意味し、バランス上損失の初(の末尾に「純損失」として計上し、逆に損失の方が多い場合には当期に於ける純損失を意味し、バランス上利益の初(の末尾に「純損失」として計上し、両者の合計を一致させる。

七十六、純利益及び純損失が共に零である場合もあり得るが作為的の場合が多い。但し本会関係会社としては月末の長期買債の決済をした場合にこの結果を生ずることもある。

七十七、製造勘定、販売勘定、純利益勘定の損失として計上されるものには中小企業に於ては精確に三勘定に分類し難いものがある。例へば同一人が販売と経費的の両事務に

五 内

従事し、製造、販売、経費が同一建物内に於て行はれ、製品と原料の運搬が同時に同一自動車によつて行はれる等である。之等は事務の量、使用割合、取扱量等によつて各勘定に比例分割することを求めるだけ精確に行ふべきであるが、大部分が一勘定に属し、他は極めて小部分に過ぎない場合には事務の便宜上計数の大部分を占める一勘定に計上するも已むを得ない場合がある。

(20)

借	方	金額	貸	方	金額
固定資産	8,500.00	980,000.00	長期買債	770,000.00	770,000.00
建物	353,000.00	558,000.00	入金	770,000.00	770,000.00
器具	690,000.00	539,130.00	入金	193,912.00	193,912.00
備品	283,600.00	59,000.00	入金	25,800.00	25,800.00
雑品	5,900.00	19,653.00	入金	4,500.00	4,500.00
雑品	19,653.00	764,446.00	入金	35,612.00	35,612.00
雑品	33,750.00	1,075,000.00	入金	65,000.00	65,000.00
雑品	11,925.00	67,000.00	入金	1,075,000.00	1,075,000.00
雑品	43,018.00	22,300.00	入金	18,200.00	18,200.00
雑品	62,313.50	1,000.00	入金	1,000.00	1,000.00
雑品	52,618.00	11,714.20	入金	11,714.20	11,714.20
雑品	107,413.00	12,195.70	入金	12,195.70	12,195.70
雑品	83,900.00	10,000.00	入金	10,000.00	10,000.00
雑品	23,513.00	38,000.00	入金	38,000.00	38,000.00
雑品	23,909.90	1,132.15	入金	1,132.15	1,132.15
雑品	23,909.90	68,362.20	入金	68,362.20	68,362.20
合計	23,909.90	23,909.90	合計	23,909.90	23,909.90

(22)

(3) 純損益勘定			
総務費	81238.00	販売利益	411880.00
給料	58000.00	雑益	32850.00
諸費	23238.00		
支払利息及割引料	62510.00		
納税金	45620.00		
原料棚卸損	12000.00		
製品棚卸損	8000.00		
退職金引当	67000.00		
借入金償却	100000.00		
小計	376368.00		
(純利益)	68362.00		
合計	444730.00	合計	444730.00

(21)

損益計算書雛形

(1) 製造勘定			
損失	金額	利益	金額
仕掛品繰越高	63000.00	仕掛品現在高	59000.00
原料	865320.00	製品原価	1163710.00
賃銀及給料	258700.00	副製品原価	235000.00
製造経費	270690.00		
間接給料及賃金	62000.00		
固定資産償却	56000.00		
貯蔵品	63813.00		
借料	12000.00		
動力費	46346.00		
保険料	22000.00		
工場雑費	8531.00		
合計	1457710.00	合計	1457710.00

(2) 販売勘定			
製品及副製品繰越高	152560.00	製品及副製品売上高	1941458.00
製品及副製品原価	1398710.00	製品及副製品現在高	196530.00
販売経費	174838.00		
給料	21000.00		
借料	9000.00		
梱包運搬費	66320.00		
販売雑費	78518.00		
小計	1726108.00		
(販売利益)	411880.00		
合計	2137988.00	合計	2137988.00





事業認可幹旋  
融資幹旋  
資材幹旋

申込書

住所

氏名商號

事業種類

代表者

担当者氏名

昭和 年 月 日

更生事業推進中央會長殿

別紙事業計畫について

幹旋御願い致します

尙申込事項實現後でも御指導、御援助を賜り度この爲に貴會に於て必要の場合  
合は直ちに事業報告書を提出すると共に業務、會計の監査を受けても異議は  
ありません



設立趣意書  
寄附行為

財團法人  
更生事業推進中央會

財國 更生事業推進中央會設立趣意書

今次戦争は、我が國社會及び經濟に未曾有の衝擊を與えたこと、今更言を俟たないところであるが、就中海外引揚者の窮狀は最も深刻なものである。海外に於て多年に亘る粒々辛苦の結晶は一期にして之を失ひ、母國に辿りつくも孤立無援、頼るに縁なく、預貯金等の蓄積亦拂出不能となり、變轉恒なき經濟狀勢下に生活苦、失業苦は他の戦争犠牲者に幾倍するものがある。何故に引揚者のみが敗戦下の損害と苦痛とを斯くも徹底的に甘受しなければならぬのであろうか。今や引揚者對策は、既往の應急的救恤中心より進んで恒久的定着援護の具体化を急ぐべき段階に立至つたのである。窮乏の引揚者に速かに其の職を與え生活の途を得せしめねばならない。引揚者の爲めに、引揚者による國內企業への轉換更生は、此の意味に於て引揚者對策の當面する最大の課題となつたのである。

翻つて國內再建の現勢を顧るに、生産遲滯等の惡條件重なり、インフレ歸趨決して樂觀を許さぬ、速かに舉國一致、特に經濟産業の更生より局面の打開を講ずべきであるが、茲に忘れてならぬことは、引揚者中には實力あり勤勉なる經營者、技術者等各方面に亘る人材が多數網羅せられてゐることである。引揚者の國內受入態勢を整備して速かに彼等とその處を得しむることは、常に多數引揚者に勤勞と所得との機會を與うるに止まらず、延いて國內再建を促進するにあづかつて効果少くないのである。此隊引揚者の再起の爲め確乎たる基礎と方向とを與うるときは、さきの日彼等が事業に注ぎたる努力と精熱とを、今日の平和的建設の爲めに再び喚び起させる所以となるであらう。

素より吾人は引揚者對策のみを意として、他の一切を顧るの要なしと考うるものではない。否、世上なお幾多の戦争犠牲者のあつて、その救済の必要性を強調するに敢て吝ならぬ者であるが、國內に生活の基盤を持たぬ引揚者が、その更生轉換に際して面する各種のハンディキャツプは余りに大きい。従つて先づ何よりこの不利不均等を埋め均らすことが急務であり、その爲めには應急的救恤では到底足りぬので、彼等をして克く堅實なる建設的企業の中に包擁することにより國內再建の一翼たらしめなければならぬ。

吾々は敘上の確信の下に同志相圖りて「更生事業推進中央會」を設立し、使命達成の爲め目的の貫徹を期し得るならば望外の喜びとする所である。

財團法人 更生事業推進中央會寄附行爲

第一章 名稱及び事務所

第一條 本會に財團法人更生事業推進中央會と稱える。

第二條 本會は本部を東京都港区に置く。

理事會の議決を経て必要の地に支部を置くことができる。

第二章 目的及び事業

第三條 本會は引揚者等が國內企業として更生轉換するために産業經濟の各分野にわたつて當面する各種の障害不利益を除去して均等なる機會を與え、且つその企業に關する知識、經驗、組織、技術等を活用し、もつて積極的に産業の復興に参加せしめ、わが國民經濟の再建に寄與するを目的とする。

第四條 本會は前條の目的を達成するため左の事業を行う。

- 一、左外企業の國內轉換整理の斡旋指導
- 二、引揚者等の企業に對し公共ならびに民間企業の門戸開放に關する連絡斡旋
- 三、引揚者等の企業相談ならびに企業計畫の審査及びこれに對する資金、資材等の斡旋
- 四、前號の企業に關する調査研究立案ならびに經營及び技術の指導
- 五、在外企業の國內保有財産等の保全管理
- 六、その他本會の目的を達するに必要な事業

第三章 資産及會計

第五條 本會の資産は設立者の寄附した別紙目録の財産、補助金、寄附金、會費及びその他の收入より成る。

第六條 本會の經費に資産をもつてこれを支辨する。

第七條 本會の會計年度は毎年四月一日に始まり翌年三月三十一日に終る。

第四章 役員及び顧問

第八條 本會に左の役員を置く。

會長	一名
副會長	三名
理事	若干名（内若干名を常務理事とする）
監事	若干名（内一名を常任とすることができる）
評議員	若干名

第九條 會長及び副會長は理事中よりこれを互選する。

會長は本會の業務を統轄し本會を代表する。

副會長は會長を補佐し會長事故あるときは豫め定めた順位によつてその職務を代理する。おお會長の指名によつて會務を分掌することができる。

第十條 理事及び監事は評議員中よりこれを互選する。

理事は理事會を組織し、且つ會長の指名によつて會務を分掌する。

常務理事は會長が理事會に諮り理事中よりこれを委嘱する。常務理事は常務を掌る。

監事は本會の業務及び會計を監査する。

第十一條 評議員は會員及び學識經驗ある者の中より理事會の推薦により會長がこれを委嘱する。

第十二條 會長、副會長、理事及び評議員の任期は三年とし、監事の任期は二年とする。但し重任を妨げない。補缺役員は任期は前任者の残任期間とする。役員は任期満了の場合にはその後任者の就任するまで前任者が其の職務を行う。

第十三條 本會に顧問を置くことができる。

顧問は理事會の推薦により會長がこれを委嘱する。

顧問は本會の事業の運営に關し意見を述べ、且つ會長の諮問に應ずる。

第五章 評議員會及び理事會

第十四條 評議員會は會長が招集する。

評議員會は毎年一回開く。なお必要ある場合は臨時に招集することができる。

第十五條 評議員會に附議する事項は左の通りである。

一、理事、監事の選出

二、本寄附行爲の變更

三、本會の解散

四、豫算及び決算の承認

五、その他必要な事項

第十六條 理事會は會長が必要と認めたとき隨時これを招集する。

第十七條 理事會に附議する事項は左の通りである。

一、評議員會に附議する事項

二、本寄附行爲に規定された事項

三、その他會務の執行に關する重要事項

第十八條 評議員會及び理事會の議長には會長となる。會長に事故があるときはその代理者が議長の職務を代理する。

第十九條 評議員會及び理事會は評議員又は理事の過半数が出席しなければ開くことができない。

評議員會及び理事會の議事は出席者の過半数で決める可否が同数のときは議長が決める。

第六章 會 員

第二十條 本會に會員を置くことができる。

會員に關する規定は別にこれを定める。

第七章 運 營

第二十一條 本會の會務を處理する爲に事務局、總務委員會、指導委員會及び管理委員會を置く。

事務局及び各委員會の長には副會長又は常務理事を充てる。

第二十二條 本會に職員を置きその事務を處理させる。

職員は會長がこれを任免する。

第二十三條 必要に應じ本會に専門部を置くことができる。

部會の委員は役員及び學識、經驗ある者の中より會長がこれを委嘱する。

第八章 補 助

第二十四條 本會解散の場合に残余財産があるときは理事會の議決を経て類似の目的を有する事業に寄附する。

第二十五條 本寄附行爲の施行に關し、必要な規定は理事會の議決を経て會長がこれを定める。

附 則

第二十六條 本寄附行爲は設立認可の日から有効である。

第二十七條 本會設立當時の理事は左の通りである。

阿部 勇	鎌田 澤一郎	須山 良	濱田 幸男	森川 三照
岩田 喜雄	菊澤 貞雄	巽村 知	平田 義弘	柳田 誠二
入江 誠一郎	楠見 義勤	田村 彦藏	古尾 貞雄	山際 正一郎
宇田 繁	久保 田	田村 彦藏	龜宮 清松	山田 義正
大久保 傳藏	島崎 辰美	月岡 拾一	星野 喜代治	山中 徳見
大瀧 克己	白石 宗城	富田 庄清	穂積 眞太郎	山田 徳二
大屋 敦	菅波 稱事	伴野 廣吉	堀内 清壽	横湯 通之
押川 一治	鈴木 武雄	根道 親義	水松 島直	
勝田 俊治	須田 一二三			



大日本帝國政府

[illegible]

(國定規格B5 八×五七五)

62 同機.

BZ 1 25.7000 } 21 40.668

24 97.647

st 4 23.1777 } 24 36.959

st 10.982

1 43.870

2 21.770

3 6.961

7 5.026

鐵路外地別標名調查表

工場名	在 籍 者	引揚者數	永口 氏	事故受害者數	死傷者數
和川亞鉛礦山	61	61			
金町工場	29	29			
金町 "	154	151	3		
光岡 "	8	8			
光岡 石炭	4	4			
龍見工場	13	10			3
和川 "	32	32			
豆成 "	192	175	10		43
龍崎炭坑	59	48	8		3
和川工場	32	61			
大田惠利店	3	3			
和川工場	8	8			
和川 "	56	56			
龍崎造紙	21	21			



龍鉄部 龍生	11	11		
宝鉄部 龍生	4	4		
龍鉄部 龍生	2	2		
金化部 龍生	2	2		
人字部 龍生	3	3		
ト 引	740	689	38	7 3 3

工切欠 北 群 在 强 台 引 格 活 强 而 只 字 数 的 用 在 强 强 而 强 强

平振化学工切	104	42	11	1	
平振化学强	120	78	21	13	8
平振化学强	45	45			
出乙工切	13	8	1	1	3
强化学工切	16	16			
强化学工	58	57		1	
强化学工切	80	48	20	6	6
强化学	7	4	3		
强化学工切	42	31	2	8	
强化学	49	25	24		
强化学	10	7	2	1	
强化学	1	1			
小计	595	462	84	31	6
总计	1,335	1,151	125	38	9

TONKWA PRINTERY

15

昭和二十二年三月十七日

朝鮮事業者會

殿

撤發物に對し今更に開する件

拝啓 今般朝鮮同胞及專營理事修所及朝鮮引揚同胞世話會の特別の御禮に依つて配布を受けました撤發物資は數量に限りがありました。爲め御希望の割合が出来ません。同多數にあり且又分取の方法等についても、又々變更がありまして誠に御迷惑を御かけました。最も懸念された輸送も日本鐵道自營肥料、日窒、農林三社の御協力によつて満ちなく取寄ることが出来まして誠に好都合でありました。右三社には厚く御禮を申し上げます。分回不足でありました。今後は次回の場合に按配致し度いと存します。御意承下さい。尚再三申し上げて懸念に存しますが配布の物資は引揚者以外には御交付下さる暇やうも呉々も御願ひ申し上げます。

先は石御禮等々御々敬具

朝鮮事業會館中

援護物資分與ニ関スル件

四二四愛

當社引揚者及其の家族數困窮の程度並に救済團體名は左記の通りであります。

一 大人 男 三八四名 女 九八六名 計四八八名

二 困窮の程度 甲 計三四名 乙 計五九名 丙 計一三名 丁 計二三名

三 救済團體名及代表者氏名 車馬部中野王 路馬 宮田 日田 四六

朝鮮人達石地林式今社從業員引揚者連絡事務所

代表者 今社宮田 四六

昭和二十三年四月十日

東京部中野区路馬宮四丁目四六  
朝鮮人造石株式会社

東京事務所

朝鮮事業本部中

引揚家族調査報告

終戦後五日迄二北朝鮮ヨリ引揚分ニ本社従  
業員左記ノ通ニ有之此段報告ス

記

従業員

一、六〇六名

全家族

三、一一二名

計

四、八一八名

昭和 年 月 日

大阪市都島區友淵町一二三

鐘淵紡績株式會社本部

電話堀川四自五七一―至五七七番

朝解事業報告書

鐘淵紡績株式會社

援養物資分賦方針を案する件

當社引揚者及其家族救國策ノ格差を平準  
救済団体力ハ尤モ一層ノ力ヲ得ル

一、在籍社員中朝解引揚者ニシテ一八六名

之ノ家族共 大人男 一〇二名 大人女 二八九

總計 大人男 二一九名 大人女 二八九

綜合計 三、七〇九名

(十三才以上大人 十二才以下小人、計七)

二、周薪格差 南緯比北緯事業素

御注意 (御書狀へ連テ會社宛ニテ御差遣被下度社員ノ宛名ニテ御差出被下候事(御見合セ可被下候))

昭和 年 月 日

大阪市都島區友淵町一二三

鐘淵紡績株式會社本部

電話堀川②⑤自五七一—至五七七番

端平侯有一周窮甚，乞仙人的二天相等差是

甲  
1/10

2

10

丙  
5.5  
/ 0

丁  
10

一  
卷  
之  
名

三、茲併周作人及代表布衣布

南社 三 集 終 所 後 度 了 為 之 了 了

代表者  
社長  
倉知四郎

御注意  
（御書狀）  
總  
會社宛ニテ御差出被下度社員ノ宛名ニテ御差出被下候事（御見合セ可被下候）

( )

切り取り

朝鮮事業者會御中

援護物資介與ニ関スル件

當社引揚育及其の家族數困窮の程度並に救済團體名は左記の通りであります。

一、大人男

名女

二、困窮の程度

名女

三、救済團體

甲

乙

丙

丁

三救済團體及代表者氏名



朝鮮事業者會御中

援助物資分與ニ関スル件

當社引揚者及其の家族救困窮の程度並に救済團體名は左記の通りであります。

- |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一 | 大 | 人 | 男 | 二 | 名 | 女 | 二 | 名 |
|   | 小 | 人 | 男 | 三 | 名 | 女 | 二 | 名 |

二 困窮の程度

① 一 在 帶

乙 丙 丁

三 救済團體名及代表者氏名

大坂市東區今橋五丁目十四番地  
安宅産業株式會社  
代表者 安宅 兼 清 會  
代表者 黒田 修 吉

No. ....

昭三三三四

チーゼル自動車工業株式会社

朝鮮事業部 會 部中

調査表 新送件

詳後 毎格別、御高配ヲ賜ヘテ、  
詳者 今般調査方、御下合有之、小盲題、件別紙ノ  
通、  
此皮、  
教 具

チーゼル自動車工業株式会社

朝鮮事業者會御中

援護物資分與ニ関スル件

當社引揚者及其の家族數困窮の程度並に救済團體名は左記の通りであります。

一、大人男	三〇名	
小人男	一七名	
二、困窮の程度		
甲		
乙		
丙		
丁		
三、救済團體名及代表者氏名		

計八三名

計八三名

朝鮮事業者會御中

朝鮮事業者會御中

朝鮮事業者會御中

朝鮮事業者會御中

昭和 22 年 3 月 8 日

3.15 度

主務課長 山田

宮本

朝鮮事業者会 市申

拝啓 貴市隆盛の至幸なり

陳者二月十三日 疎援護物資令に因りて  
以て市照會に預り、當社引揚者の家族困窮  
程並に人員代表者名別紙貴会より市に被  
下たる用紙に記入申送附申上里の旨を奉  
宣及此奉申上に義而貴社引揚者全額  
三十八度以上の者より有る、因に形状能は  
るに悲憫の者あり、此中何卒一市評案  
相成るを願申上に

大に急ぎ申上

句

No

宮本用箋

朝鮮事業者會御中

援護物資分與ニ関スル件

當社引揚者及其の家族救困窮の程度並に救済團體名は左記の通りであります。

一、大 人 男	二十名	女	十九名
小 人 男	二十一	女	十九
二、困窮の程度			計七十九名

三、救済團體名及代表者氏名

清津通糧工業株式會社

代表者 長瀬 武蔵 中野 山崎

水産會

會員去帶門課 生活程度調查書 昭和三年三月十五日現在

縣別	合計	大人	小人	合計	大人	小人	合計	甲	乙	丙
北海	一四四	七一	二一五	一七六	六八	三三	四四九	二四七	二〇一	二二
青森	八五	三七	一三二	八七	六一	一四八	二七〇	一五八	一〇〇	一一
山形	八六	三二	一八	一〇四	四五	一四九	二六七	一六三	八〇	二四
山	二二九	九五	三二四	二七〇	一〇五	三七五	六八九	三八九	二三七	六三
秋田	一二三	七一	一八四	一三八	六二	二〇〇	三八四	二二三	一四八	一三
宮城	二七五	一一九	三九四	五一一	三二五	七四〇	九四三	四三七	二四八	二四
岩手	三七〇	一四〇	五一一	三九六	一五〇	四四六	九五六	五四六	三七四	三六
東京	一四二	六三	二〇五	一四九	七一	二二〇	四二五	三八一	三二一	一二
千葉	八八	五四	一四二	一〇六	四六	一五二	二九四	二一七	六二	一五
茨城	一四一	七五	二一六	一三七	六八	二〇五	四二一	二二六	一七一	一四
埼玉	六四	三四	九八	六八	三九	一〇七	二〇五	一一二	八一	一一
群馬	八六	三八	一二四	九二	四九	一四一	二六五	一七一	七九	一〇
栃木	九五	五三	一四八	八四	五二	一三六	二八四	一六九	八二	三三

一、九、〇

八八二 三七九〇

八八二 三七九〇 八八二 三七九〇 八八二 三七九〇 八八二 三七九〇

八八二 三七九〇

縣別	已	分	大人	小人	女	計	子	合計	國	府	縣	度
神奈川	五九	三三	九一	五三	二七	八〇	一七一	九三	五二	三六		
靜岡	一二七	五九	一九六	一八二	四八	二二〇	四三六	二三五	一七〇	二一		
愛知	二〇四	一〇四	三〇八	二七九	一三九	四〇八	七一二	三九八	二九二	二六		
山梨	八六	五二	一三八	一〇七	五七	一六四	三〇二	一八五	八九	二七		
長野	一三五	一一一	二九六	二三一	一四〇	三七一	六三七	三五八	二一四	五五		
岐阜	一三九	六九	一九四	一五七	七六	二二三	四二六	二四七	一四九	三九		
新瀉	三五一	一四九	四九六	二八七	一四三	四三〇	九二二	五九六	二九八	三二		
青森	九八	四九	一四七	一六	四六	一六二	三〇九	一六八	一二七	一四		
石川	一三八	八三	二一一	一四〇	七八	二二八	四二九	二五七	一六三	九		
福井	一五四	七六	二三〇	一八八	八七	二七五	五〇五	二八九	二〇四	一二		
京都	八四	六三	一四七	九八	三七	一三六	二八二	一七四	八二	二六		
大阪	一〇七	四二	一四九	一〇七	四四	一六一	三〇〇	一七七	一〇〇	一三		
奈良	一〇九	五七	一六六	一二二	六三	一七五	三四一	一九二	一三二	一七		

八七七  
 九八八  
 二七三九  
 三〇五七  
 九七五  
 三〇三二  
 五七六一

縣別		分		子		合計		團		新		乙		丙	
縣別		分		子		合計		團		新		乙		丙	
滋	賀	九四	五九	一五三	一三四	九二	一八七	三三九	一八九	一三三	二七				
三	重	九七	七	一五七	一三三	九七	一七九	三三	一九四	一三九	一三				
和	歌	山	一八三	七六	二九九	一六八	八	二四九	九〇	八	二七三	二二〇	一五		
兵	庫	一六四	一一一	二七九	一九九	九三	二八八	五六三	二九九	二五二	三二				
岡	山	四二六	二七六	六九二	四〇二	一九七	五九九	一三九一	六三八	三八二	三七一				
廣	島	四〇八	二九七	六六四	九〇九	二四六	七五五	一四一九	七六一	五九二	一〇七				
島	根	三〇二	一九九	四九七	三八〇	一九六	五七六	一〇七三	九七	三一一	一六五				
鳥	取	一五四	一一三	二六七	一七二	九六	二六八	九三五	二八七	一二九	一一九				
山	口	五七	三九	九六九	八三三	三八四	一三〇七	二一七六	一三七四	五二一	三八一				
德	島	九八	五九	一六七	一三三	九二	一八三	三三〇	一八九	一四二	一九				
香	川	二四九	一九三	四四二	六八	一六一	二二九	六七一	三六七	二二一	八三				
高	知	一一一	七一	一八二	一五二	八七	二三八	四二〇	二三一	一七二	一七				
愛	媛	二六四	一四九	四一三	三三三	一八三	五二七	九二九	四八九	三五一	八九				

三二六 二〇二一 五三三 三九八 八八四 五四三 一〇六一〇



姓	別	三、四、五、六				合計	男	女
		大	小	計	大			
桐	岡	大八	四二四	一。五	九三六	四三七	一三三	二〇七
佐	賀	四。三	三四六	七四九	九七八	一八九	八六	一。二
長	崎	四三四	三一二	七四六	六三六	二八七	九三二	一六六八
大	分	九三一	一一七	六九八	六六五	三八一	一。四	一七。六
本	本	五八四	四三八	一。二	九。四	四二四	一三三八	三三。〇
主	崎	二四九	一五七	四〇六	三三六	二〇二	五三八	九三三
康	恩	五八五	五八	一。三	六二	三九	九七	二。六
詩		一。三	六二	一八二	一六四	四二	三三六	一六〇
計		一。三	六二	一八二	一六四	四二	三三六	一六〇
註		小人	大	以下	ト	ト	ト	ト

◎團體名稱 北鮮殘災同業委員會  
 代表者 委員長 兵頭 鉄  
 主務 小 寺 他 東京 神 港 已 廿 四 行 分 一 丁 自 治 審 他

母帶口譯 茲生治程及調書

現 男 大人 小人 計 大人 小人 計 合 計 田 窮 乙 程 度 丙

青森縣 四三八 三七一 七九 三三五 八一 四五六 二六五 五八四 三八〇 二〇一

宮崎縣 一二一 八五二 〇六 九三 四五一 一三八 三四四 一九七 一二一 二六

三重縣 二七九 一〇一 三八〇 二二一 六三 二八四 六六四 三五一 二八一 五二

熊本縣 三四六 一三八 四八四 二七六 七八 三五四 八三八 四三九 三〇一 九八

福岡縣 二六三 九七 三六〇 二二四 八七 三一 六七一 三五三 二〇九 一一〇

計 一四四七 六九二 三三九 二二八九 三五四 一五四三 三六八 二一九三 一二九二 四六七

註 國府程度甲ハ松倉有ナリ

主格 於々在 地 東京都中央區京橋三丁目

團體名 稱 西松組北鯉引揚者援護會

代表者 會 長 松村義士男

東京都港区芝田村町一三

朝鮮由係務整理事務所

鮮事業者會

中



東京都立大学  
山下林業株式会社

二月十四日

手紙

金 3 円

〒500-0001 福井県大野町西主善

山下林業株式会社

電話 五八八番

朝鮮事業者會

朝鮮関係

引揚職員接獲會

御中

代表

石本 静雄

拜啓毎々格別の御高配に語り有難く厚く御礼申上げます。

接獲物資命令の件

三月十七日付の貴會連發に語りました首題物資命令の供了を致し、また同日下第二回目の命令に際し御配慮の賜を蒙り、御事務の緊要な上、特別の御注意を以て御意を下さる程御礼を申し上げます。

大賛賜なり、今から宜敷く御依頼申し上げます。

昭和 年 月 日 No. 2

先  
は  
右  
清  
野  
山  
林  
業  
株  
式  
會  
社

敬  
具

福井縣大野町西三番  
山下林業株式會社  
電話 五八番

朝鮮事業者會御中

援護物資分與ニ關スル件

當社引揚者及其の家族數困窮の程度並に救済團體名は左記の通りであります。

一 大人男 十九名 計四十八人  
 小人男 十一名 計二十八人  
 大人女 十九名 計四十八人  
 小人女 十二名 計二十八人  
 總計 七十八人

二 困窮の程度

甲 乙 丙 丁

一 二 三 四  
 六 五 六 四

三 救済團體名及代表者氏名

慶尚道中野區星宮二丁目七七八番地

慶尚道工業株式會社整理事務所

代表者

植松

清



朝鮮事業者會御中

搬護物資令與ニ關スル件

當社引揚者及其の家族數困窮の程度並に救済團體名は左記の通りであります。

一 大 人 男 一〇人 名 女 一二人 名  
小 人 男 五人 名 女 七人 名

二 困窮の程度

甲 八人 名  
乙 九人 名  
丙 九人 名  
丁 九人 名

三 救済團體名及代表者氏名

冷水三九名

大東鎮奉同社救護會  
会長 坪山富輔

大東鎮奉同社



朝鮮事業者會御中

援護物資分與ニ関スル件

東京都麹町區丸の内ビル六階

朝鮮無煙炭株式會社東京出張所

切り取り

當社引揚者及其の家族數困窮の程度並に救済團體名は左記の通りであります。

一 大人 男 七 六 二 名 女 六 九 八 名  
小人 男 三 一 六 名 女 二 九 四 名  
計 二 〇 七 〇 名

二 困窮の程度

甲 一、三 五 〇 名  
乙 三 五 〇 名  
丙 二 三 五 〇 名  
丁 一 三 五 〇 名  
三 救済團體名及代表者氏名  
ナシ。

朝鮮事業者會御中

援護物資分與ニ関スル件

當社引揚者及其の家族數困窮の程度並に救済團體名は左記の通りであります。

一 大 人 男 一〇三五 名 女 八二八 名  
小 人 男 二四二 名 女 四九一 名

二 困窮の程度

甲 二三九 名  
乙 九一一 名  
丙 一八三八 名  
丁 一六〇八 名

三 救済團體名及代表者氏名

朝鮮實業從業員會 古智儀之



朝鮮事業者會御中

5

援護物資分與ニ関スル件

當社引揚者及其の家族數困窮の程度並に救済團名は左記の通りであります。

一、大 人 男 八一六名 女 五五〇名  
 人 男 五六〇名 女 五五七〇名  
 二、困窮の程度 二、四八三名

甲 一、八六三名  
 乙 六二〇名  
 丙 一  
 丁 一

三、救済團體名及代表者氏名

東京都日本橋區室町一丁目七番地

日本銀業株式會社

取締役社長 三宅南次郎

朝鮮事業者會御中

援護物資分與ニ関スル件

當社引揚者及其の家族數困窮の程度並に救済團體名は左記の通りであります。

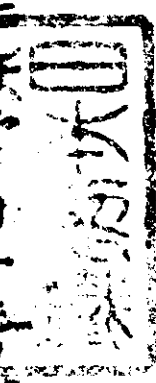
- 一、大人男 五二〇三名 女 二八九名
- 二、大人男 一五五名 女 一〇二名

二、困窮の程度

- 甲 六三九五名
- 乙 二一三三名
- 丙 一〇五七名

三、救済團體名及代表者氏名

東京朝鮮王立社 代表者 大島義男  
日本救済会 代表者 大島義男  
日本救済会 代表者 大島義男  
日本救済会 代表者 大島義男  
日本救済会 代表者 大島義男  
日本救済会 代表者 大島義男  
日本救済会 代表者 大島義男  
日本救済会 代表者 大島義男  
日本救済会 代表者 大島義男  
日本救済会 代表者 大島義男



朝鮮事業者會館中

援護物資分與ニ関スル件

東京郵政振興會館 四丁目三、五番ビル内  
朝鮮製紙株式會社  
東京事務所

7

當社引揚者及其の家族數困窮の程度並に救済團體名は左記の通りであります。

一 大人男 五十四名 女 五十四名  
小人男 二七名 女 二三名

二 困窮の程度

甲 大人男 四六〇、 大人女 五四五、 小人男 二七七、 小人女 三三九、 計 一、五三一  
乙 大人男 八一、 大人女 五四五、 小人男 二七七、 小人女 三三九、 計 一、五三一  
丙 大人男 八一、 大人女 五四五、 小人男 二七七、 小人女 三三九、 計 一、五三一  
丁 大人男 八一、 大人女 五四五、 小人男 二七七、 小人女 三三九、 計 一、五三一

三 救済團體名及代表者氏名 田辺廣八三

北朝鮮  
青島支店  
東京支店  
釜山支店  
仁川支店  
大田支店  
光州支店  
蔚山支店  
大邱支店  
全州支店  
春川支店  
江界支店  
南浦支店  
元山支店  
咸興支店  
清津支店  
南浦支店  
元山支店  
咸興支店  
清津支店

朝鮮軍業者會御中

援護物資分與ニ関スル件

當社引揚者及其家族救困窮の程度並に救済團體名は左記の通りであります。

- |       |     |   |     |
|-------|-----|---|-----|
| 一、大人男 | 三三名 | 女 | 二七名 |
| 小 人 男 | 二〇名 | 女 | 一六名 |

二、困窮の程度

- |   |                               |
|---|-------------------------------|
| 甲 | 大人男九名、大人女八名、小 人 男十名、小 人 女五名   |
| 乙 | 大人男二十四名、大人女十名、小 人 男十名、小 人 女十名 |
| 丙 |                               |
| 丁 |                               |

三、救済團體名及、代表者氏名

東京都京橋區銀座四丁目三番地王子農林株式會社

王子農林株式會社

東京府京橋區銀座四丁目三番地王子農林株式會社



山東史記

朝鮮事業者會

參事 辻

桂 五

事務所 東京都港區芝田村一ノ三  
朝鮮關係業務整理事務所內  
電話(銀座)四二三番 構内二七





王子製紙株式會社監理部

京橋区銀座四ノ三

王子ビル

朝鮮製紙株式會社東京支店

朝鮮事業委員會 印中

拜啓

振興物資令第二號ニ依

別紙ニ奉茲許全社中上各等宜要仰配需者上ハ

殘留者名簿提出ノ事

殘留者引揚連進方ニ付而仰配需賜テス物ハ  
弊社關係ノ殘留者三五名名簿而送附申上  
ハ召付率宜要仰配需者上ハ

おまへ

( )



朝鮮事業者會  
印中

芝田村所一三  
朝鮮關係業務整理事務所内

2

王子製紙株式會社營業所

電話京橋 (56)

六一九五	三五一四	六二一九	六二一六	至六一六三	自六一六三
.....	.....	七一九五	七一九五	六八八九	六八八九
.....	.....	.....	.....	六一九八	六一九五

宿直專用  
休日當直用

9

東京日本橋區室町貳丁目壹番地壹

三井農林株式會社

社

昭和三十三年二月十九日

朝鮮事業者會中

東京日本橋區室町貳丁目壹番地壹

三井農林株式會社



接護物資分與之件

右二圖スル二月十三日附出之件雜有拜誦致候

就而弊社引揚職員別氏角了之付何卒宜

敷取計ト云此段市圓報考ト市依頼申

上候

高書田社ニテハ兵役服務者以外之残留者ハ一

名モテフル全部引揚完了致候候ニ付市了

市了候

勿

朝鮮事業者會衛中

援護物資分與ニ関スル件

當社引揚者及其の家族數困窮の程度並に救済團體名は左記の通りであります。

一 大人 男 九名 女 九名  
 小人 男 九名 女 七名  
 二 困窮の程度 34

甲 五家族 二丁名 大男六 大女六 小男六 小女三  
 乙 四家族 十三名 大男三 大女三 小男三 小女三  
 丙 三救済團體名及代表者氏名  
 ナシ 三井農林株式會社

東京都芝田村所一三

朝鮮関係残務整理事務所

朝鮮事業委員会



X  
東京都日本橋區室町二丁目一番地  
三井農林株式會社

朝鮮事業者會御中

援護物資令與二関スル件

當社引揚者及其の家族數、困窮の程度並に救濟團體名は左記の通りであります。

一、大人男

六口名女

水  
人  
男

三  
〇  
名  
女

一六  
九四  
名名

二 困窮の程度

甲

大之男 五七 名 大之女

六  
七  
八

小男三名 小女九名

7

大人男 三、

三  
七

T

三、救濟團體名及代表者氏名

東京都豊田町丸の内五三六 随朝籍無煙炭株式會社内  
西縣中央鐵道株式會社 引揚者會代表 今泉

備考 本社引揚者、全員工場、本社及其地方、現場従業員及其家族ニ与

真著ハミ著々々無二物ニテ引揚ケタル生存困難者ナリ



切り取り

二月十五日受

朝鮮事業者會館中

援護物資分與ニ関スル件

當社引揚者及其の家族數困窮の程度並に救済團體名は左記の通りであります。

一	大	人	男	二十一	名	女	十九	名	計 90
二	小	人	男	二十四	名	女	二十六	名	

二困窮の程度

XXXX(甲)

三救済団体名及代表者氏名

一 東京都日本橋区人形町三丁目二紙及心子協會有

王手番紙屋敷會全用佐平三郎

引揚者互助會

代表者 大石 敬事

新幹線

都内芝田村可一五

長解肉係殘者整理事務所

長解事務者令

一五

昭和二十五年二月二十日

東京都日本橋區人形町三ノ二ノ三（和紙會館）  
紙及パルプ工業聯合會  
電話 芽場町(66)〇一六七―九番

朝鮮事業者會館中

援護物資分與ニ関スル件

當社引揚者及其の家族數困窮の程度並に救済團體名は左記の通りであります。

一、太人男 九名 女 四〇名  
小人男 六名 女 三〇名  
計 238

二、困窮の程度

甲 四五名(最も甚しき)

乙 一五二名

丙 四三名

三、救済團體名及代表者氏名

上三

二二二日交

朝鮮興業株式會社

總務課 山六郎

坂山

留七八

朝野事軍者念

援獲物資令此中速寄  
在



朝鮮事業者會御中

二月三日

援護物資分與ニ関スル件

當社引揚者及其の家族數困窮の程度並に救済團體名は左記の通りであります。

一 大人男 一六名 女 一五名

小人男 一名 女 二名

二 困窮の程度

1. 甲 乙 丙 丁

三 救済團體名及代表者氏名

昭和廿貳年貳月拾八日

東京都目黒區江戶橋二二三番地  
株式會社 朝鮮機械製作所

終戦事業



昭和二年二月十八日  
東營第貳三號



東京市麹町區内幸町二丁目八番地  
株式會社 朝鮮機械製作所

電話 銀座四三〇九一七番  
電話 銀座四三〇九一七番

南朝鮮軍事者會

以下

東京都日本橋區江戶橋二丁目三番地  
株式會社 朝鮮機械製作所

終戰事務

一 朝鮮經濟界社會の調査に關する件

昨接貴會より調査の事多謝、所奉答に付

昨接貴會より調査の事多謝、所奉答に付

昨接貴會より調査の事多謝、所奉答に付

昨接貴會より調査の事多謝、所奉答に付

昨接貴會より調査の事多謝、所奉答に付

昨接貴會より調査の事多謝、所奉答に付

昨接貴會より調査の事多謝、所奉答に付

本社・京城府長谷川町二十一(富士ビル)

電話代表本局⑧八一三六―八番

電話 濟州府浦項町三一〇  
電話 濟州府三二九番

工場・仁川府萬石町六番



朝鮮事業者會館中

援護物資分與ニ関スル件

當社引揚者及其の家族數困窮の程度並に救済團體名は左記の通りであります。

一 大人男 二五名 女 二三名 計 四八名  
小人男 七名 女 七名 計 一四名 (一四家族)

二 困窮の程度 (丁ヲ最悪程トス)

甲 十シ  
乙 三家族 (大人男五、大人女四、小人男四、小人女十) 九名  
丙 二家族 (三、三、三、三) 十二名  
丁 九家族 (七、一、一、一、一、一、一、一、一) 七名  
三 救済團體名及代表者氏名

内外特派員引揚者互助會 (代表者 月岡捨男)

朝鮮事業者會御中

援護物資介與ニ関スル件

當社引揚者及其の家族數困窮の程度並に救済團體名は左記の通りであります。

一 大人男 二六三名 女 二二七名  
小人男 二七名 女 一〇名  
計 七六〇名

二 困窮の程度

甲 失業、事業終了未償還の家族 五五%  
乙 定職有者セサル者 三〇%  
丙 定職有者セサル者 一〇%  
丁 内地に家族アリタル者 五%

三 救済團體名及代表者氏名

在日朝鮮人救済會 (長手可方)  
長手可方 救済會 在日朝鮮人救済會 長手可方

切り取り

弓矢印請承被らるる

二、撥渡物貸不與に因する件

南引揚従業員は合計一八八名に有るを家族を含めて概算七五〇名と豫想するは各地に散在し今も此に確たる人数の調査無き中因窮の程及等に就て詳細不明にも有るを遺憾の上後日印被知つるは是れ不承取致の由り印被るより何年可及物迄かに印被あるは撥渡を印被より是れ是れ南引印被るより是れ印被る

能登町長 印被

朝鮮事業者會衛中

援護物資分與ニ関スル件

當社引揚者及其の家族數困窮の程度並に救済團體名は左記の通りであります。

- 一 大人男 四 名
- 大人女 二 名
- 小人男 五 名
- 小人女 四 名

大人男 九名 大人女 七名

二 困窮の程度

一九二

甲 乙 丙 丁

三 救済團體名及代表者氏名

北朝鮮合同木材株式会社代表 伊藤重次郎  
(東京都世田谷区板橋町三丁目八番(舊地))

✓

朝鮮事業者會館中

援護物資分與ニ関スル件

一 福祉引揚者及其の家族救困窮の程度並に救済團體名は左記の通りであります。

一 大 人 男 二四六 名 女 二四〇 名  
小 人 男 一二五 名 女 七五 名

二 困窮の程度

中 乙 丙

①

三 救済團體名及代表者氏名

救済団体名  
代表者氏名

朝鮮飛行機製作所関係者  
三井物産會社人事部長引揚援護係  
東京市山手区山手二丁目二番地

昭和二十二年二月二十六日

株式會社神戸製鋼所東京事務所

第 1

朝鮮事業者會中

援護物資分典ニ関スル件

幣社引揚者、家族數及困窮ノ程度並ニ救済團體名左記、  
通り御報告申上候

記

一、大人 男八四名 女八七名  
小人 男四九名 女四一名 } 計二六一名

二、困窮ノ程度

- (甲) 帰還者全員ハ殆ト赤裸同様若クハ僅少ノ衣類ヲ纏帶セシメ  
乙 何モ生活必需品ノ缺乏ヲ訴ヘ困窮程度最モ深刻ナル者ニテ上迄四階級ニ  
丙 区分ニ難シ依テ甲階級ニ六一名トセリ  
丁

東京都下谷區上野廣小路一番地

朝鮮製鋼會社東京事務所



昭和 年 月 日

株式會社神戸製鋼所東京事務所

第 2

### 三、救済團體名及代表者氏名

神鋼日本人世話會 代表者 左近 允 基

(備考) 右世話會は終戦後工場接收の爲め會社代行機關として日本人従業員ヲ一團體ニ統轄し就労ノ統制、共同生活ノ實施ニ依り特殊事情

下ニ於て邦人全体ノ現地生活確保ヲ目的として設けられたる、

引揚完了後ハ親會社神戸製鋼所本社内ニ世話會殘務整理

事務所ヲ設け引揚者トノ連絡及援護ニ関スル業務ニ當テタルガ

モノニ付救済團體トシテ内容ヲ具ヘズ、親會社神戸製鋼所モ特別

經理會社ノ關係ノ外制限會社ニ指定セラルル爲メ外地引揚者ノ受入

援護モ困難ノ実情ニ付一層貴會ノ存続御尽力ヲ懇願ス

次第ニ御座候

以上

朝鮮事業者会御中

援護物資分與ニ関スル件

当社引揚者及其の家族數困窮の程を並に  
救済団体名は左記の通りであります

一 大人男 三二名 女 一三三名 計 四〇四  
小人男 八二名 女 六八名 計 一五〇 五五四

ニ 困窮の程を

甲 三三五  
乙 一一五  
丙 七〇  
丁 三四

三 救済団体名及代表者氏名

朝鮮電工株式会社

整理部長 白幡梧郎



陸軍

朝鮮事業會御中

援護物資分與ニ関スル件

當社引揚者及其家族數、困窮ノ程度並ニ救濟團體名ハ左記ノ通りデ  
アリヨム、

一、スヘ男 五五。名 女三四。名  
小人男 一七。名 女一四。名  
計壹千貳百人

二、困窮ノ程度

甲 大人 四四五名男三七五 女一八〇 小人 一五五名男七五 女八〇  
乙 " 一八。名男一七 女一 七。名男六 女一  
丙 " 一五。名男一四 女一 六。名男五 女一  
丁 " 一一五名男七五 女四〇 二五名男一五 女一〇

三、救濟團體名及代表者氏名 北鮮合同電氣株式會社

代表者 井上 清

代理人 角谷清三郎

朝鮮事業者會館中

援護物資分與ニ関スル件

東京都丸の内二ノ六

山下林業株式會社

由社引揚者及其の家族數困窮の程度並に救済團體名は左記の通りであります。

一 大人男 十四名 女 十五名  
小人男 九名 女 八名

二 困窮の程度 (衣類・寝具等全ク無シ。食料以下ハ生活者ナリ)

甲 三八名

乙 五名

丙 二名

丁 二名

三 救済團體名及代表者氏名

山下林業株式會社外地司務職員救済會

同會代表 杉本 静雄

(元朝鮮商會所長)

福井縣大野町西三番

山下林業株式會社

電話 五八番

左幸部丸の内二ノ五

朝鮮事業者會

御中

山下林業株式會社

No. 完

昭和22年2月25日

拜啓毎々種々御高配ニ添ひ奉深謝の

陳者

援護物資介介ニ關スル件

二月十日付御照會ニ添ひ首題ノ件、乍延司、茲許  
同封報知申上、町何事、宜敷法配慮致上、  
御承知、如、當此、朝鮮ニ於ケル事、甚、然、成鏡世道  
ニ、引揚職、及、家族ハ九死ニ一全ヲ得夫、脱出、帰玉  
ヤ、ハ、タ、メ、全、ノ、着、ノ、ミ、着、ノ、マ、ニ、現、在、ノ、酷、寒、ノ、期、ニ、全、身、  
コ、シ、食、以、下、ノ、生、活、ヲ、續、キ、居、ル、間、事、情、情、以、具、察、ノ、上、  
特別ノ御配慮致上、  
失、右、御致、  
敬、具、

朝鮮事業會御中

授護物資分與ニ関スル件

當社引揚者及其の家族數困窮の程度並に救済團體名は左記の通りであります。

一、大人 男

五人名

女

五人名

二、小 人 男

五人名

女

五人名

計一四四名

三、困窮の程度

五十八名

四十五名

三十四名

丁 名

三、救済團體名及代表者氏名

二十五年三月二十日

大日本朝鮮商會  
東京出張所  
東京出張所



大日本麥酒株式會社

東京府芝罘區芝罘町一丁目番地

大日本麥酒株式會社  
東京府芝罘區芝罘町一丁目番地  
電話二六六六號

此酒係由本會社  
直接由外國運到  
品質優良  
價廉物美  
凡欲購者  
請向本會社  
或各分會  
洽購可也  
此佈

昭和十一年二月二十二日

朝鮮事業者會御中

援護物資令與ニ關スル件

當社引揚者及其の家族數困窮の程度並に救済團體名は左記の通りであります。

一	大人男	一	二名	女	四	九名
二	大人男	四	四〇名	女	四	三二名

二 困窮の程度

甲	一五〇二	(最も困窮者)
乙	三〇五	(生活不安定者)
丙	二〇九	(生活稍不安定者)
丁	六六	(生活普通者)

三 救済団体名及代表者氏名

東京都日本橋區活橋一三加賀ビル内

日室鐵業開發株式會社

引揚係長

代表者 森山忠男

日本鐵業株式會社

朝鮮鐵業株式會社

神戶鐵業株式會社

日本鐵業株式會社

日本鐵業株式會社

日本鐵業株式會社

日本鐵業株式會社

日室鐵業開發株式會社

朝鮮事業者會御中

援護物資介與ニ関スル件

當社引揚者及其の家族數困窮の程度並に救済團體名は左記の通りであります。

- |   |       |     |   |     |
|---|-------|-----|---|-----|
| 一 | 大 人 男 | 五 名 | 女 | 六 名 |
| 二 | 小 人 男 | 五 名 | 女 | 五 名 |

二困窮の程度

甲 呼子園、三別十一柿ニ困窮ノ極ニアリ

乙 丙 丁

三救済團體名及代表者氏名

朝鮮特種鉱業株式會社

代表者 頓部秀雄





拜啓

援護物出分帳ノ件

表題ニ關シ二月十日付所達書拜見候  
昨午朝鮮より揚直後職家族総數ハ  
數十名ノ界ニ至リ其後歸郷ニ至ル者多  
數ノ現在救済ヲ要スルヲ揚職及  
家族數ノ左記ニ述ベテ所望ニ  
區別ナシ一様ニ救済ノ極ニ盡シ  
候旨ニ仰ル所也又救済ノ  
際ハ救済ノ旨ニ仰ル所也又救済ノ  
際ハ救済ノ旨ニ仰ル所也又救済ノ

昭和五年二月十六日

朝鮮特種銀業株式会社

代表者 櫻部 秀雄

朝鮮事業部長

此レ

朝鮮事業者會御中

援護物資令與ニ關スル件

當社引揚者及其の家族數困窮の程度並に救済團體名は左記の通りであります。

一 大 人 男 八 二 名  
小 人 男 六 二 名  
女 九 三 名  
女 六 七 名

二 困窮の程度  
甲 一 二 名  
乙 一 七 名  
丙 一 二 名  
丁 一 二 名

三 救済團體名及代表者氏名

救済團體名 救済團體名

代表者氏名 代表者氏名

切り取り

朝鮮事業者會御中

搬送物資分與ニ関スル件

當社引揚者及其の家族數困窮の程度並に救済團體名は左記の通りであります。

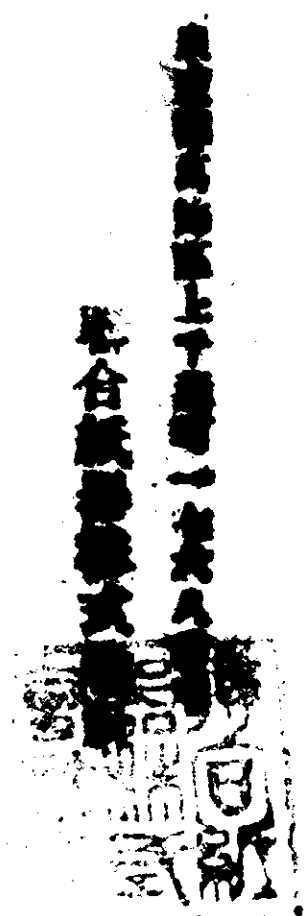
大 人 男	大 人 女	小 人 男	小 人 女
一 名	一 名	一 名	二 名

二困窮の程度

甲 乙 丙 丁

三救済團體名及代表者氏名

ナシ





検査済  
受付

朝鮮事業者會御中

援護物資分與ニ関スル件

當社引揚者及其の家族數困窮の程度並に救済團體名は左記の通りであります。

- |   |     |   |    |   |    |
|---|-----|---|----|---|----|
| 一 | 大人男 | 一 | 5名 | 女 | 5名 |
|   | 小人男 | 二 | 2名 | 女 | 2名 |

二 困窮の程度

大體の人数が少く、實は現在引揚者中各地支店出張所に居る者、關係に至る回数を要するものと存す。

御通知申上ります。

三 救済團體名及代表者氏名

①

持主無シキ者ニ有之ハ

大内

東京都京橋區銀座二丁目三番地  
内外通商株式會社  
取締役社長 大内鑽一

朝鮮事業者會御中

援護物資分與ニ関スル件

三〇・受

當社引揚者及其の家族數困窮の程度並に救済團體名は左記の通りであります。

一 大人男

十三名

女

十二名

二 小人男

二十名

女

一〇名

三 困窮の程度

二

甲

乙

丙

丁

三 救済團體名及代表者氏名

三月一日

日星三平町八十  
大興洋行  
東京市神田區  
東洋會館  
代表者 長  
株式會社  
加藤半  
常務  
加藤半  
常務  
加藤半  
常務

朝鮮事業者會御中

援護物資分與ニ関スル件

當社引揚者及其の家族數困窮の程度並に救済團體名は左記の通りであります。

一 大人男 五名  
大人女 五名  
小人男 七名  
小人女 五名

二 困窮の程度

三 救済團體名及代表者氏名

東京府墨田区江島三丁目一番地

東海金屬株式會社

東京出張所内

朝鮮鉛工業株式會社

代表者 大河原榮之助

三三受

取り取り

川口

生氣鎮鑛業株式會社引揚社員家族内譯表

世帯數	成年男子	15以上男子	成年女子	15以上女子	男兒	女兒	計
25	30	13	32	7	20	28	130

貧困者三世帯 19名



切り取り

朝鮮事業者會御中

援護物資分與ニ関スル件

當社引揚者及莫の家族數困窮の程度並に救済團體名は左記の通りであります。

一、大 人 男 二四二名 女 一少四名  
小 人 男 一三四名 女 一三二名

二、困窮の程度

甲 四〇名 (據護物資分與ニ関スル件) 一ニロ世帯  
乙 一五三名 (一虎就職セシメ) 一五二世帯  
丙 三六〇名 (亦テ雇入セシメ) 一三〇世帯  
丁 一六〇名 (定職ニシテ生活困難セシメ) 一四〇世帯

三、救済團體名及代表者氏名

朝鮮輕金屬株式會社  
東京事務所長

尾間 一房

山名 水

朝鮮事業者會  
御中

三三受

切  
り  
取  
り

朝鮮事業者會御中

援護物資令與二関スル件

當社引揚 有没其の家族數 困窮の程度並に救済團體名は左記の通りであります。

一  
大人  
人人  
男男  
十十  
二一  
名名  
女女  
十  
三  
名

小人

二 困窮の程度

一、<sup>度</sup>家板(新地) 1/2

以上一家族

三枚濟同林名及表者氏名

丁酉乙卯  
生所井上  
時中田中

此記畧大畧族  
生湖井上菊泉  
竹中田中實光所

楊東台吳安郡那智公湯所  
無解產自力學子生  
代黃者生功也

成  
美  
著

45  
50  
55  
60

45.

昭和二十二年十一月一日

元鮮産物販賣会  
生功会

朝鮮事業者会

本会、朝鮮事業者会、学生、高麗、中、高麗、力  
の、誠、に、有、益、人、事、業、に、中、止、つ、る、者、元、鮮、産、物、  
や、や、え、る、に、改、進、的、な、心、理、力、を、授、け、る、方、面、に、  
向、つ、て、る、に、自、創、也、に、自、力、學、生、に、對、し、命、令、し、た、り、  
力、を、傾、斜、し、て、濟、り、つ、る、が、巧、く、イ、ン、ロ、ウ、に、為、  
る、力、に、こ、の、技、術、に、目、的、を、達、し、得、る、意、義、に、  
居、る、者、に、多、く、し、て、機、器、者、に、出、て、居、る、事、  
先、後、別、に、物、次、り、に、配、合、し、て、學、校、の、中、に、成、

有難クモ  
横流ニ  
致サセ  
ルカ  
ラ  
モ  
能  
ク  
統  
ス

*(The page contains faint vertical lines and significant noise/artifacts, making it illegible.)*

人皆曰此其所以爲

朝鮮族為社員ニ因スル件  
解法 此ニ因シテ一同合セニ接シマシガ為ル  
員中 既ニ此ノ全員帰省致シマシノ  
中 照会ノ談者若カ居リマセ  
此動也

即チ此ノ事ニ由リテ

朝鮮族為社員ニ因スル件  
元 舞臺新報社社長  
此 是 生 活 者

元鮮產利衣我標式合此

引場社員、勤 辭

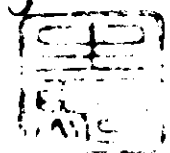
鮮產自力石子生今

今更

生

功了

今



生治 國籍 程度	世世 市主 名主	現在 職業	家族 大人	住 住	事他 種事
丁	田中人	大業	一人	山山山 山山山 山山山	男他種事
丁	竹中平	日曲	一人	山山山 山山山 山山山	男他種事
丙	生功新	大業	一人	山山山 山山山 山山山	男他種事
丙	井上隆治	大業	一人	山山山 山山山 山山山	男他種事
乙	瀬原新	日曲	一人	山山山 山山山 山山山	男他種事
乙	中川康夫	大業	一人	山山山 山山山 山山山	男他種事
乙	南嶋正光	大業	一人	山山山 山山山 山山山	男他種事
乙	長崎元	大業	一人	山山山 山山山 山山山	男他種事
乙	休白前	大業	一人	山山山 山山山 山山山	男他種事
甲	清水秋彦	大業	一人	山山山 山山山 山山山	男他種事
甲	新地イ子	大業	一人	山山山 山山山 山山山	男他種事
合計					

南海震白火ニ離

今更

[illegible]

33

朝鮮事業會御中

救護物資分與ニ関スル件

鐘淵紡績株式會社

當社引揚者及其の家族數困窮の程度並に救濟團體名は左記の通りであります。

一	大 人 男	一	女	九	名
	小 人 男	一	女	八	名
		七		五	名
		八		一	名

二 困窮の程度

(米引揚家族數) 南 六  
北 三

甲 乙 丙 丁

二五  
二八  
二五

三 救濟團體名及代表者氏名

鐘淵社友互助會

代表者 増田 幸雄

三七



取り取り

朝鮮事業者會御中

援護物資分與ニ関スル件

34

當社引揚者及其の家族數困窮の程度並に救済團體名は左記の通りであります。

一、大人男	三名
二、大人女	三名
三、小男	四名
四、小女	五名

二、困窮の程度

三、救済團體名及代表者氏名

東京日本橋通千目三番地國合ビル

中  
① 家庭 五名 (大人男女各一名 小男一名 小女一名)  
② 家庭 一名 (大人男女各一名 小男一名 小女一名)

三七

朝鮮事業者會御中

援護物資分與ニ関スル件

三三七

山岡素子



大阪出張所

大阪市北區中之島三丁目一八番地

富士瓦斯紡績株式會社

取締役 兼 倉庫

東京都日本橋區本所二丁目  
富士瓦斯株式會社内

取締役 兼 倉庫

松葉物炭分賣 同 件

物記 1 号、別表 1 号、1 号、1 号、1 号、1 号

田中 昭 子 氏

前社駐在 昭 子 氏 平本 昭 子 氏 昭 子 氏 昭 子 氏 昭 子 氏

昭 子 氏 昭 子 氏 昭 子 氏 昭 子 氏 昭 子 氏

昭 子 氏 昭 子 氏 昭 子 氏 昭 子 氏 昭 子 氏

昭 子 氏 昭 子 氏 昭 子 氏 昭 子 氏 昭 子 氏

以上

朝鮮事業者會御中

搬護物資分與ニ関スル件

當社引揚者及其の家族數困窮の程度並に救済団体名は左記の通りであります。

- |         |     |   |      |
|---------|-----|---|------|
| 一、大人男   | 一四名 | 女 | 一九名  |
| 小人男     | 一六名 | 女 | 一六名  |
| 二、困窮の程度 |     |   | 計六五名 |

- |               |     |     |          |
|---------------|-----|-----|----------|
| 甲             | 八世帯 | 四〇名 | (就職セルモノ) |
| 乙             | 六世帯 | 二五名 | (新職中ノモノ) |
| 丙             |     |     |          |
| 丁             |     |     |          |
| 三、救済団体名及代表者氏名 |     |     |          |

朝鮮引揚者管理部  
代表者氏名  
當社引揚者管理部  
代表者氏名  
國米英作

引揚省軍令會以早縣縣農工部  
代表者 杉山修一

引揚省軍令會以早縣縣農工部 員表

階級	世帯数	人数	男人数	女人数	男小人数	女小人数
A	一八五	九二五人	四七〇人	四五五	二七〇人	二八五人

右 A 階級、引揚者ハ現在地方事務所及町村役場等ヨリ  
救護金ノ支給ヲ受ケ居ルニ無職者ニシテ特ニ衣類ハ皆  
無ノ爲受給品ハ無賸配布ノ必要アリ

No.

階級	世帯数	人数	男人数	女人数	男小人数	女小人数
B	二二〇	一一二六人	五五〇人	五五六	三三五	三三五

右 B 階級、引揚者ハ現在梅田又郡谷汲村宇横蔵ノ  
山林原野ノ間拓ニ入植シタル者ニシテ日夜用務事業ノ  
ニ専念中ニテ最モ衣料品ニ不足シ居ル人ナリ故ニ

37

朝鮮事業者會報中

援護物資分配ニ関スル件

當社引揚者及其の家族數困窮の程度並に救済團體名は左記の通りであります。

一、大 人 男 五〇名  
小 人 男 七〇名  
女 四〇名  
二、困窮の程度 六五名

甲 二二五名  
乙  
丙  
丁

三、救済團體名及代表者氏名

朝鮮果實協會、朝鮮社會協會、朝鮮生果物配佐統制場、  
右(會長)代表者 石塚 峻

別衣類配給ノ必要ヲ認ムル階級者ナリ

階級	世帯数	人数	男人数	女人数	男小人数	女小人数
C	九五	四七五人	二五五人	二四〇人	一五五人	一四二人

右C階級ノ引揚者ハ親族知人等ノ援助ヲ要セケツツ  
 俸給生活及行方人労働等ニ従事シ居ルモ食糧  
 生活ニ追ハレ衣料品ハ購入ニハ全ク財産無ク困リ  
 居ル階級ナルハ衣料品ハ特ニ配給シテ一日モ早ク自  
 活ノ途ヲ進メ得ラルル程度ニ援助スル必要認階級ナリ

總 合 計 人 員

世帯数	総人員	女人員	男人員	男小人数	女小人数
五〇〇	二五二六	一二五一人	一二六五人	七六〇人	七五二人

昭和二十二年三月十七日

朝鮮事業者會

殿

援護物資分與に關する件

拝啓 今般朝鮮關係残務整理事務所及朝鮮引揚同胞世話會の特別の御幹旋に依つて配布を受けました援護物資は數量に限りがありましたを爲め御希望の割當が出来ません向も多數にあり且又引取の方法等についても度々変更がありました誠に御迷惑を料かけました最も懸念されました輸送も日本鑛業日窒肥料 日窒鑛業三社の御協力によつて滞りなく取運ぶことが出来まして誠に好都合でありました右三社には厚く御禮を申し上げます  
今回不足でありました分は次回の場合に按配致し度いと存じますから御諒承下さい尚再三申上げて恐縮に存じますが配布の物資は引揚者以外には御交付下さらぬやう呉々も御願ひ申し上げます  
先は石御願旁々々々敬具



昭和廿三年五月廿六日

東京都芝區田村町一ノ三  
朝鮮關係殘務整理事務所内

朝鮮引揚同胞世話會

會長 岡屋貞三ノヤ

編輯長 中保 興作

東京財務局 申中

酒類特配方に關する件

當會に於ける朝鮮引揚同胞援護補導ノ目的に達  
成スル為メ特ニ朝鮮及海外引揚邦人ニ特別ノ關係  
及都下各新聞社記者及關係者ニ煩ハシ用酌適  
成、援助ヲ乞フノ必要アリ之ヲ連絡意見交換、為メ  
在都依リ會議開催致度就テ之ヲ接待用トシ  
テ左記ノ通り特配方特別ノ申設、相煩ハシ度及申

清玄也

記

一生ごに

一〇〇リツト

期日

場所

人負

上  
月  
廿  
五

寺  
事  
務  
所  
人  
員  
室

一  
月  
廿  
五

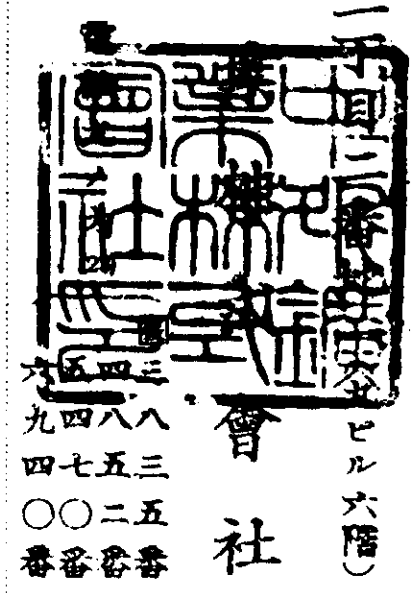
No.

昭和二十一年三月二十五日

東京都麹町區丸の内二丁目二番六号

中外鑛

中麻第九回



朝鮮事業者會御中

庶務課

援護物資分與に関する件

當社引揚者及其の家族數困窮の程度並に救済團體名は左記の通りであります

一、成人男	一四五名	女	一四八名
小人男	七八名	女	七九名

二、困窮の程度

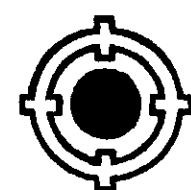
甲

三、救済團體名及代表者氏名

目下計畫中 代表者 /

以上

朝鮮事業會 御中



東京都京橋區銀座七丁目(賑橋際)  
日本ヒョーム管株式會社  
東京事務所

電話(57) 六二五二番(直電)  
八四一十九番  
東京八〇五〇番

拜啓毎々種々御配意を蒙り有難く厚く御禮申上げます 扱而

援護物資分與に關する件

二月十三日付にて御照會を賜りました首記の件別紙の通りであります  
何卒宜敷御取計下さいます様御願申上げます

先は右御願まで

昭和廿二年二月廿四日

敬 具

支店 大阪支店 西宮市大井町一五三九番地  
支店 鳳川支店 西宮市大字藤田五三九番地  
支店 八幡支店 西宮市北三條東四丁目一五三番地  
支店 札幌支店 札幌市北三條東四丁目一五三番地  
工場 川崎工場 川崎市下作延一三五八番地  
工場 尼崎工場 尼崎市ノロ二〇・一七五番地

朝鮮事業者會御中

援護物資分與ニ関スル件

當社引揚者及其の家族救困窮の程度並に救済團體名は左記の通りであります。

一 大人男 一 名 女 八 名  
小人男 五 名 女 四 名

二 困窮の程度

甲 六家族(三名) 金社トシテ此等ノ者ニ對シ金銭ニ付テハ出来得ル限リニ於テ相應ノ援助ヲ與ヘタルモ物資面ニ於テハ如何トモ爲シ得ズル爲ニ各家族共相當ノ深刻ナル困窮状態ニ在リマス。但シ乙ニ記載セル二家族三名トハ單独ニ困窮程度ハ輕イモノデアリマス。

三 救済團體名及代表者氏名  
川崎市下町延一三三八番地  
日本ビルヂング協會 社會生活課  
代表者 山岡節子 助産婦

40

一六九

至急

14 九六六タカマツコ ハンニニヒ六 コ三、五〇

キチジ ヨウジ 二六九〇

朝野新聞社  
(東京)

オ  
学  
政  
光  
龍  
博  
士



ウナ ヒキアケ シヤインエンゴ フ ツシフ ンヨニツキテウセン  
ケフシヤカイニスグ コウセウネガ フ オトコオトナ三九コト  
モ一ミランナオトナ三ニゴト モニミケイニ〇セケイニ〇セナリ  
イサイフミ

大人男三九 大人女三三 小男一三 小女二二

セー、ニハフ

廿一。七

取り取り

朝鮮事業者會御中

援護物資分與ニ関スル件

當社引揚者及其の家族救困窮の程度並に救済團體名は左記の通りであります。

- 一 大人男 貳七四名
- 大人女 貳參八名
- 小人男 壹貳四名
- 小人女 壹貳四名

二 困窮の程度

- 甲 五〇名
- 乙 貳〇名
- 丙 五〇名
- 丁 五〇名

三 救済團體名及代表者氏名

芝正新橋二丁目二番地 三井輕金屬車庫支店内  
三井輕金屬引揚者相互會  
代表者 黒澤清喜

三井輕金屬株式會社

資材課 黑澤清喜

東京都芝區新橋二丁目二番地  
(三井物產)  
電話 銀座 (57) 六六〇四  
電報 六六〇四  
電報 六六〇四  
電報 六六〇四



昭和七年二月六日

朝鮮無煙炭鑛株式會社

朝鮮事業者會御中

拝啓 愈々御盛栄之致大慶至極ニ存ジエマス 陳者弊社従業員中一名ハソ軍捕虜トシテ抑留サレ行方不明ノ者ヲ除イテハ昨年末ヲ以テ全部引揚リ完了致シマシタ

就テハ御申越、如ク當社ノ事業地至南江西地方ハ特ニ思想状況悪ルク爲メ引揚者ノ悲慘ニ状況ハ言語ニ絶シ當社又創業ガ古キタメ従業員勤績三十年近キ者數名アリ從ツテ内地ニ何ノ足溜リモナリ住ムニ家ナキ者多ク地方援護會、御世語ニナツテオリマスガ當社トシテ之ガ急務ニ苦慮致シテオリマス右ノ事情ニアリマスノデ此ノ度、援護物資ノ給與ニ對シテハ實ニ有難ク御計畫デ何分

朝鮮無煙炭鑛株式會社

ノ御援助特ニ御願申上ゲタラ早速別紙御報告致シマヌカラ何分ヨロシク御願ヒ致シマス

尚現地ニ最後迄居残リ残務整理後引揚ゲテ参リマシテ幹部モ居リマス、テ弊社大阪事務所ト共ニ貴會、關西方面、連絡等、御利用願ヘレバ幸甚ニ存ジ又懸念、御協力申上ゲ度存ジマス  
先ハ右貴答奉々御願致シ候

草々

昭和廿二年三月六日

朝鮮無煙炭鑛株式會社

朝鮮事業者會 御中

援護物資分與ニ関スル件

當社引揚者及其家族困窮ノ程度並ニ救済団体名ハ左記ノ通リ

デヤリマス

一 大人男 四四名 女 五六名

小人男 二三名 女 二五名

ニ困窮ノ程度

甲

乙

丙 一 一 一 一 三家族

丁 一 一 一 一 四一家族

朝鮮無煙炭鑛株式會社

ニ救済団体名及代表者氏名

旧朝鮮無煙炭鑛株式會社

代表者 吉見成夫

(事務所 京都市中京区河原町通、表川上)

(朝鮮無煙炭鑛株式會社京都出張所内)

43

朝鮮事業會御中

援護物資令與ニ関スル件

當社引揚者及其の家族數困窮の程度並に救済團體名は左記の通りであります。

一 大人男 七二名 女 五六名  
小 人男 一四名 女 一八名

二 困窮の程度

甲 乙 丙

三 救済團體名及代表者氏名

三〇名  
三〇名  
三〇名

東京市東區東區  
片倉強運株式会社

片倉強運株式会社  
代表取締役 片倉 隆夫

(44)

朝鮮事業者會御中

援護物資分與ニ關スル件

當社引揚者及其家族數 困窮の程度並に救済團體名は左記の通りであります

- 一、大人 男 三名 女 二名
- 二、小人 男 一名 女 一名
- 三、困窮の程度

甲 乙 丙 丁

三、救済団体名及代表者氏名

昭和廿貳年參月廿貳日 受付

入、こ

大阪府三島郡富田町一七三

株式會社 西島製作所

取締役社長 竹尾秋 取



昭和 年 月 日

後援物資単価表

品名数量単価備考

号

寝巻 1000 12500

ソックス 2000 12000

メリヤス 2000 12500

方巾 2000 7500

ステテコ 3000 7000

作業帽 1000 12000

足袋 1000 10000

ハンカチ 1000 12000

家庭用 1000 9000

カミソリ 1000 12000

手拭 1000 12000

足袋 1000 12000

75

七、三、三、一、五、〇

1353.960  
734.510.50  
618.449.50

日

品名	数量	単価	割	合	計
寝巻	1000	9000	5750	575000	2500000
Yシャツ	200	9200	9800	198000	1300000
メリヤス下	600	7000	8000	800000	1600000
労働シャツ	5000	3000	3400	340000	7900000
ステテコ	240	23000	26400	264000	900000
作業帽	2400	7400	8400	840000	1000000
巻脚絆	200	9000	5700	570000	2000000
ベルグ	200	66000	7500	750000	1100000
新着	100	40000	4000	400000	900000
サコ	1000	10000	13000	130000	1300000
作業服	300	13000	16000	160000	1900000

品名	数量	単価	価額	計
女児服	400	300	120,000	
風呂敷	600	400	240,000	
スリッパ	1,000	400	400,000	
計			760,000	
品名	数量	単価	価額	計
女児服	400	300	120,000	
風呂敷	600	400	240,000	
スリッパ	1,000	400	400,000	
計			760,000	

735,079.50  
 737,879.50  
 81,800.00

617,449.50





604,215.40

45.02 4 55

望井亭

加藤 轉元

半江 互以

(岩田子春)

① 持 興 伍 采

(地) (乃 弟 弟)

元 維 但 龍 虎 侯

138,220—  
69,110—

品 名	希望数量	決定数量
寝 巻	300	300
ワイシャツ	300	25
メリヤスシャツ(上下)	300	300
労働シャツ	300	300
ス デ テ コ	300	50
作業 帽		
巻 脚 袢		
ベ ン ベ ル グ	300	60
刺 煮 着	300	18
サ ロ ン 前 掛		
学 童 服	300	50
女 児 服	300	80
風 呂 敷	300	300
ス ッ ク 靴		
神 命 丸		
心 臓 散		
海 釣 清		
ワ シ 胃 腸 薬(大)		
" (小)		

切 取 線

引揚社員校護団体名日本皇室  
代表者氏名 北山 恒  
取締役社長 北山 恒

1,205—

3-7 税金 600—

品名	数量	単位
炭	2	2
ワイヤ	2	2
ワイヤ (上)		
ワイヤ	5	5
スラ	2	2
作		
巻	5	5
ベン		
劇		
カ		
景	1	1
女		
風	2	2
ス		
神		
心		
海		
ワ		

東京市日本橋区人形町三丁目二番地  
王子製紙株式会社  
代表取締役 今井 金吾  
大石 謙一  
事務 長  
佐々木 隆夫

4.935—

2.460—

品名	希望数量	決定数量
寝巻	2	2
ワイシャツ	3	3
メリヤスシャツ(上下)		
労働シャツ	<del>28</del> <sup>23</sup>	23
ステテコ	1	1
作業帽		
巻脚絆	1	1
バンベルグ		
割烹着		
サロソ前掛		
学童服	<del>5</del> <sup>5</sup>	5
女児服		
風呂敷	<del>69</del> <sup>65</sup>	65
ズック靴	<del>12</del> <sup>12</sup>	12
神命丸		
心臓散		
海豹精		
ワシ胃腸薬(大)		1
(小)		

取  
線

引揚社員被服園  
代表者氏名

田代 三

田代 三

9.570—

4.755—

V

品名	希望数量	決定数量
寝巻		
ワイシャツ	10	3
メリヤスシャツ(上下)		
労働シャツ	100	100
ステテコ	50	10
作業帽		
巻袖絆		
ベンベルブ	20	10
割烹着		
サロン前掛		
学生服		
女児服		
風呂敷		
スリッパ靴		
神命丸		
心臓散		
海豹精		
ワシ胃腸薬(大)		
(小)		

切取線

引揚社員被服團所為北鮮合同電氣株式會社  
角石三郎

品 名	希望数量	決定数量
寝 巻	20	20
ワ イ シ ャ ツ	40	5
メ リ ヤ ス シ ャ ツ (上下)		
勞 働 シ ャ ツ	40	40
ス テ テ コ	40	5
作 業 帽		
巻 胸 絆		
バ ン ベ ル グ	20	5
割 烹 着		
サ ロ ン 前 掛	60	60
學 童 服	10	5
女 児 服	20	5
風 呂 敷		
ズ ッ ク 靴		
神 命 丸		
心 臓 散		
海 豹 精		
ワ シ 胃 腸 藥 (大)		
(小)		

引揚村三張護匾，係是  
代表者氏名



89.500



切取線

引揚社員按  
代表者氏名

圖  
體  
名

京橋區京橋三丁目二番地  
大東館書目急務會

11,500—

5,750—

✓

品 名	希望数量	決定数量
寝 巻		
ワ イ シ ャ ツ		
メ リ ャ ス シ ャ ツ (上 下)		
勞 働 シ ャ ツ	100	100
ス テ テ コ		
作 業 帽		
巻 脚 絆		
バ ン ベ ル グ		
割 烹 着		
サ ロ ン 前 掛		
学 童 服		
女 児 服		
風 呂 敷		
ズ ッ ク 靴	大 50	50
神 命 丸		
心 藏 散		
海 豹 膏		
ワ シ 胃 腸 藥 (大)		
〃 (小)		

切  
取  
線

引揚社員  
代表者氏名  
東京都足立区  
主 任 員  
包井 長 治

6.115—

3.057—

品名	希望数量	決定数量
寝巻	18	18
ワイシャツ	13	
ノリ又下	2	2
浴巾	30	30
スチ、コ	22	10
ゲートル	1	1
トセワンピース	1	1
剃鬚着	20	
サローム	1	1
風呂敷	18	18
グッドラック 十半	3	3
男 童 服	1	1
女 児 服	3	3

東京都東陽区銀座甲、三王子ビル

三子製林株式会社

引揚石

代表 中村 吉久夫



2,020  
1,010

品名	希望数量	決定数量
寝巻	1	1
ワイシャツ	2	2
メリヤスシャツ(上下)	2	2
労働シャツ	5	5
ステデコ	3	3
作業帽		
巻脚絆	2	2
バンベルグ		
割烹着		
サロン前掛	4	4
学童服	2	2
女児服		
風呂敷	3	3
ズック靴	3+2	3
神命丸		
心臓散		
海豹精		
ワシ胃腸薬(大)		
(小)		

引揚社員後援団体名  
代表者氏名

142,000—

71,000—

品 名	希望数量	決定数量
寝 巻	200	200
ワイシャツ	200	15
メリヤスシャツ(上下)	50	50
労働シャツ	1,000	650
ス、テ、テ、コ	300	50
作業帽	—	
巻 脚 絆	—	
ベンベルグ	50	20
割 烹 着	100	15
サ ロ ン 前 掛	30	30
学 堂 服	100	25
女 児 服	100	50
風 呂 敷	500	500
ズ ッ ク 靴	500	500
神 命 丸	—	
心 藏 散	—	
海 豹 精	—	
ワシ胃腸薬(大)	—	
(小)	—	

引揚社員後援会  
代表者氏名  
日本橋區江戶橋一丁目三番地  
森金屋株式会社

4.312

東京部駒町區丸の内九ビル之會  
引揚社員諸君無任歡迎  
代表者氏 鈴木 實 東京出張  
和

5,000 —  
2,500 —

品名	希望数量	決定数量
寝巻	5	5
ワイシャツ	5	5
メリヤスシャツ(上下)	4	4
労働シャツ	10	10
ステテコ	10	10
作業帽		
巻脚絆		
ベンベルグ		
割烹着		
サロン前掛		
學童服	5	5
女児服	1	1
風呂敷	50	50
スリッパ靴	5	5
神命丸		
心藏散		
海豹精		
ワシ胃腸薬-(大)		
〃 (小)		

引揚社員後援団体名  
代表者氏名  
今大分県連合会社引揚者会

3,300-

1,650-

品名	希望数量	決定数量
ワイシャツ	5	
ナリヤスツツ下		
吊钩シャツ	10	10
スラッパ	10	5
作業帽		
靴紐		
バハル	5	5
剃意着	5	
サリン前掛		
学生服	5	5
女児服	5	5
風呂敷	5	5
ズック靴	5	5
紳士靴		
心臓器		
海苔		
ワシ胃腸		

内外特許  
月田  
模写  
印金



5,925

品 名	希望数量	決定数量
寝 巻	15	15
ワ イ シ ャ ッ	3	3
メ リ ヤ ス シ ャ ッ (上下)	10	10
勞 働 シ ャ ッ	<del>50</del> 50	50
ス テ テ ゴ	10	10
作 業 帽		
巻 胸 袢		
バ ン ベ ル グ	5	5
割 烹 着	2	2
サ ロ ン 前 掛		
学 童 服	5	5
女 児 服	4	4
風 呂 敷	30	30
ズ ッ ク 靴	20	20
神 命 丸		石倉表裏會長
心 臓 散		石
海 豹 精		
ワ シ 胃 腸 藥 (大)		
(小)		

引揚社員援護團  
代表者氏名

朝鮮果實抄會  
朝鮮煙草協會  
朝鮮生果物產振興會

石代表賣會長 石塚 嶺

43.895—

品 名	希望数量	決定数量
寝 巻	2526	10
ワ イ シ ヤ ッ	2500	10
メ リ ヤ ス シ ャ ッ (上下)	2000	35
勞 働 シ ャ ッ	2300	50
ス テ テ コ	2000	10
作 業 帽	350	350
巻 脚 絆	350	44 <del>350</del>
バ ン ベ ル グ	2000	5
割 烹 着	1261	10
サ ロ シ 前 掛	2000	2,000
學 童 服	760	5
女 児 服	752	10
風 呂 敷	5000	100
ズ ッ ク 靴	2526	10
神 命 丸		
心 藏 散		
海 豹 膏		
ワ シ 胃 腸 藥 (大)		
ワ シ 胃 腸 藥 (小)		

引揚社員護園休名引松壽堂金嶺山修  
代表者氏名

昭和二十二年七月一日

各課長 人事部長 課長

資料課 課長

近く監査の爲來所の大蔵省保庫に提出する。必要のときは正確なる記載を注意して作成し、意下さい

### 留守宅金調書

七月一日現在

区分	官、吏、官吏待遇者		人		備		計	
	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額
本給								
家族手当								
本俸(給)								
家族手当								
計								

備考一、本調書は留守宅送金に要する毎月の金額を調査するの目的とする

二、地方費支糸の職員で官吏の身分を持たぬ者は特別手当として三百圓打切支給するに留守宅送金は無い

三、家族手当の人員は本俸給と同様本人の教で扶養家族の教では無い(家族手当加給と同様)

### (歸還者給與金調書)

備考一、本調書は七月一日現在歸還届出の者で給與金未支給の者の給與金所要額を調査するの目的とする

(六月三十日迄に給與金調書を會計課に遞付したものは本調書に計上せぬこと)

二、本俸の行、官吏待遇者の欄には監査所の手当官吏待遇者で本俸を支給する者を掲げる

三、本給の行、官吏の欄には特定郵便局長専賣局販賣所長等官吏で俸給を支給せず手当を支給するものを

官吏待遇者の欄には官吏待遇者で俸給を支給せず手当を支給するものを掲げる

四、官吏官吏待遇者の欄には國費支糸のものと地方費支糸のものを区分し國費支糸の者は右側に、地方費支糸の者は左側に掲げる

五、地方費職員で官吏の身分を持たぬ者は特別手当だけ給與する、従つて嘱託雇員傭人の欄に掲げるのは國費支糸の者だけである

六、家族手当の行、人員は本人の教で扶養家族の教では無い(家族手当加給と同様)

◎ 尚留守宅送金の分に對しては給與金台帳を一括編綴し何時にても係官に呈示し得る様整備願います

歸還者給與金調書

七月一日現在

歸還者給與金調書																					
七月一日現在																					
職分	官吏			俸	給	在勤加俸	家族手當	戰時勤勉手當	勤續手當	物價手當	臨時手當	退官退職金與	特別手當	本俸(給)加給	家族手當加給	年末一時金	一月一時金	計			
	人員	金額	人員																		
官吏	官吏	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額		
人員	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	
金額	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額
計																					

## 貸借對照表

昭和24年4月30日

會和經

資產之部		負債之部	
預金	金額	基本金	金額
	40,506.00	基本金	40,350.00
		繰越残高	8,156.00
	48,506.00		48,506.00

# 經和會決算報告

自昭和23年6月1日

至昭和24年4月30日

收入之部			支出之部				
	予算	決算	差額		予算	決算	差額
入會金	42,500.-	40,350.-	- 2,150.-	基金	42,500.-	40,350.-	+ 2,150.-
入金	30,000.-	23,120.-	- 6,880.-	金報費	10,000.-	1,800.-	+ 8,200.-
				研究費	10,000.-	8,448.-	+ 1,551.-
				交通費	5,400.-	2,400.-	+ 3,000.-
				事務費	2,000.-	1,010.-	+ 990.-
				雜費	1,000.-	375.-	+ 625.-
				予備費	1,000.-	930.-	+ 70.-
					600.-	0	+ 600.-
	72,500.-	63,470.-	- 9,030.-	差引残高	72,500.-	53,314.-	+ 17,186.-
						8,156.-	
		63,470.-				63,470.-	

經和會豫算案

昭和24年5月1日

至 昭和24年10月31日

收入之部	金額	支出之部	金額
入會金費	15,000.-	金費	15,000.-
	15,000.-	會報費	2,000.-
		研究會費	2,000.-
		役員會費	6,000.-
		勞務費	2,400.-
		通信費	500.-
		雜費	500.-
			500.-
			500.-
			600.-
	30,000.-		30,000.-

245-55

各三則の見出しの下に「昭和二十三年九月三十日制定」  
 並に「昭和十四年五月〇日改正」の文句を記する。  
 以上。

金庫の金貨は——入金金と金庫向留公金として入金するものと、入金するものとする。入金するものは金貨として毎年全額を納入したものとするとする。

初十五條  
通情分會員は——入金金の繰入れも必要とする」を加へる。

1. 1953年3月1日までに於ける改正  
 2. 1953年3月1日までに於ける改正

第三條 「本会の会計年度は五月（旧暦）十月より起るべし」と

$\frac{1}{\sqrt{2}}$

初七條 一 任期は六月と改める。

大庭 賢 員 一 渡部 篤 仁 學校の講師並に講師で  
 石 尾 有 厚 氏 本會に特ニ功勞成ルヲ爲スと改める

特別會員 一 「渡部信之丞」種々軍需者に對する。

經和合之則改乙未(張令、提筆)



李鴻章

昭和三十一年四月二十五日

東京郵政管理局  
海外引揚南大倉理貨會

朝鮮事業者會

啓

去月四月二十九日正午より東京郵政管理局に於て同封次郵便、  
如く海外引揚南大倉理貨會に開座致し候間、貴會役員並に會員  
各位御出席、當り候上候

海外引揚者大會次第

各次引揚者團體合同 主催  
海外同胞救援聯合會 後席

一、開會、禮

二、議長、副議長推薦

三、議長挨拶

四、各政黨代表並ニ海外同胞救援聯合會代表挨拶

五、議 題

一、在外資金ヲ見送りトシテ引揚者ノ生活保護並ニ無產引揚者及復員者ノ最低生活ノ圖庫保証ノ件

二、留年定家族及遺孀ノ生活保護並ニ無產引揚者ノ完全ナル起業ノ起業、建設、土木建築事業等ヲ國家

ノ手ヲ要シ引揚者ヲ起メテ

三、在留 生及知識、博覽供給、件

四、孤兒、廢疾者、救護、件

五、厚生資金、修業及材料、支給、件

六、復員者ニ對シテ重要事項解釋並ニ即席之件

七、上座地ニ於ケル保護及入社制、整備迄迄、件

八、現地邦人、生命保証並ニ引揚、促進、件

九、引揚者引揚者、救護、件

十、引揚保護事業へノ引揚者、補助、件

十一、社會保險法、國民保護法、即席實施、件

六、提案事項

一、武藏野實業及物資運出（マニラ、政事、東京經濟）

二、引揚者團體協議會起案、件

三、協議會起案、件

七、閉會、禮

八、散會、禮

九、散會、禮

本署より宛るる文書

三、二七番送

昭和二十一年三月二十三日

余長名

海外事業戦後対策中央協議会 御中

貴会より窮乏に在りし海外事業に就ての報告書

有る貴会より送られたる報告書に就ての報告書

報告書に就ての報告書に就ての報告書

報告書に就ての報告書に就ての報告書

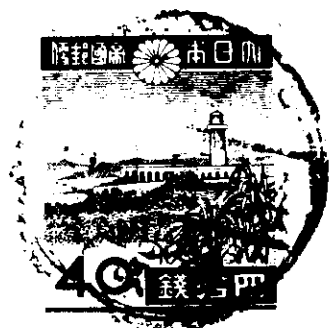
報告書に就ての報告書に就ての報告書

報告書に就ての報告書に就ての報告書

報告書に就ての報告書に就ての報告書

お久





山口市  
一、二

市役所

昭和24年

横濱更生資金

三月

朝鮮  
子  
子  
子

市役所

昭和24年

速達

市役所  
大志



東京都京橋區銀座西七丁目二  
⑨ 海外引揚者大會準備會

朝鮮事業者會融資希望額調

會社名	人件費			事業費			合計	合計
	人件費	人件費	合計	事業費	事業費	合計		
朝鮮左煙米	228.000		228.000			92.000	240.000	19
朝鮮左煙米飯			100.000			37.736	137.736	19
大東糖業	181.680		181.680			26.400	208.080	19
朝鮮石灰	39.600		39.600	1.200	23.000	24.200	63.800	19
朝鮮煉炭			60.000			10.000	70.000	19
南鮮炭煙	65.065	92.177	157.242	4.800	6.000	25.800	183.042	19
朝鮮府煙炭	82.200		82.200	6.000	26.400	32.400	114.600	19
生支銀飯業	18.410		18.410			4.000	22.410	19
進仙飯業	2560	11.760	19,320	2400	3000	5.400	24,720	19
風泉左煙炭	18,944		18,944		37,900	56,290	144,934	19
英強飯業	45.000	96.000	141.000	1200	5.000	9.400	148.400	19
朝鮮雲母開業	48.000		48.000			45.600	93.600	19
陸津炭石飯山	32,480		32,480			8,040	40,520	19
取歌飯業	29.000		29.000			8,520	37,520	19
北青鉄山	32,800		32,800			45.000	82.800	19
中外糖業	100,000		100,000			20,000	120.000	19
朝鮮特殊飯業	48.110		48.110			8.400	56.510	19
光德飯山	25,200		25,200			9.600	34.800	19
小林飯業	102.000		102.000	5.400	98.000	103.400	205.400	19
金龍飯業	13,200	3.000	16,200	2.400	12.000	20,496	36,696	19
宝光飯業	18.000	2.400	20.400		1.200	9.200	22.200	19
朝鮮中央飯業	2.400	2.400	4.800		360	480	5.640	19

金井鉱業	74304	61.596	135.900	2.640	1.200	5.400	9.240	145.140
利原鉄山	132.000	14.400	<del>146.400</del>			2.1.000	21.000	167.400
朝鮮機械	174.000	19.000	193.000	15.000	<del>9.600</del> 9.600	18.000	<del>42.600</del> 42.600	235.600
朝鮮重工	213.000		213.000			66.000	66.000	279.000
三所南電	32.400	170.100	202.500	8.000	4.800	24.000	36.800	239.300
朝鮮皮革	360.000		360.000			132.000	132.000	492.000
朝鮮石油	107.246		107.246	7.200	12.000	12.000	31.200	138.446
日本産業加工	17.200		17.200			61.198	61.198	78.398
大興鮮蒙交易	59.400		59.400	1.800	2.400	15.000	19.200	78.600
三陽農村	3.100	12.000	15.100	2.400	5.000	2.400	9.800	24.900
北聯合同木材	65.000	100.000	165.000	2.400	30.000	52.200	84.600	249.600
朝鮮林業開発	100.000	180.000	<del>280.000</del> 6.000	6.000	6.000	8.000	20.000	300.000
朝鮮木材								
朝鮮木材	125.000	66.000	191.000	12.000	60.000	99.800	171.600	362.600
東亞製材	60.000	60.000	120.000	10.000	10.000	16.000	36.000	156.000
朝鮮板工工業	125.000	75.000	200.000	12.000	30.000	35.000	77.000	277.000
大成木材工業	24.480	13.680	38.160	6.000	8.472	10.116	24.588	62.946
朝鮮水産工業	199.600	191.200	390.800	24.000	24.000	24.000	72.000	462.800
或北革工品	40.290	53.200	93.490	2.400	3.600	6.000	12.000	105.490
北山炭農業	36.000	45.000	81.000	2.000	-	13.000	15.000	96.000
大橋農場	44.404		44.404	1.200	1.800	3.600	6.600	57.004
北聯視眼工業	18.000	12.000	30.000	1.200	1.200	2.600	5.000	35.000
北聯木材	22.100	-	22.100	3.000	8.000	900	11.900	34.000
北聯興産	6.300	7.710	14.010		12.000	9.000	21.000	35.010
朝鮮毛織	60.192	81.144	141.336	6.000	30.000	120.000	156.000	297.336

角田被服	15.000	10.000	25.000	3.600	600	1.800	6.000	31.000
子代田被服工場	12.000	8.000	20.000	2.400	600	1.500	45.000	65.000
119 羅沙店	15.000	10.000	25.000	3.600	600	1.800	6.000	31.000
朝鮮生糸	30.000		30.000	720	240	3.960	4.920	34.920
朝鮮電氣	108.000		108.000	6.360	840	36.000	43.200	151.200
京城電氣	30.000	15.000	45.000	5.000	10.000	15.000	30.000	75.000
成和工業	286.800	229.440	516.240	1.200	1.200	3.360	5.760	522.000
朝鮮鉄道	75.000	179.000	253.000	6.000	30.000	2.400	38.400	292.400
京城土木	96.000	150.000	246.000	12.000	3.600	6.000	21.600	267.600
<del>金 計</del>			<del>609.000</del>				<del>496.800</del>	<del>204.200</del>
東洋鐵道産業	54.000	45.000	99.000	4.000	3.000	5.000	12.000	111.000
合 計			619.612				197.888	813.450

朝鮮事業者會融資希望額調

會社名	人件費			事業費			計
	人	件	費	事業	費	計	
朝鮮産煙炭	228.000		228.000			12.000	240.000
朝鮮産煙炭灰			100.000			38.936	137.936
大東煙炭	181.680		181.680			26.400	208.080
朝鮮石灰	39.600		39.600	1.200		29.000	200.000
朝鮮煉炭			60.000			10.000	70.000
朝鮮炭酸	65.065	92.179	157.242	4.800	6.000	25.800	183.042
朝鮮炭酸灰	82.200		82.200	6.000		26.400	114.600
生炭酸灰	18.410		18.410			9.000	25.410
通仙炭灰	2.560	11.760	14.320	2.400		3.000	24.720
鳳泉産煙炭	58.944		58.944			32.900	91.844
英産煙炭	45.000	96.000	141.000	1.200	5.000	9.400	148.400
朝鮮雲母制炭	48.000		48.000			45.600	93.600
德津炭不粘山	32.480		32.480			8.040	44.520
取炭灰	29.000		29.000			8.520	37.520
北青炭山	39.800		39.800			45.000	82.800
中外炭	100.000		100.000			20.000	120.000
朝鮮特殊炭	48.110		48.110			8.400	56.510
光徳炭山	25.200		25.200			9.600	34.800
小林炭	102.000		102.000	5.400	98.000	1.000	205.000
金産炭	112.000	3.000	115.000	2.400	12.000	14.800	205.200
金産炭	18.000	2.400	20.400		1.200	9.200	31.200
朝鮮中央炭	2.400	2.400	4.800		26.000	48.000	78.800



金井鉱業	74304	61.596	135.900	2.640	1.200	5.400	2.240	145.140
利原鉄山	132.000	14.400	<del>146.400</del>			21.000	21.000	162.400
朝鮮機械	174.000	19.000	192.000	15.000	<del>8.600</del>	18.000	<del>22.600</del>	235.600
朝鮮重工	213.000		213.000			66.000	66.000	279.000
三所南港	32.400	170.100	202.500	8.000	4.800	44.000	38.800	299.300
朝鮮皮革	360.000		360.000			192.000	192.000	492.000
朝鮮石油	107.246		107.246	7.200	12.000	12.000	31.200	138.446
日本産業加工	17.200		17.200			61.198	61.198	78.398
大興鮮家交易	59.400		59.400	1800	2.400	15.000	19.200	78.600
三陽農村	3.100	12.000	15.100	2.400	5.000	2.400	9.800	24.900
北群合同木材	65.000	102.000	165.000	2.400	30.000	52.200	84.600	249.600
朝鮮林業開発	100.000	180.000	280.000	6.000	6.000	8.000	20.000	300.000
朝鮮木材								
朝鮮木材	125.000	66.000	191.000	12.000	60.000	99.600	171.600	362.600
東亜製材	60.000	60.000	120.000	10.000	10.000	16.000	36.000	156.000
朝鮮板工業	125.000	75.000	200.000	12.000	30.000	35.000	77.000	297.000
大成木材工業	24.480	19.680	38.160	6.000	8.472	10.116	24.588	62.948
朝鮮水産工業	199.600	191.200	390.800	24.000	24.000	24.000	72.000	462.800
或北草工業	40.290	53.200	93.490	2.400	3.600	6.000	12.000	105.490
石山炭田	36.000	45.000	81.000	2.000	-	13.000	15.000	96.000
大橋農産	44.404		44.404	1.200	1.800	3.600	6.600	57.004
北群視察	18.000	12.000	30.000	1.200	1.200	2.600	5.000	35.000
北群木材	22.100	-	22.100	3.000	8.000	900	11.900	34.000
北群林業	6.300	7.710	14.010		12.000	9.000	21.000	35.010
朝鮮毛織	60.192	81.144	141.336	6.000	30.000	120.000	156.000	297.336

商田被服	15.000	10.000	25.000	3.600	600	1.800	6.000	31.000
子H田被服工場	12.000	8.000	20.000	2.400	600	1.500	45.000	65.000
179 羅沙店	15.000	10.000	25.000	3.600	600	1.800	6.000	31.000
朝鮮生糸	30.000		30.000	700	240	3.960	4920	34.920
朝鮮電氣	108.000		108.000	6.360	840	36.000	43.200	151.200
京城電氣	30.000	15.000	45.000	5.000	10.000	15.000	30.000	75.000
成和工業	286.800	229.440	516.240	1.200	1.200	3.360	5.760	522.000
多摩鐵道	75.000	179.000	254.000	6.000	30.000	2.400	38.400	290.400
京城土木	96.000	150.000	246.000	12.000	3.600	6.000	21.600	267.600
合計	619.600	619.600	619.600	19.440	19.440	20.360	19.440	20.360
東洋鐵道産業	54.000	45.000	99.000	4.000	3.000	5.000	13.000	111.000
合計	673.600	673.600	673.600	23.440	22.440	25.360	32.440	223.600



總人第 三三二號

昭和二十一年三月八日

朝鮮事業者會長

白石 宗成 殿

東京都麹町區丸の内貳丁目二番地

三菱電機株式會社

總務部長

崎

亮

經常費ノ内譯御報告ノ件

拜啓陳者曩ニ御照會有之候首題ノ件ニ關シ一ヶ年分ノ經費豫算卜  
シテ左記ノ通り御回答申上候間御了承被下度此段得貴意候  
敬 具

一人 件 費

俸 給

一三、二〇〇圓

諸 給 與

一八、〇〇〇圓

合 計

三一、二〇〇圓

...  
...  
...

田 后 床 坂 野  
肥後縣農業會

川 後 野 坂 田 肥 後 縣 農 業 會

總人數 三三三三

昭和三十四年

三、業務内容ニ關スル經費並ニ收入		
1 機械購入代金ノ支拂	一七、五〇〇圓	
2 前渡金ノ回收	一	
3 其他	五〇〇圓	
合 計	一八、〇〇〇圓	
總 額	五二、八四〇圓	
二、事務所經費		
室 料	二、一六〇圓	
交 具	一、〇〇〇圓	
事務用設備中當 然支拂ノ經費	四八〇圓	
合 計	三、六四〇圓	

以  
上

柳留者名法

M4-101

概

況

○大阪相談所

一、就職斡旋及各団体

相談所開設以來、長年市內關係官廳並ニ各新聞社ヲ歴訪シ援助、協力ヲ要望、或ハ各新聞社ノ知己ヲ辿リ直接ニ就職其ノ他ノ斡旋ニ努力シ、アリ。相談受付状況左ノ如シ

事項別	件数		百分比	備考
	來方	書面		
就職	一二三	三九	一六二	二四一
住宅	二五	七	三二	四八
家族又ハ知人安否	六八	二六	九四	一四〇
官吏ノ身分給與	二〇	一三	三三	四九
在外財産	二〇	一一	三一	四六

託送荷物	一八	二四	四二	六二
預金貯金各種證券	四七	三五	八二	一二二
生活又ハ生業資金	二〇	一六	三六	五三
物資	八	一一	一九	二八
雜	一一〇	三二	一四二	二一一
合計	四五二	二一四	六七三	一、〇〇〇

二、朝鮮引揚同胞危機突破大會及朝鮮引揚同胞関西互助會設立

危機突破大會ハ六月二十四日午後一時中之島公會堂ニ於テ上瀧所長在  
話人トナリ穂積會長、地元關係官廳側賓臨席ノ下ニ約四百名參集、(一)  
殘留同胞引揚促進ニ關スル件 (二) 生活危機突破方策ニ關スル件 (在外  
財産擁護、資金調達事業計畫、生活必需品配給、住宅店舗解放等)  
(三) 朝鮮引揚同胞関西互助會組織ニ關スル件ヲ決議シ有効盛大裡ニ終了

抑留者教調

一、官公吏

道別	敬奉關係	財務關係	農商關係	道郡關係 (除上揚)	學校關係	法務關係	計
京畿	一六					二	一八
忠北		一					一
全北			一				一
慶南	一						一
黃海	一〇五			一一	三	八	一二九
平南	一〇六	三	一七	四	五	一八	一五三
平北	一二四		五	四	六	一八	一五七
江原	三七				一	二	四〇
咸南	七二四	一六	八	二〇	八	二〇	七九六
道別	敬奉關係	財務關係	農商關係	道郡關係 (除上揚)	學校關係	法務關係	計
咸北	七四	二一	七	九		四	一一五
計	二一八七	四二	三九	四八	二三	四八	二四一一

二、民間

道別	抑留者同家族	計
黃海	二二五四	七六
平南	一三九一九〇	三二九
平北	一〇一六〇	一六一
咸南	一五九三九九	五五八
咸北	二八一八	四六
計	四四九七二一	一二七〇

抑留者名簿

官公吏分

氏名	年令	住	所	備考
堂本敏雄	不詳	平壤府	道事務官	
後藤浩平	"	"	平安南道警察部長	
竹丸喜一	"	"	道警視	警務課長
杉岩雄	"	"	"	高等課長
坂元常德	"	"	"	經濟課長
武子東洲男	"	"	"	警備課長
興梧重壽	"	"	平壤警察署長	
片山猪四郎	"	鎮南浦府	平壤船橋署長	
城山純二	"	平壤府	鎮南浦署長	
長瀬一助	"	"	平安南道兵事署長	
氏名	年令	住	所	備考
荒武信	不詳	平安南道順川郡	警部	順川警察署署長
日下徳太郎	"	平壤府	平安南道衛生課	
大石甚吉	"	平安南道德川郡德川邑	德川署長	
稻生國嗣	"	平壤府	平安南道兵事課	
深津初男	"	"	特別警備課	
前川初一	"	平安南道平康郡平康邑	平康署長	
江川文作	"	平壤府	平安南道警察務課	
藤川久弥	"	"	"	特別警備課
藤井知成	"	平安南道中和郡中和邑	警部補	中和署
森岡初治	"	平壤府	警部補	平壤署
古賀太郎	"	鎮南浦府	警部補	鎮南浦署

平南警一

村山 義男	"	平壤府	平安南道警備課
荒木 平八郎	"	"	" 警務課
久保田 壽	"	"	" 高等課
奇藤 友喜	"	"	" 衛生課
友次 智	"	平安南道成川郡成川面	成川署
伊藤 久治	"	平壤府	平安南道經濟課
飛高 利秋	"	"	" 高等課
内藤 義次	"	"	" 平壤署
佐藤 豊太郎	"	"	" 平安南道高等科
永野 四郎	"	"	" 大同署
永島 重忠	"	平安南道江東郡江東面	江東署
成見 勲	"	平壤府	平安南道保安課 技手
氏 名	年令	住 所	備 考
水野 仙一	不詳	平壤府	道技師 平安南道保安課 技手
高城 嘉雄	"	"	"
稻葉	"	江西郡江西面	巡查 江西署
高橋 半治	"	"	巡查部長
横尾 文雄	"	平壤府	巡查
川崎 一夫	"	"	巡查部長
三好 徳幸	"	江西郡江西面	巡查
中根 勝	"	竜岡郡竜岡面	"
水野 信孝	"	寧遠郡寧遠面	"
佐藤 授	"	江西郡江西面	"
藤岡 正明	"	平壤府	"

赤津 勝	平壤船橋署	巡查部長
松島 輝義	鎮南浦府	巡查
宮崎 萬藏	寧遠郡寧遠面	"
里木 拳男	江西郡江西面	"
小柳 光治	中和郡中和面	"
足達 末人	平壤府	巡查部長
山崎 實	鎮南浦府	"
山口 英夫	成川郡成川面	"
三枝 智	江東郡江東面	"
五十嵐 澄	价川郡价川面	巡查
谷畑 光二	平壤府	巡查部長
中村 恵太	"	"
安藤 秀夫	平壤府	巡查
高橋 大三郎	江東郡江東面	"
小池 登	江西郡江西面	"
小田 精一	平壤府	"
東野 三郎	价川郡价川面	"
伊川 漢一	寧遠郡寧遠面	"
坂口 邦雄	平壤府	"
小椿 俊之助	"	"
里川 正八	"	"
武田 正夫	价川郡价川面	"
島田 源次郎	平壤府	"
葛原 利夫	孟山郡孟山面	警部 孟山署長



山下國義	井上鷹吉	岡田作一	河原三善	安部勝又	坂田台生	三池正明	大和正登志	石田正吾	瀬戸口為吉	日野正吉	安井信一	魚住益行	中村九郎	和田熊市	間刈鼎司	馬栗園惟俊	村上文雄	阿部清伍	高山正夫	柿元貞則	中村中	佐藤直之	久保菊市
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
"	"	"	平壤府	价川郡价川面	安州郡安州面	咸川郡咸川面	咸川郡咸川面	"	平壤府	咸川郡咸川面	鎮南浦府	价川郡价川面	平壤府	安州郡安州面	平壤府	中和郡中和面	竜岡郡竜岡面	陽徳郡陽徳面	"	"	平壤府	咸川郡咸川面	"
巡查	"	巡查部長	囑託	巡查部長	整部補 安州郡長	巡查部長	巡查	巡查部長	巡查	巡查部長	巡查	巡查	"	巡查部長	巡查	"	"	"	"	"	"	"	巡查部長
平南敷三																							
四																							

井上 定	"	成川郡成川面	巡查部長
大山 伊徳	"	平泉郡平泉面	巡查
末野 修	"	江東郡江東面	"
児山 康夫	"	平壤府	巡查部長
高畑 正紀	"	"	巡查
田尾 義忠	"	"	"
梅川 由近	"	"	"
津野 春作	"	安州郡安州邑	"
佐野 博	"	孟山郡孟山面	"
櫻井 田近	"	安州郡安州邑	"
井上 正二	"	平壤府	"
星能 嘉平	"	寧遠郡寧遠面	"
山崎 潔	"	成川郡成川面	警部補
滝口 末吉	"	平壤府	巡查部長
			平南警五

氏名	年令	住	所	備
加藤不二夫	四〇	威興		道事務官 威鏡南道警察部長
鶴崎敏胤		"		道警視 衛生課長
古谷光藏	五一	"		" 經濟課長
志村豊彦	四九	"		威興警察署長
富田乙松	五〇	元山		元山"
菊池福次郎		惠山		惠山"
仲田大藏		威興		威鏡南道警務課長
清野武雄	四四	"		" 高峯課長
阿部紋治		端川		端川警察署長
星野忠衛		北青		"北青"
田平伊平		威興		
威南 警一				
高木渡		威興		警部(兼任)
寺島郡平		"		威興消防署長
岸上庸備		永興		" 永興警察署長
二宮兵馬	四八	威興		威鏡南道經濟課僚
渡辺茂地	四九	"		特別警備隊長
前田忠		"		"
小林幸治		"		"
山下秀徳	四四	新興		"
尾部松男		新架波		"
小提源弥		威興		"
今村幹	四二	"		"
中野虎市		"		"

神蘭 金次郎	四七	安江	"
三宅 耕三郎		咸興	"
夏目 武雄		東門	"
森 植之興		三水	"
田中 董一		咸興	"
山口 壽太郎	四〇	"	"
皆木 善男		"	"
滿尾 直七	三九	"	"
奈須田 一久	三六	元山	"
川島 武夫	"	"	"
杉本 舒平		咸興	"
山田 治作		"	"
氏 名	年 令	住 所	備 考
木下 益雄		咸興	警部
井後 義治		"	"
成合 初雄		下福	"
川上 秀志		咸興	"
卯野 宗夫		"	"
原 義廣		端川	"
富田 春太	三九	咸興	"
飯島 博		"	"
檀上 里見		"	"
西原 末松	三九	本宮	"
星野 喜一郎		新架坡	警部補

上野 涉		洪原	"
森岡 透	三九	元山	"
門脇 喜久雄		永興	"
田端 英郎		成興	"
山下 國彦		"	"
宮地 繁人		本宮	"
長尾 善宗	三七	"	"
白部 小三		洪原	"
小貫 喜一		甲山	"
浜田 春雄		成興	"
麻生 克美		"	"
松隈 政之		"	"
本野 善藏		長津	敬部補
林 邦輔		成興	成南 敬三
吉野 清		"	"
阿部 茂三郎		端川	"
渡辺 正儀		成興	"
松浦 薫	三六	"	"
石橋 重造		"	"
下 亮治	三四	"	"
前畑 寅一		"	"
吉田 英男		"	"
福家 行雄		"	"
大山 岩夫		永興	"

富高寛一		定平	"
荒木 智		恵山	"
富岡 和吉	三九	文川	"
戸田 孝子		興南	"
佐々木 静		三水	"
佐藤傳太郎			"
西田 蔵吉			"
関原 丑太郎			"
能谷 雄一		興南	"
中沢 一			"
永田 政雄	四〇	元山	"
古矢 勇雄			"
城南警 四			
氏 名	年 令	住 所	備 考
石崎 忠成		利原	警部補
加藤 清		咸興	消防署
下田 政之	三五	"	"
今野 佐次郎	四二	"	"
目黒 幸福	五三	"	"
一法師 剛	四〇	"	消防署
笹木 明雄	三三	定平	"
高野 兵庫		洪原	"
藤田 武雄		咸興	巡查部長
肱岡 虎雄		"	"
野谷 良三		"	"

吉村 信一	三八	威興	巡查部長
山田 清三		"	"
長友 福雄		"	"
新 仁左門		"	"
吉永 嘉登		"	巡查
本多 正儀		"	"
廣野 新一郎		"	"
飯島 七郎		"	"
牛島 守		"	雇員
城山 雅子		"	技手
森 康夫		"	警部補
松井 詮季		"	
威南 警五			
氏 名	年令	住 所	備 考
松本 順治		威興	巡查部長
古田 一男		"	"
水野 小市	三四	"	"
白井 勇次郎	三五	"	"
横尾 登		"	嘱託
柳 徹		"	"
中島 三十三		"	"
里川 淳一		"	"
堅野 弘		"	警部
石橋 重造		"	警部補
住友 英雄		"	技手



山根 義雄			成興	警四查部長
鳥越 篤雄			"	"
博 正記			"	"
松岡 武			"	"
山田 岩夫			"	四查
西 正保	三四		"	"
笹岡 政親			"	"
福永 俊光			"	"
大日方 万二郎			"	警部補
福田 隆			"	四查部長
垣尾 敬一			"	"
古矢 勇雄			"	"
氏 名	年令	住 所	備 考	咸南警 大
清水 成人		成興	四查部長	
山口 今栄		"	"	
吉中 豊員		"	"	
近藤 永三		"	"	
岡崎 安一		"	"	
寺井 繁作	三六	"	四查	
篠田 俊雄		"	"	
進藤 千弘		"	"	
堂本 高一		"	"	
大 夕三子		"	雇員	
伊野 宗夫		"	警部補	



穴見 亘		咸興	警部補
竹林得三		"	巡查部長
藤田市次		"	巡查
渡部幸三	三二	"	"
内山衛三郎	四八	"	技手
吉野 清		"	巡查部長
須藤二男		"	"
田中政義		"	"
高木数一		"	巡查
松村吉恭		"	検査員
町田美奈子		"	雇員
永田関止		"	警部補
咸南警 七			
氏名	軍令	住	備考
船原義三	四四	咸興	技手
島田次郎		"	巡查部長
橋岡末次		"	"
吉永 清		"	"
中村義男		"	巡查
田中博文		"	巡查部長
後藤 太		"	巡查
五百成輝義		"	"
馬場政歳		"	巡查部長
後藤 光	三四	"	巡查
田口親士		"	"

官地東流	三七	咸興	巡查部長
三浦誠一	三三	"	"
官本政雄	"	"	"
菊田弘	"	"	巡查部長
太田六男	"	"	巡查部長
金子一	"	"	"
小林善之助	"	南方面	巡查
深町重太	"	咸興	"
谷口政吉	五〇	"	巡查部長
松井友一	"	"	巡查
近藤康藏	"	"	巡查部長
梅本二生	三七	"	"
咸南警 八			
氏名	年令	住 所	備 考
一色秋次郎		咸興	巡查部長
玉沢隆	三五	"	巡查
山口嘉一郎	"	"	"
俣野正次	"	"	"
大工次男	"	"	"
三宅寛	"	"	"
林下健藏	"	"	"
森光夫	"	"	"
松村松義	"	"	"
和治石松	"	"	"
藤井元義	"	"	"

渡辺 定治		東興	巡查
有我 豊三郎		"	"
井上 峰雄		"	"
吉田 庄市		"	"
渡辺 三郎		"	"
門脇 明		"	巡查部長
内田 栄二		"	警部補
岩立 寛		"	巡查部長
栗山 忠次	三八	"	
後藤 官一		"	巡查
盛岡 哲雄		"	巡查部長
名畑 敏夫		"	巡查
氏 名	年令	住 所	備 考
田中 龍亀		東興	巡查部長
井本 基		"	巡查
春田 長門		"	巡查部長
橋本 寛		"	"
伊藤 光正		"	巡查
田代 景治		"	"
小野寺 栄		"	巡查部長
峯松 昇		"	巡查
西山 守三		"	"
斎藤 弥一郎		"	"
坪知 秋二		"	"

威南 敬重 九

野中繁樹		成興	巡查部長
三島 靜		"	巡查
中田 貢		"	"
沼沢 勘助		"	巡查部長
杉原 盛		"	巡查
倉本 靜夫		南方之面	巡查部長
松田 時雄		成興	巡查
伊藤 友之		"	"
宮崎 英三郎		"	"
溝口 満雄		"	"
内田 知貞		興南	技手
河津 勇		"	巡查部長
威南警一〇			
氏 名	年令	住 所	備 考
小林 正之		成興南	巡查部長
小暮 修一	三一	"	"
吉沢 清		"	"
熊谷 能一		"	警部補
内野 虎太		"	巡查部長
峰 政一		"	巡查
黒岩 三千年		"	"
石崎 忠成		"	巡查部長
伊藤 正三郎		"	巡查
秋場 正吾		"	"
穴辻田 勝壽	五二	"	巡查部長

栗井 勲	三 四	"	"	巡查
世島 菊一		"	"	巡查
馬場 五生		"	"	巡查部長
宮本 直一		"	"	"
宮本 武義		"	"	"
宮本 博記	三 三	"	"	"
若山 孝助		"	"	"
樋口 嗣義		"	"	"
松原 正勝		"	"	"
前田 親男	三 三	"	"	"
小原 藤一		興南	巡查	備考
威南 警 一 一				
眞野 廣二	四 〇	"	"	巡查部長
小平 光治		"	"	"
佐藤 喜一		"	"	"
中山 一順		"	"	"
加来 公之		"	"	"
梶谷 政雄		"	"	"
脇田 操		"	"	"
福山 強		興南	巡查	"
一木 大一郎		下福	巡查部長	"
田中 工		"	"	"
伊藤 三郎		"	"	"
尾上周市		興南	巡查部長	"

松本政弘		興南	巡查
東村國俊		元山	警部
村田一男		"	警部補
井崎 寛		"	巡查部長
石川善一		"	巡查
白根信夫		"	"
中川秋見		"	"
吉本政喜	三三	"	巡查部長
井上竹次郎		"	"
野中伊八		"	"
石井永三郎		"	"
小川重三		"	"
威南警一二			
氏名	年令	住 所	備 考
佐藤善治	三八	元山	巡查部長
林 範義		"	巡查
相原三郎		"	巡查部長
藤原三平		"	巡查
岡本千亀太		"	"
廣田比農夫		"	巡查部長
池崎 正章		"	"
相馬常雄		"	"
戸田菊次		"	巡查
田河克己		"	"
縫 増一		"	"

吉川市義			元山	巡查
佐保吉次			"	"
柘谷竹吉			"	"
小野田誠司			"	"
白井文藏			"	"
勝野辰三郎			"	"
田窪勉	三八		"	"
山本隆			"	"
鈴木進一	三四		"	"
小林蘭二			"	"
南北忠義			"	"
岩永武英			"	"
氏名	年令	住所	備考	威南警一三
佐々木隆		元山	巡查	
鶴巻光太		"	"	
沢井行友		"	"	
原武春雄		"	"	
宮尾為久		"	"	
長島希典		"	"	
高橋信治		"	巡查部長	
堀江武雄		"	巡查	
岩坪善吉		"	雇員	
片山次郎松	四三	威興	巡查部長	
前島文雄		安田	"	

觀野 栄		山田	巡查
石川 哲		"	巡查部長
藤崎 盛廣		"	"
松隈 壽		"	巡查
光寺 成二		"	"
須本 正三		"	"
水口 謙治		"	"
河野 敏治		"	巡查部長
丸山 大		"	巡查
平川 年丸		"	"
山口 一應		"	"
博多屋惣一		"	"
氏 名	年令	住 所	備 考
津之田 健一		安田	巡查部長
川添 延猪		"	"
森田 武則		"	巡查
古川 信夫		"	"
野村 義次		"	"
力竹 金一	三七	文川	巡查部長
大塚 春香		"	"
中原 茂夫	卅外	高原	"
松本 秋男	二八	文川	巡查
赤塚 嘉市		"	"
杉原 忠義		"	"
佐藤 登平		"	"



小林徳次		文川	山査
山本光雄		"	"
能井一登		"	"
中馬忠夫		"	警部補
竹岡忠太郎		"	山査
宇都金男		"	"
西村愛隆		"	山査部長
神田徳造		"	山査
志岐貞雄		"	"
野元清春		"	"
末吉茂		"	山査部長
柿崎万二		高原	山査部長
咸南警一五			
氏名	軍令	住所	備考
浅沼豊吉		高原	山査
樺田義人			山査部長
牧安己			山査
松木高盛			"
山口定吉	三二	興南	山査部長
長野義雄	二七	本宮	山査
永水武士	三九	"	"
西岡廣市	二九	"	山査部長
一瀬勇	三三	元山	"
菅原竹吉	三九	"	山査
富永梅史	三八	安田	山査部長

辻 樽 真		高 原	調査
春日 務 氏		"	"
中村 義 厚		"	"
福永 春 雄		新 義 州	"
佐々木 哲 郎		高 原	調査部長
伊藤 清 馬		"	調査
直鍋 松 太郎		"	"
麻川 則 義		"	"
佐藤 秀 士		"	"
佐々木 重 夫		"	"
池田 秀 雄		"	"
後藤 忠		"	"
氏 名	軍 令	住 所	備 考
武藤 亨 三		永 興	調査部長
藤瀬 景 樹	三 九	"	"
藤岡 勝		"	調査
森 敏 雄		"	"
佐藤 健 太郎		"	調査部長
奇藤 自 若	四 〇	"	"
木田 鎮 郎		"	"
大西 玄 藏		"	"
福田 繁 人		"	調査
吉田 房 一		"	"
大塚 秋 登		"	"

吉野 清		永興	巡査
渡辺 敏夫		"	"
湯川 正文		"	"
原 勝		"	"
田中 晋		"	巡査部長
牧 文雄		"	"
大野 鋼雄		"	巡査
山崎 實		"	巡査部長
加治屋 秀雄	三六	"	巡査
坂本 正己		"	巡査部長
中島 俊栄		"	巡査
野村 末九	三〇	"	巡査
咸南警一七			
氏 名	年令	住 所	備 考
吉野 清			巡査
金子 正夫		永興	"
細谷 清次郎		"	巡査部長
石丸 鉄次		"	巡査
三浦 一郎		"	"
川上 清人	三一	"	"
長谷部 博		"	巡査部長
山崎 壽恵治	三七	"	巡査
平原 藤丸		"	"
東 美敏		"	"
迫田 武夫		"	"

新山栄助		定平	調査部長
峯苔純男		'	調査
石川楊黄市		"	調査部長
織田作次		"	調査
松村勝一		"	調査部長
菅野洋松		"	調査
南免羅茂樹		"	"
小宮路純徳		"	"
押迫正二	三四	"	"
徳原茂		"	"
下境田光義		"	"
玉沢淳		"	"
氏名	年令	住所	備考
島袋正徳		定平	調査
猪野弘		"	警部補
磯部政市		"	調査
林正治		"	"
池田宗善		"	"
高山正也		"	"
生重忠男	二九	"	調査部長
田上親男		"	"
柏原章男		"	"
宮本武雄		"	調査
上窪泉		"	"

岩切久聚栄	大倉八壽典	狩野慶雄	森永政美	縄田三郎	旗末	田上保孝	三宅閑寛	中野芳夫	武富恒善	武富義幸	氏名	軍令	住	所	備考
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	新興					"
											下木屋 以		威興		以查部長
											田代 正雄		"		"
											武本 進		"		以查部長
											曾我部八代松	三六	"		以查部長
											小林 久一		新興		警部補
											村松 浅男	三三	"		以查部長
											児島 辰雄		"		以查部長
											草野 芳雄		"		以查部長
											嶽 一雄		"		以查部長
											伊賀 静夫		"		以查部長
											浦田 保		"		以查部長
											茂田 茂次		定平		以查部長

恒川謙二		咸興	巡查
小山藤作		洪原	"
北原徹		"	"
松本辰實		(應召先不明)	"
田中義人		(應召先不明)	"
三船直次		洪原	"
宮本英雄		"	"
豊田徳光		"	巡查部長
田中恒一郎		咸興	"
中村清治		洪原	"
神田白夫		利原	巡查
川上幸一		"	"
咸南敬二。			
氏名	軍令	住所	備考
能田米吉		洪原	巡查
福田静雄		"	"
永田寅雄		"	巡查部長
河田秀雄		"	巡查
永野純喬		"	"
三石國男		"	"
高橋清実		北青	整部補
久保田教助		"	"
境清記		"	巡查
前川京助		"	巡查部長
宮地芳雄		"	巡查

陣内 進		北青	巡查部長
永水 武士		"	"
岩崎 勝		"	"
戸上 正美		"	巡查
伊東 竹吉		"	"
浜田 琢吉		"	巡查部長
永島 春男		"	巡查
大園 辰巳		"	"
上田 安雄		"	"
福田 徳家		"	"
田中 義彦		"	"
新屋敷 亀		"	"
咸南整二一			
氏 名	年 令	住 所	備 考
小方 寅一		北青	巡查部長
米満 重盛		"	巡查
宮崎 雪雄		"	"
西岡 喜太郎		"	数室部
町田 忠義		"	巡查
日向 健五		"	"
児玉 大助		"	"
村瀬 新一		"	"
井熊 定雄		"	"
田北 賢一		"	"
吉本 良猪		"	巡查部長

川島 正治	千葉 一郎	溝口 力	杉田 梅太郎	朱森 哲郎	伊藤 新一	加藤 佐吉	川畑 健次	倉内 盛弘	川畑 治島	中川 助松	市来 春美	威南警二二		氏 名	年 令	住 所	備 考
														利原		北青	巡查
森原 軍治	内川 喜代次	和田 壽	永木 秀志	沼下 清五郎	野口 列卓	中村 隆	前場 保治	吉野 鷹春	及川 源七	杉山 哲雄	利原	巡查部長	巡查部長	巡查部長	巡查部長	巡查部長	巡查部長



下森定夫		端川	巡查部長
永野武治		"	巡查部長
鈴木宗郎		"	巡查部長
野本貞義		"	"
原茂		"	巡查部長
中村熙東		"	"
石井太郎		"	巡查部長
一戸弘行		"	"
小林房光		"	"
花田行雄		"	"
中園鉄雄		"	巡查部長
川崎明一		"	"
氏名	年令	住所	備考
吉岡市太郎		端川	巡查部長
小原徳美		"	巡查部長
大塚工		"	巡查部長
飯島常三郎		"	巡查部長
新家勇次		"	"
小林義廣		"	"
新田実雄		"	"
山木定義		"	"
新田義雄		"	"
矢萩茂七		"	巡查部長
福原鹿雄		"	巡查部長

石原秀志		端川	巡查
中古味勇		"	"
小川貞次郎		"	"
新井常作		"	"
森武一		"	巡查部長
浜田岩雄		"	巡查
石井亀一		"	"
吉岡政範		"	"
中敬忠		豊山	"
中江一夫		咸興	"
橋口敏行		豊山	巡查部長
今井字一		"	巡查一
咸南警二四			
氏名	軍令	住所	備考
内野清		豊山	巡查一
加藤不可止		"	巡查部長
上江洲松		甲山	巡查
松野不二夫		"	巡查部長
松田盛三		"	"
金山義登		"	巡查
坂本清一		"	"
梶原卓		"	"
井上貞光		"	"
吉田國男		咸興	巡查部長
中澤一		端川	"

牛水政一	後藤 卯	有馬 道高	松崎 誠俊	岡本 辰雄	山本 泰次	千手 喜太郎	橋口 正治	久保 多喜雄	小柳 庄惠治	廣田 美喜男	笠井 初太郎	氏 名	鎌田 幸次	浜田 春雄	加藤 武則	山田 春一	大本 秋朗	德重 玄夫	津岡 一男	中西 良雄	安藤 良一	丸山 春利	茶谷 松
端川	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	年令	端川	豊山	"	"	"	"	"	"	"	"	"
巡査	"	"	巡査部長	巡査	"	"	巡査部長	巡査	"	警部補	巡査	所	端川	警部補	巡査部長	巡査	"	"	"	巡査	"	"	"
威南警二五	考	備	端川	巡査部長	巡査	巡査部長	巡査	巡査部長	巡査	警部補	巡査	端川	巡査部長	巡査	巡査部長	巡査	巡査部長	巡査	巡査部長	巡査	巡査部長	巡査	巡査部長

日高政雄	豐山	巡查部長
田中鐵夫	甲山	巡查
馬場稀一	(南方某地)	巡查部長
川島春雄	惠山	"
清水昇	"	"
酒井兼藏	"	"
藤井宣	"	巡查
伊達捨次郎	庚興	巡查部長
杉本佐七	惠山	"
三輪一男	"	"
田中俊三	"	"
海野文藏	"	"

氏名	年令	住	所	備
迎見信義		惠山		巡查部長
竹本五郎		"		"
駒澤正則		"		巡查
深見彬夫		庚興		巡查部長
池上親志		惠山		"
福本勇		"		巡查
丹部武治		"		"
岡山好男		"		"
吉津武		"		"
川上虎夫		"		"
八田平六		"		"

威南警二六

内田芳平		惠山	巡查部長
馬郡雅人		"	"
加藤順一		"	"
上岡正廣		"	"
相原 湊		"	巡查
川上信夫		"	"
山内政造		"	"
小柳芳栄		"	"
古澤孝明		"	巡查部長
富永謙次		"	巡查
古財 中		"	巡查部長
高橋傳士		"	"
氏 名	年令	住 所	備 考
桑原政則		惠山	巡查
西岡藏吉		"	"
片山政美		"	"
深見常年		"	"
伊東 晃		"	巡查部長
右田 基		"	巡查
三輪 幸重		"	巡查部長
飯塚 茂二		"	"
夏目秀雄		"	"
吉田 柁		"	巡查
村岡志郎		"	"

小吉川忠孝		惠山	巡查
松永才二		"	巡查部長
徳田保		"	"
三代千代藏		"	"
松原龍三		"	巡查
丸山巖		"	"
長井吉三郎		"	巡查部長
朝隈玉人		"	巡查
渡辺末孝		"	"
八田平六		"	"
松井周一		"	"
原田壽		"	"
氏名	軍令	住所	備考
西村治輔		惠山	巡查
服巻弘		"	巡查部長
西村二郎		"	"
川本福二		"	"
南正幸		"	"
真野勝美		"	敬重部補
富田一志		三水	巡查部長
原田林		"	巡查
官原亀松		"	"
片岡正義		"	"
村崎環		"	"

光野	義雄		三水	巡查
野口	初二		"	"
藤	律次		"	"
西浪	亀一		"	"
桐明	正夫		"	"
黒岩	辰哉		"	巡查部長
古家	二生		"	"
上田	末記		"	"
金子	研助		"	巡查
竹之内	秀義		"	"
成田	政則		"	"
宮西	信義		"	"
氏名	年令	住	所	備考
島	春成	三水		巡查
伊藤	熊石	惠山		"
渡部	伸一	三水		"
小屋敷	時盛	"		巡查部長
原田	五五郎	"		"
緒方	瞳	"		"
土屋	俊雄	"		巡查
浦田	不二夫	新聖岐		巡查部長
藤本	良夫	"		巡查
富樫	勇雄	"		"
井上	博	"		"

渡辺 和介		新笠坡	巡查
栗井 媛		"	"
谷口 武夫		"	"
能 任 治		"	"
萩窪 英兵衛		"	"
漢 香 光 芳		"	"
田城 寺 近 藏		"	巡查部長
沼 倉 劼		"	巡查
白 砂 定 治		"	"
藤 田 貞 夫		"	"
吉 田 昌 人		"	"
森 田 英 親		"	"
氏 名	年 令	住 所	備 考
細 谷 侃		新笠坡	巡查
鶴 丸 清 次		"	"
青 木 時 光		"	巡查部長
松 崎 光 二		"	巡查
重 富 初 二		"	巡查部長
渡 辺 政 一		東 門	"
小 山 巖		"	巡查
大 都 苗 今 雄		"	巡查部長
下 遠 野 浩		(應召先不明)	巡查
黒 島 正 雄		東 門	"
若 林 正 人		"	"

咸南鑒三〇



藤崎 正二		東門	巡查
鳥山 義雄		"	"
外丸 栄三郎		"	"
朝野 修		"	"
森 寅吉		"	"
山本 梅太郎		"	"
末松 正彦		"	巡查部長
尾野 甚七		"	"
望月 道治		"	巡查
佐宗 悦		"	巡查部長
深澤 軍次郎		"	"
中西 習		成興	警部
氏 名	年令	住 所	備 考
増田 卓治		長津	警部補
萩原 千代史		"	巡查部長
萩 壹		"	巡查
市田 原作		"	"
本山 喜右衛門		"	巡查部長
原田 威		"	巡查
柳沼 義雄		"	巡查部長
羽山 義勝		"	巡查
池上 兄二		"	"
伊東 二栄		成興	道之尾医官
天津 創		元山	"

咸南警三一

中川	明	北青	道主医局藥劑官
平山	直木郎	惠山	道主医局書記
佐藤	竹夫	威興	巡查部長
原野	政太	"	"
徳永	環	"	"
米加田	昇利	"	"
山下	瑜	永興	"
天河	金次郎	定平	巡查
中村	清治	洪原	"
高利	徧惠子	成興	雇員
氏	石	年令	住所
			所
			備考
			成南敬三二

(京畿分)

氏名	年令	住 所	備 考
花野 繁義		岡城	巡查
丸尾 一二		"	" (部長)
古川 義雄		"	"
長沼 繁則		"	" (部長)
服部 栄		"	"
戸塚 直一		"	"
児玉 久		"	" (部長)
平野 長信		"	"
池田 寅七		"	"
尾川 進		"	"
立石 光雄		"	"
京 畿 分			
大保 光則		岡城	巡查
杉田 三郎		"	"
森山 道德		"	" (部長)
今泉 吾郎		"	"
北 一良		"	"

(江原分)

氏名	年令	住所	備考
徳永 興		襄陽	警部
緒方 義人		通川	警部補
三橋 甚六郎		襄陽	
田中 八次		"	"
田中 高雄		"	"
後藤 道孝		"	"
浦田 清		高城	巡查
池田 正幸		"	"
福島 辰雄		"	"
頼谷 賢三		"	"
北辰 利雄		襄陽	"
江原警一			
氏名	年令	住所	備考
木原 日出雄		襄陽	巡查
早田 二生		"	"
浜田 幸吉		"	"
田羅間 正信		"	"
田中 義人		"	"
當房 徳藏		"	"
板井 幸次郎		"	"
稲木 武		"	"
高藤 政司		"	"
三尾 美之助		"	"
進藤 四郎		"	"

氏名	年令	住 所	備 考
長未勇夫		襄陽	調査
原田慶二		"	"
上萬圭三		"	"
中台武大		"	"
川端武雄		"	"
江崎政彦		"	"
廣田俊明		"	"
目崎徳男		"	"
勝目通		"	"
玉置農夫男		"	"
江島今朝雄		"	"
松山忠		"	"
角原市太郎		襄陽	調査
鴨原行雄		"	"
生能正雄		"	"

(黄海分)

氏名	年令	住所	備考
絃間 仁藏			道警視
廣瀬 薫			"
森本 勇		海州	警部補 黄海通商警察部
久保田 義男		"	"
増山 重勇		"	巡查
山成 芳郎		"	"
清水 實		"	"
西尾 勇		"	"
畑野 巖		"	警部
栗村 正義		"	巡查
浦山 清		"	"
黄海警一			
氏名	年令	住所	備考
金田 保		海州	警部補 黄海通商警察部
村上 英壯		"	屏兼警部
吉田 勇吉		"	警部補
石川 進		"	"
平谷 隆		"	巡查
蘭 忠男		"	"
松川 三郎		"	"
免耳山 金吾		"	警部
戸島 芳男		"	警部補
宮城 実		"	"
永田 米夫		"	巡查

森 準一郎		海 州	巡查 黄海道庁警察部
上 別府 勲		"	"
大 岡 親義		"	警部補
湯 淺 正士		"	警部
白 井 道良		"	警部補
井 上 野一		"	"
上 久 保 馨香		"	巡查
三 賀 山 正之		"	警部
石 橋 正一		"	警部補
松 島 栄		"	巡查
小 出 信男		"	警部
若 松 豊治		"	警部補
黄 海 警 二			
氏 名	年 令	住 所	備 考
伊 藤 義男		海 州	巡查 黄海道庁警察部
片 山 嵩		"	"
廣 澤 栄		"	警部
武 内 信男		"	巡查
有 満 正助		"	"
星 川 豊		"	"
小 林 正敏		"	"
宮 崎 知吉		"	"
徳 岡 英三		"	"
上 瀧 隈二		"	"
伊 藤 徹		"	"

妻鹿 宝		海洲	警部補
木村 重治		"	巡查
武川 右京		金川	"
川井 正己		"	"
古賀 憲吾		"	"
村上 勲		南川	"
深川 清次		"	"
武藤 政男		"	"
高口 貴雄 伴		"	"
野崎 隆起		"	警部補
末木 久磨		"	巡查
山田 貞義		"	巡查
黄 海 警 三			
氏 名	軍 令	住 所	備 考
近藤 満壽美		南川	巡查
荒木 敏孝		"	"
藤川 士太		新幕	"
吉池 武兵		"	"
佐藤 進一		"	"
岡本 章		"	"
高田 輝義		遂安	"
森口 茂人		"	"
推名 倉造		岩山	"
森 高喜		汙里茂	"
千坂 經次郎		"	"



田村 貢		沙里院	巡查
藤井 竹雄		"	"
高岡 幸雄		"	"
小川 國一		"	"
米満 又次		"	"
佐藤 富次郎		"	警部
吉永 勝三郎		黄州	巡查
肥前 定彦		"	"
本川 玉喜		"	"
谷崎 利之		"	"
穴瀬 喜久男		"	"
山下 勝		"	"
氏 名	年令	住 所	備 考
三浦 竹一		黄州	巡查
平岡 清		黄二廟	"
竹川 哲		"	"
泉川 正則		"	"
甲斐 篤		安岳	"
町田 安太		信川	警部
義永 長一		"	巡查
仲摩 高造		"	"
瀬野 正一		"	"
月岡 正治		載寧	"
國方 数市		"	"

南	太計志		載寧	敬之却
樋熊	八十吉		松永	巡査
岡	新吉	"	"	"
桑迫	和雄	"	"	警部補
山本	幾造	"	"	巡査
野中	大郎	"	"	"
佐藤	清十郎	"	"	"
松本	保太郎	"	"	"
里瀬	恒市	"	"	"
瓦田	六藏	"	"	警部
荒木	石太	長岡	"	巡査
岡	隼雄	"	"	"
氏名	年令	住	所	備考
上杉	幾雄	長岡		巡査
松木	新一郎	海川		嘱託

(咸北分)

氏名	年令	住 所	備 考
加納 富夫	三七	咸北 古茂山	道事務官
岡田 忠雄	五二	" "	咸鏡北道警察部長
井上 数人	五〇	" "	道警視
佐々木 實義	四六	" 茂山	警備課長
梅津 貢		" 吉川	高等警察課長
入江 邦政	四七	" 古茂山	經濟警察課長
笠原 秀明		" "	警部
志満津 邦生	三八	" "	樺基警察署長
古手川 高光	三七	" "	咸鏡北道警備課
染田 茂一	四八	咸南 咸興	"
塩田 雪夫	三九	咸北 茂山	技手
勝木 謙助	三九	咸北 茂山	警部神
鶴 正藤次	四五	" 咸津	兵事課
馬場 清二		" "	咸北 敬重
内田 良雄	四二	" 茂山	備 考
柳井 大兵衛	四七	" 吉川	警部
木下 壽雄	四〇	" 茂山	咸鏡北道警備課
篠原 進	四八	" 咸津	慶源警察署長
藤原 品美	四一	" 茂山	慶源警察署長
土岡 正一		" 咸津	富寧警察署長
浜野 幸之助		" "	咸鏡北道輸送保安課
易 教一	三一	" 茂山	吉川署
			巡査
			高等警察課

坂戸 延二	四七	城北 茂山	巡查 輸送保安課
小澤 一雄	三七	" 吉州	"
金子 忠太郎		" 茂山	" 警務課
羽田野 國廣	三九	" 城津	" 羅南署
中尾 隆一	四四	" 茂山	" 輸送保安課
石田 次人		" 城津	" 清津署
安樂 治人		" 吉州	"
山先 一二三		城南 咸興	警部補 警備課
小関 音松	五三	城北 城津	巡查 清津署
大江 清	三二	"	"
廣末 正留	三二	"	" 警部補 吉州署
岩崎 昇		城北 吉州	咸南 警二
氏 名	年令	住 所	備 考
前崎 保男		城北 城津	技手 警務課
小林 直臣	三七	" 茂山	巡查 高等警備課
東 武		" 城津	" 經濟警察課
高橋 増藏		" 茂山	" 特別警察隊
里田 正一	三五	" 吉州	" 羅南署
五味 富美男		" 城津	"
市野 澤正二		城南 咸興	" 漢大津署
大曲 繁雄		城北 城津	" 明川署
門杉 謙二		"	"
薄葉 廣一	三四	城南 咸興	"
佐藤 庄市	三三	城北 吉州	吉州署

[illegible]

谷村 久雄	三三	城北 吉洲	巡查 雄基署
増子 朝治	"	茂山	" 羅津署
甲斐 勝喜	"	城津	" 清津消防署
中村 義市	"	"	" 消防手
岩崎 生喜	"	"	"
岡田 忠	城南 咸興	巡查 阿吾地署	

城北 警 四

(平北分)

氏名	年令	住 所	備 考
宮迫重男		新義州	巡查
片山一郎		"	道事務官 平安北道警察部長
橋本勝正		"	巡查部長
倉内光雄		"	警部補
梶原正生		"	警部
藤本一美		"	巡查部長
清田歲喜		"	警部補
加藤孫市		"	道警視
常深昌雄		"	警部補
河村 績		"	"
河村 明		"	"
平北警 一			
氏 名	年令	住 所	備 考
児玉竹夫		新義州	道警視
土屋辰男		"	警部
一村正義		"	警部補
島雄平二		"	巡查部長
寄田一夫		"	警部補
北島正樹		"	"
丸田新		龍岩浦	警部
堀田芳武		楚山	"
丸田盛雄		新義州	警部補
品川莊太		朔州	"
中池邦夫		宣川	警部



抽木 護一		新義州	警部補
渡邊 龜藏		東興	警部
吉田 寛		新義州	"
岡本 豊		"	"
吉岡 政人		"	"
峠野 久雄		定州	"
後藤 和一		江界	"
佐藤 信一		義州	警部補
大村 栄太郎		定州	警部(奉任)
吉野 甫		北鎮	警部補
山田 忠二		中江	道警視
岩見 増雄		慈城	警部
平北警二			
氏名	年令	住所	備考
阪本 信作		新義州	道警視
定宗 美義		鉄山	警部
泉川 豊		江界	"
安庄 太郎		新義州	警部補
二宮 安毅		"	薬剤手
田原 近住		"	巡查
福井 恒一郎		"	"
川島 武治		"	警部
脇山 善一		"	警部補
上原 徳太郎		"	巡查部長
馬場 善太郎		"	巡查



荒木 次人		麓岩浦	巡查
松木 義雄		"	警部補
入江 須佐雄		"	"
伊野 熊雄		宣川	"
安藤 輝生		"	"
千葉 恒		"	"
藤井 敏之		定刈	巡查
山地 英雄		"	巡查部長
早川 誠		亀城	巡查
日野 原治郎		定刈	巡查部長
下野 岩太		亀城	警部補
石川 衛		"	巡查部長
平北 警三			
氏 名	年令	住 所	備 考
金田 源伍		亀城	巡查部長
杉本 良一		"	"
山下 盛茂		泰川	"
杉原 實一		"	警部補
道端 美作		"	巡查部長
岸田 初治		"	"
田原 南海男		博川	"
小原 教		"	警部補
平部 芳秀		"	"
笠原 受治		"	巡查部長
古高 種松		"	"

域	字	寧	巡
阿部 與平	"	"	"
中島 松應	"	"	警部
井上 稔	肥川	巡査部長	
石井 五郎	"	"	
行川 幹藏	"	巡査	
作田 武明	"	"	
谷川 勝藏	"	巡査部長	
三島 脩逸	荏川	道警視	
清水川 勇太郎	江界	巡査部長	
町田 実吉	"	"	
谷津 之男	"	"	
氏名	住所	備考	平北警 四
打田 昇	江界	巡査	
高村 本雄	中江	巡査部長	
加藤 静磨	"	"	
東 正春	"	"	
池貝 定美	"	"	
後藤 幸男	"	警部補	
原田 茂勝	"	巡査部長	
宮本 清一	"	巡査	
大谷 政治	"	巡査部長	
益田 與茂一	慈城	巡査	
池田 安雄	"	"	

中尾 磯雄		満南	巡查部長
楠田 義雄		"	巡查部長
栗田 弘		"	"
金野 隆一		"	"
佐藤 政治		渭原	巡查部長
中村 幸四郎		"	巡查部長
脇田 圭二		"	"
西俣 功		"	巡查部長
前川 誠一			巡查部長
一志 友義			警部補
久保田 久雄		碧潼	巡查部長
高橋 房之助		"	"
氏 名	年 令	住 所	備 考
児玉 寛一		碧潼	警部補
吉田 清吉		昌城	警部
清水 泉一		"	巡查部長
門柳 隆雄		"	"
木皿 小次郎		朔川	"
谷田 三男		"	"
小木 正		"	"
高橋 義夫		"	巡查部長
井 興 勲		"	巡查部長
三根 金雄		"	巡查部長
熊崎 武		義州	巡查部長

井崎 保		義州	巡查部長
金井 庄松		"	"
長谷川 吾一		"	"
藤田 静夫		"	"
平 三好		"	"
三浦 磨		"	警部補
武田 茂司		"	巡查
池田 山高		"	巡查部長
須田 増男		"	"
原 忠男	新義州		警部補

平北警

六

氏

名

年令

住

所

備

考

小林

正雄

五山

四查

慶南  
警  
一

柳留者名簿

官公吏分

(財務関係)

氏名	年令	住 所	備 考
千葉 勝直	二三	全羅北道 全州稅務署	稅務署屬
山上 秀吉		忠清北道	雇員
田口 末次		咸鏡南道	稅務署屬
古川 兼六		"	道理事官
渡辺 兵衛		"	"
佐藤 隆徳		財務部	"
杉本 徹		財務部理財課	道屬
古澤 壽男		"	道技手
財務			
氏名	年令	住 所	備 考
古川 猛		咸鏡南道 元山稅務署	司稅官
土井 憲一郎		"	稅務署屬
南里 悌次		"	"
堀本 武夫		"	地方書記
田辺 秀一		"	稅務署屬
石橋 正敏		"	稅務吏
有馬 平治郎		"	"
貞松 吉太郎		咸興稅務署	稅務署屬
牧 瑛次		"	"
石橋 光美		"	"

石橋 繁男		威鏡北道財務部	道理事官
加藤 純一		"	"
西村 伴治		"	道技手
西 泰二		威鏡北道 清津税務署	司税官
吉田 克己		"	税務署属
中沢 信義		"	"
北島 資生		"	"
上田 鉄夫		"	"
松林 外喜男		"	"
堤 繁		"	"
草場 俊也		"	"
佐藤 範雄		威鏡北道 清津税務署	税務吏
財 務 二			
氏 名	年 令	住 所	備 考
下 條 貞雄		威鏡北道 城津税務署	司税官
水 沢 文雄		雄基	税務署属
石 田 久光		"	"
山 本 幹一		会寧	司税官
久米 井 文男		"	税務署属
川 村 孝二		"	"
野 口 欣一		"	税務吏
飛 田 房実		明川税務署	税務署属
大 志 哲男		"	"
大 川 重夫		平安南道	"

石塚 真一

五十嵐 勝治

平安南道  
平壤

司役官

股務署長

財務

三



氏名	年令	住 所	備 考
阿部茂一郎	四三	黄海、海州	中学校教諭
橋本昌幸	三一	、安岳	、
安川重明	四〇	江原、瑞興	、
土屋義英	四四	黄海、沙里院	、
正田寛二	三八	平南、平壤	、
高橋静雄	四一	、	、
小泉貞雄	四二	、安州	、
岡村基一郎	四五	、平壤	、
渡辺正司	四八	、鎮南浦	、
米川栄治	五五	咸南、元山	、
氏名	年令	住 所	備 考
中野雄一	五四	咸南、元山	中学校教諭
前岡博	不明	不明	、
久原千吾	四四	咸南、北青	、
須佐彰	二四	咸南、元山	田山学校訓導
平川隆士	三七	咸南、高原	、校長
四谷、廣	四六	咸南、利索湖郷	、
庄司精一	不明	咸南、元山	、訓導
出口篤一	、	不明	中学校教諭
岸川勝海	五四	平北、新義州	、
下村寅男	五二	、	、
杉尾鳴己	三二	、	田山学校訓導

高村行助	三五	平北葛山郡	〃
平尾三二	三一	平北新義州	〃
山沢佐一郎	五九	平南平壤	横車長
森寅吉	五〇	〃	横車
杉本孝義	四九	〃	〃
中川宗孝	四九	〃	〃
后川八郎	四一	〃	〃
増村文雄	五三	〃	利車
渡辺彌美	五〇	〃	〃
辻宇市	四五	〃	〃
歸田叶	四〇	〃	〃
元橋曉太郎	五六	〃	横車正
法務 二			
氏名	年令	住	備考
坪石久次	四五	不明	横車
松原元男	四〇	〃	〃
中野教	三八	平南鎮南浦	〃
山下秀樹	五三	平北新義州	利車法院長
川野大竜雄	五一	〃	利車
島信行	三九	〃	〃
宇野秋一	三五	〃	〃
佐久間敏	四二	平北寧辺	〃
岩城義三郎	六一	平北新義州	横車正
岡田唯雄	三八	〃	横車
兒玉恒喜	三九	平北定州	〃

石倉弥太郎	三八	平北 寧戸	秩 率
高橋俊弥	四一	黄海 松永	利 率
前田 浩	四五	不明	秋判所書記
川島 晃	不明	〃	〃
仁田暢吾市	〃	〃	〃
田村 三郎	三七	〃	〃
井上賢一	三六	〃	〃
吉村貞勝	不明	〃	〃
北住秀磨	〃	〃	〃
杉平和夫	五四	城南 成興	典 獄
古川 三郎	六〇	〃	〃
三原金次	五九	黄海 海州	典 獄 補
法 務 三			
氏 名	年 令	住 所	備 考
日高廣矢	六一	黄海 海州	刑務所管
鬼村藤一	四一	城南 成興	看守長
武田末盛	三八	〃	〃
早川幸隆	三二	〃	〃
川波寅雄	三九	城北 清澤	〃
光島金吾	四二	城南 鎮南浦	〃
久保竹雄	三七	平北 新義州	〃
竹下数雄	三一	〃	〃
芝崎末彦	四〇	〃	〃
井上源治	五五	江東 瑞興	〃
棚田 功	四四	城南 成興	〃

星	多吉	不明	咸南咸興	看字
阿部	豐治	不明		
岡城	手武治	不明		
栗木	重治	不明		
森安	孝史	不明		
高田	繁	不明		
竹下	竹雄	不明		
川端	森	不明		
續	三郎	不明		
藤崎	政男	不明		
森	實繁一	不明		
岩口	義成	不明		

氏	名	年令	住	所	法務
田中	正男	二八	咸南	咸興	看字
佐藤	盛	不明	咸北	清津	
吉田	孝	三五	平南	平壤	
原田	真人	四二	平北	新義州	
中島	義雄	不明			
篠原	信夫	不明	黄海	海州	
高原	源次	不明			
藤本	要	三九			
清水	新平	不明			
牛山	直一	不明	平北	新義州	

氏	名	年令	住	所	法務
田中	正男	二八	咸南	咸興	看字
佐藤	盛	不明	咸北	清津	
吉田	孝	三五	平南	平壤	
原田	真人	四二	平北	新義州	
中島	義雄	不明			
篠原	信夫	不明	黄海	海州	
高原	源次	不明			
藤本	要	三九			
清水	新平	不明			
牛山	直一	不明	平北	新義州	

德永良助	不明	平北新義州	看字
千代表政二	三五	平南平壤	"
岩川藤三	不明	"	"
前藤義雄	"	江原瑞興	"
永吉 統	五一	平南明城	"
岸 勇一	四八	咸南咸興	道北事
杉本 一	三七	"	道事務官
池田 宏男	四二	"	"
早田 利夫	三九	"	道陸軍官
池田 実一	四七	"	"
武廣 武雄	五二	"	"
宮本 雄三	四二	"	"

氏 名	年 令	住 所	備 考
浜 野 長	四七	咸南咸興	道 属
宮 恒 信	四三	瑞川	郡 卒
吉 池 要二	四六	文川	郡 卒
宮 内 靖	四二	瑞川	郡 属
西 田 徳	四二	咸興	道 校 師
宮 内 國 弘	三五	咸興	郡 属
徳 永 全 治	三九	定平	郡 属
野 沢 由 正	三五	永興	"
中 村 秀 夫	四四	咸興	道 属
自 石 港	三六	"	"
杉 本 竹 次	四二	元山	府 書 記

道 廳

中国鉄雄	四九	咸南瑞川	邑書記
渡辺肆郎	四五	咸北茂山	道知事
馬頭修	三四	〃	道陸軍官
鈴木沙奈夫	四三	〃	道軍務官
横野清但	四七	〃	道陸軍官
村田富作	四二	〃	道属
伊藤豊次	四八	〃	〃
穴田良三	四一	〃	道陸軍官
小川收	五六	〃	道属
鈴木次郎	五一	〃	地方書記
小林忠治	四七	平北博川郡	郡属
高橋英夫	三九	平北新義州	道軍務官
道廳 六			
氏名	年令	住 所	備 考
島田勇一	四四	平北新義州	道陸軍官
武雄健哉	四〇	〃	道軍務官
古川兼秀	四七	〃	道知事
根部伊勢松	四七	〃	道軍務官
内田三之助	五二	〃	道属
渡辺藤吉	五二	〃	道属
佐藤辰雄	四四	咸北清津	道属
大沢多介	三七	平南江西郡	道属
室生金次郎	三二	咸北清津	道属
近藤博夫	四二	平南平壤	道属
板田廣雄	四四	咸南咸興	道属



白川明	仁木重人	井澄人	梅川長恒	宇賀田次夫	仙頭忠	前藤隆一	高田信郎	植松武男	柏田研一	徳田達三	氏名	安増健一	田島義己	大江正武	松野忠雄	新海猛	二井脩	河野利雄	前田健彦	和沢和治	柳田敬三	高崎謙三	小俣兼雄
三六	三九	三五	三六	三五	四二	四〇	三六	三六	三八	三五	年令	三八	三二	三三	三五	二九	四二	三八	三二	四八	四一	四〇	四五
平北江界郡	平 〃 森遠	平南八川郡	〃 〃	平南平懐	平北新義州	〃	〃	咸南咸興	咸南平懐	咸北清津	住	〃	平南平懐	咸南元山	〃	黄海海州	咸北清津	平安平懐	平北定州	平南平懐	〃	咸南咸興	平南平懐
地方校手	森林主事	和校手	〃	道校手	工務官	校師	〃	〃	〃	校手	備考	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	校手	校師	校手

安富俊雄	三八	平北渭原	道属
江口孟光	三六	〃 李昌	道教平
矢口太郎	三五	咸南新加坡鎮	森林主事
熊田原正行	三五	咸北羅南	道教平
河田瑞洲夫	四三	〃 飯塚	〃
堤友之助	四五	平南平壤	道教师
堀内真治	四四	〃	〃
荒木永藏	三六	〃	道教平
隈本虎雄	甲三 木四	〃	地方教平
土橋節夫	三二	平北新新	道教平
宮本政喜	四六	平南平壤	〃
筒井竹雄		黄海道海州	道知事
道廳 八			
氏 名	年 令	住 所	備 考
橋本治吉	四四	黄海 海州	道平務官
安田 豊	四七	〃	道属
本田敏行	四三	〃	〃
柘植久義	三七	〃	〃
国分武壽	二八	〃	〃
北崎末喜	四八	〃 平山郡	郡属
有働 勇	三五	〃 海州	道属
平本謙十	四三	〃	〃
高橋 實	三六	〃	〃
百崎忠太	四四	〃	地方教师



民間柳留者名簿

黄海道分

氏名	年令	住所	備考
篠宮 弥吉		兼二浦	朝日輕金屬株式會社員
塚原 猛		"	家族三名
小高 信次		"	"
藤本 萬吉	四〇	沙里院	東洋製絲紡織株式會社員
江部 新一	三八	"	"
横山 貞三		兼二浦	日本製鉄株式會社員
田熊 龜三		"	家族二名
中島 小市		"	"
田中 恒雄		"	家族二名
田中 義治		"	家族五名
氏名	年令	住所	備考
塚本 実信		兼二浦	日本製鉄株式會社員 家族四名
荒木 卓郎		"	家族五名
増本 晴茂		"	家族六名
小林 基		"	家族四名
岩武 靜男		"	家族三名
外工 員二名		"	家族八名 朝日輕金屬株式會社員 家族二名
松本 三郎		"	家族六名 三菱鋁業株式會社員 家族四名
鈴木 一		"	日鉄鋁業株式會社員
若松 志広		"	
南宮 鎮		京城地区	
岩村 定彦		"	

柳留者名簿

平安車道分

氏名	年令	住	所	備考
加藤勇	三五	鎮南浦		朝鮮電力株式會社 化學教師補 家族四名
藤井恒政	三五	左		教師補 家族四名
大宅碩	二八	左		電力技師 家族三名
鈴木康三	四〇	左		化學教師補 家族三名
北島榮市	三一	左		朝鮮電力株式會社 家族三名
竹林三郎	二三	左		妻一、子供三
中島砂	三七	左		妻一、子供三
河野只一		左		妻一、子供三
大和三郎		左		妻一、子供三
高野三郎				妻一、子供三
氏名	年令	住	所	備考
加藤五十造		平康		朝鮮電力株式會社 社長 家族四名
高松深五郎		左		家族四名
中野青木		左		家族四名
田村十三治		左		朝鮮電力株式會社 家族七名
岸盛治		左		家族四名
上村栄一郎		左		長山礦長 家族六名
阿部次四郎		新倉		地務課教師 家族三名
堀井正之助		左		家族六名
土佐良佐		徳川		徳川炭礦長 家族五名
渡辺董		平康		中外鉱業株式會社 家族五名
難波中一		海州		左

寺島 豊	鎮 市 庫	杖術 徵用 家族一
松岡 修一	"	"
西 柁 和 男	"	家族四
石川 二 郎	"	家族三
平田 志 津 夫	"	家族二
杉 渕 陽 次	"	"
吉川 幸 男	"	"
穴 戸 時 秋	"	家族二
吉 村 善 次	"	"
安 仲 盛 夫	"	家族四
笹 川 四 郎	"	"
大 西 正 男	"	"
氏 名	年 令	住 所
根 本 忠 雄	鎮 南 庫	杖術 徵用
中 沢 直 正	"	"
吉 田 三 郎	"	"
中 市 虎 夫	"	氷晶石工傷
堀 清	"	杖術 徵用 家族四
堀 井 正 三	成 川 郡 紫 仁 面	家族一
瀬 戸 正 雄	"	家族五
西 岡 宇 吉	"	家族六
河 村 琴 次	"	家族六
小 村 鐘 三 郎	"	家族二
小 牧 惠 之 壽	"	家族二

日本橋東區本町五丁目

鴨井二郎		左	家族五
杉田秀作		左	家族八
西田理一		毫城郡館西面	家族四
樋川義一			家族二
川野秀雄			鎮南中製鐵所より徒歩約一 町半、繁栄町、向、往、致、サ、レ 行方不明
和田隆			三井物産株式會社員
堀内宗典		平懐	令
吉富秋介		令	家族二人
村尾保雄		令	家族四人
高木繁		令	
寺崎豊	五二	鎮南浦	
登美子	二三		
氏名	年令	住	備考
松岡修一	五三	鎮南浦	
西松和男	三六		
西松千代子	三〇		
西村晃雄	六		
西松陽子	五		
西松祥子	三		
石川二郎	五七		
静枝	五二		
三八子	二〇		
石川金久	一二		
平田志津夫	三六		

[illegible]

田端正男	井上喜正	〃 頼子	〃 輝子	龍本秀雄	〃 雄二	鈴不康弘	〃 久美子	〃 レ子	鈴不康三	中島紀子	氏名	年令	住	所	備	考
三六	二七	大	三一	四〇	二	九	一一	三六	三九	七			鎮南浦			
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃						

[illegible]

田端公子	三〇	鎮南保	
〃 哲彦	三	〃	
〃 カネ	五六	〃	
高橋 清	三三	〃	
上野 保男	三六	〃	
中島 信夫	三五	〃	
〃 賀壽喜	三五	〃	
〃 素子	四	〃	
島津 孝	三〇	〃	
〃 ヨシ子	三一	〃	
藤原昌郎	三二	〃	
〃 ミツコ	二八	〃	
氏 名 年 令		住 所	備 考
杉之忠義	三三	鎮南保	
〃 ミツ子	二六	〃	
〃 莞爾	六	〃	
〃 純子	三	〃	
〃 英子	一	〃	
高橋 彰	三七	〃	
〃 ミサ子	三七	〃	
〃 徹	四	〃	
辻 精一	二七	〃	
國分源吾	四九	〃	
〃 紀子	一九	〃	



河邊常吉	五 四	平 懷	
佐藤正雄	二 八	〃	
陰山晃彦	三 四	〃	
鈴木孝	四 〇	〃	
野村八十	四 〇	〃	
〃 里子	二 九	〃	
桑島 正	三 六	〃	
寺岡茂樹	二 六	〃	
〃 三正	四 四	〃	
園田嘉市	五 一	〃	
高野隆二	二	鎮 南 浦	
父 名 年 令 住 所 備 考			
〃 純一	四	〃	
〃 弓子	九	〃	
〃 夕力	三 五	〃	
高野三郎	四 〇	〃	
〃 治文	四	〃	
〃 〃 〃 清雅 絹子	六 四 三 二	〃 〃 〃	
大和三郎	四 一	〃	
河野只一	三 九	〃	
長田武壽	三 三	〃	
下野重幸	三 六	〃	
中市虎雄	四 五	鎮 南 浦	

奥儀田景樹	五八	平像
今井頼次郎	五八	〃
原田貞輔	五二	〃
本島文市	六三	〃
夏目重太郎	六〇	横津
今泉信	四六	平像
八木朝久	五〇	〃
中村義昭	不詳	〃
内山實	不詳	〃
豊永泉	〃	〃
川崎賢治	〃	〃
佐々木梅次郎	〃	鎮南浦

氏名	年令	住所
堤友之助	四一	鎮南浦
島田	不詳	〃
秋野	不詳	不詳
藤森	〃	〃
志村	〃	〃
和田	五六	平像
春日	不詳	〃
石井	三四	順川
桑原茂	不詳	不詳
山本	〃	〃
山口	〃	〃

所  
備  
考

新田	不詳	不詳	野田和夫	田中	梅野勝幸	宮本
〃	〃	〃	〃	不詳	二八	〃
〃	〃	〃	〃	不詳	平懷	〃

柳留有名族 平安北道分

氏名	年令	住	所	備
坂兩徳太郎		江界邑		朝鮮電業株式會社員 家族五人
古賀徳三		"		" 家族一人
飯村彦高		水州郡		" 家族四人
相良廣高		"		" 家族四人
沢本正宏		"		" 家族二人
池田化久雄		"		" 家族二人
川桐勇吉		"		" 家族三人
加藤辰弥		"		" 家族三人
森下俊介		"		" 家族三人
藤原徳		"		" 家族四人
遊佐正己		"		" 家族三人
氏名	年令	住	所	備
望月晉哉		水州郡		朝鮮電業株式會社員 家族六人
橋口八百喜		"		" 家族二人
大内正己		"		" 家族三人
川平利七		"		" 家族一人
田中錦吾		"		" 家族一人
宮本金三郎		"		"
志埸茂好		高山面		" 家族一人
池田修		禰魯江		"
武村弘		"		" 家族一人
岩崎喜代七		新義州		富士紡績株式會社員 家族一人
三宅益己		寧辺郡 竜聖洞		大東紡績株式會社員 家族五人

中島辰吉			家族三人 ノ耕年、柳百中
中村繁天		不明	
高木繁			
若山保			
小池正雄			
山口今天			
北崎福一郎			
石上伴三郎			
栗谷悟			
志波勉	四大	新義州	朝鮮神網金庫株式會社 技師
川口武彦	四一		
七里能寛	三八		
氏名	年令	住所	備考
東原巳	三七	新義州	朝鮮神網金庫株式會社 技師
長船政亨	三五		
武田伊左門	三四		
多田越不吉	六八		
高橋英夫	二八		
武尾健藏			
浜田市藏	六五	新義州	
浜田(不明)	二五		
正田茂一	五五		
渡辺文八郎	四八		
板橋武夫	二九		

氏名	年令	住居	備考
鶴山金三	三一	新義州	
小野澤竜雄	四〇	"	
森井	四二	"	
和氣	四〇	"	
藤田欣也	四八	"	
福元耕夫	三五	"	
皆木収右衛門	六五	定州	
稲田卓市	五四	"	
石倉弥太郎	四七	寧辺	
古川 優	六六	新義州	王子製紙株式會社員 家族一人
山谷幸之助	三六	"	
高野新一郎	四一	"	
大田繁次	五八	新義州	王子製紙株式會社員
伴藤博	五五	"	
今野茂安	五六	"	
渡田幸一郎	五一	"	
天野英男	四二	"	
堀川義臣	四六	"	
海江田有弘	四四	"	
佐竹清次	四八	"	
遠藤末次郎	五三	"	
小熊 亮	四七	"	
小田國市	四四	"	

前木善太郎	五七	新義州	
儀良比古	四四	"	
三浦長平	四二	"	
濱健一	三三	"	
岸川保吉	四五	"	
櫻川鉄弥	二七	"	
信田筆次郎	四五	"	
梅崎義忠	二五	"	
藤原喜三郎	五〇	"	
河盛定吉	四九	"	
佐月平八郎	四〇	"	
千葉徹	四五	"	
氏名	年令	住	備考
岸芳勝	四三	新義州	
田口義祐	四三	"	
中野勝馬	五一	"	
川口芳一	四五	"	
池尾勉	三〇	"	
星田福雄	三九	"	
羽場多一郎	四八	"	
岩崎嘉代七	五〇	"	
青木深太郎	五四	"	
仙頭忠	四一	"	
大林清治	四八	北中面	

氏名	年令	住	所	備考
長野耕造	三八	北中	南	
田中恒吉	五五	ノ		
西山長市	四六	ノ		
蜂石喜七郎	三三	ノ		
窪美勝	四二	ノ		
細生光郎	四一	ノ		
小川宗康	三三	ノ		
永原勘次	四八	ノ		
吉田陽	三七	ノ		
藤井亮	二九	ノ		
都合守成				
新納清				



柳留者名録

同鏡南道分

氏名	年令	住	所	備
高草木伴達		興南		同平堅東肥群株或金社負 家族四人
柴山藤雄				家族三人
玉井 寧				一人
三木芳夫				一人
山口 欽一				一人
小林五夫				一人
鈴木青吉				一人
有賀研一				一人
藤原昭久				一人
吉田 隆				四人
氏名	年令	住	所	備
久保氏夫		興南		同平堅東肥群株或金社負 家族三人
飯田トミ				家族一人
福山忠良				
袴田万次郎				家族四人
石井武雄				家族五人
多田豊隆				家族三人
古川末彦				家族四人
木下貞徳				
杉村武次				家族四人
奥村利三				家族一人
山田 勇				

中野正二	官野正壽	草間 潤	田口 明	藤田 侃	栗野大郎	島野方介	佐藤有正	平井平馬	船津正教	椎名直行	真島 涉	氏 名	後藤 演	佐見善一	石田憲次郎	橋高 博	徳富 一郎	樋口 栄	鋤崎彌三郎	村山 榮	白河芳一	田原卓郎	中野杉次
興 南	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	興 南	興 南	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
家族三人	"	"	家族二人	家族二人	家族一人	家族三人	"	家族四人	家族六人	家族二人	家族六人	備 考	日本皇室肥料株式会社 家族二人	家族一人	"	家族二人	家族五人	家族五人	家族四人	家族六人	家族七人	家族五人	家族五人

鈴木三男	興南	家族五人
野口友嘉	興南	家族三人
糸田祐夫	興南	家族三人
帶刀喜作	興南	家族四人
蓬来豊之	興南	家族三人
上田登喜雄	興南	家族五人
長野春利	興南	家族二人
佐々木 祐	興南	家族三人
笠原 始	興南	家族五人
河村正男	興南	家族三人
上村 勝	興南	家族五人
桑 義彦	興南	家族二人
氏 名	住 所	備 考
河村一男	興南	日本皇室肥料株式会社員 家族五人
浜野正元	興南	家族一人
西岡義一	興南	家族一人
櫻木竜夫	興南	家族四人
中村寅雄	興南	家族四人
須々木一喜	興南	家族三人
原田十太郎	興南	家族五人
富田孝次郎	興南	家族五人
山崎 泉	興南	家族四人
園田敬吾	興南	家族三人
小柳十一	興南	家族三人

阿田達	家族三人	氏名 年令 位 所 備考	清水善太	家族三人
坂本時一	家族七人		上田 真	家族四人
新橋清二	家族六人		姪野 保	家族四人
平田敏造	家族三人		小田 一夫	家族四人
當房典吉	家族六人		坂元 一良	家族五人
町田 元	家族六人		山元敏造	家族四人
原道天	家族三人		秋山 博	家族三人
井田 彰	家族四人		細井義之助	家族三人
宮本秋天	家族三人			
関村静生	家族四人			
平良重助	家族三人			
空闲徳平	家族四人			
北村大太郎	家族三人			
中倉虎雄	家族三人			
氏名	備考			

徳田信一	幸島 啓	長 三 郎	有田秀男	岩陽地新男	辻 良 徳	重 富 温	野 秋 和 一	高橋 静 大	藤井 賢 一	今本 貞 久	中 原 登			父	名	年令	住	備	考
														氏	名	年令	住	備	考
														不 林 磯 吉			興 南	同 本 堂 兼 疎 武 会 社 員	
														井 出 徳 三 郎				家族 三人	
														安 富 藤 忠 行				家族 二人	
														千 島 義 男				家族 五人	
														太 原 正				家族 三人	
														山 本 信 一				家族 三人	
														勝 原 要				家族 三人	
														江 口 勝					
														鈴木 義 穂				家族 五人	
														野 村 武 雄				家族 二人	
														北 川 勤 哉			青 水	家族 二人	

氏名	年令	住	備
小川 武士	"		家族三人
佐々木 三郎	"		家族三人
須田 一男	"		家族二人
千賀 質	"		家族一人
藤本 朝明	"		家族三人
宮原 隆二	"		家族四人
釜三 之十	"		家族五人
村田 豊	"		"
浜野 重美	"		家族二人
坂元 良勝	"		家族三人
岡田 豊久	"		家族三人
岡田 吉雄	"		家族三人
氏名	年令	住	備
徳江 毅	"	青水	日本厚生連株式会社員 家族三人
叶屋 新一	"	"	"
服部 利一	"	"	家族四人
塚本 光義	"	"	家族二人
長沼 喜久男	"	"	家族二人
外城 重男	"	"	"
前田 和夫	"	"	"
茨城 圭次郎	"	龍門	家族四人
生嶽 野錦二	"	"	家族五人
岡田 時太郎	"	"	"
小宮 孝義	"	"	"

氏名	年令	住	所	備
河原保基		下	興	家族四人
橋本光男		下	興	家族四人
前藤文吉		下	興	家族三人
繁地厚之司		下	興	家族三人
江 蹟 剛		下	興	家族三人
小森純藏		下	興	家族四人
鈴木三郎		下	興	家族三人
安部 盛		下	興	家族三人
松村幸吉		下	興	家族三人
奥村利三		下	興	家族三人
吉富彌嗣		下	興	家族三人
高橋 清		下	興	家族三人
氏名	年令	住	所	備
坂部正七		下	興	家族三人
田中明六		下	興	家族三人
尾崎徳松		下	興	家族三人
末武治郎		下	興	家族三人
福島製紗衣策		下	興	家族三人
山崎 清		下	興	家族三人
伊藤熊太郎		下	興	家族三人
井戸正行		下	興	家族三人
古田繁太郎		下	興	家族三人
山本軍次		下	興	家族三人
森田雄		下	興	家族三人

中本正二

吳南

[illegible][illegible]



柳留看名簿

咸鏡北道分

氏名	年令	住	所	備
平岡直三		推定北群		咸鏡北道二品族長今社負 家族三名
井上曠				家族三名
野中安雄				廣正
河合繁太郎				
井手平作				
青木武夫				
水野廣二		吉州邑		三子製紙株式會社負 現在興南、居八族長 家族一名
三浦義明				現在平康、居八族長 家族五
山崎儀作				
富山信雄				
氏名	年令	住	所	備
木下房三		吉州邑		三子製紙株式會社工場長
大嶋勇雄				工場次長
富島二郎				山林部長
正木國夫				技術者
卜部清				
鈴木重藏				
江利家篤夫				家族四
安武保		清津		日新鉛業株式會社負
神農次松				
佐藤勇藏				
飯丸熊雄				

[illegible]

各地相談所

○大阪相談所

昭和二十一年三月開所

大阪市北區宗是町 大阪ビル第五六四號室

上瀧 基 大田秀之 無量林吉雄 大川 榮 中井素子

○中國相談所

昭和二十一年五月開所

下關市西細江町 光明寺内

堀 正一 小田正義 山本松信

○九州相談所

昭和二十一年四月開所

福岡市西門町七 西門橋西詰

高尾甚造 山村正輔 森田芳夫 佐藤梅二 原田次郎

○四國相談所

昭和二十一年四月開所

松山市真砂町十二番地

山澤和二郎 正岡喜一 佐藤関司

○東北相談所

昭和二十一年九月開所

仙臺市北三番丁一四八番地

湯村辰三郎 瀬戸泰雄

○名古屋相談所

昭和二十一年九月開所

名古屋市中區白金町三一 中央社會館内

白石光治郎 森 武彦

滿洲國省長會議記錄

及昭和十七年

大陸(野滿鐵支)

昭和十七年

連絡會  
新聞切抜

昭和十七年四月九日  
上海 基氏  
受贈

朝鮮總督府

會  
議  
日  
程

省長（特別市長、警察總監）會議日程

月	日	時	刻	事	項	場	所	備	考
六月十三日	午	八時三十分	前	一、開會ノ辭（附譯）		總務廳講堂		全員（議事進行係發聲）	
				二、國旗ニ對シ敬禮				國務總理大臣 以ハチノ	
				三、回鑾訓民詔書奉讀				訓示前新龍寫真班議場攝	
				四、國務總理大臣訓示				影 訓示前新龍寫真班議場攝	
				五、軍司令官致詞（附譯）					
				六、國務院總務廳指示並協議（附譯）					
				七、外務局指示並協議（附譯）					
	正	午		食		總務廳講堂			
	午後	二時		八、內務局指示並協議（附譯）		總務廳講堂			

	午後	一、興安局指示並ニ協議 (附譯)	總務廳講堂	
	午後	一、地籍整理局指示並ニ協議 (附譯)		
	午後	一、治安部指示並ニ協議 (附譯)		
		一、民政部指示並ニ協議 (附譯)		
		一、司法部指示並ニ協議 (附譯)		都合ニ依リ第二日ニアル事
	午後 六時三十分 後	一、國務總理大臣招宴 (附譯)	總理大臣官邸	
六月十四日	午後 八時三十分 前	一、産業部指示並ニ協議 (附譯)	總務廳講堂	
		一、經濟部指示並ニ協議 (附譯)		
	十三日午後	一、交通部指示並ニ協議 (附譯)		
		一、各省所管政務報告並ニ要望事項開陳 (附譯)		(1)奉天(2)吉林(3)龍江



			六月十五日			
			午後 十時二十分	午後 九時三十分	午後 二時	正午
午後 四時 十分	午後 二時	正午	御 陪 食	協和會招宴	各省所管政務報告並ニ要望 事項開陳 (附譯)	晝食
解散	市内重要施設視察 多摩会		宮内府	總務廳講堂	總務廳食堂	
	別紙ノ通		奏上ノ順位ハ政務報告ノ 順トス	監 都合ニ依リ第三日ニ互ル コトアルベシ	(1)熱河(2)濱江(3)錦州(4)安 東(5)間島(6)三江(7)通化(8) 牡丹江(9)興安(東南西北) (10)黑河(11)特別市(12)警察總	

新京市內視察個所

十五日						月 日
四時二十分	三時五十分	三時二十分	二時五十分	二時三十分	午後二時	時 刻
衛生技術廠	恤兵院	軍管區病院	陸軍病院	忠靈塔	大陸科學院	場 所
解散					午後二時科學院集合 自動車ニテ案内	備 考

日本國國旗 | 滿洲國國旗

總警 技 監 院 學 大 建 協  
隊 護 監 院 陸 院 同 學 國 和 會

大使館 總 朝 總 朝 委 拓  
局 東 局 督 辦 督 辦 員 植  
長 參 議 府 參 議 府 參 議 府 參 議 府

交 次 長  
經 次 長  
產 次 長  
司 次 長  
民 次 長  
治 次 長

關 東 軍  
參 謀 長  
參 謀 長  
參 謀 長  
參 謀 長

大 交 通 部 大 經 濟 部 大 產 業 部 大 司 法 部 大 民 生 部 大 治 安 部

理 國 務 院 長 內 務 部 長 外 務 部 長 總 務 局 長 總 務 局 長 總 務 局 長

關 東 軍 司 令 官

參 謀 長 參 謀 長 參 謀 長 參 謀 長

各 部

奉 天 省  
吉 林 省  
龍 江 省  
熱 河 省  
濱 江 省  
錦 州 省  
安 東 省

偵 查

議 長

秘 書

警 察 總 監  
特 別 市 長  
興 安 北 省  
興 安 西 省  
興 安 南 省  
興 安 東 省  
黑 河 省

各 部

奉 天 省  
吉 林 省  
龍 江 省  
熱 河 省  
濱 江 省  
錦 州 省  
安 東 省

偵 查

議 長

秘 書

警 察 總 監  
特 別 市 長  
興 安 北 省  
興 安 西 省  
興 安 南 省  
興 安 東 省  
黑 河 省

康 德 五 年 度 全 國 省 長 會 議 席 場

國 務 院 總 務 廳 及 外 局 關 係 官 席

係 員

間 島 省 三 江 省 通 化 省 牡 丹 江 省

隨 行 者 及 一 切 傍 聽 考 席

受 付

出 入 口

傳年書

小官儀

滿洲名者名會錄列傳並同國  
城才壯現現等之於年六月十日  
其郭亮六月十五日改任張候  
同視學概現如井一通及博  
命修也

慶親王初奉十餘是

乾隆初年

三

九月廿一日  
 九月廿二日  
 九月廿三日  
 九月廿四日  
 九月廿五日  
 九月廿六日  
 九月廿七日  
 九月廿八日  
 九月廿九日  
 九月三十日

先少國體之符之合意如礼  
考曰國體之符之合意如礼  
子從祖傳文之多也之  
此山良田之三多也  
次一諸君之位限于其間是也  
其一二事之不建小阻起一障之象由  
於何者則司成之定然之書後已歟  
於夜上之七也五刻至十時始乃  
新之風氣雖壯而元之氣何  
述一六九二一

姓名  
 職名  
 年齢  
 性別  
 籍貫  
 出身校  
 卒業年  
 入社年  
 入社時年齢  
 現在職  
 勤務地  
 給与  
 昇進  
 退職  
 理由  
 備考

五月七日。任堀。又見。又。官。令。其。地。  
附。所。務。官。制。ノ。概。年。以。裁。分。役。コ。テ。  
(一) 新。官。吏。道。ノ。確。立。(二) 又。極。協。和。ノ。障。  
害。排。除。(三) 又。古。方。武。部。及。上。自。由。使。用。鉅。  
費。在。甲。上。ノ。並。用。(四) 武。補。給。分。給。用。及。  
又。安。居。成。校。同。ノ。整。頓。系。果。由。給。与。制。  
度。ノ。確。立。上。生。活。ノ。安。定。(五) 又。官。公。限。及。  
他。種。利。分。ノ。創。設。事。六。項。上。ノ。特。  
二。才。一。資。ノ。官。吏。道。ノ。確。立。之。因。に。對。し。て。  
大。現。在。達。成。之。途。ハ。面。面。考。へ。て。考。察。す。べ。し。



意一連此觀之。五、幾、起、東、  
 新時代、本條、知、々々  
 春、金、銀、元、鐵、土、石、木、  
 二、三、四、五、六、七、八、九、十、  
 分、子、母、全、後、前、運、行、  
 國、の、通、り、一、切、の、物、を、  
 かゝる、運、行、上、に、お、か、し、て、  
 振、込、め、入、れ、出、し、を、  
 手、で、し、な、す、仍、つ、て、北、方、  
 の、各、縣、に、當、り、て、  
 海、沿、ひ、の、各、

局長、指、(別紙通り)昨年  
十二月、部、縣、衙、初、二、回、之、利、を、一、確、立、  
セ、ラ、シ、タ、ト、云、ニ、當、地、才、藝、一、振、興、石、也、  
財、政、神、經、筋、を、結、節、等、計、一、夜、通、款、  
ヲ、ナ、シ、終、了、ノ、ハ、る、各、古、儀、を、  
ニ、類、ク、次、ノ、テ、  
郵、政、局、總、裁、北、崎、關、氏、ノ、指、示、  
アリ、(別紙通り)滿、洲、二、條、ノ、  
由、ノ、素、直、氏、後、ニ、君、人、の、出、策、ヲ、  
支、拂、ス、ル、以、ニ、其、為、石、ノ、額、又、ハ、

一、土地問題ニ付、  
國家之報復心、非無故蒙心、  
早之大同心、十一月、  
土地保全、  
之蒙心、  
大、  
成、  
二、  
在、

女 付 國 不  
 現 理 承 公 孫  
 二 復 之  
 以 檢 云 二  
 錦 山 者 矣  
 王 崑 樵 氏  
 司 公 三 四  
 一 蓮 葉 三  
 族 同 一 理  
 擇 十 孝 也  
 古 人 一 節 也  
 一 同 故 云

[illegible]

特令檢閱ノ為生張方在中ニ付  
次長付記トシテ復從ニ當ル  
其ノ内各一(一)防衛法ノ施行ノ未  
一電檢任憑指授行ニ決(三)警  
官更ノ善更何上ニ決  
一制傷強化(中)治安ノ確保(大)法令ノ  
運用  
一日本軍一都年々  
此ノ已新機ニ付  
其ノ内各一(一)防衛法ノ施行ノ未  
一電檢任憑指授行ニ決(三)警  
官更ノ善更何上ニ決  
一制傷強化(中)治安ノ確保(大)法令ノ  
運用  
一日本軍一都年々  
此ノ已新機ニ付



二十日 統上ニテハ民ヲ捕取スルニテハ色  
心難ク之反ハテ一匪賊ニ捺所スルコト  
ナリ且ツ禁（或家）ノ所不良ニテ一匪賊  
ニ元カリ（實當時警吏當ラズ）一匪賊  
（或子）ニ當リ知言者ノ銃ハ短ニ立タ  
ヌトテ存身取又又後ナリ（又）時限元不良  
ニテ討匪（何）ノ任用ニ余（或）他匪賊  
ハ人主ノ徴禁ニ（或）五ナリ（或）不  
知（或）側ハ（或）信ニ（或）運（或）搬（或）ス（或）ト  
止（或）ナリ（或）從（或）從（或）テ（或）兄（或）ナリ（或）同（或）軍（或）ノ（或）討（或）伐（或）

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百







ヲ後シテ 矢昭ヲ撰ニ 山ノ下ニ 別ヲ  
初 喝シ 誅 誅トシ 或 誅 誅トシ 誅  
興ノ又ハ 誅 誅トシ 誅 誅トシ 誅  
ト述ベシ 誅 誅トシ 誅 誅トシ 誅  
ト後シ 誅 誅トシ 誅 誅トシ 誅  
同ハ 誅 誅トシ 誅 誅トシ 誅  
上ハ 誅 誅トシ 誅 誅トシ 誅  
(四) 誅 誅トシ 誅 誅トシ 誅  
ハ 誅 誅トシ 誅 誅トシ 誅  
若ト 誅 誅トシ 誅 誅トシ 誅



不陳德多シ又入等被受ニ日中執ヲ  
課スルニ民間ニ日中執被受ノ事ナ  
ク立ニハ使被受ルルヲ日中執被受  
加スルヲ既ニ被受ルルニ生徒ノ利服  
ハ袖短キニ過キ軍部執ハ一月ニ  
三是ヲ要スルニ是ニ因ハナキ以上ノ  
金額ニシテノニナリ足ニアルヲ既ニ被受  
スルニ被受方被受ヲナシ等意見ヲ因  
陳ニ彈大庭ヲ海被受國被受リル  
元通被受被受被受被受被受被受



建設事業ノ遂行 (三) 三ノ河川松花  
江鴨綠江及遼河ノ開發並ニ煤田  
治水事業中遼河治水ニ諸河川  
治水ノ附流水事業並ニ農林事業  
(四) 通信施設ノ拡充並ニ電力  
事業保險ノ現狀並ニ之ニ關スル  
等ニ関スルモノナリ  
通化府長官ノ宣示代アリ「通化府  
森井長官ノ宣示代アリ」  
三ノ河川治水事業ニ關スルモノナリ  
會社ノ宣示代アリ





十二月廿三日

國子監理問印之於戶部所領之  
省名如係監署等口口古所科設  
此章一振之口口口口口口口口  
亦第文如次外口口口口口口口  
及小口口口口口口口口口口口  
子二第口口口口口口口口口口  
現、口口口口口口口口口口口  
官口口口口口口口口口口口  
長、趙鵬第口口口口口口口口



第二

6/19/20

[illegible]



將舊城就該會社搬遷。 (一) 國庫  
 有餘社 陽學。社。 (二) 國庫  
 十社 陽學。社。 (三) 國庫  
 社 陽學。社。 (四) 國庫  
 社 陽學。社。 (五) 國庫  
 社 陽學。社。 (六) 國庫  
 社 陽學。社。 (七) 國庫  
 社 陽學。社。 (八) 國庫  
 社 陽學。社。 (九) 國庫  
 社 陽學。社。 (十) 國庫

[illegible]

中皇太后 聖母也之聖子之為子  
二日又 民衆 理解 之 愛 之 愛 之  
富 子 年 十 七 心 之 熱 心 之 主 之 主 之  
天 之 子 之 子 之 子 之 子 之 子 之  
可 能 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
今 許 託 二 更 之 聖 母 之 聖 母 之  
經 之 經 之 經 之 經 之 經 之  
二 日 西 之 外 之 外 之 外 之 外 之  
細 心 之 心 之 心 之 心 之 心 之  
多 岐 十 十 十 十 十 十 十 十  
一 一 一 一 一 一 一 一

*[Faint handwritten Japanese calligraphy]*





乃重記之小夏粉筆  
妙取於心以止謫也  
黃公孫少光集仁而  
高而不外物之利  
神而無操之迹  
其氣必清而會和  
曰吾能多矣  
忘其言而操其  
心者固多矣  
儲之德是也  
加也德也

一、國語の統一  
 二、國語の普及  
 三、國語の整理  
 四、國語の調査  
 五、國語の教育  
 六、國語の研究  
 七、國語の出版  
 八、國語の放送  
 九、國語の新聞  
 十、國語の雑誌

Handwritten text in Chinese characters, possibly a list or notes, enclosed in a rectangular border. The text is arranged in several columns and includes various characters and symbols, such as numbers and punctuation. The handwriting is cursive and somewhat faded.

康  
德  
五  
年  
六  
月

全  
國  
省  
長  
(~~警~~特  
察  
別  
總  
市  
監  
長)  
會  
議  
出  
席  
者  
名  
簿

張景惠  
 孫其昌  
 呂榮  
 韓雲  
 李紹  
 星野  
 神吉  
 谷次  
 蔡運  
 御影  
 扎噶  
 籙田  
 宮澤  
 惟兒

全國省長會議參列者名簿

民	治	興	內	外	總	總	總	交	經	產	民	國
生	安	安	務	務	務	務	務	通	濟	業	生	務
部	部	局	局	局	廳	廳	廳	部	部	部	部	總
次	次	總	長	長	次	次	長	大	大	大	大	理
長	長	裁	官	官	長	長	官	臣	臣	臣	臣	大
宮	籙	扎	御	蔡	谷	神	星	李	韓	呂	孫	張
澤	田	噶	影	運	次	吉	野	紹	雲	榮	其	景
惟	美		辰			正	直			榮	昌	惠
兒	朝	爾	雄	升	亨	一	樹	庚	階	寶	桐	

交 經 産  
通 済 業  
部 部 部  
次 次 次  
長 長 長

平 西 岸  
井 村  
出  
貞 淳 信  
三 一 介  
郎

通	間	三	安	錦	濱	熱	龍	吉	奉	部
化	島	江	東	州	江	河	江	林	天	局
省	省	省	省	省	省	省	省	省	省	省
省	省	省	省	省	省	省	省	省	省	官
長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	職
呂	李	于	黃	王	韋	金	趙	閻	葆	氏
宜	範	琛	富	茲	煥	名	鵬	傳		
文	益	徵	俊	棟	章	世	第	紱	康	名



首都警察	新京特別市	興安北省	興安西省	興安南省	興安東省	黑河省	牡丹江省
總	市	省	省	省	省	省	省
監	長	長	長	長	長	長	長
于鏡濤	于靜遠	諾爾欽巴圖	諾爾嘎爾扎布	壽明阿	額勒春	許桂恒	大島陸太郎

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	總務廳	部局省名
〃	〃	理事官	弘報處長	統計處長	人事處長	企畫處長	〃	〃	參事官	官職
平山一男	木村鎮雄	丁沒	堀内一雄	徐家恒	源田松三	松田令輔	王賢諱	伊吹幸隆	高倉正	氏名

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	總 務 廳
事務官	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	理 事 官
高 田 千 秋	郭 寶 絲	岡 田 益 吉	山 本 紀 綱	尹 明 善	近 藤 三 雄	松 崎 建 吉	木 田 清	飯 澤 重 一

部 局 省 名	外 務 局	
官	參 事 官	
職		
氏	李  義  順	中 根 不 朝 雄
名		

									內務局	部局省名
經理科長	人事科長	企畫科長	第四科長	第一科長	都邑計畫科長	庶務科長	參事官	監督處長	管理處長	官職
田中弘之	津末圭二	杉山俊郎	瑪尼巴達喇	星子敏雄	沼田征矢雄	王純古	奏學文	張書翰	武內哲夫	氏名

內 務 局	財 務 科 長	路 之 檢
-------------	------------------	-------------

		興 安 局	部 局 省 名
秘  書  官		參  與  官	官   職
薩 嘎 拉 扎 布	白 濱 晴 澄	博 彥 滿 都	氏   名

〃	〃	〃	審 計 局	部 局 省 名
〃	〃	監  察  官	長  官	官  職
王  明  漢	山 田 彌 市	植 田 貢 太 郎	寺 崎 英 雄	氏   名



	地籍整理局	部局省名
技	事務	官
佐	官	職
小口福馬	富岡博	氏名

部局省名	治安部	軍政司長	警務司長	警務科長	總務課課員	軍衡課長	軍事課員	保安科長	警備科長	教養科長	特務科長
氏名	王濟象	澁谷三郎	管太郎	片岡稔	馬龍超	友保靜勇	孫仁軒	田中要次	村井矢之助	大森健次	

部 局 省 名	官 職	氏 名
刑 事 科 長	高 丕 琨	
分 室 理 事 官	秋 吉 威 郎	
督 察 官	芥 川 長 治	
・	金 昌 永	
・	王 安 惠	
最 高 顧 問	平 林 少 將	
顧 問	横 山 中 佐	

			民 生 部	部 局 省 名
文 書 科 長	保 健 司 長	社 會 司 長	教 育 司 長	官 職 名
佐 技 常 一	張 明 俊	張 聯 文	皆 川 豐 治	氏 名

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	產 業 部	部 廳 局 省 名
秘 書 官	畜 產 局 長	林 野 局 長	建 設 司 長	拓 政 司 長	鑛 工 司 長	農 務 司 長	文 書 科 長	官 職
田 原 悅 二	濱 田 陽 兒	井 上 俊 太 郎	王 慶 璋	森 重 千 夫	稚 名 悅 三 郎	五 十 子 卷 三	神 田 暹	氏 名

部 局 省 名	經 濟 部						
官	金 融 司 長	稅 務 司 長	商 務 司 長	文 書 科 長	參 事 官		
氏       名	青 木     實	田 村 敏 雄	羅 振 邦	橫 山 龍 一	曲 秉 善	周 家 璧	姜 文 濤

部局省名	交通部				
官職	鐵路司長	道路司長	航路司長	郵政總局局長	副局長
氏名	向野元生	坂田昌亮	孔世培	鄭禹	岡本忠雄

官	職	氏	名
關東軍軍司令官	植田謙吉	植田謙吉	
關東軍參謀長			
關東軍參謀部第四課長	片倉衷	片倉衷	
拓植委員長	稻垣比佐夫	稻垣比佐夫	
朝鮮總督府外務部長	松澤龍雄	松澤龍雄	
朝鮮忠清南道知事	鄭僑源	鄭僑源	
朝鮮慶尙北道知事	上瀧紀	上瀧紀	
關東局司政 <small>部</small> 長	今吉敏雄	今吉敏雄	
大使館 <small>政務</small> 部長			
協和會中央本部長	橋本虎之助	橋本虎之助	
協和會首都本部長	于靜遠	于靜遠	



警 護 隊 總 監	大 陸 化 學 院 長	大 同 學 院 長	建 國 大 學
≡ 南 惠 一	鈴 木 梅 太 郎	井 上 忠 也	石 藤 中 田 廣 松 次 二